

四日市港港湾計画資料（その1）

—改訂—

令和8年3月

四日市港港湾管理者
四日市港管理組合

目 次

I. 港湾計画の方針に関する資料	1
1 港湾の沿革、現況	1
1. 1 港湾の位置	1
1. 2 港湾の沿革	3
1. 3 港湾の性格及び役割	5
1. 4 港湾周辺の交通網	9
1. 5 背後地域の状況	10
2 港湾計画の基本方針	14
2. 1 四日市港長期構想	14
2. 2 四日市港への要請	15
2. 3 計画の基本方針	16
3 港湾計画の範囲及び港湾空間の利用	17
3. 1 港湾計画の範囲	17
3. 2 港湾空間利用ゾーニング	18
II. 港湾の能力に関する資料	19
1 取扱貨物量	19
1. 1 取扱貨物量の推移	19
1. 2 定期航路の現況等	30
1. 3 取扱貨物量の設定	32
2 入港船舶	37
2. 1 船舶の利用状況	37
2. 2 入港船舶の隻数の設定	39
3 船舶乗降旅客数等	40
3. 1 船舶乗降旅客数等の設定方針	40
3. 2 船舶乗降旅客数等の設定	40
III. 港湾施設の規模及び配置に関する資料	41
1 公共埠頭計画	41
2 旅客船埠頭計画	54
3 危険物取扱施設計画	56
4 専用埠頭計画	62
5 水域施設計画	65
6 外郭施設計画	75
7 小型船だまり計画	77

8	マリーナ計画	88
9	臨港交通施設計画	90
IV.	港湾の環境の整備及び保全に関する資料	95
1	自然的環境を整備又は保全する区域	95
2	港湾環境整備施設計画	98
V.	土地造成及び土地利用計画に関する資料	102
1	土地造成計画	102
2	土地利用計画	103
3	臨港地区の範囲	106
4	地盤高	107
VI.	港湾の効率的な運営に関する資料	109
1	効率的な流通業務を特に促進する区域	109
VII.	その他重要事項に関する資料	111
1	国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設	111
2	大規模地震対策施設計画	113
3	港湾の再開発	117
4	港湾施設の利用	118
VIII.	その他の資料	120
1	港湾区域の範囲	120
2	港湾の周辺状況	121
2. 1	経済的・社会的条件	121
2. 2	自然条件	133
3	港湾の沿革	148
4	港湾施設の現況	150
5	過去における港湾計画等の概要	172
6	新旧法線対照図	186
7	四日市港港湾審議会役員名簿	188

I. 港湾計画の方針に関する資料

1. 港湾の沿革、現況

1. 1 港湾の位置

四日市港は、日本列島の太平洋岸中央部にあたり、三大湾地域のひとつである伊勢湾北西部に位置し、名古屋港（愛知県）と隣接し、北緯 34 度 57 分 37 秒、東経 136 度 38 分 41 秒（四日市市旧港燈台跡）に位置している。

また、四日市港の位置する伊勢湾内には、国際拠点港湾の名古屋港及び重要港湾の衣浦港、三河港、津・松阪港がある。

他の主要な港湾との距離は表 I-1-1 に示すとおりである。

表 I-1-1 四日市港と主要港湾との距離

(単位：カイリ)

港名	海上距離	港名	海上距離	港名	海上距離
名古屋	17	津	19	松阪	24
鳥羽	32	衣浦	36	尾鷹	89
清水	131	横浜	203	東京	213
神戸	231	大阪	236	高知	250
高松	280	広島	391	門司	421
釜山	544	八戸	570	長崎	573
函館	666	室蘭	681	新潟	896
上海	919	基隆	1,021	大連	1,034
高雄	1,225	天津	1,227	香港	1,482
マニラ	1,646	シンガポール	2,794	バンコク	2,898
スラバヤ	2,988	ジャカルタ	3,130	ブリスベン	3,944
シドニー	4,400	バンクーバー	4,446	ワシントン	4,448
サンフランシスコ	4,664	ロサンゼルス	4,963	ロングビーチ	4,980
エンセナーダ	5,132	ラスタヌーラ	6,497	メアリアルマデー	6,640
サンホセ	7,018	アレクサンドリア	7,977	ケープタウン	8,443
タンパ	8,844	ニューオリンズ	9,253	ニューヨーク	9,828
アントワープ	11,060	ブエノスアイレス	13,230		

資料：四日市港要覧（令和6年）



図 I-1-1 四日市港の位置

1. 2 港湾の沿革

<四日市港の生成>

四日市港は、古くから大和、伊勢、尾張、美濃との陸上交通の要路にあたり、徳川時代には江戸と京都との水陸連絡地点となり、伊勢湾随一の物資集散港として発展してきた。

安政年間、当地に大地震が起り、港に接続する昌栄新田の堤防が決潰し港口が閉塞され、船の出入、荷役の困難をきたし、他港へ転泊する船舶が続出し、運輸を業とするものの死活問題となった。これを憂えた土地の先覚者稲葉三右衛門は波止場の築造および土地造成のため、明治6年私財を投じて起工、幾多の困難を克服して、明治17年に現在の旧港を完成し、四日市港発展の基礎が築かれた。

<開港と発展>

明治8年に三菱汽船会社が伊勢湾と京浜地区を結ぶ定期航路を開設し、この地を拠点地に選び港勢の発展を促し、明治22年には関西鉄道が四日市駅を建設するにあたって、四日市倉庫の協力のもとに関西堀の掘削が行われ、港と鉄道とを運河により連絡することが計られた。このように整備され始めた四日市港は同年に特別輸出港、明治30年に特別輸入港、明治32年に開港場、さらに明治34年には第2種重要港湾に指定された。

以来、築港の完成に加えて、大阪商船、日本郵船の各支店設置等により、相次いで北米・南米・台湾航路等の外国航路の寄港地となり、港勢の伸展に伴い綿花・植物性油原料・肥料などの輸入、茶・米・木材・漁網・綿製品・陶磁器等を輸出し、外国貿易港として国家的性格をもつに至った。また、明治43年に国庫補助事業として三重県が第1期修築工事を起工し、防波堤、航路泊地、物揚場、上屋等の整備を行い昭和3年に完成、大正6年に第1号埋立地（現末広町）、大正14年に第2号埋立地（現千歳町）、昭和3年に第3号埋立地（現石原町）も各々完成した。更に昭和4年には第2期修築工事として第1埠頭を中心とする整備事業に着手、昭和11年に完成して近代港湾としての形態を整えた。

良好な港湾施設と豊富低廉な労働力等の有利な土地条件は紡績工場の進出を促し、それらの紡績工業は三重県の工業の中軸として発達し、このため四日市港はその原料である羊毛・綿花の代表的な輸入港として知られるようになった。さらに臨海地帯の近代工業化への努力が払われ、昭和14年から15年にかけて、大協町、午起地区および塩浜地区にあいついで用地の造成が行われ、石油化学工場等の進出により、四日市港が工業港としても発展する確固たる基礎を築いた。

＜四日市港の発展＞

第2次世界大戦後、いちはやく羊毛・綿花の輸入港として特色をとりもどし、さらには臨海部諸工場の生産充実に伴い年々港勢は目覚ましい発展をとげた。しかし、その一方で水質汚濁や異臭魚の出現など高度経済成長に伴う公害問題が地域の大きな問題となり、港湾行政としても公害対策への取り組みが必要な状況となった。

一方、港湾法の制定によって昭和27年には三重県が正式に港湾管理者となり、同時に特定重要港湾に指定された。また、第2海軍燃料廠の跡地に第1石油コンビナート、昭和36年には午起用地造成事業が完成し第2石油コンビナートが形成され、発展する港勢に対応するため、港湾整備事業が進められた。昭和41年4月には、三重県と四日市市で地方自治法に基づき一部事務組合として四日市港管理組合が設立され、四日市港の管理・運営を行うことになった。

さらに、今後の発展に備え、昭和46年3月に港湾区域の拡張を行い、昭和51年には霞ヶ浦地区の諸施設の管理、運営を行うため、霞埠頭事務所が開設された。

昭和36年（1961年）に港湾計画を策定して以来、社会情勢の変化に対応して港湾計画を改訂しながら、商工業両面を備えた貿易港へ向け整備拡充を進めた。

昭和46年（1971年）に四日市コンテナ埠頭(株)（平成18年3月31日解散）が設立され、昭和48年（1973年）には霞ヶ浦地区のコンテナ専用埠頭が完成し、国際海上輸送の基軸となるコンテナ輸送の基礎が築かれた。

平成7年（1995年）には国際コンテナ港湾機能を有する重量物岸壁（霞ヶ浦南埠頭26号岸壁）が完成し、更に背後地域の生産消費活動を支える物資を取り扱うため、霞ヶ浦地区北埠頭の土地造成、災害時の緊急輸送等に対応する耐震強化岸壁（霞ヶ浦南埠頭23号岸壁）の整備、港湾環境の整備及び港湾の安全確保を目指して、航路、泊地等水域施設の整備を行ってきた。

平成16年7月には名古屋港と共に伊勢湾スーパー中枢港湾に指定され、平成17年7月には指定特定重要港湾に指定されている。また、平成18年1月には、大型コンテナ船が着岸できる国際コンテナターミナルとして霞ヶ浦北埠頭80号コンテナターミナルが一部供用を開始し、翌平成19年には北米西海岸コンテナ航路（川崎汽船）第1船「ヴィンセント・トーマス・ブリッジ」が入港した。

平成23年（2011年）には国際拠点港湾へ位置付けされるとともに、平成30年代前半を目標とする港湾計画が改訂された。本計画では、コンテナ物流の高度化・効率化、バルク貨物や完成自動車も含めた総合港湾としての「国際産業ハブ港」の実現を目指すことが掲げられ、順次整備が進められている。

令和元年（2019年）に開港120周年を迎えた近年の四日市港では、新名神高速道路等の開通により背後圏の道路ネットワークが飛躍的に向上するなか、霞4号幹線（四日市・いなばポートライン）の開通を始めとして、背後圏産業を支える国際貿易港として発展を続けている。

1. 3 港湾の性格及び役割

(1) 四日市港の概要

四日市港は四日市市及び川越町の地先に位置する、港湾区域約 6,600ha、臨港地区約 1,170ha を有する特定重要港湾である。

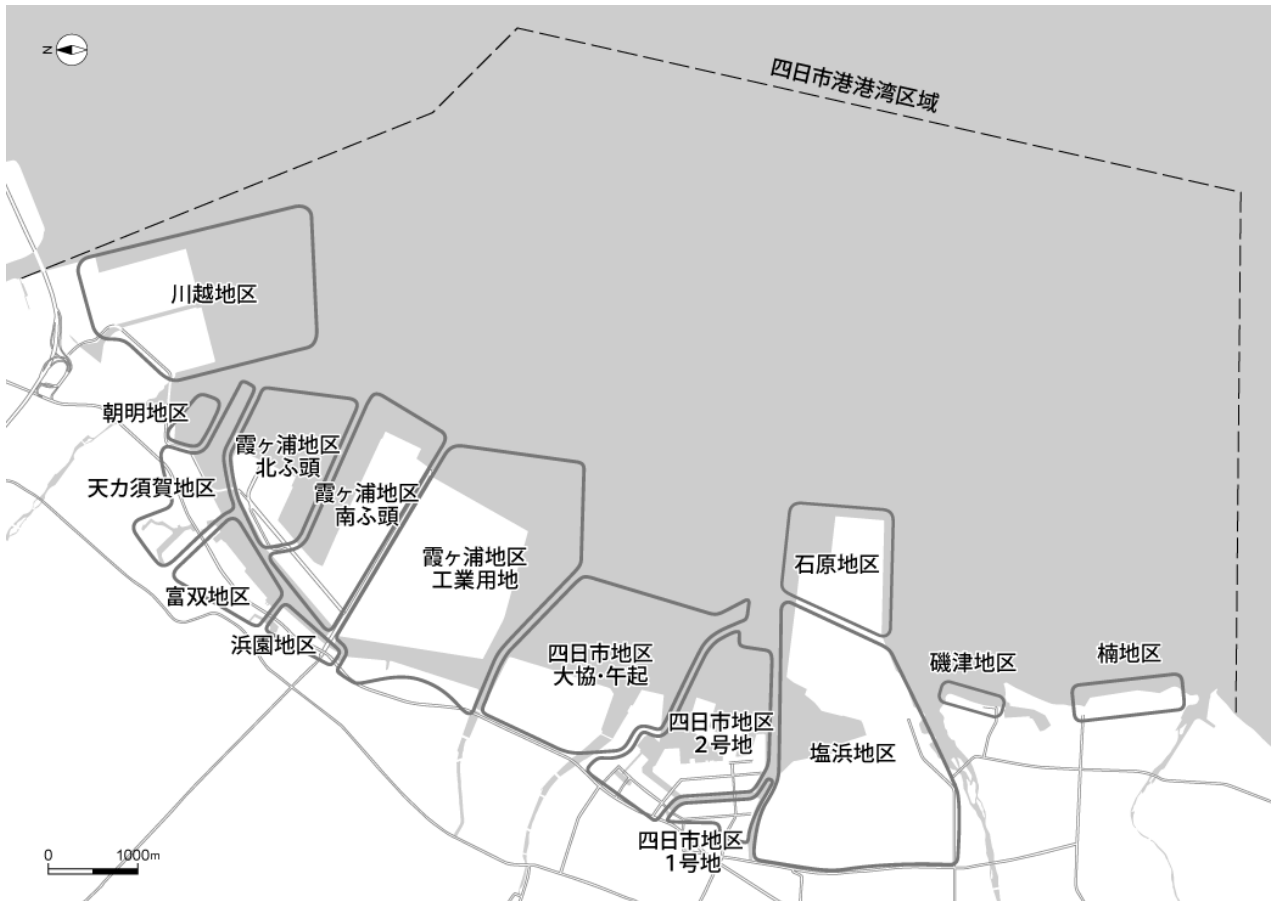


図 I-1-2 四日市港地区別位置図

(2) 各地区の現状

四日市港各地区の現状は、次のとおりである。

表 I-1-2 四日市港地区の現状

地区名	現状
川越地区	JERA 川越火力発電所が立地、工業用地として利用されている。
朝明地区	朝明川河口部に自然の干潟は、貴重な生物生息空間となっている。潮干狩りなど年間を通じ、多くの人を訪れている。
天カ須賀地区	工業団地として利用されている。 川越町側は石油関連企業等、四日市市側は国道 23 号に隣接するという好条件もあり、製造業や運送業が進出している。
富双地区	漁港区として土地利用されており、造船所などが立地している。 「海に見える公園」が整備されている。
浜園地区	工事用作業船の船だまり及び埠頭用地として利用されている。
霞ヶ浦地区 (北埠頭)	外内貿コンテナターミナルが供用しており、W81 の整備が進められている。
霞ヶ浦地区 (南埠頭)	コンテナ・自動車・バルク貨物等が取り扱われる四日市港の物流の中枢であり、大半の貨物がこの埠頭を経由して海上輸送されている。
霞ヶ浦地区 (工業用地)	四日市第 3 コンビナートが形成され、石油化学関連企業が立地している。
午起・大協地区	四日市第 2 コンビナートが形成され、石油化学関連企業が立地している。
四日市地区	四日市港発祥の地であり、第 1・第 2・第 3 の公共埠頭を中心に、物流基地として企業の原材料等を取扱っている。
塩浜地区	四日市第 1 コンビナートが形成され、石油化学関連企業が立地している。
石原地区	浚渫土砂等の海面処分用地として埋立事業が進められている。
磯津地区	磯津漁港に隣接し、自然の海岸が広がっている。
楠地区	背後には、三重県の北勢沿岸流域下水道（南部処理区）南部浄化センターが立地している。

(3) 取扱貨物量の現状

四日市港の取扱貨物量は、公共貨物はほぼ横ばい、専用貨物は緩やかな減少傾向に推移している。令和4年時点で四日市港の取扱貨物量の総量は約5,500万トンであった。

公専別では、専用貨物の占める割合が高く、公共貨物は全体の約2割の水準である。輸移出入別では、外貨貨物が占める割合が高く、特に輸入貨物が多い傾向である。

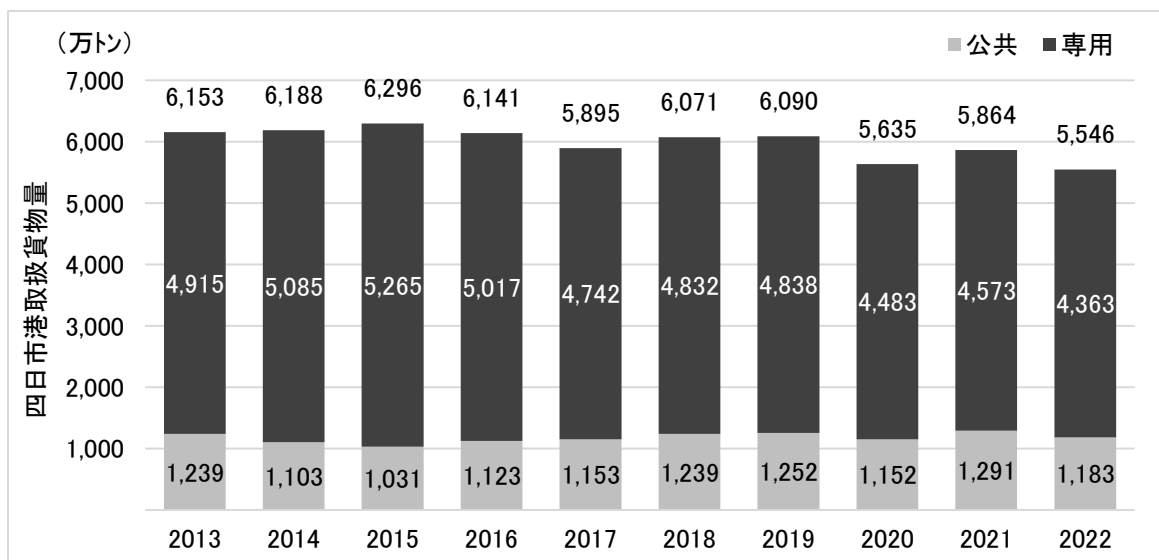


図 I-1-3 四日市港の取扱貨物量の推移 (公共・専用別)

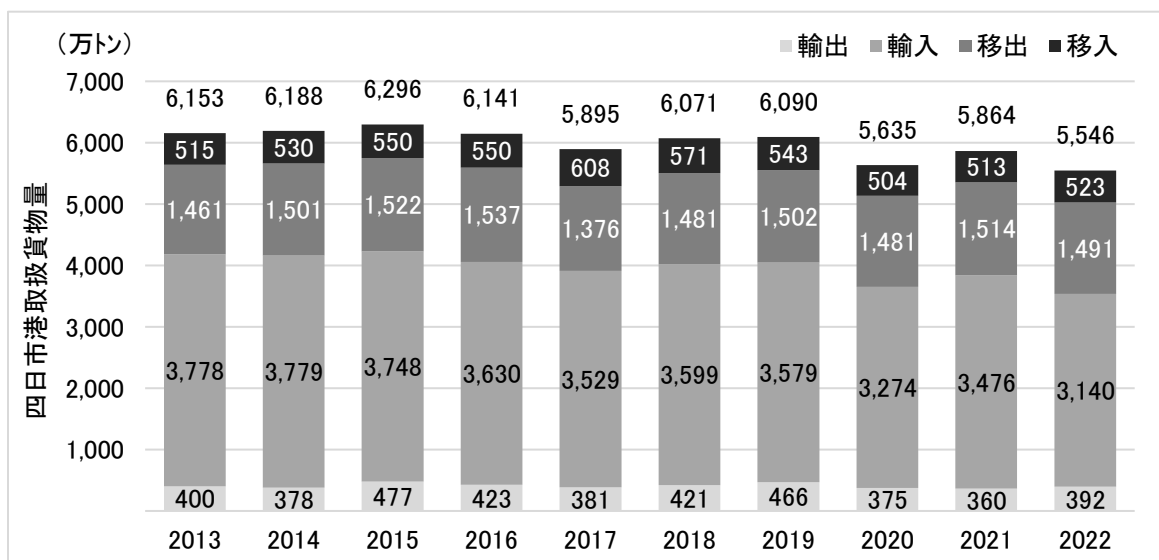


図 I-1-4 四日市港の取扱貨物量の推移 (輸移出入別)

公共貨物では、輸出は自動車部品と完成自動車で約 5 割、輸入は石炭が約 4 割を占める。移出は完成自動車と石油で約 8 割、移入は完成自動車と砂利・砂で約 4 割を占める。

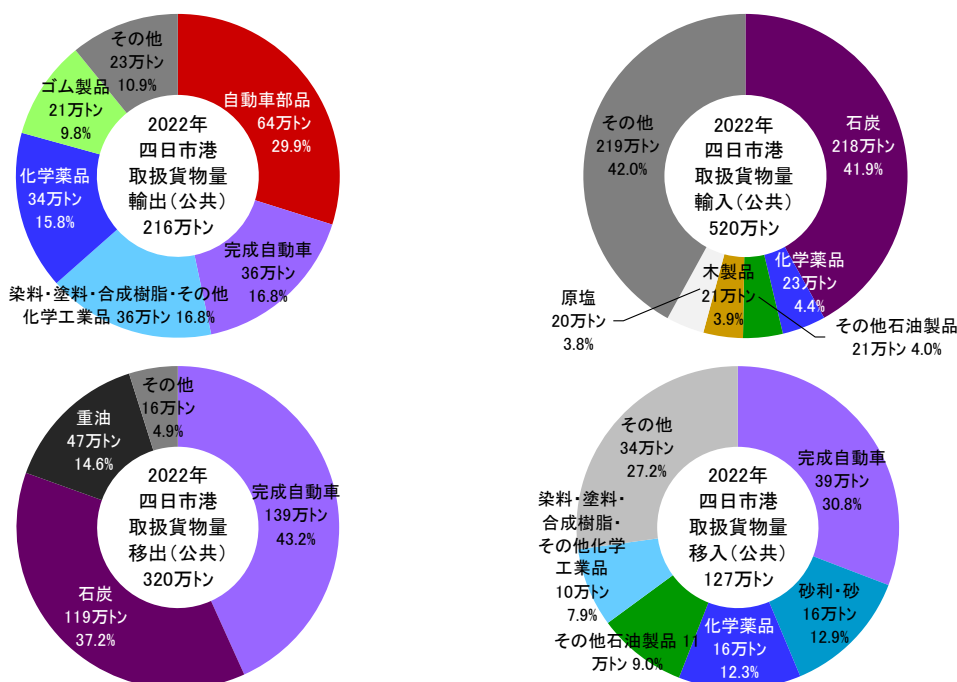


図 I-1-5 四日市港における公共貨物の品目別取扱量比率 (2022 年)

専用貨物では、輸出は化学薬品と揮発油、その他石油製品で約 9 割、輸入は原油と LNG で約 9 割を占める。移出はその他石油製品と揮発油、重油で約 7 割、移入は揮発油と重油、化学薬品で約 8 割を占める。

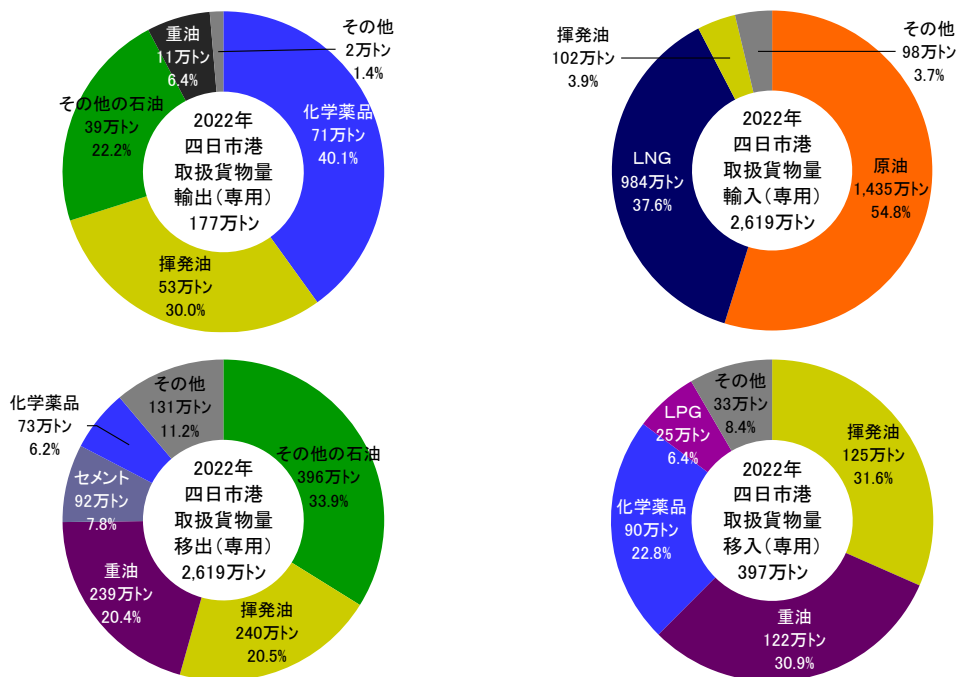


図 I-1-6 四日市港における専用貨物の品目別取扱量比率 (2022 年)

1. 4 港湾周辺の交通網

四日市港は、日本列島の中央に位置し、古くから、中部、近畿への交通網が充実しているとともに、北陸への交通の要衝に近接しており、海陸輸送の結節点としての役割を果たしている。

関西圏と関東圏を結ぶ区間のうち、関西と中京間の陸上輸送においては、新名神高速道路等の開通により、四日市を經由する新名神・東名阪ルートが主軸となってきており、海陸輸送の結節点としての四日市港のポテンシャルがさらに高まってきている。また、東海環状自動車道の整備が進められており、令和7年8月30日に本巣IC～大野神戸ICが開通したことで、現在は総延長の約9割が開通している。

平成30年4月に開通した臨港道路の霞4号幹線の整備により伊勢湾岸自動車道へのアクセス性が高まるとともに、港湾物流機能の効率化や周辺道路の交通混雑の緩和に寄与している。

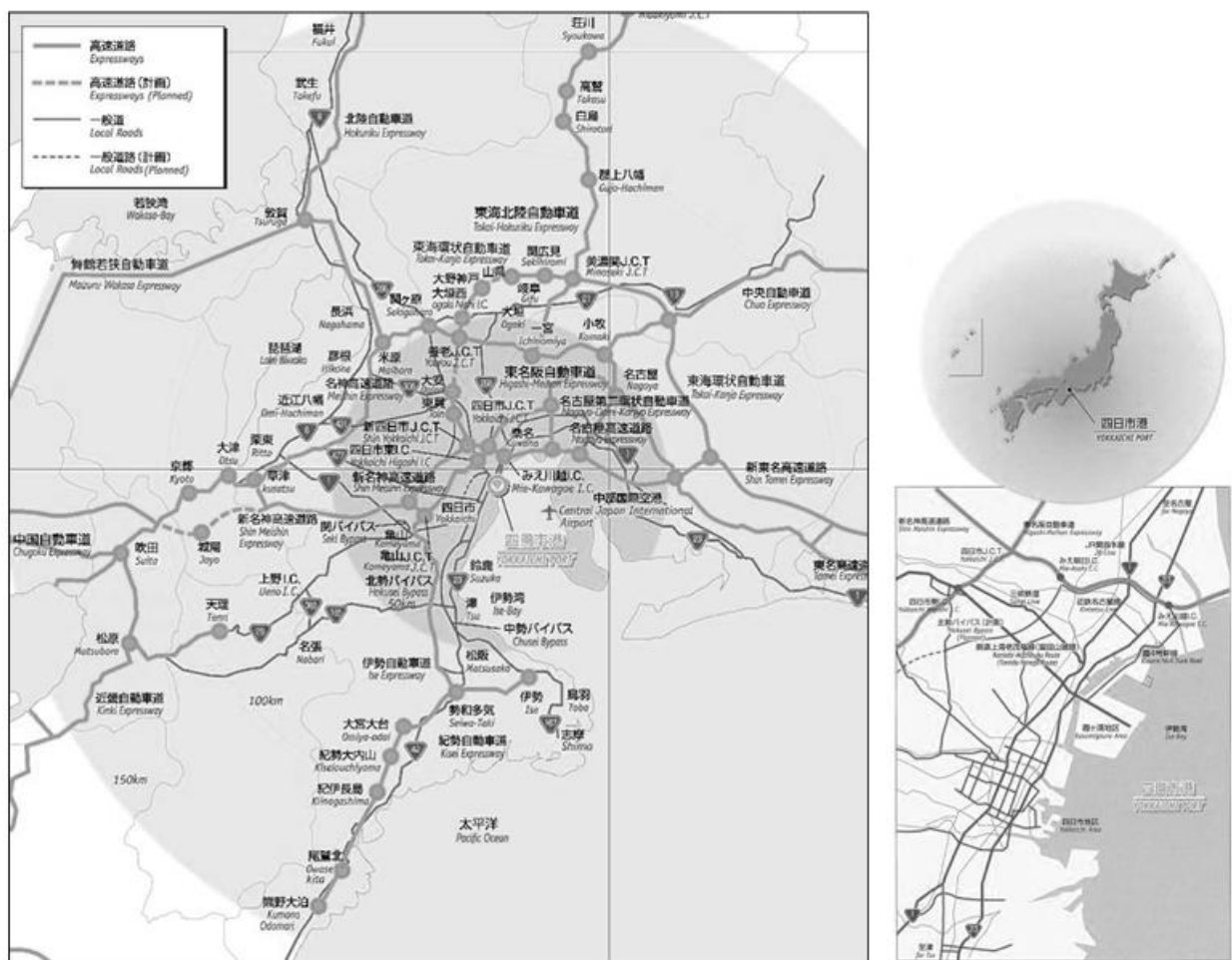


図 I-1-7 四日市港背後の道路交通ネットワーク図

1. 5 背後地域の状況

(1) 背後地域

四日市港の背後圏として、三重県を一次背後圏、愛知県・岐阜県・滋賀県を二次背後圏と設定する。



図 I -1-8 四日市港の港湾計画における背後圏

(2) 人口・産業動向

四日市港の背後圏（一次背後圏の三重県、二次背後圏の愛知県・岐阜県・滋賀県の4県）の面積、人口及び製造品出荷額等を下表に整理した。

四日市港背後圏は人口のシェア（全国合計に対する割合）が10.1%（全国に対するシェア）に対し、製造品出荷額のシェアが22.2%と高く、製造業の活発な地域であることがわかる。

表 I-1-3 四日市港における背後圏の人口・産業動向の概要

	面積(2022年)	人口(2022年)	製造品出荷額等(2022年)
一次背後圏計	5,774 km ² (1.5%)	1,742 千人 (1.4%)	110,344 億円 (3.3%)
三重県	5,774 km ² (1.5%)	1,742 千人 (1.4%)	110,344 億円 (3.3%)
二次背後圏計	19,812 km ² (5.2%)	10,850 千人 (8.7%)	621,979 億円 (18.8%)
愛知県	5,173 km ² (1.4%)	7,495 千人 (6.0%)	478,946 億円 (14.5%)
岐阜県	10,621 km ² (2.8%)	1,946 千人 (1.6%)	61,159 億円 (1.9%)
滋賀県	4,017 km ² (1.1%)	1,409 千人 (1.1%)	81,874 億円 (2.5%)
背後圏計	25,586 km ² (6.8%)	12,592 千人 (10.1%)	732,323 億円 (22.2%)
全国	377,973 km ² (100.0%)	124,947 千人 (100.0%)	3,302,200 億円 (100.0%)

※面積：全国都道府市区町村別面積調(10月1日時点)国土交通省国土地理院

※人口：人口推計(2022年10月1日現在人口)総務省統計局

※製造品出荷額等：経済構造実態調査(2022年)経済産業省

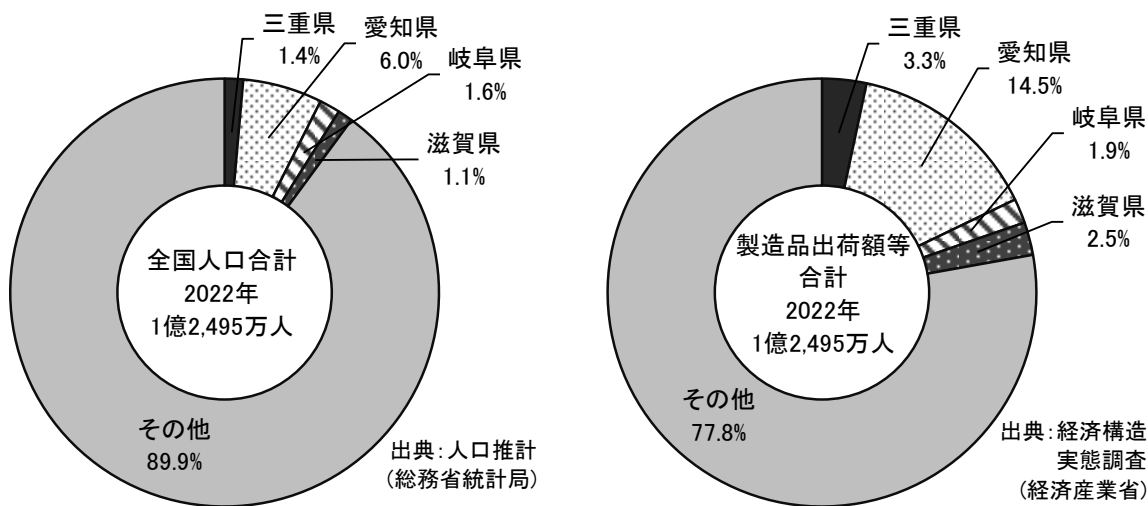


図 I-1-9 人口及び製造品出荷額等の全国における背後圏の割合

四日市港背後圏の人口は、1970年代以降は増加傾向に推移し、2010年に1,276万人のピークとなり、2010年以降は横ばいに推移している。

一次背後圏の人口では、1970年と比較した増減率で見ると114.7%まで増加しているが、2000年からの増減率では95.3%と減少傾向であった。一方で、二次背後圏の人口では、愛知県の人口増加が顕著であることから、2000年と比較しても104.2%と増加傾向であった。

表 I-1-4 背後圏の人口推移

	人口(万人)							増減率	
	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2015年	2020年	2020年/1970年	2020年/2000年
一次背後圏	154.3	168.7	179.3	185.7	185.5	181.6	177.0	114.7%	95.3%
三重県	154.3	168.7	179.3	185.7	185.5	181.6	177.0	114.7%	95.3%
二次背後圏	803.5	926.2	998.0	1,049.4	1,090.2	1,092.8	1,093.5	136.1%	104.2%
愛知県	538.6	622.2	669.1	704.3	741.1	748.3	754.2	140.0%	107.1%
岐阜県	175.9	196.0	206.7	210.8	208.1	203.2	197.9	112.5%	93.9%
滋賀県	89.0	108.0	122.2	134.3	141.1	141.3	141.4	158.9%	105.3%
背後圏計	957.8	1,094.9	1,177.2	1,235.1	1,275.7	1,274.4	1,270.5	132.6%	102.9%
全国	10,466.5	11,706.0	12,361.1	12,692.6	12,805.7	12,709.5	12,614.6	120.5%	99.4%

資料: 国勢調査

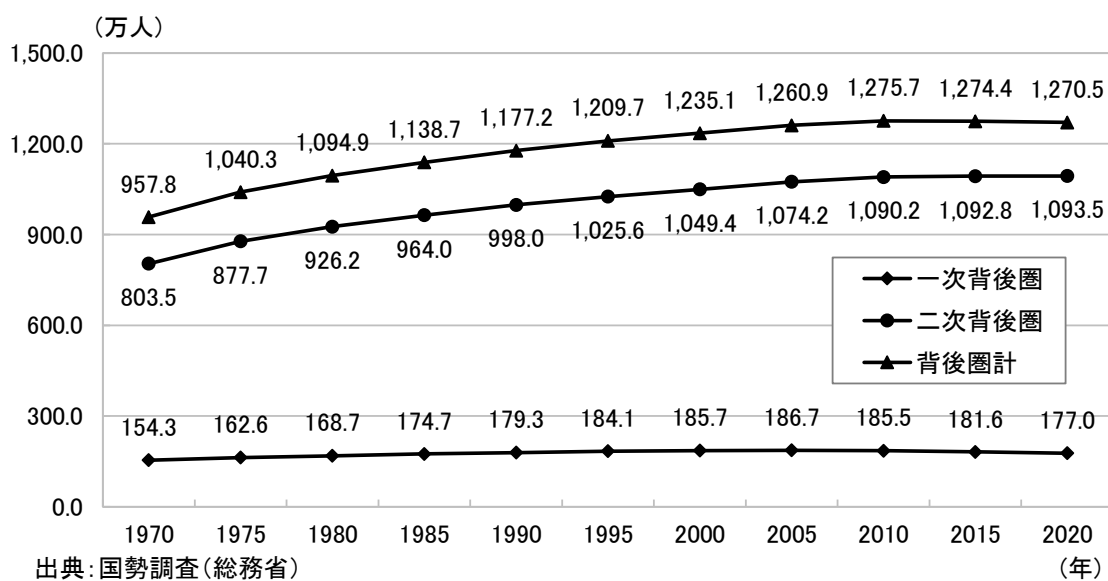


図 I-1-10 背後圏の人口推移

背後圏の産業分類別の就業者数は、第1次産業と第2次産業の構成比が緩やかに減少傾向に推移している一方で、第3次産業の構成比は増加傾向に推移している。ただし、第2次産業の就業者数構成比は、2010年以降も約3割の水準を維持している。

表 I-1-5 背後圏の産業分類別就業者数の推移

(千人)

	2010年				2015年				2020年			
	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
一次背後圏	895 (100.0%)	33 (3.7%)	278 (31.1%)	537 (60.0%)	873 (100.0%)	31 (3.6%)	270 (31.0%)	542 (62.1%)	846 (100.0%)	26 (3.1%)	260 (30.7%)	530 (62.7%)
三重県	895 (100.0%)	33 (3.7%)	278 (31.1%)	537 (60.0%)	873 (100.0%)	31 (3.6%)	270 (31.0%)	542 (62.1%)	846 (100.0%)	26 (3.1%)	260 (30.7%)	530 (62.7%)
二次背後圏	5,372 (100.0%)	131 (2.4%)	1,708 (31.8%)	3,230 (60.1%)	5,363 (100.0%)	125 (2.3%)	1,722 (32.1%)	3,292 (61.4%)	5,245 (100.0%)	112 (2.1%)	1,658 (31.6%)	3,328 (63.5%)
愛知県	3,676 (100.0%)	81 (2.2%)	1,155 (31.4%)	2,205 (60.0%)	3,669 (100.0%)	76 (2.1%)	1,174 (32.0%)	2,250 (61.3%)	3,605 (100.0%)	69 (1.9%)	1,136 (31.5%)	2,298 (63.7%)
岐阜県	1,023 (100.0%)	32 (3.1%)	332 (32.5%)	625 (61.1%)	1,016 (100.0%)	31 (3.1%)	326 (32.1%)	628 (61.8%)	973 (100.0%)	27 (2.8%)	310 (31.9%)	614 (63.1%)
滋賀県	674 (100.0%)	19 (2.8%)	221 (32.7%)	400 (59.4%)	678 (100.0%)	18 (2.6%)	221 (32.6%)	414 (61.1%)	667 (100.0%)	16 (2.4%)	212 (31.9%)	417 (62.5%)
背後圏計	6,267 (100.0%)	164 (2.6%)	1,986 (31.7%)	3,767 (60.1%)	6,235 (100.0%)	157 (2.5%)	1,992 (31.9%)	3,834 (61.5%)	6,091 (100.0%)	139 (2.3%)	1,918 (31.5%)	3,858 (63.3%)
全国	56,151 (100.0%)	2,381 (4.2%)	14,123 (25.2%)	39,646 (70.6%)	55,757 (100.0%)	2,222 (4.0%)	13,921 (25.0%)	39,615 (71.0%)	55,902 (100.0%)	1,963 (3.5%)	13,259 (23.7%)	40,679 (72.8%)

※総数には分類不能の数を含むため、第1,2,3次産業の計とは一致しない

出典：国勢調査（総務省）

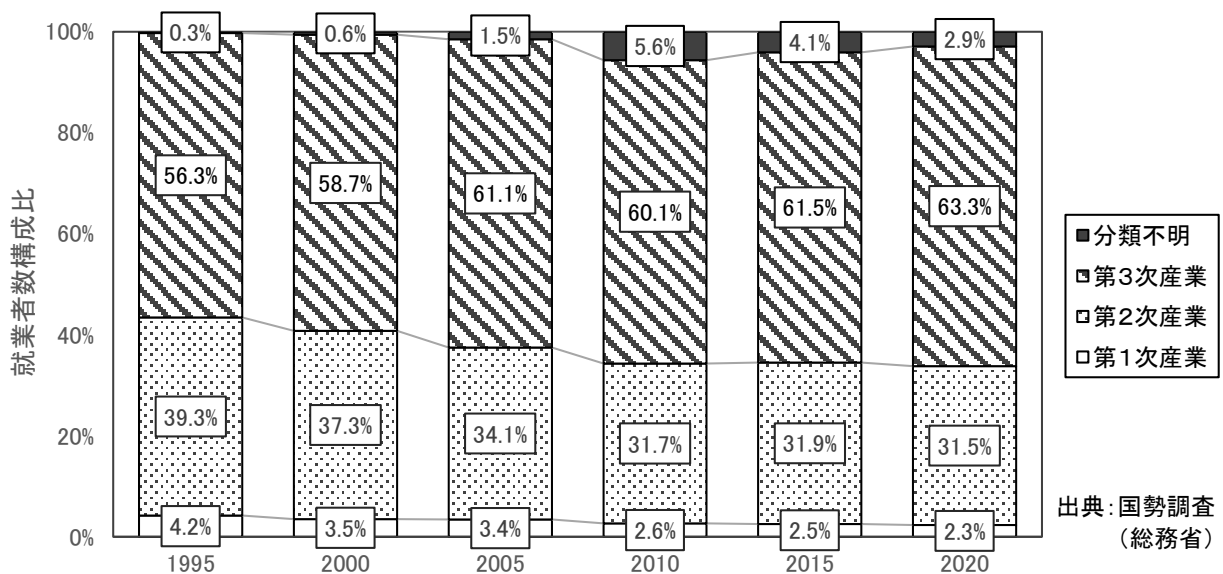


図 I-1-11 背後圏の産業分類別就業者数構成比の推移

出典：国勢調査（総務省）

2. 港湾計画の基本方針

2. 1 四日市港長期構想

四日市港長期構想では、基本理念である「地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり」のもとに、この将来像を実現していくため、4つの政策の柱と、その政策の柱に対する具体的な施策が示された。



図 I-2-1 四日市港長期構想の基本理念・将来像・施策

2. 2 四日市港への要請

四日市港は伊勢湾奥部に位置し、古くから伊勢湾地域の海陸交通の要衝として地域の産業、経済発展に大きく貢献してきた。明治 32 年（1899 年）8 月の開港以来、中部圏を代表する国際貿易港として発展し、昭和 27 年（1952 年）に特定重要港湾に指定された。その後、臨海部において石油化学を中心とした工場が集積し、現在の四日市コンビナートは我が国の経済成長に大きく貢献している。

また、製造業をはじめとした様々な企業が背後地域に立地するなか、中部圏のものづくり産業を支える外内貿貨物の海上輸送拠点として、背後圏産業の持続的な成長に大きく貢献している。東南アジアや中国、韓国とコンテナ船の定期航路が就航し、背後圏産業を支える国際貿易港として重要な役割を担っている。

平成 23 年（2011 年）には国際拠点港湾へ位置づけされ、令和元（2019 年）年には開港 120 周年を迎えた。

近年では、新名神高速道路等の開通により背後圏の道路ネットワークが飛躍的に向上しており、四日市港周辺の物流効率化に伴う集荷圏の拡大や新たな企業立地が見込まれる等、「地域に貢献する、なくてはならない存在」として、ますます発展することが期待されている。

一方、カーボンニュートラルに向けた産業構造の転換をはじめ、自然災害の激甚化・頻発化、産業における国際競争の加速等、四日市港を取り巻く状況は大きな変化が生じている。

これらに対応していくため、物流・産業の観点では、円滑な港内物流を確保することで、選ばれる港として価値を高めることが求められている。また、四日市コンビナートの基盤産業としての永続的な維持・発展に向け、背後立地企業の脱炭素化ニーズに対応した港湾施設の拡充が求められる。

交流の観点では、みなと特有の景観や観光資源を活用するため、港の魅力に触れられる親水空間を提供することが求められる。

防災・安全の観点では、信頼性・安全性の高い港を将来的にも維持・発展させるため、港湾施設の防災機能の強化を図るとともに、港内の機能配置の転換が求められている。

2. 3 計画の基本方針

四日市港が「地域に貢献する、なくてはならない存在」となることを基本理念として、長期構想で描いた4つの将来像の実現するため、以下の方針に基づき、令和10年代後半を目標年次として、港湾計画を改訂するものである。

(1) 背後圏産業の持続的な成長を支える港づくり

- 周辺道路の渋滞に左右されない貨物輸送の定時性・即時性の確保に向け、臨港交通体系の充実を図る。
- 臨海部産業全体のカーボンニュートラルを見据え、カーボンニュートラルを推進していくために必要となる用地を確保する。

(2) 魅力にあふれ、人々が交流する港づくり

- 港の魅力に触れられる親水空間を提供するため、遊休化・老朽化した港湾施設等の親水護岸や緑地への利用転換を図る。

(3) 住民・産業を守る港づくり

- 航行安全性確保に必要な航路・泊地整備や維持浚渫により発生する土砂等を適正に処分するため、海面処分場を確保する。
- 大規模地震の発生等、災害時における緊急物資の輸送機能や経済活動を維持する国際物流機能を確保するため、大規模地震対策を進める。
- 小型船舶の停泊時における安全性向上を図るため、プレジャーボート等の小型船舶の適正な収容施設を確保する。
- 気候変動による海面上昇及び高潮・高波リスクの増大が懸念されていることから、今後、気候変動による影響を考慮した対応を進める。

(4) 自然とヒト・モノが共生する港づくり

- 魅力ある親水空間を創出・継承していくため、人々が自然と触れ合える港湾緑地を拡充する。

3. 港湾計画の範囲及び港湾空間の利用

3. 1 港湾計画の範囲

四日市港港湾計画の範囲は、陸域1,420haと水域約6,600haからなる臨海部の空間であり、図I-3-1に示すとおりである。



図 I -3-1 港湾計画の範囲

3. 2 港湾空間利用ゾーニング

物流・産業、交流、防災・安全、環境の多様な機能を適正に配置し、効率性、快適性、安全性の高い港湾空間を形成するため、四日市港長期構想で描いた空間利用ゾーニングを踏まえ、港湾空間を以下のように利用する。

- ① 霞ヶ浦地区の北埠頭及び南埠頭北部は、外内貿コンテナや外内貿バルク、完成自動車等を中心に取り扱う物流関連ゾーンとする。
- ② 四日市地区北部は、外内貿バルクを中心に取り扱う物流関連ゾーンとする。
- ③ 四日市地区南部は、千歳運河沿いを中心として交流拠点ゾーンとする。
- ④ 川越地区、天カ須賀地区、霞ヶ浦地区南埠頭南部、四日市地区大協・午起、塩浜地区及び石原地区は生産ゾーンとする。
- ⑤ 朝明地区、天カ須賀地区、富双地区、浜園地区及び霞ヶ浦地区北埠頭東部は、緑地レクリエーションゾーンとする。
- ⑥ 朝明地区、霞ヶ浦地区北埠頭東部及び石原地区北部は環境保全ゾーンとする。
- ⑦ 川越地区、天カ須賀地区、富双地区、浜園地区、霞ヶ浦地区、四日市地区は、運河沿いを中心として船だまり関連ゾーンとする。
- ⑧ 霞ヶ浦地区の沖合区域は、浚渫土砂等の埋立を想定した廃棄物処理ゾーンとする。
- ⑨ 楠地区は都市機能ゾーンとする。

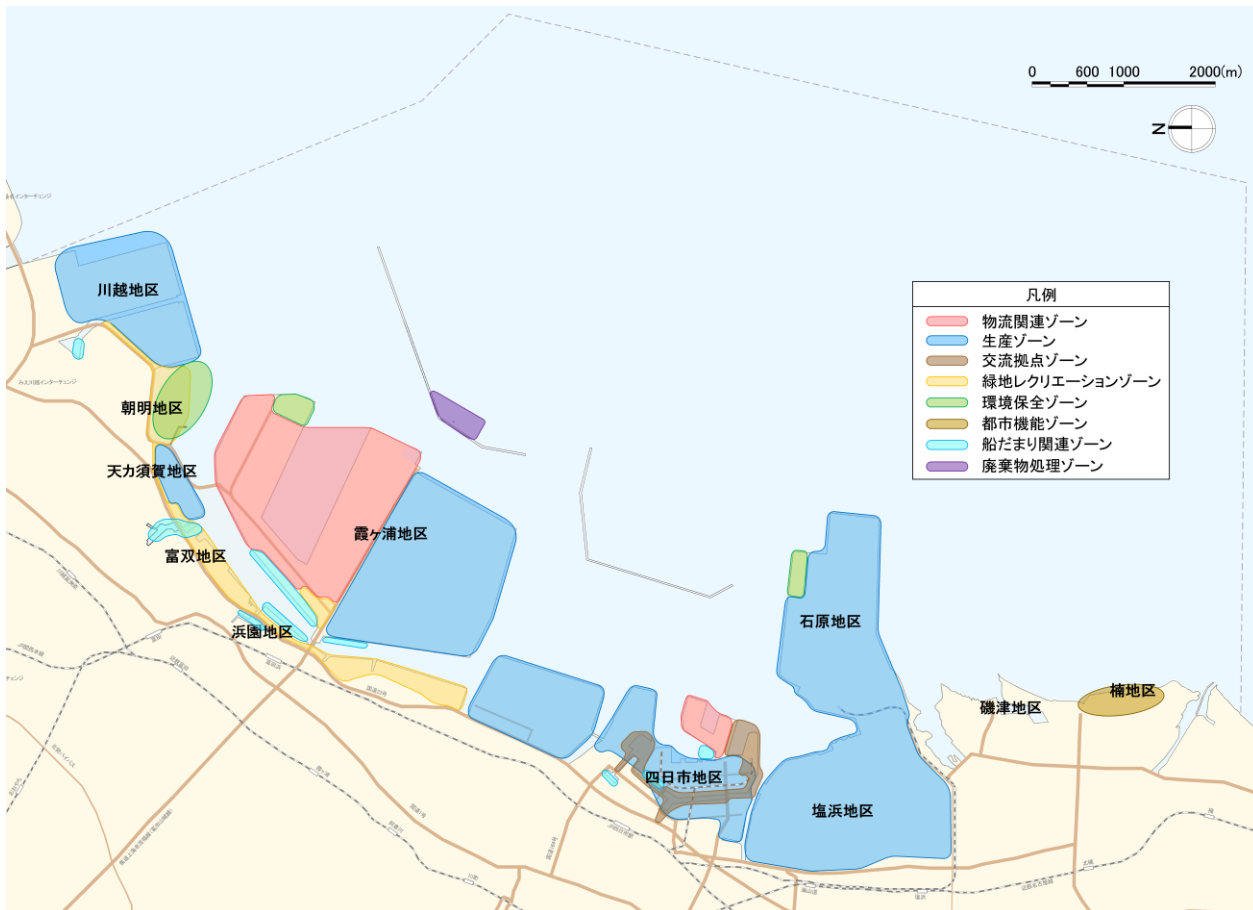


図 I-3-2 四日市港空間利用ゾーニング

Ⅱ. 港湾の能力に関する資料

1. 取扱貨物量

1. 1 取扱貨物量の推移

(1) 外内別・公専別取扱貨物量

外内別・公専別等の取扱量の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-1 外内・荷姿別及び公専別貨物取扱量の推移

(千トン)

外内別	公専	実績値										設定値
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半
外 貿	公共	7,484	6,703	6,296	6,539	6,791	7,379	7,884	7,338	8,159	7,358	13,005
	専用	34,288	34,871	35,951	33,996	32,318	32,818	32,562	29,154	30,207	27,958	26,514
	計	41,772	41,574	42,247	40,536	39,109	40,197	40,447	36,492	38,366	35,316	39,519
コンテナ	公共	3,653	3,315	3,122	3,328	3,722	3,814	3,740	3,270	3,332	3,261	7,980
コンテナ除く	公共	3,831	3,388	3,174	3,211	3,069	3,565	4,145	4,068	4,827	4,097	5,025
内 貿	公共	4,901	4,329	4,013	4,695	4,734	5,010	4,638	4,177	4,752	4,470	5,777
	専用	14,860	15,979	16,703	16,177	15,105	15,502	15,815	15,679	15,524	15,676	15,956
	計	19,762	20,308	20,716	20,872	19,839	20,513	20,454	19,855	20,276	20,146	21,733
コンテナ	公共	108	124	207	275	192	251	141	145	187	192	166
コンテナ除く	公共	4,794	4,205	3,806	4,420	4,543	4,759	4,498	4,032	4,564	4,279	5,611
合 計	公共	12,385	11,032	10,309	11,235	11,525	12,389	12,523	11,515	12,911	11,828	18,782
	専用	49,148	50,850	52,654	50,173	47,423	48,320	48,377	44,832	45,731	43,634	42,470
	計	61,534	61,882	62,963	61,408	58,948	60,710	60,900	56,347	58,642	55,462	61,252

注1: 端数処理のため、内訳の和と計が必ずしも一致しない

注2: 表中「0」は取扱量が500トンに満たないものを示す

注3: 注1・注2の事項は以降の表についても同様である

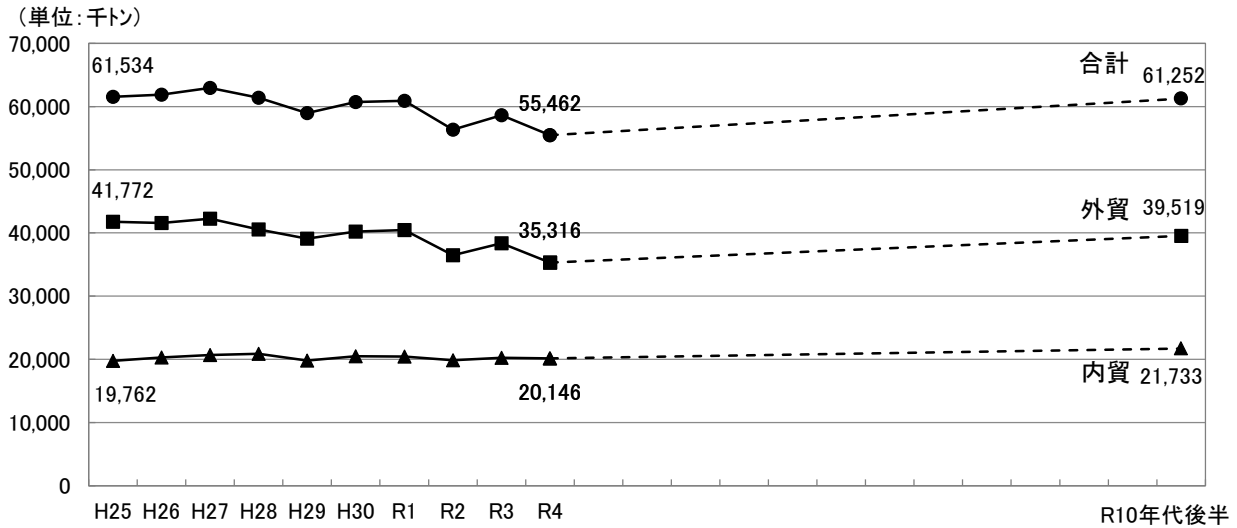


図 II-1-1 外内貿別取扱貨物量の推移

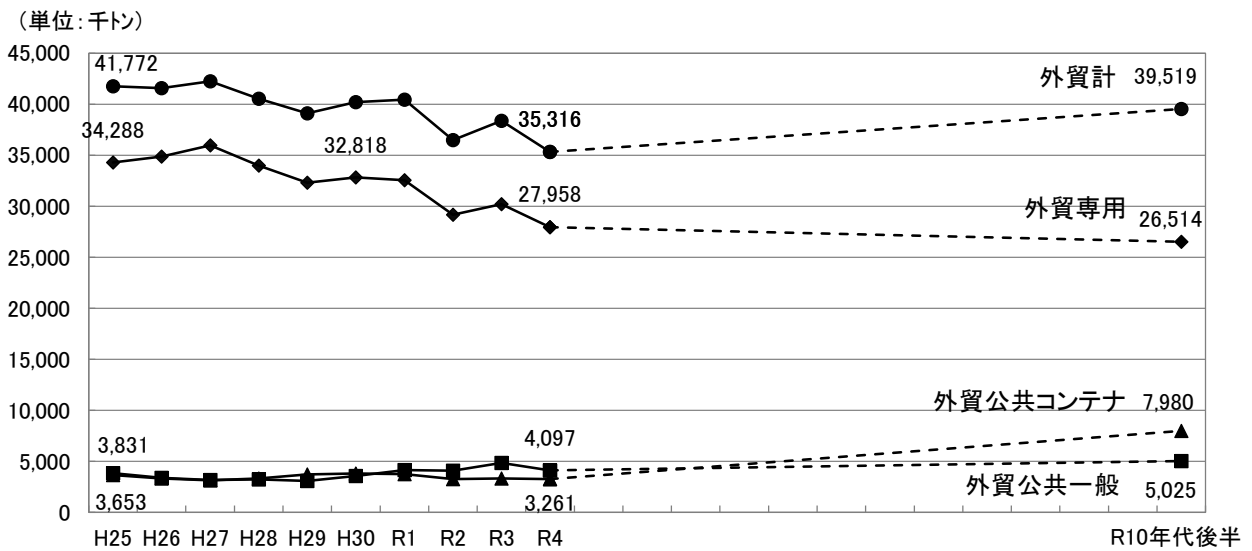


図 II-1-2 公専別・荷姿別取扱貨物量の推移 (外貿貨物)

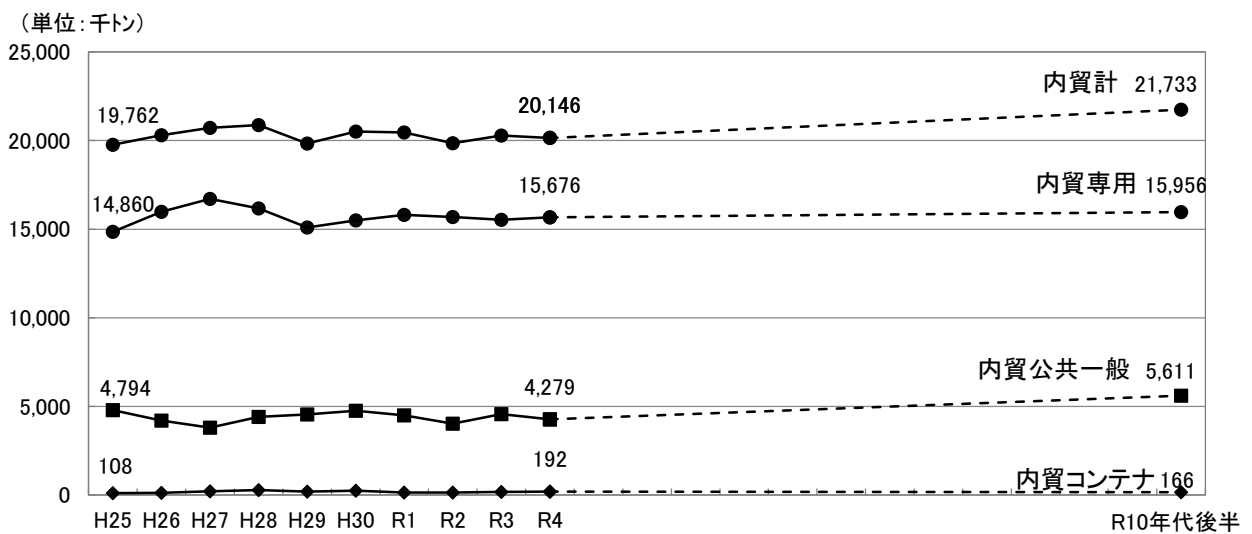


図 II-1-3 公専別・荷姿別取扱貨物量の推移 (内貿貨物)

(2) 外貿貨物の取扱量の推移

1) 外貿公共貨物の品目別取扱量の推移

外貿公共貨物の品目別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-2 外貿公共貨物の品目別取扱量の推移

品 目		出 入	実 績 値										設定値
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半
農 水 産 品	輸 出	3	1	1	5	1	1	1	1	5	1	2	
	輸 入	256	302	334	232	241	230	209	214	240	271	232	
	計	259	303	335	236	242	231	211	214	245	272	234	
林 産 品	樹 脂 類	輸 出	2	2	0		3	1	2	1	1	1	47
		輸 入	125	126	132	139	142	144	157	118	143	149	197
		計	126	128	132	139	145	144	159	119	144	150	244
	そ の 他	輸 出	0		2	3	3	1	0	1	0	0	0
		輸 入	20	28	11	10	8	11	43	205	195	205	204
		計	20	28	14	13	11	12	43	206	195	205	204
鉱 産 品	石 炭	輸 出											
		輸 入	2,375	1,993	2,262	2,069	2,184	2,451	2,545	2,184	2,893	2,182	2,195
		計	2,375	1,993	2,262	2,069	2,184	2,451	2,545	2,184	2,893	2,182	2,195
	そ の 他	輸 出	2	2	2	3	1	1	1	1	2	2	2
		輸 入	651	376	296	353	355	415	463	500	454	484	488
		計	653	378	298	356	356	416	465	501	456	486	490
金 属 機 械 工 業 品	鋼 材	輸 出	0	1	0	0	0	0	0	0	2		
		輸 入	169	216	53	28	63	157	200	146	213	195	350
		計	169	216	53	28	63	157	200	146	215	195	350
	完 成 自 動 車	輸 出	133	48	36	361	73	66	312	407	317	363	635
		輸 入	0	1									700
	自 動 車 部 品	輸 出	1,048	700	526	510	511	546	537	440	555	644	1,499
		輸 入	85	103	107	128	123	156	143	94	95	85	653
		計	1,133	804	634	638	635	702	680	533	650	729	2,151
	産 業 機 械	輸 出	65	73	92	72	78	74	96	66	73	87	236
		輸 入	4	7	7	7	9	11	13	10	9	17	50
		計	69	80	99	79	87	85	109	75	82	104	286
	そ の 他	輸 出	32	13	15	42	59	56	40	36	33	18	350
		輸 入	318	571	271	246	295	336	317	280	272	237	447
		計	349	584	286	288	354	392	357	317	304	254	797
	化 学 工 業 品	化 学 薬 品	輸 出	339	370	407	474	554	565	480	371	404	341
輸 入			119	121	173	203	194	186	205	169	178	226	398
計			458	491	579	677	748	751	685	540	582	567	1,318
そ の 他 化 学 工 業 品		輸 出	308	300	340	330	350	308	367	445	404	362	639
		輸 入	154	153	136	133	183	189	166	159	207	193	266
そ の 他		輸 出	76	53	32	33	49	51	47	36	27	16	68
	輸 入	268	263	168	173	189	289	408	473	554	372	354	
	計	343	316	201	205	238	339	455	509	581	388	421	
軽 工 業 品	輸 出	27	25	30	31	34	22	22	24	26	27	26	
	輸 入	79	67	75	66	75	69	71	61	52	42	150	
	計	107	91	105	98	109	91	92	85	77	69	176	
雑 工 業 品	そ の 他 の 日 用 品	輸 出	2	2	2	3	1	3	1	1	1	6	2
		輸 入	102	118	122	146	190	195	183	210	142	94	332
		計	103	120	125	149	191	198	185	211	143	100	333
	ゴ ム 製 品	輸 出	161	143	152	195	229	250	204	154	154	212	606
		輸 入	109	134	128	134	160	180	172	137	122	94	232
		計	270	277	280	329	389	430	376	291	276	306	838
	木 製 品	輸 出	24	19	12	14	6	4	7	4	3	1	8
		輸 入	98	104	118	140	174	175	212	165	171	205	383
		計	122	123	130	154	180	178	218	169	173	207	391
	そ の 他	輸 出	20	16	55	62	54	27	18	19	12	14	30
		輸 入	171	126	81	74	86	111	125	103	88	83	144
		計	190	141	136	136	141	138	143	122	100	97	173
特 殊 品	輸 出	46	65	60	66	58	42	57	66	77	63	87	
	輸 入	95	63	57	57	56	58	60	38	37	69	77	
	計	141	128	116	123	114	100	117	104	113	131	164	
分 類 不 能 の も の	輸 出												
	輸 入		0							0			
	計		0							0			
合 計	輸 出	2,288	1,831	1,765	2,204	2,065	2,016	2,192	2,073	2,094	2,156	5,155	
	輸 入	5,196	4,872	4,531	4,336	4,725	5,363	5,693	5,265	6,065	5,202	7,850	
	計	7,484	6,703	6,296	6,539	6,791	7,379	7,884	7,338	8,159	7,358	13,005	

2) 外貿公共一般貨物の品目別取扱量の推移

外貿公共一般貨物の品目別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-3 外貿公共一般貨物の品目別取扱量の推移

(千トン)

品 目		出 入	実 績 値										設定値	
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半	
農 水 産 品	とうもろこし	輸 出												
		輸 入	114	131	114	100	107	72	63	53	81	128	63	
		計	114	131	114	100	107	72	63	53	81	128	63	
	その他の産品	輸 出												
		輸 入	26	40	60	87	49	42	101	127	124	107	101	
		計	26	40	60	87	49	42	101	127	124	107	101	
	そ の 他	輸 出	2		0							5		
		輸 入	78	90	150	1	46	79	11			17	5	
		計	80	90	150	1	46	79	11			5	17	
林 産 品	木材チップ	輸 出												
		輸 入			1				26	135	123	148	135	
		計			1				26	135	123	148	135	
	そ の 他	輸 出												
		輸 入	16	25	8	17	6	9	15	67	71	56	67	
		計	16	25	8	17	6	9	15	67	71	56	67	
鉱 産 品	石 炭	輸 出												
		輸 入	2,375	1,993	2,262	2,069	2,184	2,451	2,545	2,184	2,893	2,182	2,195	
		計	2,375	1,993	2,262	2,069	2,184	2,451	2,545	2,184	2,893	2,182	2,195	
	金 属 鉱	輸 出												
		輸 入	88	142	87	118	98	114	111	125	35	100	111	
		計	88	142	87	118	98	114	111	125	35	100	111	
	原 塩	輸 出												
		輸 入	154	119	136	132	121	160	242	218	248	198	242	
		計	154	119	136	132	121	160	242	218	248	198	242	
	そ の 他	輸 出												
		輸 入	386	91	51	72	101	116	84	112	150	172	97	
		計	386	91	51	72	101	116	84	112	150	172	97	
金 属 機 械 工 業 品	鋼 材	輸 出						0			2			
		輸 入	167	216	53	28	63	157	200	146	213	195	350	
		計	167	216	53	28	63	157	200	146	215	195	350	
	完成自動車	輸 出	133	47	36	361	73	66	312	407	317	363	635	
		輸 入											700	
		計	133	47	36	361	73	66	312	407	317	363	1,335	
	そ の 他	輸 出				0					1	0		
		輸 入	1	214	1	0	0	9	2	11	5	7	4	
		計	1	214	1	0	0	9	2	11	6	7	4	
化 学 工 業 品	そ の 他 の 石 油 製 品	輸 出												
		輸 入	3				24	243	300	421	468	205	205	
		計	3				24	243	300	421	468	205	205	
	そ の 他	輸 出			2						1			
		輸 入	261	260	206	218	183	48	133	62	90	210	117	
		計	261	260	207	218	183	48	133	62	91	210	117	
雑 工 業 品	輸 出									0				
	輸 入	1				12				0	8			
	計	1				12				0	8			
特 殊 品	輸 出	28	21	9	9									
	輸 入		0			1			1	1	2			
	計	28	21	9	9	1			1	1	2			
分 類 不 能 の も の	輸 出													
	輸 入		0								0			
合 計	輸 出	162	68	46	370	73	66	312	407	326	363	635		
	輸 入	3,669	3,320	3,127	2,841	2,996	3,499	3,833	3,662	4,501	3,734	4,390		
	計	3,831	3,388	3,174	3,211	3,069	3,565	4,145	4,068	4,827	4,097	5,025		

3) 外貿公共コンテナ貨物の取扱量の推移

① 外貿公共コンテナ貨物の品目別取扱貨物量の推移

外貿公共コンテナ貨物の品目別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-4 外貿公共コンテナ貨物の品目別取扱量の推移

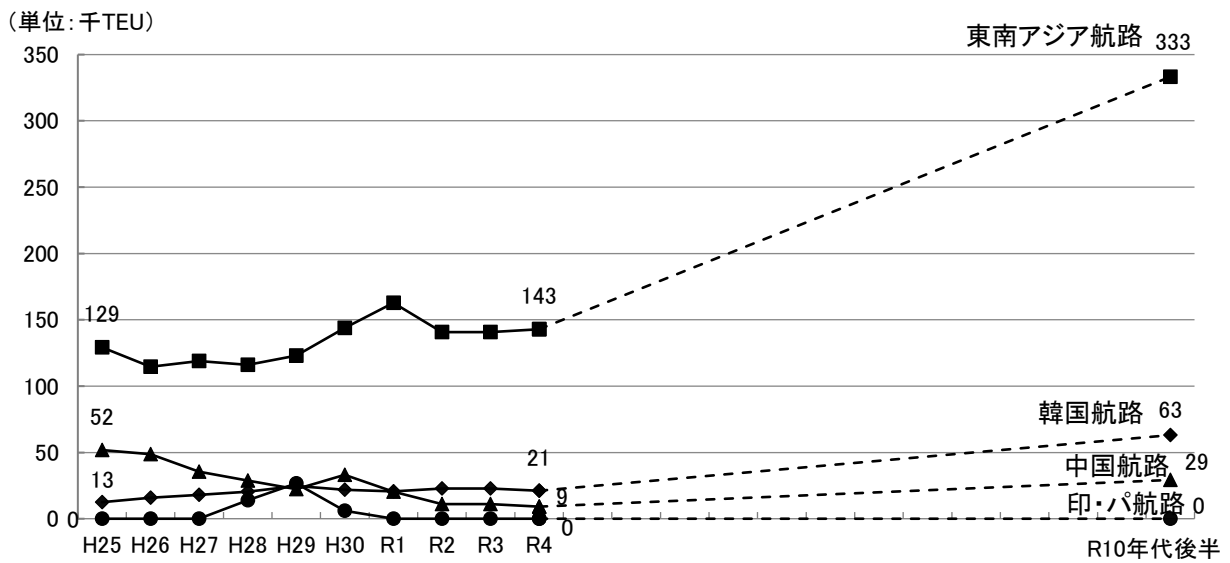
品 目		出 入	実 績 値										設定値
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半
農 水 産 品	輸 出	2	1	1	5	1	1	1	1	0	1	2	
	輸 入	38	41	11	44	39	37	34	34	35	19	63	
	計	40	42	12	48	40	38	36	34	35	20	65	
林 産 品	樹 脂 類	輸 出	2	2	0	0	3	1	2	1	1	1	47
		輸 入	125	125	132	130	142	144	157	118	143	149	197
		計	126	127	132	130	145	144	159	119	144	150	244
	そ の 他	輸 出	0		2	3	3	1	0	1	0	0	0
		輸 入	4	3	3	2	2	2	2	3	1	1	2
		計	4	3	5	5	5	4	2	3	1	1	2
鉱 産 品	輸 出	2	2	2	3	1	1	1	1	2	2	2	
	輸 入	23	24	22	32	33	25	26	46	22	14	38	
	計	25	26	24	35	35	26	28	47	24	16	40	
金 属 機 械 工 業 品	非 鉄 金 属	輸 出	2	1	1	2	8	6	4	6	2	2	7
		輸 入	70	61	78	68	60	65	91	71	66	55	153
		計	72	62	79	70	68	71	95	76	68	57	160
	金 属 製 品	輸 出	1	2	5	21	19	25	17	13	16	8	89
		輸 入	64	87	84	80	103	109	94	83	95	90	90
		計	65	90	89	101	122	133	111	97	111	98	179
	自 動 車 部 品	輸 出	1,048	700	526	510	511	546	537	440	555	644	1,499
		輸 入	85	103	107	128	123	156	143	94	95	85	653
		計	1,133	804	634	638	635	702	680	533	650	729	2,151
	産 業 機 械	輸 出	65	73	92	72	78	74	96	66	73	87	236
		輸 入	4	7	7	7	9	11	11	10	9	16	49
		計	69	79	99	79	87	85	107	75	82	103	284
	電 気 機 械	輸 出	25	9	7	16	29	23	16	16	12	7	21
		輸 入	149	176	69	71	96	120	109	86	74	48	134
		計	174	185	76	87	125	143	125	101	86	55	156
そ の 他	輸 出	4	2	3	3	3	2	3	2	2	1	232	
	輸 入	36	34	40	27	35	33	24	29	32	37	68	
	計	40	36	42	31	38	36	27	31	34	38	300	
化 学 工 業 品	化 学 薬 品	輸 出	339	370	405	474	554	565	480	371	403	341	920
		輸 入	83	82	105	125	149	147	134	120	133	148	338
		計	423	452	510	599	703	712	614	491	536	489	1,258
	そ の 他 化 学 工 業 品	輸 出	308	300	340	330	350	308	367	445	404	362	639
		輸 入	154	153	136	133	177	189	166	159	207	193	266
		計	462	453	476	463	527	498	533	605	611	554	905
そ の 他	輸 出	76	53	32	33	49	51	47	36	27	16	68	
	輸 入	39	43	31	32	32	37	46	38	41	36	92	
	計	115	96	63	65	81	87	92	75	68	52	160	
軽 工 業 品	輸 出	27	25	30	31	34	22	22	24	26	27	26	
	輸 入	79	67	75	66	75	69	71	61	52	42	150	
	計	107	91	105	98	109	91	92	85	77	69	176	
雑 工 業 品	そ の 他 の 日 用 品	輸 出	2	2	2	3	1	3	1	1	1	6	2
		輸 入	102	118	122	146	190	195	183	210	142	94	332
		計	103	120	125	149	191	198	185	211	143	100	333
	ゴ ム 製 品	輸 出	161	143	152	195	229	250	204	154	154	212	606
		輸 入	109	134	128	134	160	180	172	137	122	94	232
		計	270	277	280	329	389	430	376	291	276	306	838
	木 製 品	輸 出	24	19	12	14	6	4	7	4	3	1	8
		輸 入	97	104	118	140	162	175	212	165	171	205	383
		計	121	123	130	154	168	178	218	169	173	206	391
そ の 他	輸 出	20	16	55	62	54	27	18	19	12	14	30	
	輸 入	171	126	81	74	86	111	125	103	88	75	144	
	計	190	141	136	136	141	138	143	122	100	89	173	
特 殊 品	輸 送 用 容 器	輸 出	9	33	46	53	56	40	55	65	75	60	82
		輸 入	82	58	54	55	53	56	58	35	34	66	71
		計	91	90	100	108	109	96	113	100	109	126	153
	そ の 他	輸 出	9	11	4	4	2	2	2	1	2	2	5
		輸 入	13	5	3	2	2	2	2	2	2	1	6
計	22	16	7	6	4	4	4	3	4	3	11		
合 計	輸 出	2,126	1,763	1,718	1,834	1,992	1,951	1,880	1,666	1,768	1,793	4,520	
	輸 入	1,527	1,553	1,404	1,494	1,730	1,863	1,860	1,604	1,564	1,468	3,460	
	計	3,653	3,315	3,122	3,328	3,722	3,814	3,740	3,270	3,332	3,261	7,980	

② 外貿公共コンテナ貨物の航路方面別取扱量の推移

外貿公共コンテナ貨物の航路方面別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-5 外貿公共コンテナ貨物の航路方面別取扱貨物量の推移

航路方面	出入	実績値										設定値	
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半	
印パ・ペルシャ・ベンガル航路	輸出				8	14	2						
	輸入				6	13	4						
	計				14	27	6						
東南アジア航路	輸出	83	67	68	67	72	80	87	79	79	84	201	
	輸入	46	48	51	49	51	64	76	62	62	59	132	
	計	129	115	119	116	123	144	163	141	141	143	333	
中国航路(ホンコン含む)	輸出	24	23	17	13	10	16	9	4	4	3	11	
	輸入	28	25	19	15	13	17	11	7	7	6	18	
	計	52	49	36	29	22	33	21	11	11	9	29	
韓国航路	輸出	7	8	9	10	11	10	9	10	10	9	21	
	輸入	6	8	9	10	13	12	12	13	13	12	43	
	計	13	16	18	21	25	22	21	23	23	21	63	
合計	輸出	114	98	94	98	107	108	105	93	93	96	232	
	輸入	80	81	79	82	90	97	99	82	82	77	193	
	計	194	179	172	179	197	205	204	175	175	173	425	



図Ⅱ-1-4 外貿公共コンテナ貨物の取扱量の推移 (方面別)

5) 外貿専用貨物の品目別取扱量の推移

外貿専用貨物の品目別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-6 外貿専用貨物の品目別取扱量の推移

(千トン)

品 目		出 入	実 績 値										設定値	
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半	
農 水 産 品	輸 出			3										
	輸 入													
	計			3										
鉱 産 品	原 油	輸 出		3										
		輸 入	16,977	16,233	16,986	16,782	13,994	15,656	15,635	13,386	15,184	14,355	15,635	
		計	16,977	16,236	16,986	16,782	13,994	15,656	15,635	13,386	15,184	14,355	15,635	
	そ の 他	輸 出											11	
		輸 入	25											
		計	25										11	
化 学 工 業 品	重 油	輸 出		6	104	248	255	309	274	275	63	113	274	
		輸 入	241	1				20						
		計	241	6	104	248	255	328	274	275	63	113	274	
	揮 発 油	輸 出						527	508	338	482	530	508	
		輸 入						1,157	1,153	1,329	1,519	1,018	1,153	
		計						1,684	1,661	1,666	2,001	1,548	1,661	
	そ の 他 の 油	輸 出	1,055	1,139	2,000	935	718	544	684	247	174	391	684	
		輸 入	1,055	1,125	908	1,082	1,500	15	9	6	6	6	9	
		計	2,110	2,265	2,908	2,017	2,219	559	693	253	180	397	693	
	L N G	輸 出												
		輸 入	13,399	14,765	14,240	13,303	14,156	12,909	12,366	11,995	11,061	9,844	6,322	
		計	13,399	14,765	14,240	13,303	14,156	12,909	12,366	11,995	11,061	9,844	6,322	
		L P G	輸 出	35	32	39	12	13	30	30	25	3	12	25
			輸 入	869	780	781	777	891	847	913	737	867	923	913
			計	904	812	820	789	903	877	943	762	870	935	938
化 学 薬 品		輸 出	596	764	761	835	763	783	969	793	788	707	969	
		輸 入	8	15	32	23	28	21	20	23	61	42	20	
		計	605	778	793	857	790	804	990	817	849	749	990	
そ の 他		輸 出	23	4	98									
		輸 入	5	1	1		1					6		
		計	28	5	99		1					6		
合 計	輸 出	1,709	1,951	3,003	2,030	1,748	2,192	2,466	1,678	1,509	1,765	2,461		
	輸 入	32,579	32,920	32,948	31,966	30,569	30,626	30,096	27,476	28,698	26,193	24,053		
	計	34,288	34,871	35,951	33,996	32,318	32,818	32,562	29,154	30,207	27,958	26,514		

(3) 内貿貨物の取扱量の推移

1) 内貿公共貨物の品目別取扱量の推移

内貿公共貨物の品目別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-7 内貿公共貨物の品目別取扱量の推移

(千トン)

品 目	出 入	実 績 値										設定値	
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半	
農 水 産 品	移 出	22	12	3	1	4	4	2	2	4	3	2	
	移 入	49	14	20	16	13	22	15	21	27	22	15	
	計	71	26	22	17	16	26	17	24	31	25	17	
林 産 品	移 出		3			0	1						
	移 入				0	0	0			0		0	
	計		3		0	0	1			0		0	
鉱 産 品	石 炭	移 出	1,348	1,004	876	1,329	1,136	1,213	1,265	1,051	1,528	1,193	915
		移 入	7	4	10			5		3	2		
		計	1,354	1,008	886	1,329	1,136	1,218	1,265	1,054	1,530	1,193	915
	そ の 他	移 出	27	22	7	4	29	41	44	29	33	14	44
		移 入	134	106	110	85	136	97	97	125	121	215	97
		計	161	128	117	88	165	138	141	154	154	230	141
金 属 機 械 工 業 品	完 成 自 動 車	移 出	1,650	1,289	1,007	1,082	1,127	1,396	1,206	1,434	1,345	1,385	2,518
		移 入	534	896	917	890	917	796	797	466	431	390	875
		計	2,184	2,184	1,924	1,972	2,044	2,191	2,003	1,901	1,777	1,776	3,393
	そ の 他	移 出	1	6	0		0	8	2	0	1	2	3
		移 入	156	117	184	257	160	172	138	170	188	225	155
		計	158	123	184	257	160	179	140	170	189	227	158
化 学 工 業 品	重 油	移 出	365	395	397	584	665	625	616	458	525	468	616
		移 入											
		計	365	395	397	584	665	625	616	458	525	468	616
	化 学 薬 品	移 出	12	5	4	1	3	5	1	2	14	4	1
		移 入	233	136	165	173	186	198	179	132	177	155	179
		計	246	141	169	174	189	203	179	134	191	160	179
	そ の 他 化 学 工 業 品	移 出	9	7	2	4	3	5	11	5	4	6	11
		移 入	111	99	100	95	91	165	95	114	120	100	95
		計	120	106	102	99	94	170	105	119	124	106	105
	そ の 他	移 出	16	27	32	7	19	19	22	22	30	49	23
		移 入	84	44	31	25	161	135	60	51	99	152	69
		計	100	71	63	32	180	154	82	73	129	201	93
軽 工 業 品	移 出	25	24	23	23	22	28	25	26	25	26	25	
	移 入	3	4	7	7	7	4	5	4	5	5	5	
	計	27	28	30	30	29	32	30	30	30	31	30	
雑 工 業 品	移 出					1	8						
	移 入	0	0	3	2	1	0	0	0	14		0	
	計	0	0	3	2	2	8	0	0	14		0	
特 殊 品	動 植 物 性 製 造 飼 料	移 出	28	32	38	41	39	43	59	52	55	52	121
		移 入	1	13	2	9	14	20	1	7			9
		計	28	45	39	50	53	63	60	59	55	52	130
	そ の 他	移 出	15	23	20	16	0	0		0	0	0	0
		移 入	72	49	57	44	0	1	0	0	3	1	0
		計	87	72	77	60	0	1	0	0	3	1	0
分 類 不 能 の も の	移 出									0			
	移 入	0											
	計	0								0			
合 計	移 出	3,518	2,846	2,408	3,091	3,049	3,396	3,253	3,083	3,565	3,203	4,278	
	移 入	1,384	1,484	1,605	1,604	1,685	1,614	1,385	1,094	1,187	1,267	1,499	
	計	4,901	4,329	4,013	4,695	4,734	5,010	4,638	4,177	4,752	4,470	5,777	

2) 内貿公共一般貨物の品目別取扱量の推移

内貿公共一般貨物の品目別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-8 内貿公共一般貨物の品目別取扱量の推移

(千トン)

品 目	出 入	実 績 値										設定値	
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半	
農 水 産 品	移 出	22	12	3	1	2	4	2	2	4	3	2	
	移 入	49	14	20	16	13	22	15	21	26	22	15	
	計	71	26	22	17	14	26	17	24	31	25	17	
林 産 品	移 出		3										
	移 入												
	計		3										
鉱 産 品	石 炭	移 出	1,348	1,004	876	1,329	1,136	1,213	1,265	1,051	1,528	1,193	915
		移 入	7	4	10			5		3	2		
		計	1,354	1,008	886	1,329	1,136	1,218	1,265	1,054	1,530	1,193	915
	そ の 他	移 出	27	22	7	4	29	41	44	29	33	14	44
		移 入	134	106	110	85	136	97	97	125	121	215	97
		計	161	128	117	88	165	138	141	154	154	230	141
金 属 機 械 工 業 品	完 成 自 動 車	移 出	1,650	1,289	1,007	1,082	1,127	1,396	1,206	1,434	1,345	1,385	2,518
		移 入	534	896	917	890	917	796	797	466	431	390	875
		計	2,184	2,184	1,924	1,972	2,044	2,191	2,003	1,901	1,777	1,776	3,393
	そ の 他	移 出	1	6	0			1	2	0	0		2
		移 入	145	110	104	106	72	103	96	141	143	141	96
		計	146	117	104	106	72	105	98	141	143	141	97
化 学 工 業 品	重 油	移 出	365	395	397	584	665	625	616	458	525	468	616
		移 入											
		計	365	395	397	584	665	625	616	458	525	468	616
	化 学 薬 品	移 出	12	5	4	1	2	1	1	2	13	4	0
		移 入	233	136	165	173	185	198	179	132	177	155	178
		計	245	141	169	174	187	199	179	134	190	160	179
そ の 他	移 出	24	29	32	7	19	22	30	25	33	53	28	
	移 入	115	48	31	26	161	142	60	52	99	152	67	
	計	139	78	63	33	181	164	90	77	132	205	95	
軽 工 業 品	移 出	25	24	23	23	20	27	25	26	25	26	25	
	移 入	2	4	6	6	5	4	4	4	3	3	4	
	計	27	28	29	29	25	31	29	30	28	29	29	
特 殊 品	動 植 物 性 製 造 飼 肥 料	移 出	28	32	38	41	39	43	59	52	55	52	121
		移 入	1	13	2	9	14	20	1	7			9
		計	28	45	39	50	53	63	60	59	55	52	130
	そ の 他	移 出	1	6				0					0
		移 入	72	48	57	39			0				0
		計	73	54	57	39			0	0			0
分 類 不 能 の も の	移 出									0			
	移 入	0											
	計	0								0			
合 計	移 出	3,503	2,825	2,386	3,072	3,040	3,373	3,250	3,081	3,562	3,199	4,271	
	移 入	1,291	1,380	1,420	1,348	1,503	1,386	1,247	951	1,003	1,079	1,340	
	計	4,794	4,205	3,806	4,420	4,543	4,759	4,498	4,032	4,564	4,279	5,611	

3) 内貿公共コンテナ貨物の品目別取扱量の推移

① 内貿公共コンテナ貨物の品目別取扱貨物量の推移

内貿公共コンテナ貨物の品目別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-9 内貿公共コンテナ貨物の品目別取扱量の推移

(千トン)

品目	出入	実績値										設定値	
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半	
農水産品	移出					2	0						
	移入				0	0	0	0		0	0	0	0
	計				0	2	0	0		0	0	0	0
林産品	移出					0	1						
	移入				0	0	0			0		0	0
	計				0	0	1			0		0	0
鉱産品	移出						0						
	移入												
	計						0						
金属機械工業品	自動車部品	移出					0	4	0		1	2	1
		移入	0	1	73	149	86	65	39	29	43	84	57
		計	0	1	73	149	87	70	39	29	43	86	58
	その他	移出					0	2			0		0
		移入	11	6	8	3	2	3	3	0	2	0	2
		計	11	6	8	3	2	5	3	0	2	0	3
化学工業品	その他化学工業品	移出	1	4	2	4	3	3	3	2	1	1	6
		移入	79	94	99	95	90	158	95	113	120	100	91
		計	81	98	102	99	93	161	98	115	120	102	97
	その他	移出					1	4	0	0	1		0
		移入	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	7
		計	0	1	0	1	2	4	0	0	1	0	7
軽工業品	移出					2	1			0			
	移入	1	0	1	1	2	0	1	0	2	2	1	
	計	1	0	1	1	4	1	1	0	2	2	1	
雑工業品	移出					1	8						
	移入	0	0	3	2	1	0	0	0	14		0	
	計	0	0	3	2	2	8	0	0	14		0	
特殊品	移出	14	16	20	16	0			0	0	0	0	
	移入	0	1	1	5	0	1		0	3	1	0	
	計	14	18	21	21	0	1		0	3	1	0	
合計	移出	15	21	22	20	9	23	3	3	3	4	7	
	移入	93	103	185	256	182	228	138	142	184	188	159	
	計	108	124	207	275	192	251	141	145	187	192	166	

② 内貿公共コンテナ貨物の取扱コンテナ個数の推移

内貿公共コンテナ貨物の取扱コンテナ個数の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-5 内貿公共コンテナ貨物の取扱コンテナ個数の推移

(千TEU)

出入	実績値										設定値
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半
移出	4	4	4	11	8	11	9	9	11	12	24
移入	4	4	4	11	8	10	9	9	11	12	31
計	7	8	8	22	16	22	18	18	22	24	55

4) 内貿専用貨物の品目別取扱量の推移

内貿専用貨物の品目別取扱量の過去10年間の推移は、次のとおりである。

表 II-1-10 内貿専用貨物の品目別取扱量の推移

(千トン)

品 目		出 入	実 績 値										設定値		
			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半		
農 水 産 品	移出			1											
	移入														1
	計			1											1
鉱 産 品	石 灰 石	移出						2							
		移入				3	11	12	24	27	24	19	16	105	
		計				3	11	14	24	27	24	19	16	105	
	原 油	移出	5	0		40	1				5				
		移入	53	182	369	115	234	97	84	64	55	54	84		
		計	58	182	369	155	235	97	84	70	55	54	84		
	そ の 他	移出	1	4	1		3	1							
		移入	6		2	1	1	2					4		
		計	7	4	3	1	4	3					4		
金 属 機 械 品	移出			0	0	0	0	0			0	0	0		
	移入	0	1	0	1		0	0			0	0			
	計	0	1	0	1	0	0	0			0	0			
化 学 工 業 品	重 油	移出	2,169	2,234	2,645	2,324	2,049	1,944	2,003	2,293	2,527	2,393	2,003		
		移入	736	743	630	664	898	727	802	943	952	1,224	802		
		計	2,905	2,977	3,275	2,988	2,947	2,671	2,805	3,236	3,479	3,617	2,805		
	揮 発 油	移出							2,361	2,372	2,751	2,401	2,402	2,372	
		移入							1,322	1,336	1,256	1,235	1,254	1,336	
		計							3,684	3,708	4,008	3,636	3,656	3,708	
	そ の 他 の 油	移出	5,848	6,642	7,126	6,875	5,711	4,180	4,447	3,891	3,685	3,965	4,447		
		移入	1,425	1,355	1,379	1,556	1,673	353	359	401	299	235	359		
		計	7,273	7,997	8,505	8,431	7,383	4,533	4,806	4,292	3,984	4,200	4,806		
	L P G	移出	406	433	464	533	546	569	593	553	581	561	593		
		移入	381	393	343	291	379	417	358	244	279	253	358		
		計	787	826	807	824	925	986	951	798	860	815	951		
	そ の 他 の 石 油 製 品	移出	423	509	610	675	611	533	534	497	550	631	534		
		移入	23	1			2	8	6	9	11	1	6		
		計	446	510	610	675	613	541	540	507	562	632	540		
	セ メ ン ト	移出	1,167	1,385	1,007	990	900	982	941	967	901	918	941		
		移入	60	55	39	34	35	42	21	40	41	20	21		
		計	1,228	1,440	1,046	1,024	935	1,024	962	1,008	941	937	962		
	化 学 薬 品	移出	1,070	955	918	832	869	826	861	756	829	725	861		
		移入	1,078	1,076	1,126	1,219	1,157	1,100	1,051	968	1,056	903	1,051		
		計	2,148	2,031	2,045	2,052	2,026	1,925	1,912	1,724	1,885	1,628	1,912		
	そ の 他	移出		3	0	13	22	14	20	14	103	115	83		
		移入	8	8	3	2	1		1			2	1		
		計	8	11	3	15	23	14	20	14	103	117	84		
軽 工 業 品	移出														
	移入		0												
	計		0												
特 殊 品	移出			36											
	移入								0						
	計			36					0						
合 計	移出	11,090	12,165	12,808	12,283	10,714	11,410	11,771	11,729	11,577	11,710	11,834			
	移入	3,770	3,813	3,895	3,894	4,391	4,093	4,045	3,950	3,947	3,966	4,122			
	計	14,860	15,979	16,703	16,177	15,105	15,502	15,815	15,679	15,524	15,676	15,956			

1. 2 定期航路の現況等

(1) 外貿コンテナ定期航路

外貿コンテナ定期航路の寄港地、寄港頻度等の状況は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-11 外貿コンテナ定期航路の概要 (2026年1月時点)

(令和8年1月26日時点)

外航航路(16サービス)

航路方面	航路(目的地)	便数 (寄港日)	寄港地	船社名	コンテナ 積載能力 (TEU)	開設年月
韓国	韓国	週1便 (木)	四日市-名古屋-蔚山-釜山-清水-東京-豊橋-四日市	Pan Con, *CK Line, *Heung-A, *KMTC *DONGJIN	1,000	91(H3)年 12月
		週1便 (金)	四日市-豊橋-蔚山-釜山-清水-名古屋-四日市	KMTC, *CK Line, *Pan Con	1,100	01(H13)年 7月
		週1便 (木)	四日市-光陽-釜山-東京-横浜-名古屋-四日市	Pan Ocean	700	01(H13)年 7月
中国	中国 (渤海湾)	週1便 (水-木)	四日市-東京-横浜-秦皇島-天津(新港)-大連-名古屋-四日市	SITC	1,100	02(H14)年 9月
	中国 (上海)	週1便 (水)	四日市-上海-名古屋-四日市	COSCO	1,700	24(R6)年 11月
東南 アジア	中国・台湾・香港・ ベトナム	週1便 (土-日)	四日市-名古屋-台北-高雄-ダナン-ホーチミン-香港-蛇口-東京-横浜-清水-四日市	Evergreen Line	2,600	94(H6)年 2月
	中国・台湾・ シンガポール・ マレーシア	週1便 (水-木)	四日市-台北-台中-高雄-シンガポール-ポートクラン-ペナン-タンジュンペラバス-南沙-高雄-台中-台北-東京-横浜-名古屋-四日市	Evergreen Line	2,900	96(H8)年 7月
	台湾・香港・タイ	週1便 (土)	四日市-基隆-台中-高雄-香港-レムチャバン-バンコク-レムチャバン-高雄-台中-台北-東京-横浜-名古屋-四日市	Wan Hai Lines	2,600	97(H9)年 5月
	中国・台湾・シンガポール・ インドネシア	週1便 (水)	四日市-神戸-高雄-蛇口-シンガポール-ジャカルタ-シンガポール-蛇口-高雄-東京-名古屋-四日市	OOCL *COSCO	4,600	06(H18)年 4月
	韓国・中国・ベトナム	週1便 (月-火)	四日市-釜山-上海-ハイフォン-蛇口-上海-大阪-神戸-名古屋-四日市	SITC	1,000	12(H24)年 4月
	ベトナム・タイ	週1便 (金)	四日市-名古屋-レムチャバン-ホーチミン-大阪-神戸-四日市	ONE *SITC	2,700	13(H25)年 2月
	韓国・フィリピン	週1便 (日)	四日市-清水-東京-横浜-大阪-神戸-釜山-マニラ(N)-釜山-名古屋-四日市	ONE *HMM	2,800	10(H22)年 4月
	シンガポール・ インドネシア	週1便 (月)	四日市-名古屋-神戸-シンガポール-ジャカルタ-シンガポール-東京-横浜-四日市	ONE	5,600	15(H27)年 3月
	シンガポール・ マレーシア・フィリピン	週1便 (木)	四日市-名古屋-神戸-シンガポール-ポートクラン-マニラ(S)-東京-横浜-御前崎-四日市	CMA CGM *Evergreen Line	4,300	23(R5)年 5月
アフリカ	韓国・中国・台湾・ シンガポール・ スリランカ・ケニア・ タンザニア	週1便 (水)	四日市-名古屋-釜山-寧波-シンガポール-コロンボ-モンバサ-ダルエスサラーム-シンガポール-高雄-釜山-東京-横浜-四日市	MSC	5,600	11(H23)年 4月

(2) 内貿コンテナ定期航路

内貿コンテナ定期航路の現状は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-12 内貿コンテナ定期航路の概要 (2026年1月時点)

(令和8年1月26日時点)

航路方面	航路(目的地)	便数 (寄港日)	寄港地	船社名	コンテナ 積載能力 (TEU)
内航	神戸	週1便 (火)	四日市(火) - 神戸(水) - 四日市(火)	井本商運	200

1. 3 取扱貨物量の設定

(1) 取扱貨物量の設定の方針

目標年次における取扱貨物量は、四日市港の取扱貨物量の推移等を基に、以下のフローに従い設定した。

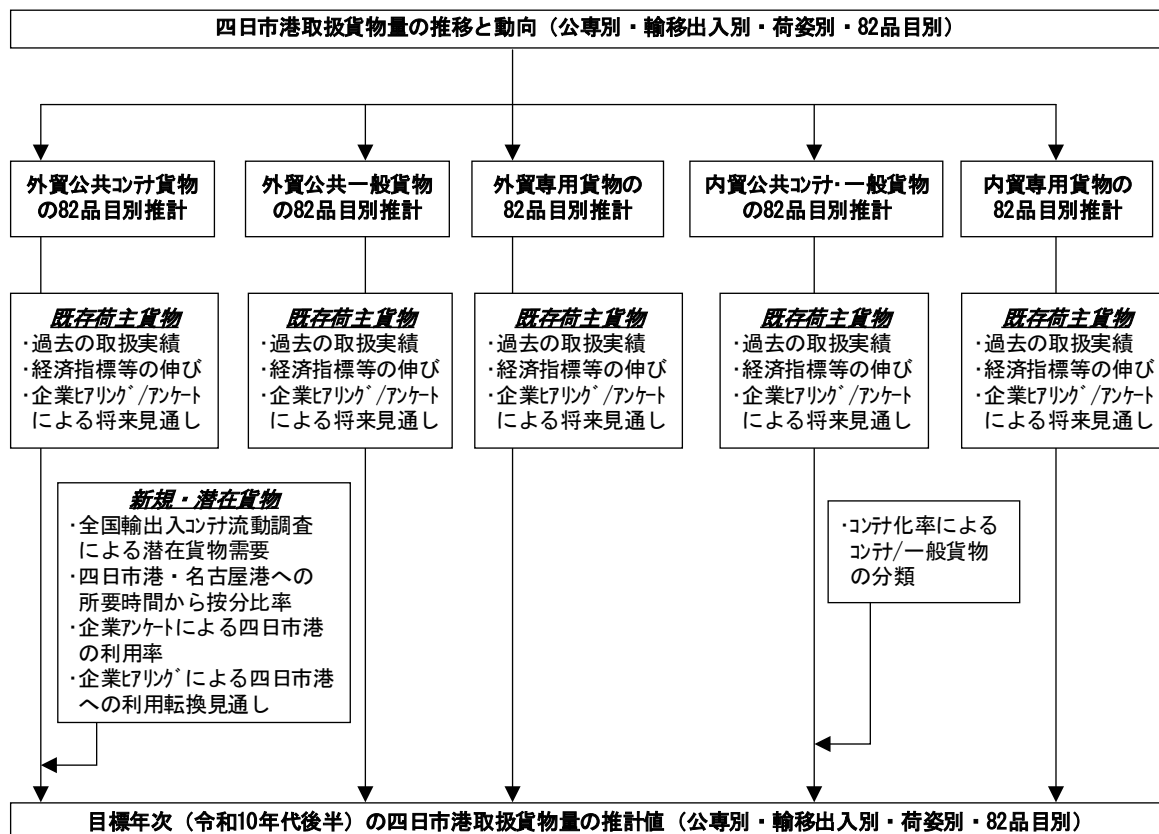


図 II-1-5 取扱貨物量の設定フロー

(2) 外貿貨物の取扱量の設定

1) 外貿公共一般貨物の取扱量の設定

目標年次における外貿公共一般貨物の品目別の設定値と設定の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-13 外貿公共一般貨物の取扱量の設定

(千トン)

品 目		出入	R4取扱量	設定値	設定の考え方
主要品目		-	3,142	4,326	
鉱 産 品	石 炭	輸入	2,182	2,195	ヒアリングに基づく推計(化石燃料の一部転換)
	原 塩		198	242	ヒアリングにより過去の実績程度
金 属 機 械	鋼 材	輸入	195	350	ヒアリングに基づく推計(他港からの利用転換)
	完 成 自 動 車	輸出	363	635	ヒアリングに基づく推計 (生産台数増加、利用港湾の転換)
工 業 品		輸入	0	700	
化学工業品	その他の石油製品	輸入	205	205	ヒアリングにより過去の実績程度
主要品目以外		-	956	699	過去の実績程度・過去5カ年平均
合 計			4,097	5,025	

2) 外貿公共コンテナ貨物の取扱量の設定

目標年次における外貿公共コンテナ貨物の品目別の設定値と設定の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-14 外貿公共コンテナ貨物の品目別取扱量の設定

(千トン)

品 目		出入	R4取扱量	設定値	設定の考え方
主要品目		-	2,867	6,758	
林 産 品	樹 脂 類	輸入	149	197	[既存貨物] 品目別に関連性の高い経済指標の増減見通しや貨物量のトレンドを用いて推計。 [新規貨物] 全国輸出入コンテナ貨物流動調査結果から抽出した潜在貨物需要及びヒアリング結果に基づく四日市港への利用転換見込みの貨物需要を基に、コンテナ個数(TEU)を推計。 コンテナ1TEUあたりの重量からコンテナ取扱量(トン)を算定し、品目別比率の実績値とヒアリング結果を用いて品目別コンテナ取扱量を推計。
金 属 機 械	非 鉄 金 属	輸入	55	153	
工 業 品	金 属 製 品	輸入	90	90	
	自 動 車 部 品	輸出	644	1,499	
		輸入	85	653	
	産 業 機 械	輸出	87	236	
化学工業品	化 学 薬 品	輸出	341	920	
		輸入	148	338	
	そ の 他 化 学 工 業 品	輸出	362	639	
		輸入	193	266	
雑 工 業 品	そ の 他 の 日 用 品	輸入	94	332	
	ゴ ム 製 品	輸出	212	606	
		輸入	94	232	
	木 製 品	輸入	205	383	
特 殊 品	輸 送 用 機 器	輸出	60	82	
主要品目以外		-	394	1,222	
合 計			3,261	7,980	

目標年次における外貿公共コンテナ貨物の航路方面別の設定値と設定の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-15 外貿公共コンテナ貨物の航路方面別取扱量の設定

航路方面	R4取扱量		設定値		設定の考え方
	(千TEU)	(千トン)	(千TEU)	(千トン)	
東南アジア航路	143	2,784	333	6,596	[既存貨物] 品目別に関連性の高い経済指標の増減見通し及び貨物量のトレンドを用いて、コンテナ取扱量(トン)を推計。方面別比率の実績値を用いて方面別コンテナ取扱量(トン)を算定。コンテナ1TEUあたりの重量と空コンテナ比率からコンテナ取扱量(TEU)を推計。
中国航路(ホンコンを含む)	9	160	29	453	
韓国航路	21	316	63	931	[新規貨物] 全国輸出入コンテナ貨物流動調査結果及びヒアリング結果に基づく四日市港への利用転換見込みの貨物需要を基に、航路別コンテナ個数(TEU)を推計。方面別のコンテナ1TEUあたりの重量からコンテナ取扱量(トン)を推計。
合計	173	3,261	425	7,980	

3) 外貿専用貨物の取扱量の設定

目標年次における外貿専用貨物の品目別の設定値と設定の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-16 外貿専用貨物の取扱量の設定

					(千トン)	
品目			出入	R4取扱量	設定値	設定の考え方
主要品目			-	27,880	26,460	
主要品目	鉱産品	原油	輸入	14,355	15,635	過去の実績程度
		重油	輸出	113	274	過去の実績程度
	揮発油	輸出	530	508	過去の実績程度	
		輸入	1,018	1,153	過去の実績程度	
	その他の石油		輸出	391	684	過去の実績程度
	L N G	輸入	9,844	6,322	ヒアリングに基づく推計(設備更新に伴う省燃費化)	
	L P G	輸入	923	913	過去の実績程度	
化学薬品		輸出	707	969	過去の実績程度	
主要品目以外			-	77	54	過去の実績程度・過去5カ年平均
合計				27,958	26,514	

(3) 内貿貨物の取扱量の設定

1) 内貿公共一般貨物の取扱量の設定

目標年次における内貿公共一般貨物の品目別の設定値と設定の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-17 内貿公共一般貨物の取扱量の設定

(千トン)

品 目		出入	R4取扱量	設定値	設定の考え方	
主要品目		-	3,644	5,223	高い経済指標の増減見通しヒアリング結果及び貨物量のトレンドを用いて内貿公共貨物の品目別取扱量を推計。 内貿公共貨物の推計値から内貿公共コンテナ貨物の推計値を差し引き内貿公共一般貨物の取扱量を推計。	
工業品	鉄産品	炭 移出	1,193	915		
	金属機械	完成自動車	移出	1,385		2,518
			移入	390		875
	重	油 移出	468	616		
	化学薬品	移入	155	178		
	動植物性製造飼肥料	移出	52	121		
主要品目以外		-	634	388		
合 計			4,279	5,611		

2) 内貿公共コンテナ貨物の取扱量の設定

目標年次における内貿公共コンテナ貨物の品目別の設定値と設定の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-18 内貿公共コンテナ貨物の品目別取扱量の設定

(千トン)

品 目		出入	R4取扱量	設定値	設定の考え方
主要品目		-	184	148	高い経済指標の増減見通しヒアリング結果及び貨物量のトレンドを用いて内貿公共貨物の品目別取扱量を推計。 内貿公共コンテナ貨物のコンテナ化率の実績値を用いて品目別コンテナ取扱量を推計。
工業品	金属機械	自動車部品 移入	84	57	
	化学工業品	その他化学工業品 移入	100	91	
主要品目以外		-	8	18	
合 計			192	166	

目標年次における内貿公共コンテナ貨物の航路区分別の設定値と設定の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-19 内貿公共コンテナ貨物の航路区分別取扱量の設定

航 路 区 分	R4取扱量		設定値		設定の考え方
	(千TEU)	(千トン)	(千TEU)	(千トン)	
内 航 航 路	49	192	55	166	コンテナ取扱量(トン)を基に、コンテナ1TEUあたりの重量と空コンテナ比率からコンテナ取扱量(TEU)を推計。
合 計	49	192	55	166	

3) 内貿専用貨物の取扱量の設定

目標年次における内貿専用貨物の品目別の設定値と設定の考え方は、次のとおりである。

表Ⅱ-1-20 内貿専用貨物の取扱量の設定

(千トン)

品 目		出入	R4取扱量	設定値	設定の考え方
主要品目		-	15,534	15,846	
鉱 産 品	石 灰 石	移入	16	105	貨物量のトレンド
	原 油	移入	54	84	過去の実績程度
化学工業品	重 油	移出	2,393	2,003	過去の実績程度
		移入	1,224	802	過去の実績程度
	揮 発 油	移出	2,402	2,372	過去の実績程度
		移入	1,254	1,336	過去の実績程度
	そ の 他 の 石 油	移出	3,965	4,447	過去の実績程度
		移入	235	359	過去の実績程度
	L P G	移出	561	593	過去の実績程度
		移入	253	358	過去の実績程度
	そ の 他 の 石 油 製 品	移出	631	534	過去の実績程度
	セ メ ン ト	移出	918	941	過去の実績程度
	化 学 薬 品	移出	725	861	過去の実績程度
移入		903	1,051	過去の実績程度	
主要品目以外		-	142	111	過去の実績程度・貨物量のトレンド
合 計			15,676	15,956	

2. 入港船舶

2. 1 船舶の利用状況

船舶の種類別、トン階級別の過去10年間の船舶利用状況は次のとおりである。

表Ⅱ-2-1(1) 船舶の利用状況

(隻)

船舶種類	トン階級(GT)	実績値										今回推計値
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半
外航商船	100～499GT未満	57	46	83	75	87	43	46	25	33	15	33
	500～999GT未満	98	91	90	46	32	29	21	23	18	11	4
	1,000～2,999GT未満	307	334	312	244	215	254	222	200	243	207	222
	3,000～5,999GT未満	119	170	225	206	170	173	156	119	79	79	58
	6,000～9,999GT未満	381	397	340	365	396	405	411	397	326	298	603
	10,000～29,999GT未満	428	373	434	395	387	340	376	331	314	303	583
	30,000～59,999GT未満	285	316	327	352	336	364	387	368	357	391	563
	60,000～99,999GT未満	10	9	17	24	27	13	26	35	40	40	47
	100,000GT以上	182	178	163	160	149	157	144	129	129	121	98
計	1,867	1,914	1,991	1,867	1,799	1,778	1,789	1,627	1,539	1,465	2,211	
コンテナ船	3,000～5,999GT未満	52	52	48	38	27	43					
	6,000～9,999GT未満	360	381	320	319	337	328	337	319	270	238	576
	10,000～29,999GT未満	306	268	311	296	307	248	273	238	228	205	520
	30,000～59,999GT未満	161	182	192	218	192	208	197	185	148	185	370
	60,000～99,999GT未満							1	5	12	9	17
計	879	883	871	871	863	827	808	747	658	637	1,483	
自動車 運搬船	6,000～9,999GT未満	1										
	10,000～29,999GT未満	16	7	6	14	3	4	7	7	2	8	8
	30,000～59,999GT未満	7	2	5	11	8	7	25	41	36	40	40
	60,000～99,999GT未満						1	10	11	7	8	7
計	24	9	11	25	11	12	42	59	45	56	55	
その他	100～499GT未満	57	46	83	75	87	43	46	25	33	15	33
	500～999GT未満	98	91	90	46	32	29	21	23	18	11	4
	1,000～2,999GT未満	307	334	312	244	215	254	222	200	243	207	222
	3,000～5,999GT未満	67	118	177	168	143	130	156	119	79	79	58
	6,000～9,999GT未満	20	16	20	46	59	77	74	78	56	60	27
	10,000～29,999GT未満	106	98	117	85	77	88	96	86	84	90	55
	30,000～59,999GT未満	117	132	130	123	136	149	165	142	173	166	153
	60,000～99,999GT未満	10	9	17	24	27	12	15	19	21	23	23
	100,000GT以上	182	178	163	160	149	157	144	129	129	121	98
計	964	1,022	1,109	971	925	939	939	821	836	772	673	

表Ⅱ-2-1 (2) 船舶の利用状況

(隻)

船舶種類	トン階級(GT)	実績値										今回推計値
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R10年代後半
内航商船	100GT未満	2,022	1,967	2,017	2,125	2,045	1,955	1,723	1,597	1,779	1,585	1,530
	100～499GT未満	6,821	6,171	6,067	5,879	6,005	5,868	6,005	5,529	5,629	5,909	5,127
	500～999GT未満	3,438	3,758	3,881	4,125	4,008	4,176	3,633	3,571	3,719	3,823	3,484
	1,000～2,999GT未満	1,451	1,533	1,473	1,434	1,307	1,371	1,351	1,159	913	870	907
	3,000～5,999GT未満	1,077	1,163	1,233	1,296	1,160	1,290	1,531	1,645	1,717	1,803	1,718
	6,000～9,999GT未満	33	15	8	2		4	7	9	156	110	89
	10,000～29,999GT未満	5		4	9	9	5	4	3	3	8	6
	30,000～59,999GT未満	8	10	7	9	10	4	2	2	5	8	3
	100,000GT以上			1							1	
計	14,855	14,617	14,691	14,879	14,544	14,673	14,256	13,515	13,921	14,117	12,864	
コンテナ船	500～999GT未満	209	221	264	333	323	380	273	293	335	288	298
	計	209	221	264	333	323	380	273	293	335	288	298
自動車 運搬船	1,000～2,999GT未満	379	340	307	340	418	410	390	390	367	386	387
	3,000～5,999GT未満	161	144	131	104	16	34	33	36	34	29	29
	30,000～59,999GT未満	3										
計	543	484	438	444	434	444	423	426	401	415	416	
その他	100GT未満	2,022	1,967	2,017	2,125	2,045	1,955	1,723	1,597	1,779	1,585	1,530
	100～499GT未満	6,821	6,171	6,067	5,879	6,005	5,868	6,005	5,529	5,629	5,909	5,127
	500～999GT未満	3,229	3,537	3,617	3,792	3,685	3,796	3,360	3,278	3,384	3,535	3,186
	1,000～2,999GT未満	1,072	1,193	1,166	1,094	889	961	961	769	546	484	520
	3,000～5,999GT未満	916	1,019	1,102	1,192	1,144	1,256	1,498	1,609	1,683	1,774	1,689
	6,000～9,999GT未満	33	15	8	2		4	7	9	156	110	89
	10,000～29,999GT未満	5		4	9	9	5	4	3	3	8	6
	30,000～59,999GT未満	5	10	7	9	10	4	2	2	5	8	3
	100,000GT以上			1							1	
計	14,103	13,912	13,989	14,102	13,787	13,849	13,560	12,796	13,185	13,414	12,150	
その他船舶	100GT未満	533	542	642	605	681	684	587	544	573	559	589
	100～499GT未満	522	459	645	635	635	580	572	544	574	569	568
	500～999GT未満		7	3	12	9	30	19	8	1	2	12
	1,000～2,999GT未満			2	3	5		4				4
	3,000～5,999GT未満			3	3	4	5	5	3		2	4
	6,000～9,999GT未満			1					1			
	10,000～29,999GT未満			2	1	1						
	30,000～59,999GT未満						1					
	計	1,055	1,008	1,298	1,259	1,335	1,300	1,187	1,100	1,148	1,132	1,177
合計	100GT未満	2,555	2,509	2,659	2,730	2,726	2,639	2,310	2,141	2,352	2,144	2,120
	100～499GT未満	7,400	6,676	6,795	6,589	6,727	6,491	6,623	6,098	6,236	6,493	5,728
	500～999GT未満	3,536	3,856	3,974	4,183	4,049	4,235	3,673	3,602	3,738	3,836	3,500
	1,000～2,999GT未満	1,758	1,867	1,787	1,681	1,527	1,625	1,577	1,359	1,156	1,077	1,133
	3,000～5,999GT未満	1,196	1,333	1,461	1,505	1,334	1,468	1,692	1,767	1,796	1,884	1,780
	6,000～9,999GT未満	414	412	349	367	396	409	418	407	482	408	692
	10,000～29,999GT未満	433	373	440	405	397	345	380	334	317	311	589
	30,000～59,999GT未満	293	326	334	361	346	369	389	370	362	399	566
	60,000～99,999GT未満	10	9	17	24	27	13	26	35	40	40	47
	100,000GT以上	182	178	164	160	149	157	144	129	129	122	98
計	17,777	17,539	17,980	18,005	17,678	17,751	17,232	16,242	16,608	16,714	16,253	

2. 2 入港船舶の隻数の設定

(1) 入港船舶隻数の設定の方針

目標年次における入港船舶隻数は、四日市港の取扱貨物量の推移等を基に、以下のフローに従い設定した。

四日市港の将来の入港船舶隻数は、以下のフローに従い推計する。

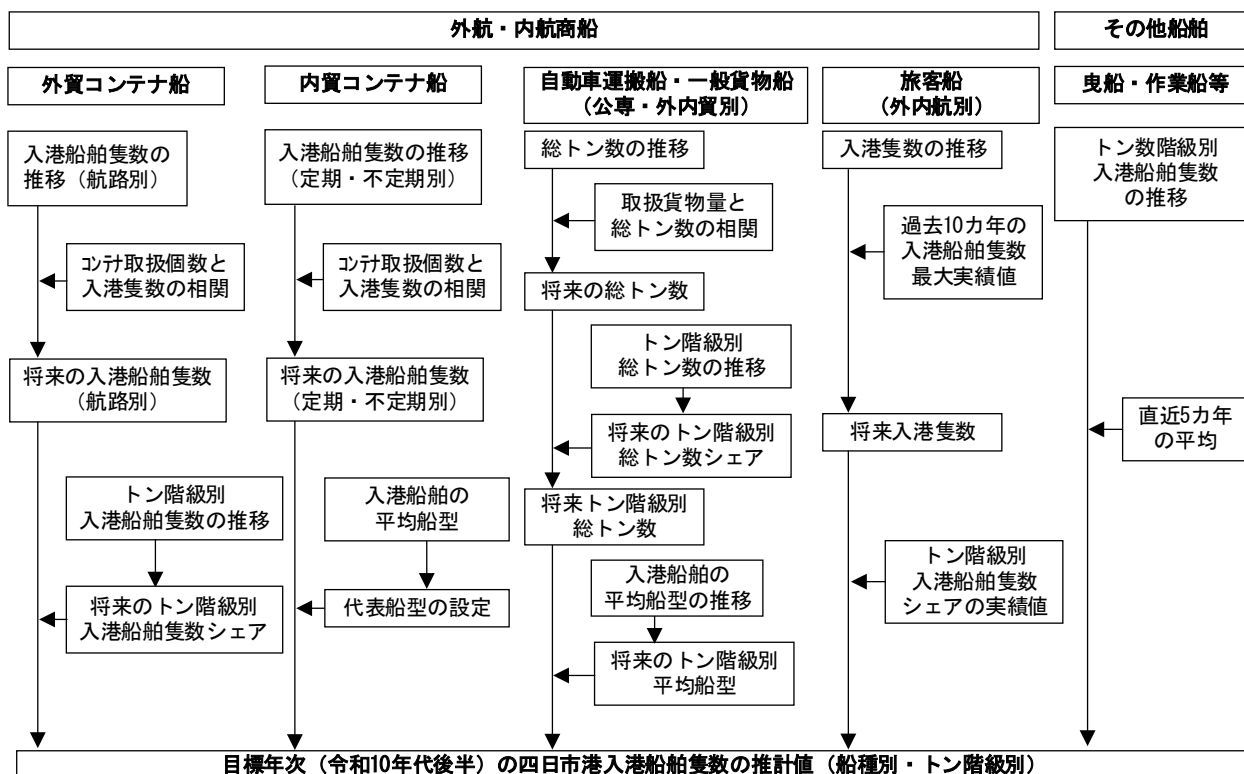


図 II-2-1 入港船舶隻数の設定フロー

(2) 入港船舶隻数の設定

目標年次における入港船舶隻数の設定値は、それぞれ次のとおりである。

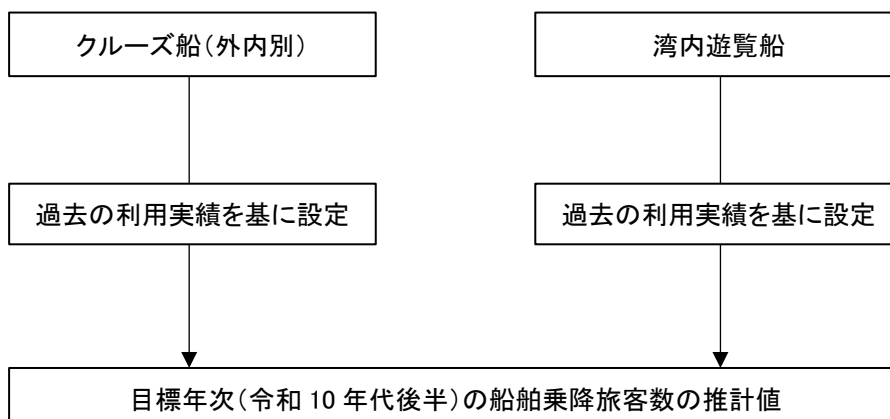
表 II-2-2 入港船舶隻数の設定

	船種	合計	トン階級別									
			100,000 GT以上	60,000 GT以上	30,000 GT以上	10,000 GT以上	6,000 GT以上	3,000 GT以上	1,000 GT以上	500GT 以上	100GT 以上	5GT 以上
R4 入港隻数	外航商船	1,465	121	40	391	303	298	79	207	11	15	0
	内航商船	14,117	1	0	8	8	110	1,803	870	3,823	5,909	1,585
	その他船舶	1,132	0	0	0	0	0	2	0	2	569	559
	合計	16,714	122	40	399	311	408	1,884	1,077	3,836	6,493	2,144
設定値	外航商船	2,211	98	47	563	583	603	58	222	4	33	0
	内航商船	12,864	0	0	3	6	89	1,718	907	3,484	5,127	1,530
	その他船舶	1,177	0	0	0	0	0	4	4	12	568	589
	合計	16,253	98	47	566	589	692	1,780	1,133	3,500	5,728	2,120

3. 船舶乗降旅客数等

3. 1 船舶乗降旅客数等の設定方針

次のフローに従い、船舶乗降旅客数等を設定する。



図Ⅱ-3-1 船舶乗降旅客数等の設定フロー

3. 2 船舶乗降旅客数等の設定

(1) 船舶乗降旅客数等の推移

船舶乗降旅客数の過去10年間の推移は次のとおりである。

表Ⅱ-3-1 船舶乗降旅客数の推移

区分		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
クルーズ船	外国船社			25,536	30,440			
	日本船社	4,074	8,398	8,698	4,536	2,792	2,626	2,152
湾内遊覧船	-	9,732	11,888	10,658	9,764	2,402	5,084	5,040
合計		13,806	20,286	44,892	44,740	5,194	7,710	7,192

(人)

(2) 船舶乗降旅客数等の設定

船舶乗降旅客数等の設定値と設定の考え方については、次のとおりである。

表Ⅱ-3-2 船舶乗降旅客数等の設定

区分		設定値	設定の考え方
クルーズ船	外国船社	3.0万人	過去最大値の船舶乗降客数より設定
	日本船社	0.5万人	
湾内遊覧船		1.2万人	過去最大値の船舶乗降客数より設定
合計		4.7万人	

Ⅲ. 港湾施設の規模及び配置に関する資料

1. 公共埠頭計画

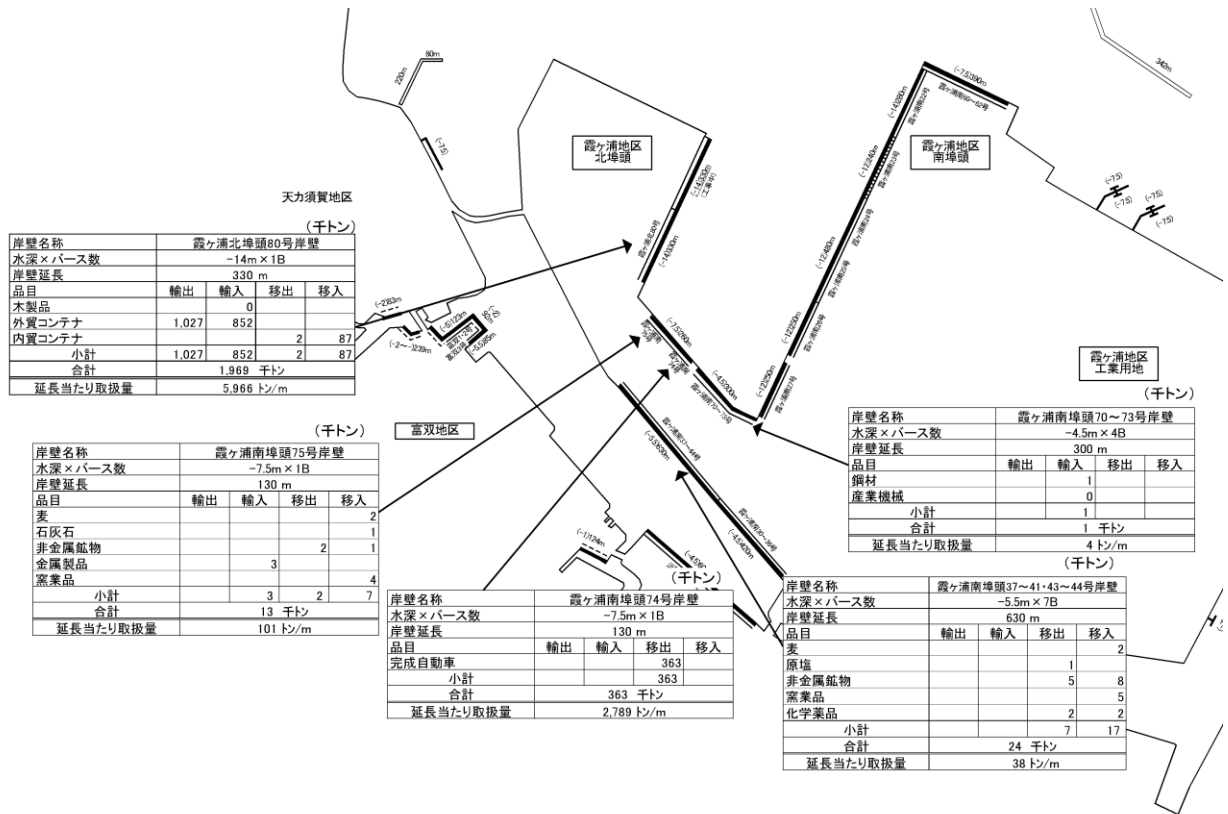
1. 1 公共埠頭の現況

(1) 公共埠頭の利用状況（令和4年実績）

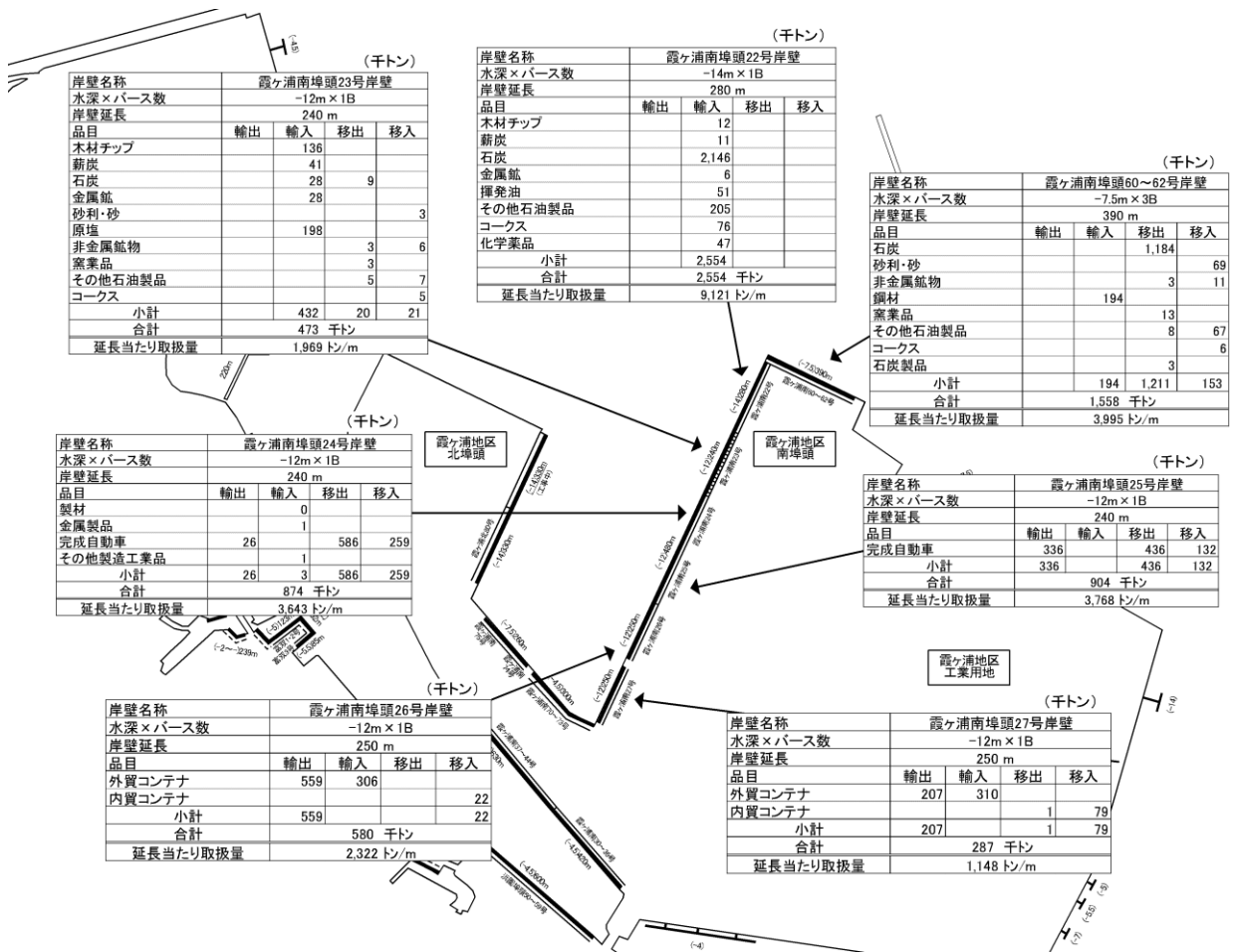
公共埠頭の主要取扱貨物等の利用状況は、次に示すとおりである。

表Ⅲ-1-1 埠頭別の利用状況

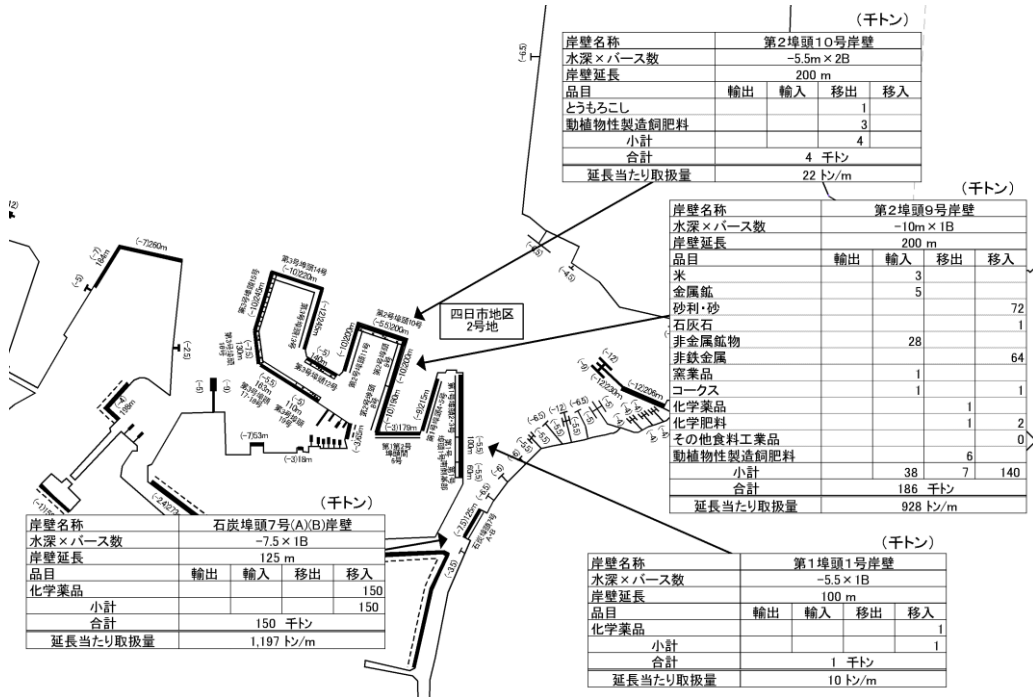
地区名		施設諸元	主要取扱貨物 (令和4年実績)	その他定期航路等
霞 ヶ 浦	北埠頭	-14m×330m(1B)	外内貿コンテナ 1,969千トン	外貿コンテナ航路 韓国航路 週 3便 中国航路 週 3便 東南アジア航路 週 10便
	南埠頭	-14×280m(1B) -12×1,220m(5B) -7.5×650m(5B) -5.5×630m(7B) -4.5×420m(7B)	石炭 3,367千トン 完成自動車 2,138千トン その他 2,742千トン 合計 8,248千トン (うち、外内貿コンテナ 1,484千トン)	内貿コンテナ航路 週 2便
四 日 市	石炭埠頭	-7.5×125m(1B)	化学薬品 150千トン	
	第1埠頭	-5.5×100m(1B)	化学薬品 1千トン	
	第2埠頭	-10m× 200m(1B)	動植物性製造飼肥料 23千トン 非鉄金属 12千トン その他 15千トン 合計 50千トン	
	第3埠頭	-12×245m(1B) -10×465m(2B) -5.5×163m(2B)	とうもろこし 131千トン 非金属鉱物 122千トン その他農産品 110千トン その他 355千トン 合計 717千トン	



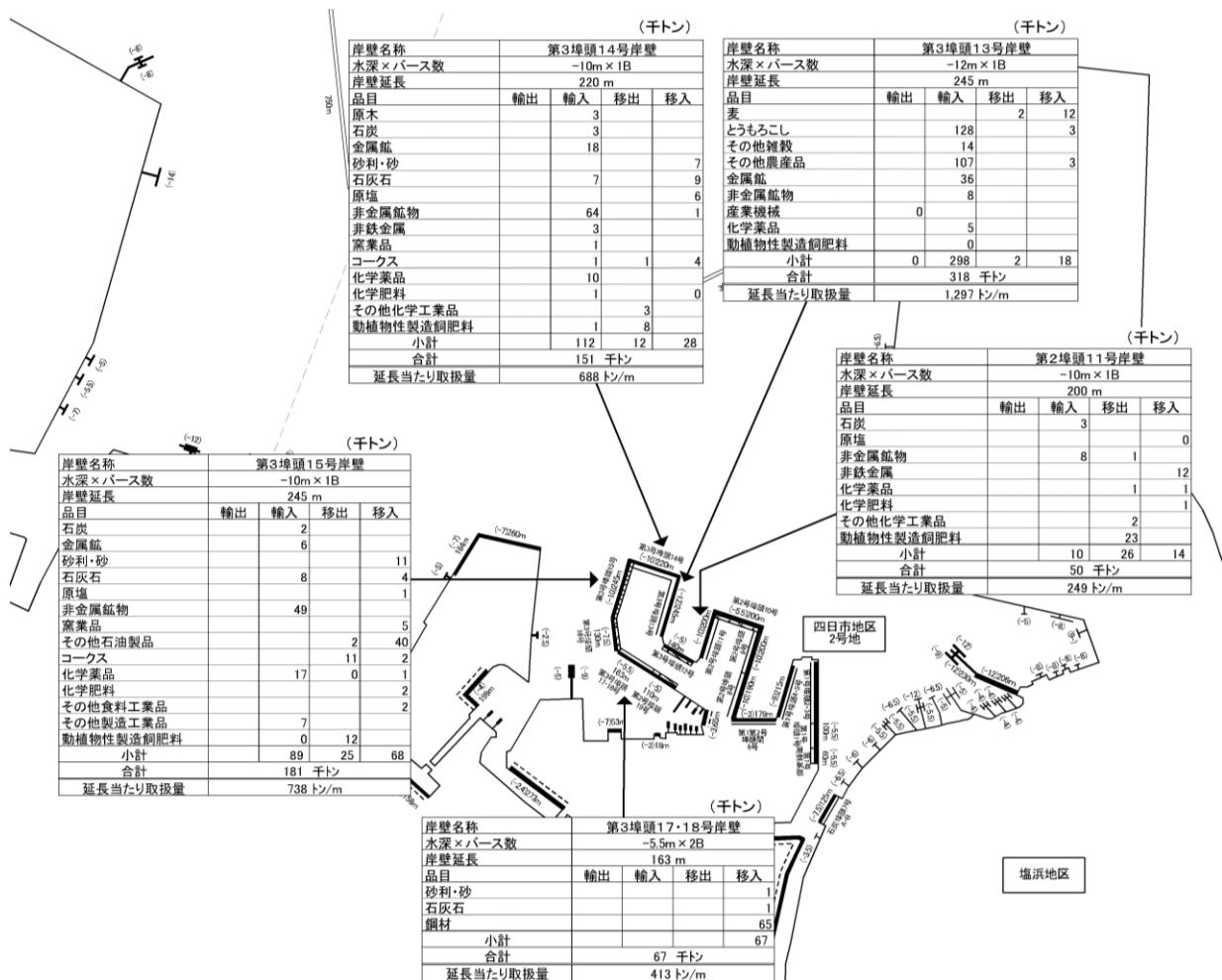
図Ⅲ-1-1(1) 埠頭別貨物取扱状況 (霞ヶ浦地区) (令和4年)



図Ⅲ-1-1(2) 埠頭別貨物取扱状況(霞ヶ浦地区)(令和4年)



図Ⅲ-1-2(1) 埠頭別貨物取扱状況(四日市地区)(令和4年)



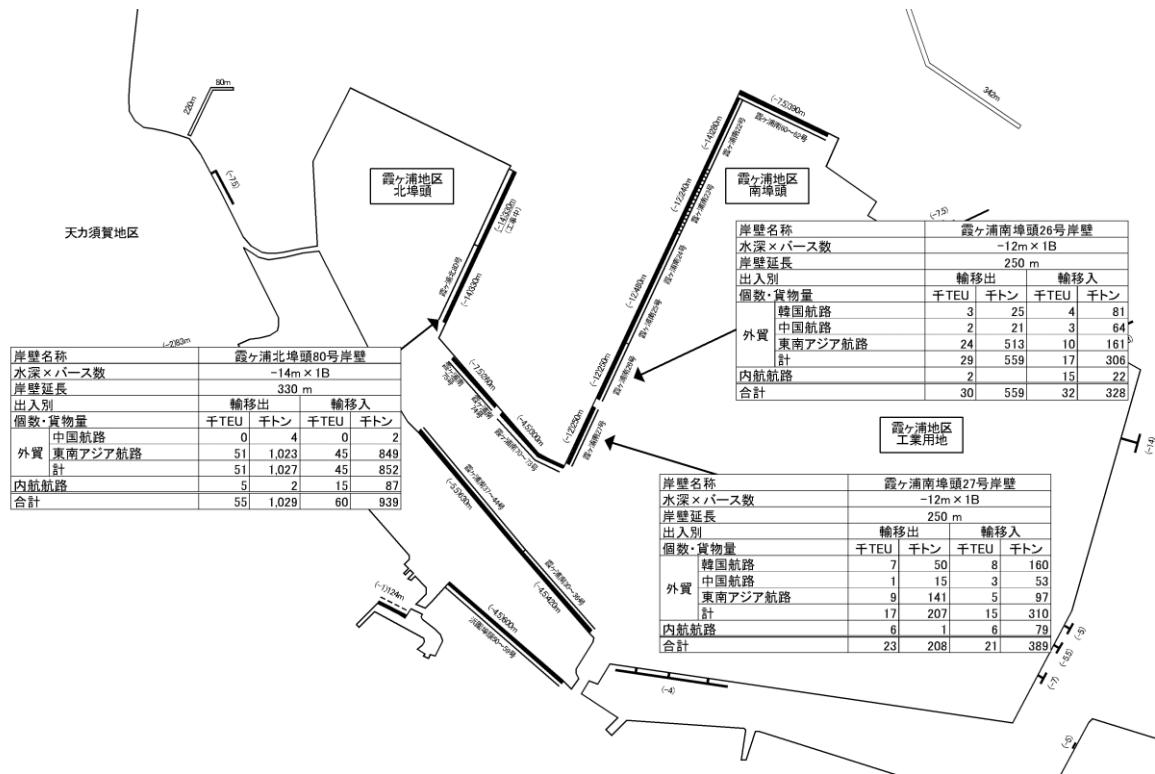
図Ⅲ-1-2(2) 埠頭別貨物取扱状況(四日市地区)(令和4年)

(2) 外内貿コンテナ埠頭の利用状況 (令和4年実績)

外内貿コンテナ埠頭の取扱貨物等の利用状況は、次のとおりである。

表Ⅲ-1-2 外内貿コンテナ埠頭の利用状況

地区名	施設名	施設諸元			埠頭用地		R4 取扱量		ターミナル運営方式	
		水深	バース数	延長	面積	奥行	千TEU	千トン	運営形態	荷役機械
霞ヶ浦	霞ヶ浦北埠頭 80号岸壁	14m	1B	330m	19.1ha	400m	115	1,969	民間	ガントリークレーン 3基 トランスファークレーン 7基 コンテナフォークリフト 3台
	霞ヶ浦南埠頭 26・27号岸壁	12m	2B	500m	19.5ha	360m	106	1,484	民間	ガントリークレーン 3基 ストラドルキャリア 11基 コンテナフォークリフト 9台



図Ⅲ-1-3 外内貿コンテナ埠頭取扱状況図 (令和4年)

1. 2 水深別公共埠頭延長の現況

(1) 水深別内外貿コンテナ埠頭延長の現況

水深別の内外貿コンテナ埠頭延長の現況は、それぞれ次のとおりである。

表Ⅲ-1-3 水深別内外貿コンテナ埠頭延長（令和4年）

水深	既設		工事中		既定計画		埠頭名
	バース数	延長	バース数	延長	バース数	延長	
14～15m					1	350m	霞ヶ浦地区北埠頭
14m	1	330m	1	330m			霞ヶ浦地区北埠頭
12m	2	500m					霞ヶ浦地区南埠頭

(2) 水深別内外貿埠頭延長の現況

水深別の内外貿埠頭延長の現況は、それぞれ次のとおりである。

表Ⅲ-1-4 水深別内外貿埠頭延長（令和4年）

水深	既設		工事中		既定計画		埠頭名
	バース数	延長	バース数	延長	バース数	延長	
16m (14m)					1	310m	霞ヶ浦地区南埠頭
14m (12m)		280m			1	280m	霞ヶ浦地区南埠頭
12m	5	1,465m				1,225m	霞ヶ浦地区北埠頭 四日市地区第3埠頭
10	3	665m					四日市地区第2埠頭 四日市地区第3埠頭
7.5m	6	775m			1	130	霞ヶ浦地区南埠頭 四日市地区石炭埠頭
5.5m	11	953m					霞ヶ浦地区南埠頭 四日市地区第1埠頭 四日市地区第3埠頭

※既定計画には変更点のみを示している。

1. 3 公共埠頭計画の必要性

(1) 外内貿コンテナ埠頭計画の必要性

【背景・要請】

- ・コンテナターミナルが霞ヶ浦北埠頭と霞ヶ浦南埠頭に分断されており、貨物の横持ち等の非効率な港内物流が生じている。
- ・近年の東南アジア航路のコンテナ船大型化に伴い、四日市港には必要水深が12mを超えるコンテナ船も多く就航している状況であり、コンテナ船の受入の制約が生じる状況となっている。
- ・東海環状自動車道（西回り区間）の全線開通や物流業界の2024年問題を背景とするモーダルシフトの推進により、集荷圏の拡大に伴うコンテナ取扱個数の増加が期待されている。
- ・増大するコンテナ貨物需要に対応するとともに、非効率な横持ちの解消や岸壁水深不足の解消に向けた外内貿コンテナターミナルの機能強化が求められている。

【今回計画での対応】

- ・分断しているコンテナターミナル機能を霞ヶ浦北埠頭に集約し、水深14～15m・延長1,010mの連続3バースを備えた高規格コンテナターミナルの形成を図る。
- ・コンテナターミナルの岸壁規模については、航路別入港隻数をもとに想定したバース利用に対応可能な延長及び水深を確保するものとした。
- ・コンテナターミナルの用地規模については、コンテナ取扱個数をもとに算定した所要面積を満足する埠頭用地を確保するものとした。

(2) 外内貿埠頭計画の必要性

【背景・要請】

- ・石炭等のバルク貨物の輸送船舶の大型化が見込まれており、将来的には岸壁水深不足による背後圏産業の物流面に起因する付加価値の低下が懸念される。
- ・鋼材の貨物需要の増大が見込まれており、バルクターミナルにおけるバース利用の逼迫が懸念される。
- ・完成自動車の貨物需要の増大が見込まれており、モータープールとして活用するための用地不足が懸念される。
- ・老朽化した低利用な係留施設については、維持管理コストを縮減するための機能転換による適切なストックマネジメントが不可欠である。
- ・増大する貨物需要に対応するとともに、適切なストックマネジメントを推進しつつ、バースやヤードの利用逼迫を回避するため、外内貿公共埠頭における貨物利用の機能強化・最適化が求められている。

【今回計画での対応】

- ・石炭等のバルク貨物輸送船の大型化に対応するため、既存岸壁の増深を行う。
- ・鋼材の貨物需要の増大に対応した新たな岸壁整備と利用再編による岸壁利用の平準化を進めるとともに、老朽化した低利用岸壁の利用転換を図る。
- ・完成自動車の貨物需要の増大に対応したモータープールを確保するため、外内貿公共埠頭全体の土地利用の再編を進める。

1. 4 公共埠頭の規模及び配置

(1) 外内貿コンテナ埠頭の規模及び配置の考え方

1) 水深別バース数

航路方面別ごとの利用形態等を考慮し、水深別のバース数を次のとおりとする。

表Ⅲ-1-5 水深別バース数

水深	バース数	延長	水深別バース数の考え方
14～15m	1	350m	入港実績をもとに、60,000DWT級のコンテナ船に対応可能な岸壁を計画する。

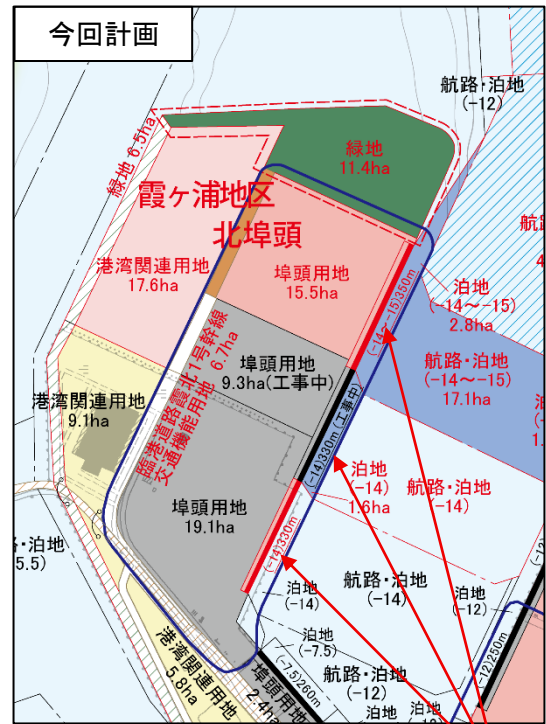
2) 今回計画する外貿コンテナ埠頭の配置及び埠頭用地面積

今回計画する外貿コンテナ埠頭の配置及び埠頭用地面積については、次のとおりである。

なお、効率的な荷役のため、所要の規模のガントリークレーンを設置する。

表Ⅲ-1-6 今回計画する外内貿コンテナ埠頭の配置及び埠頭用地面積

地区名	施設名	水深(m)	バース数	延長(m)	今回計画	奥行き設定値	埠頭用地面積	配置及び埠頭用地面積の考え方
霞ヶ浦	霞ヶ浦北埠頭80号岸壁	14	1	330	既設	400m	43.9ha (うち 19.1ha 既設、 9.3ha 工事中) [既定計画の 変更計画]	W82は既設岸壁(W80～W81)に連続して配置する。計画貨物量等を踏まえた所要面積を確保しつつ、既設の埠頭用地の同規模の奥行を確保する。
	霞ヶ浦北埠頭81号岸壁	14	1	330	既設(工事中)			
	霞ヶ浦北埠頭82号岸壁	14～15	1	350	既定計画			



○外内貿コンテナ埠頭
 (-14~-15) 1B 350m[既定計画]W82
 (-14) 2B 660m(うち1ハース工事中)
 [既設]W80・W81
 埠頭用地 59.3ha
 (うち 19.1ha 既設、9.3ha 工事中)
 [既定計画]

○外内貿コンテナ埠頭
 (-14~-15) 1B 350m[既定計画]W82
 (-14) 2B 660m(うち1ハース工事中)
 [既設]W80・W81
 埠頭用地 43.9ha
 (うち 19.1ha 既設、9.3ha 工事中)
 [既定計画の変更計画]

図Ⅲ-1-4 今回計画する外内貿コンテナ埠頭の位置図(霞ヶ浦地区)

(2) 外内貿埠頭の規模及び配置の考え方

1) 水深別バース数

利用実態等を考慮し、水深別のバース数を次のとおりとする。

表Ⅲ-1-7 水深別バース数

水深	バース数	延長	水深別バース数の考え方
16m	1	310m	80,000～93,000DWT 級の貨物船対応の岸壁を計画する。
14m	1	280m	55,000DWT 級の貨物船対応の岸壁を計画する。
7.5m	1	130m	5,000DWT 級の貨物船対応の岸壁を計画する。

2) 今回計画する外内貿埠頭の配置及び埠頭用地面積

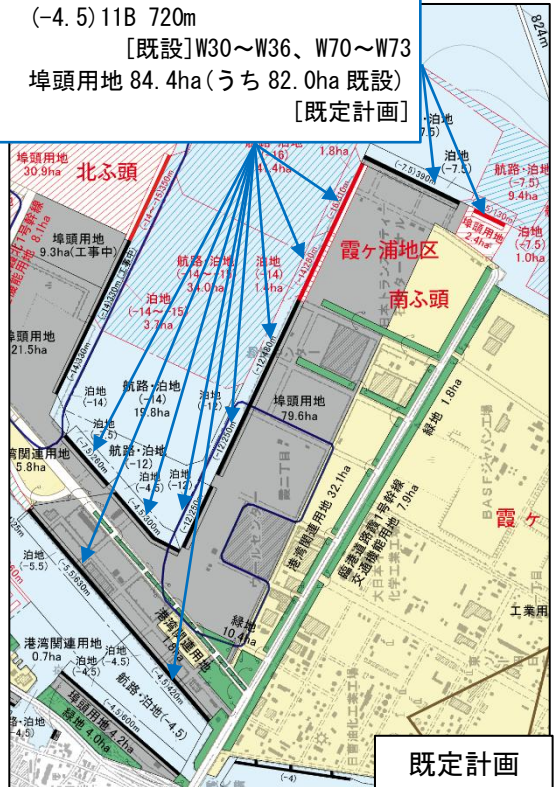
今回計画する外内貿埠頭の配置及び埠頭用地面積については、次のとおりである。なお、霞ヶ浦地区の水深 4.5m 岸壁 1 バース 60m(W30)を廃止する。

表Ⅲ-1-8 今回計画する外内貿埠頭の配置及び埠頭用地面積

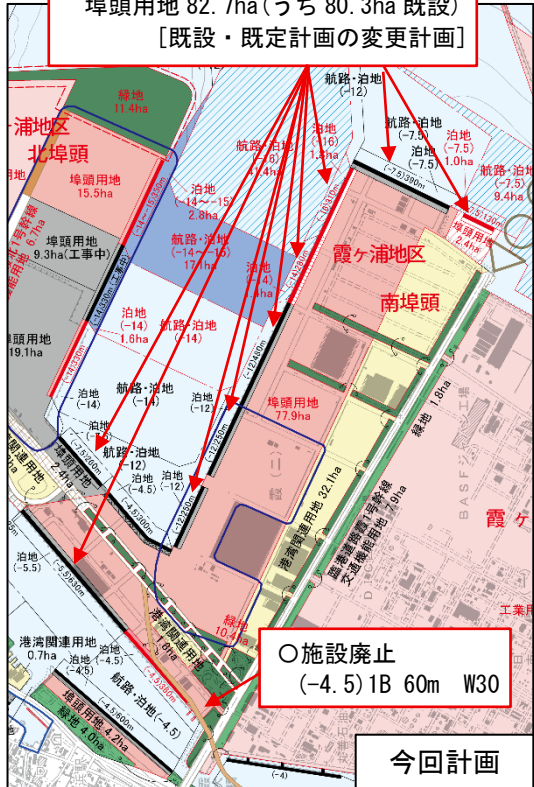
地区名	施設名	水深 (m)	バース数	延長 (m)	今回計画	埠頭用地面積	配置及び埠頭用地面積の考え方
霞ヶ浦	霞ヶ浦南埠頭 22 号岸壁	16	1	310	既定計画	82.7ha (うち 80.3ha 既設) [既設・既定計画の変更計画]	W22・W23 は既設岸壁を延伸して必要施設延長を確保する。 W63 は既設岸壁 (W60～W62) の法線上に必要延長を確保する。 品目別計画貨物量等を踏まえた所要面積を確保する。
	霞ヶ浦南埠頭 23 号岸壁	14	1	280	既定計画		
	霞ヶ浦南埠頭 24 号～27 号岸壁	12	4	980	既設		
	霞ヶ浦南埠頭 63 号岸壁	7.5	1	130	既定計画		
	霞ヶ浦南埠頭 60 号～62 号、74 号、75 号岸壁	7.5	5	650	既設		
	霞ヶ浦南埠頭 37 号～44 号岸壁	5.5	8	630	既設		
四日市	第 3 号埠頭 13 号岸壁	12	1	245	既設	19.3ha [既設]	W18 が物資補給岸壁に利用転換した。
	第 3 号埠頭 11 号、14 号、15 号岸壁	10	3	665	既設		
	石炭埠頭 7 号岸壁	7.5	1	125	既設		
	第 3 号埠頭 17 号岸壁	5.5	1	90	既設の変更計画		

- 外内貿埠頭
- (-16) 1B 310m [既定計画] W22
- (-14) 1B 280m [既定計画] W23
- (-12) 4B 980m [既設] W24~W27
- (-7.5) 6B 780m (うち 5 パース既設)
- [既定計画] W60~W63、W70~W75
- (-5.5) 7B 630m
- [既設] W37~W41、W43、W44
- (-4.5) 11B 720m
- [既設] W30~W36、W70~W73
- 埠頭用地 84.4ha (うち 82.0ha 既設)
- [既定計画]

- 外内貿埠頭
- (-16) 1B 310m [既定計画] W22
- (-14) 1B 280m [既定計画] W23
- (-12) 4B 980m [既設] W24~W27
- (-7.5) 6B 780m (うち 5 パース既設)
- [既定計画] W60~W63、W74~W75
- (-5.5) 7B 630m
- [既設] W37~W41、W43、W44
- 埠頭用地 82.7ha (うち 80.3ha 既設)
- [既設・既定計画の変更計画]



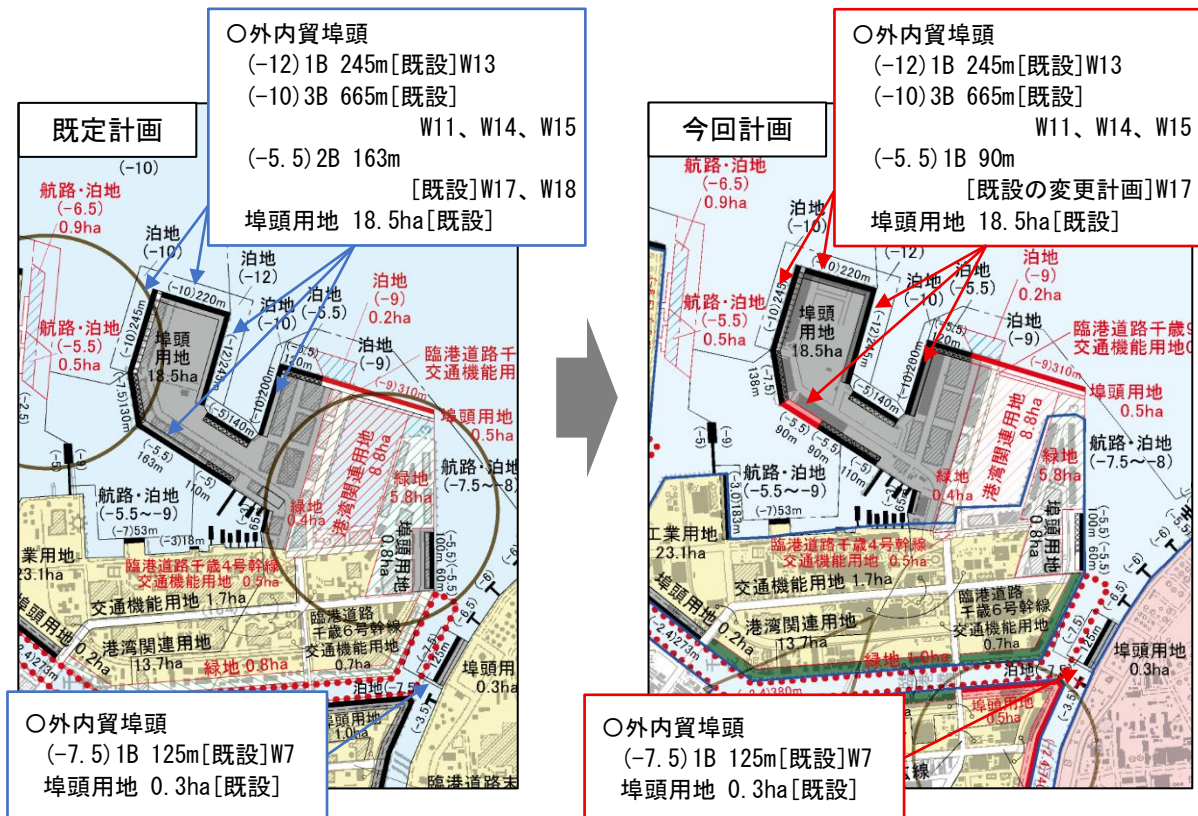
既定計画



○施設廃止
(-4.5) 1B 60m W30

今回計画

図Ⅲ-1-5(1) 今回計画する外内貿埠頭の位置図 (霞ヶ浦地区)



図Ⅲ-1-5(2) 今回計画する外内貿埠頭の位置図 (四日市地区)

2. 旅客船埠頭計画

2. 1 旅客船埠頭の必要性

四日市港におけるクルーズ船の受入対応は、貨物船との利用調整が必要な霞ヶ浦地区や四日市地区で行われており、利便性向上が不可欠な状況である。

貨物との利用調整を解消するとともに、クルーズ旅客の満足度向上やクルーズ振興による背後圏の観光振興に貢献するため、第1・第2埠頭間の埋立を行い、クルーズ需要に対応した旅客船埠頭の形成を図る必要がある。

2. 2 今回計画する旅客船埠頭の規模及び配置

(1) 水深別バース数

クルーズ船の利用実態等を考慮し、水深別のバース数を次のとおりとする。

表Ⅲ-2-1 水深別バース数

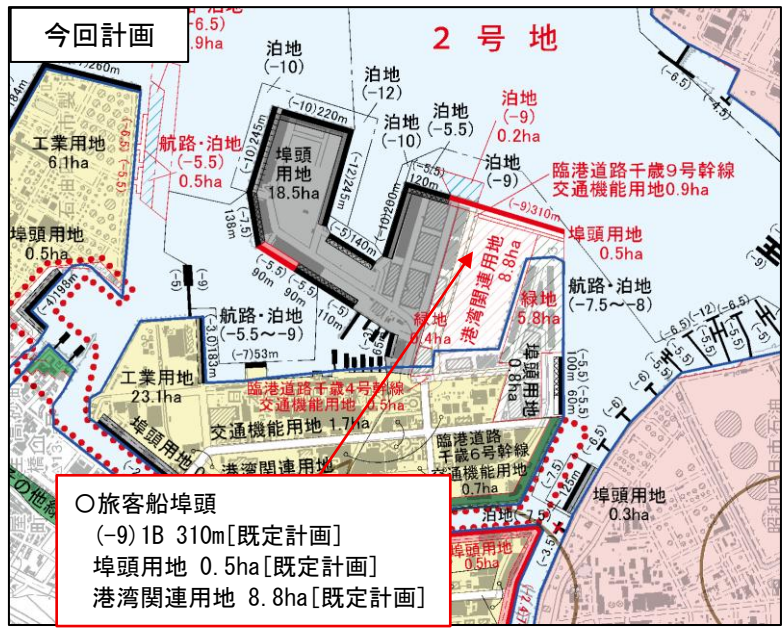
水深	バース数	延長	水深別バース数の考え方
9m	1	310m	50,000GT級のクルーズ船対応の岸壁を計画する。

(2) 今回計画する旅客船埠頭の配置及び埠頭用地面積

今回計画する旅客船埠頭の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-2-2 今回計画する旅客船埠頭の配置及び埠頭用地面積

地区名	施設名	水深(m)	バース数	延長(m)	今回計画	用地面積	配置及び埠頭用地面積の考え方
四日市	第1・第2埠頭間埋立前面新規岸壁	9	1	310	既定計画	埠頭用地 0.5ha 港湾関連用地 8.8ha [既定計画]	既定計画どおり



図Ⅲ-2-1 今回計画する旅客船埠頭の位置図（四日市地区）

3. 危険物取扱施設計画

3. 1 危険物取扱施設の現況

危険物取扱施設の現況は、次のとおりである。

表Ⅲ-3-1(1) 主要な危険物取扱施設の現況

地区名	施設	水深 (m)	バース 数	延長 (m)	状況	公専別
川越	川越火力 LNG 受入栈橋	14.0	1	-	既設	専用
	川越火力発電所バンカー用	6.5	1	-	既設	専用
天カ須賀	TANISEI 第1号栈橋	7.5	1	-	既定計画	専用
	TANISEI 第2号栈橋	7.5	1	-	既設	専用
霞ヶ浦	霞1号栈橋	5.5	1	-	既定計画	専用
	霞3号栈橋	5.5	1	-	既定計画	専用
	霞4号栈橋	7.0	1	-	既設	専用
	霞5号栈橋	5.5	1	-	既設	専用
	霞9号栈橋	14.0	1	-	既設	専用
	霞10号栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	霞11号栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	霞15号栈橋	7.5	1	-	既設	専用
	霞16号栈橋	7.5	1	-	既設	専用
霞17号栈橋	7.5	1	-	既設	専用	
四日市	コスモ石油午起第1号栈橋	12.0	1	-	既設	専用
	コスモ石油午起第2号栈橋	6.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油午起第3号栈橋	4.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油午起第5号栈橋	5.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油午起第6号栈橋	6.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油午起第7号栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	コスモ石油午起第8号栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	コスモ石油午起第9号栈橋	12.0	1	-	既設	専用
	コスモ石油四日市第3号栈橋	5.0	1		既設	専用
	コスモ石油四日市第5号栈橋	7.0	1	184	既設	専用
	コスモ石油四日市第6号栈橋	7.0	1	184	既設	専用
	コスモ石油四日市第8号栈橋	7.0	1	260	既設	専用
	コスモ石油四日市第9号栈橋	7.0	1	260	既設	専用
コスモ石油シーバース	20.8	1	-	既設	専用	

表Ⅲ-3-1(2) 主要な危険物取扱施設の現況

地区名	施設	水深 (m)	バース 数	延長 (m)	状況	公専別
塩浜	コスモ石油塩浜第1号栈橋	5.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油塩浜第2号栈橋	5.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油塩浜第3号栈橋	6.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油塩浜第5号栈橋	5.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油塩浜第6号栈橋	5.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油塩浜第7号栈橋	6.5	1	-	既設	専用
	コスモ石油塩浜第8号栈橋	12.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油A栈橋	5.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油B栈橋	5.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油C栈橋	4.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油D栈橋	12.0	1	230	既設	専用
	昭和四日市石油E栈橋	12.0	1	206	既設	専用
	昭和四日市石油F栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油G栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油H栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油I栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油J栈橋	6.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油K栈橋	9.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油L栈橋	12.0	1	-	既設	専用
	三菱ケミカル第1号栈橋	6.0	1	-	既設	専用
	三菱ケミカル第2号栈橋	6.0	1	-	既設	専用
	三菱ケミカル第3号栈橋	6.5	1	-	既設	専用
	三菱ケミカル三田栈橋	6.5	1	-	既設	専用
	石原産業1号栈橋	6.5	1	-	既設	専用
	石原産業2号栈橋	8.0	1	-	既設	専用
	石原産業3号栈橋	5.0	1	-	既設	専用
	石原産重油栈橋	4.5	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油シーバース (INNER)	18.0	1	-	既設	専用
	昭和四日市石油シーバース (OUTER)	22.0	1	-	既設	専用

3. 2 危険物取扱施設計画の必要性

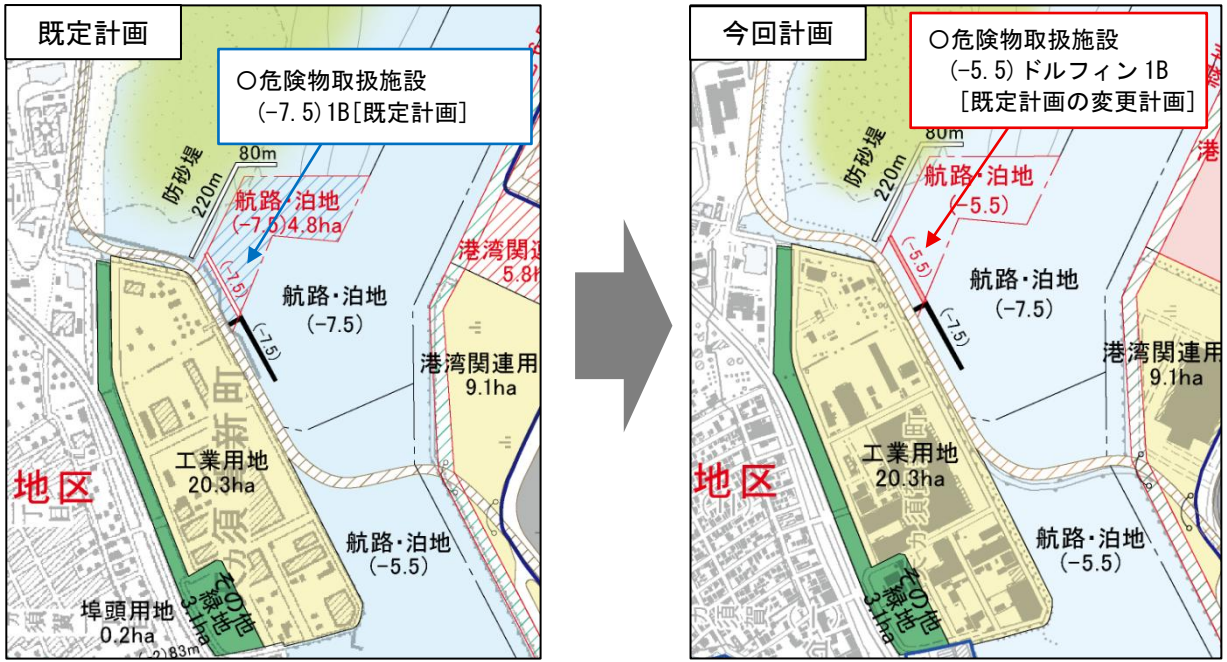
背後に立地する企業の化学薬品、石油類を取り扱うため、企業の要請に応じて危険物取扱施設を計画する。

3. 3 今回計画する危険物取扱施設の規模及び配置

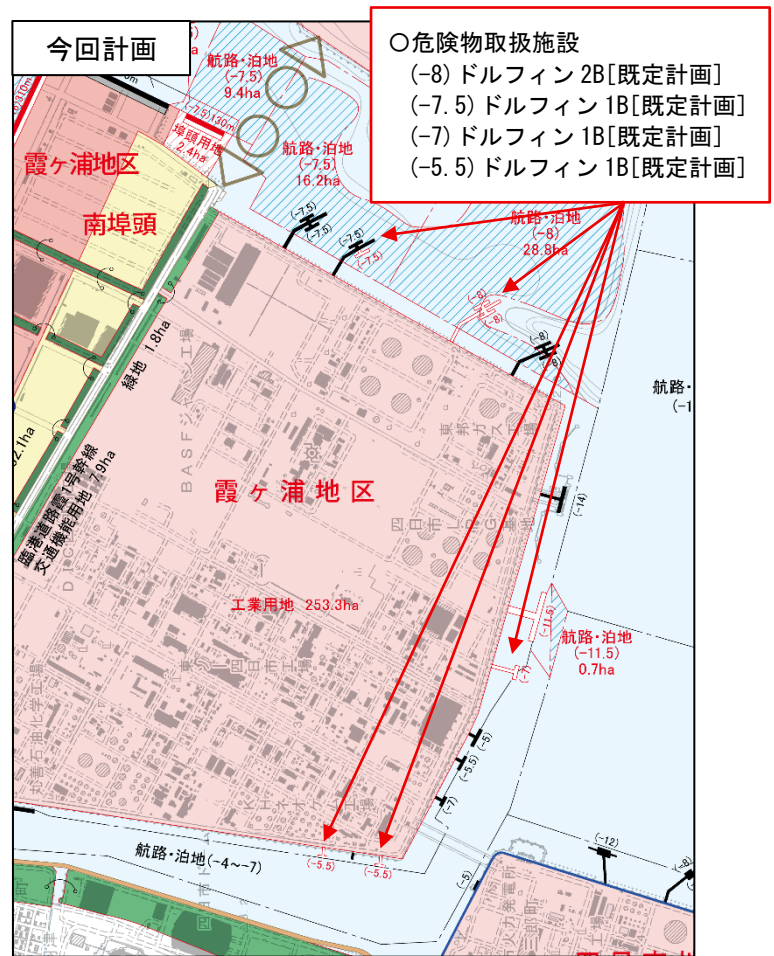
今回計画する危険物取扱施設の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-3-2 今回計画する危険物取扱施設の規模及び配置

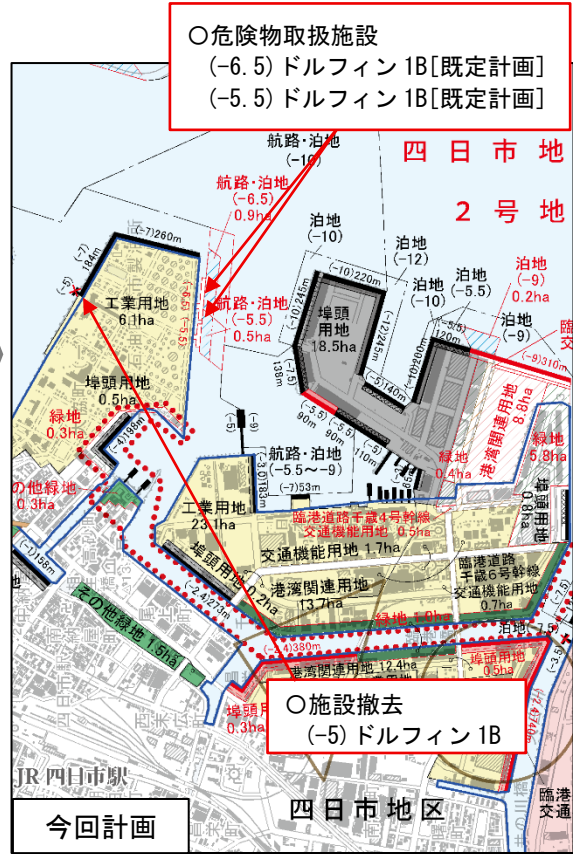
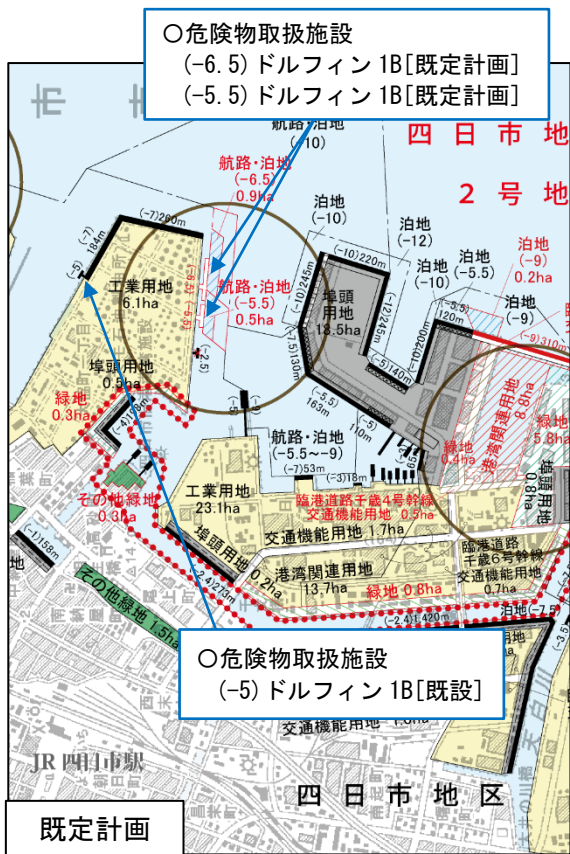
地区名	施設	水深 (m)	バース 数	延長 (m)	状況	規模及び配置の 考え方
天カ須賀	TANISEI 第1号栈橋	5.5	1	-	既定計画の 変更計画	立地企業の要請に基づき配置する。
霞ヶ浦	霞12・13号栈橋	8.0	2	-	既定計画	
	霞14号栈橋	7.5	1	-	既定計画	
	霞7号栈橋	7.0	1	-	既定計画	
	霞1・3号栈橋	5.5	2	-	既定計画	
四日市	コスモ石油四日市 第10号栈橋	6.5	1	-	既定計画	
	コスモ石油四日市 第11号栈橋	5.5	1	-	既定計画	
	コスモ石油四日市 第3号栈橋	5.0	1	-	施設撤去	立地企業の要請に対 処するため、危険物取 扱施設を撤去する。
塩浜	昭和四日市石油 シーバース (INNER)	18.0	1	-	施設撤去	
	昭和四日市 石油D栈橋	12.0	1	230	施設廃止	立地企業の要請に対 処するため、危険物取 扱施設を廃止する



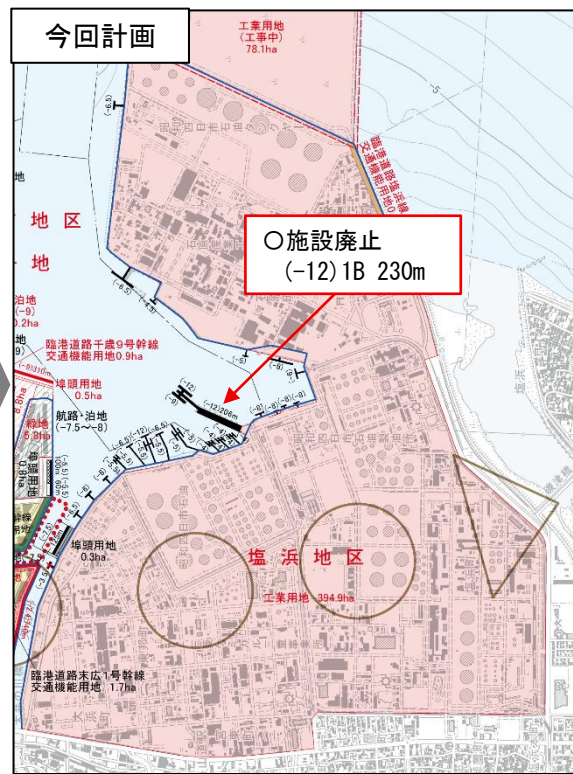
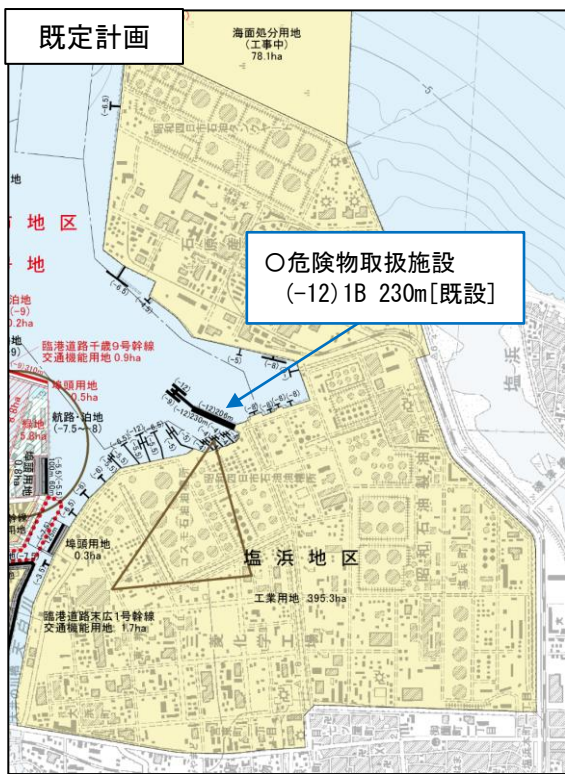
図Ⅲ-3-1(1) 今回計画する危険物取扱施設の位置図（天力須賀地区）



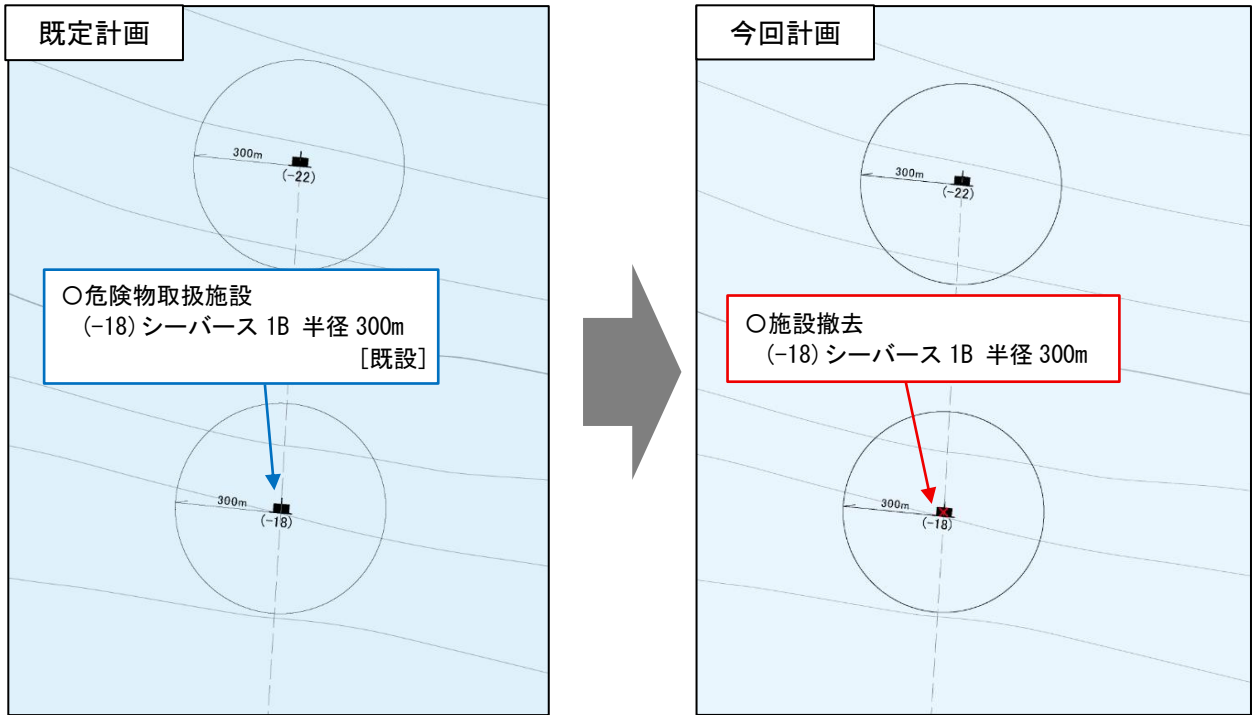
図Ⅲ-3-1(2) 今回計画する危険物取扱施設の位置図（震ヶ浦地区）



図Ⅲ-3-1(3) 今回計画する危険物取扱施設の位置図(四日市地区)



図Ⅲ-3-1(4) 今回計画する危険物取扱施設の位置図(塩浜地区)



図Ⅲ-3-1(5) 今回計画する危険物取扱施設の位置図（塩浜地区）

4. 専用埠頭計画

4. 1 専用埠頭の現況

専用埠頭の現況は、次のとおりである。

表Ⅲ-4-1 主要な専用埠頭の現況

地区名	施設名	水深 (m)	バース 数	延長 (m)	状況
川越	川越火力発電所1号栈橋	4.5	1	-	既設
霞ヶ浦	霞6号栈橋	5.0	1	-	既設
四日市	四日市火力2号栈橋	5.0	1	-	既設
	日本板硝子第1岸壁	7.0	1	53	既設
	日本板硝子栈橋	3.0	1	18	既設
	太平洋セメントA栈橋	9.0	1	-	既設
	太平洋セメントB栈橋	5.0	1	-	既設
塩浜	四日市し尿栈橋	3.5	1	-	既設

4. 2 専用埠頭計画の必要性

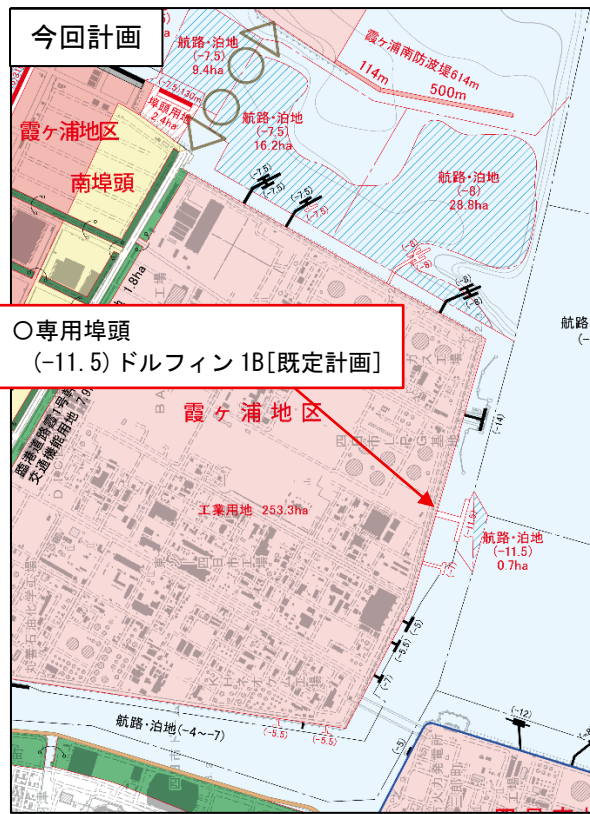
立地企業の要請に基づき、船舶の大型化や物流の効率化に対応する専用埠頭を計画する。

4. 3 今回計画する専用埠頭の規模及び配置

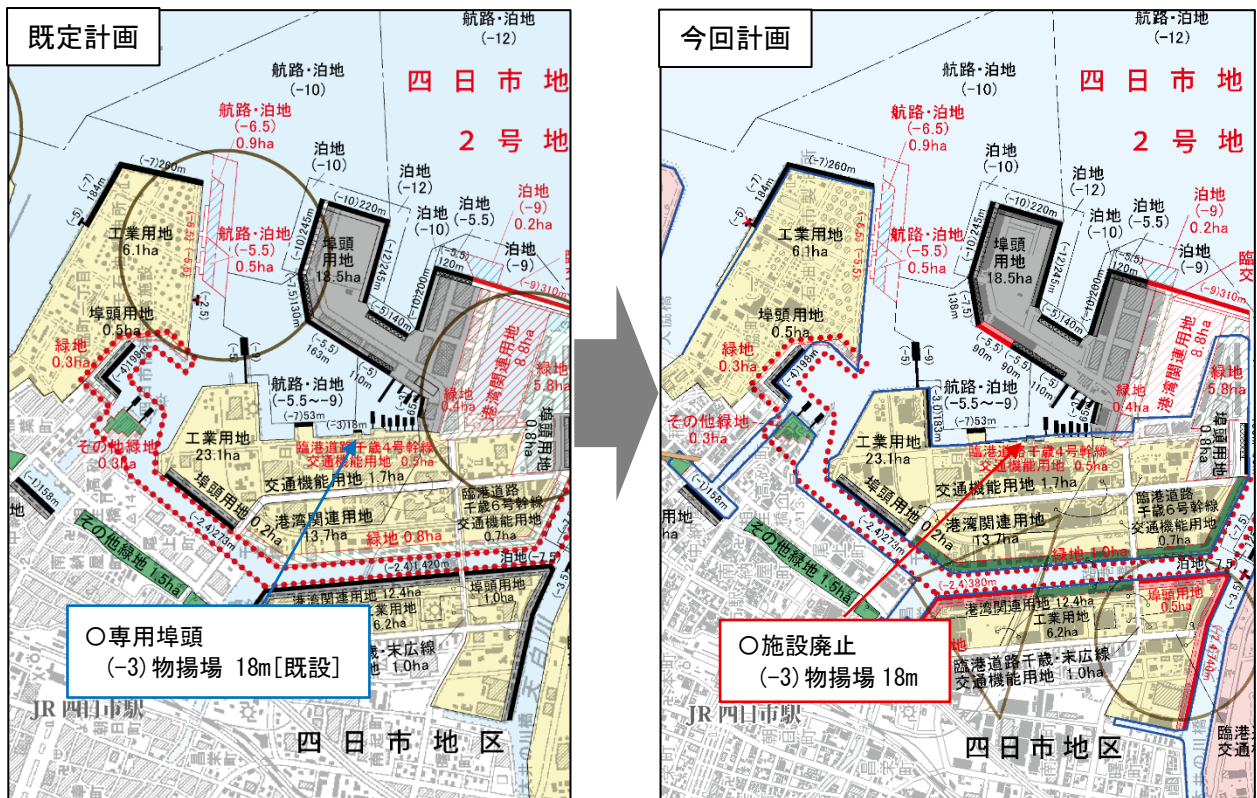
今回計画する専用埠頭の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-4-2 今回計画する専用埠頭の規模及び配置

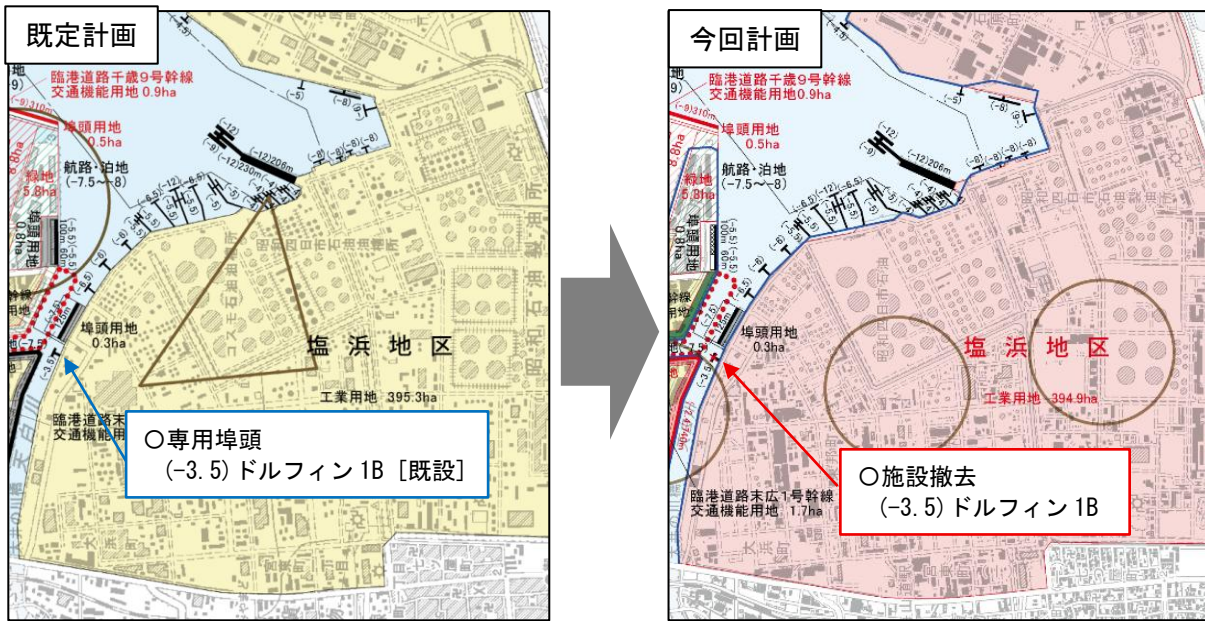
地区名	施設名	水深 (m)	バース 数	延長 (m)	状況	規模及び配置 の考え方
霞ヶ浦	霞8号栈橋	11.5	1	-	既定計画	立地企業の要請に基づき配置する。
四日市	日本板硝子栈橋	3.0	1	18	施設廃止	立地企業の要請に基づき廃止する。
塩浜	四日市し尿栈橋	3.5	1	-	施設撤去	立地企業の要請に基づき撤去する。



図Ⅲ-4-1(1) 今回計画する専用埠頭の位置図（震ヶ浦地区）



図Ⅲ-4-1(2) 今回計画する専用埠頭の位置図（四日市地区）



図Ⅲ-4-1(3) 今回計画する専用埠頭の位置図（塩浜地区）

5. 水域施設計画

5. 1 航路計画

(1) 航路の現況

四日市港における航路の現況は、次に示すとおりである。

表Ⅲ-5-1 航路の現況

地区名	航路名	水深 (m)	航路幅 (m)	状況
四日市	第一航路	12	300	既設
	第二航路	14	400	既設
霞ヶ浦	第三航路	16	450	既定計画

(2) 航路計画の必要性

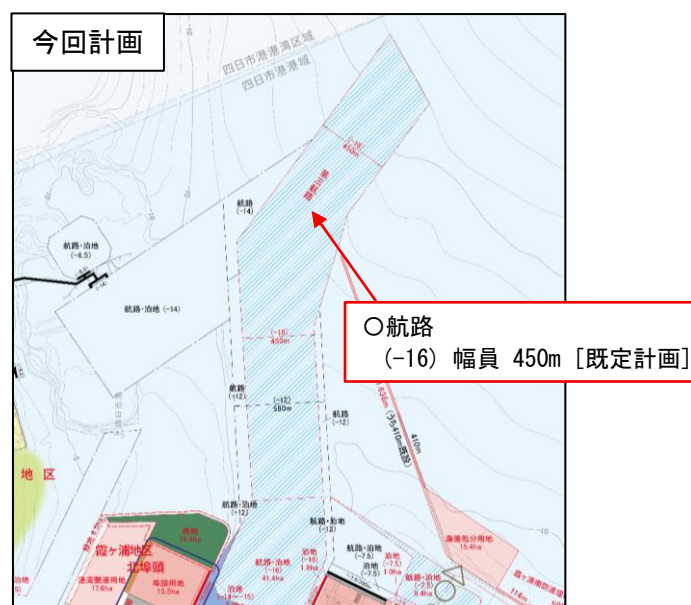
公共埠頭計画に対応した航路を計画する。

(3) 今回計画する航路の規模及び配置

今回計画する航路の規模及び配置は、次のとおりである。

表Ⅲ-5-2 今回計画する航路の規模及び配置

地区名	航路	水深 (m)	航路幅 (m)	今回計画	規模及び配置 の考え方
霞ヶ浦	第三航路	16	450	既定計画	対象船舶に対応できる水深を確保する。



図Ⅲ-5-1 今回計画する航路の位置図

5. 2 泊地計画

(1) 主要な泊地の現況

主要な泊地の現況は、次に示すとおりである。

表Ⅲ-5-3 主要な泊地の現況

地区名	泊地	水深 (m)	面積 (ha)	状況
富双	-4.5m 泊地	4.5	9.8	既設
浜園	-4.5m 泊地	4.5	2.6	既設
霞ヶ浦	-16m 泊地	16.0	1.8	既定計画
	-14~-15m 泊地	14.0~15.0	3.7	既定計画
	-14m 泊地	14.0	1.6	既定計画
	-14m 泊地	14.0	1.4	既定計画
	-7.5m 泊地	7.5	1.0	既定計画
	-7.5m 泊地	7.5	1.4	既設
	-4.5m 泊地	4.5	1.6	既設
	-12.0m 泊地	12.0	6.1	既設
	-7.5m 泊地	7.5	2.1	既設
	-5.5m 泊地	5.5	3.1	既設
	-4.5m 泊地	4.5	2.2	既設
四日市	-10.0m 泊地	10.0	2.7	既設
	-12.0m 泊地	12.0	1.4	既設
	-5.0m 泊地	5.0	0.9	既設
	-10.0m 泊地	10.0	0.8	既設
	-5.5m 泊地	5.5	0.7	既設
	-10.0m 泊地	10.0	1.9	既設
	-3.0m 泊地	3.0	0.5	既設
	-9.0m 泊地	9.0	1.2	既設
	-9.0m 泊地	9.0	0.2	既定計画
	-8.5m 泊地	8.5	1.3	既設
	-5.5m 泊地	5.5	0.5	既設
	-7.5m 泊地	7.5	0.7	既設

(2) 泊地計画の必要性

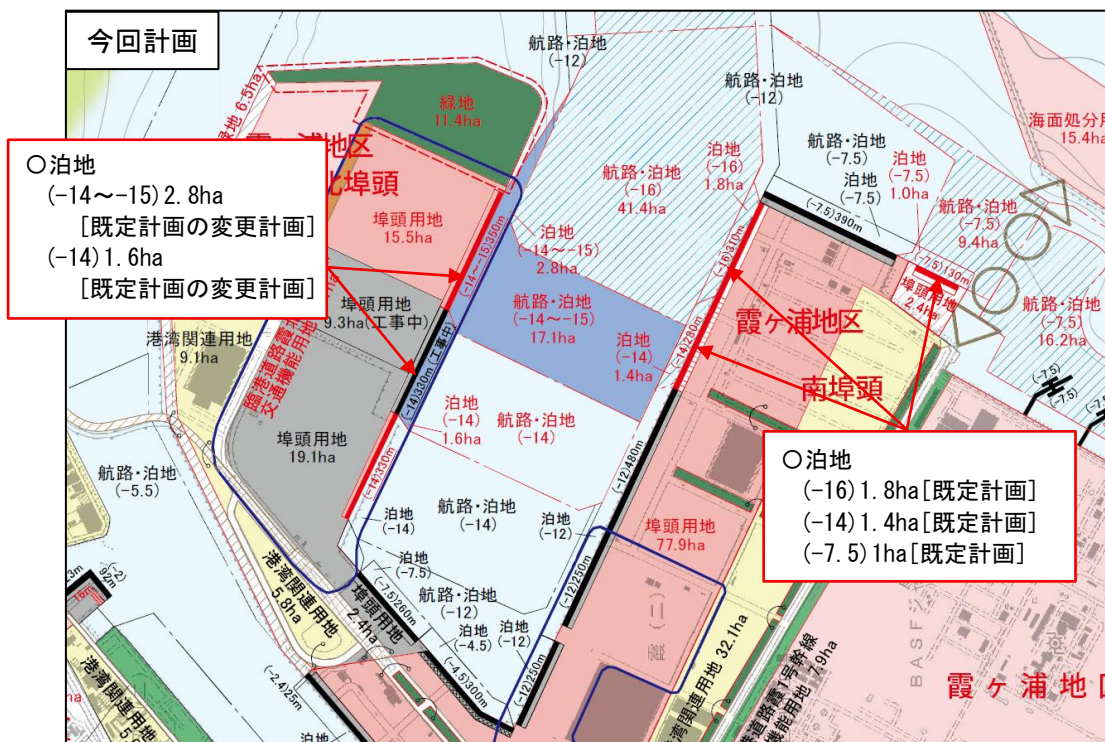
公共埠頭計画に対応した泊地を計画する。

(3) 今回計画する泊地の規模及び配置

今回計画する泊地の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-5-4 今回計画する泊地の規模及び配置

地区名	水深 (m)	面積 (ha)	今回計画	規模及び配置の考え方
霞ヶ浦	-16.0	1.8	既定計画	対象船舶に対応できる水深と停泊に必要な面積を岸壁前面に確保する。
	-14.0~-15.0	2.8	既定計画の 変更計画	
	-14.0	1.6	既定計画の 変更計画	
	-14.0	1.4	既定計画	
	-7.5	1.0	既定計画	
四日市	-9.0	0.2	既定計画	



図Ⅲ-5-2(1) 今回計画する泊地の位置図(霞ヶ浦地区)

5. 3 航路・泊地計画

(1) 航路・泊地の現況

航路・泊地の現況は、次に示すとおりである。

表Ⅲ-5-5 航路・泊地の現況

地区名	航路・泊地	水深 (m)	面積 (ha)	状況
川越	-6.5m 航路・泊地	6.5	10.4	既設
	-14.0m 航路・泊地	14.0	70.8	既設
朝明～天カ須賀	-7.5m 航路・泊地	7.5	33.7	既設
	-7.5m 航路・泊地	7.5	4.8	既定計画
富双	-5.5m 航路・泊地	5.5	35.4	既設
	-4.5m 航路・泊地	4.5	5.0	既設
霞ヶ浦	-16m 航路・泊地	16.0	41.4	既定計画
	-14～-15m 航路・泊地	14～15	34.0	既定計画
	-14m 航路・泊地	14.0	-	既定計画
	-12m 航路・泊地	12.0	0.6	既設
	-14m 航路・泊地	14.0	19.8	既設
	-12.0m 航路・泊地	12.0	8.2	既設
	-4.5m 航路・泊地	4.5	7.2	既設
	-12.0m 航路・泊地	12.0	2.1	既設
	-7.5m 航路・泊地	7.5	16.6	既設
	-7.5m 航路・泊地	7.5	16.2	既定計画
	-8.0m 航路・泊地	8.0	28.8	既定計画
	-11.5m 航路・泊地	11.5	0.7	既定計画
	-4.0～-7.0m 航路・泊地	4.0～7.0	41.0	既設
	-14.0m 航路・泊地	14.0	70.4	既設
四日市	-12.0m 航路・泊地	12.0	103.4	既設
	-12.0m 航路・泊地	12.0	30.6	既設
	-5.5～-9.0m 航路・泊地	5.5～9.0	9.9	既設
	-10.0m 航路・泊地	10.0	36.3	既設
	-12.0m 航路・泊地	12.0	104.6	既設
	-10.0m 航路・泊地	10.0	6.3	既設
	-7.5～-8.0m 航路・泊地	7.5～8.0	14.2	既設

(2) 航路・泊地の計画の必要性

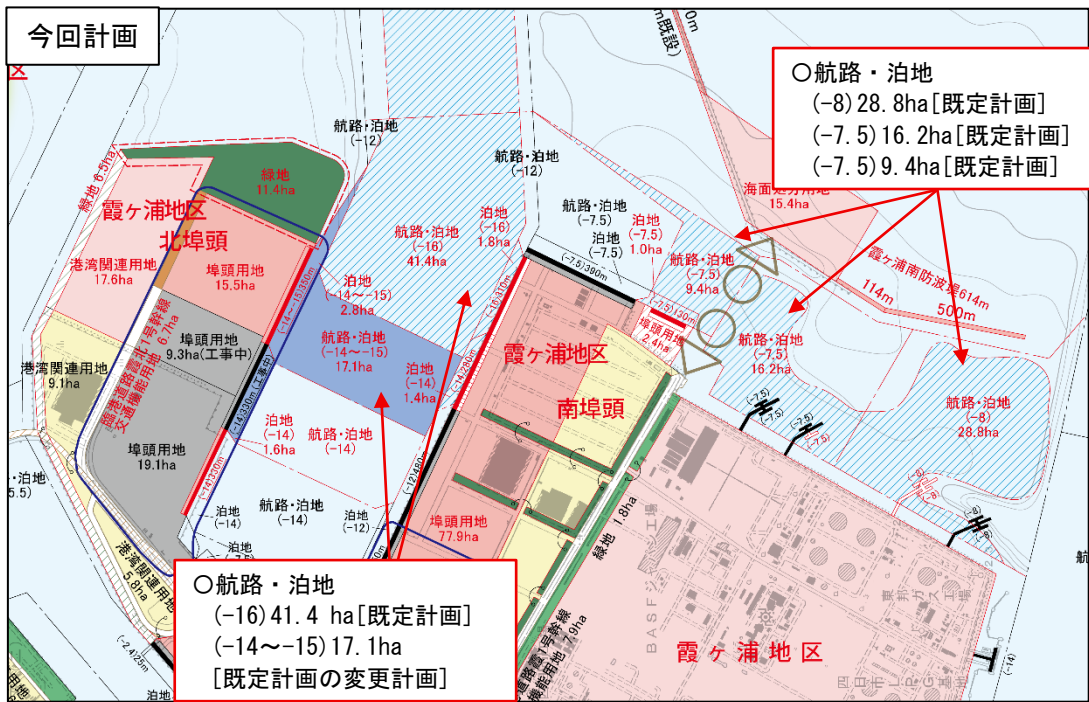
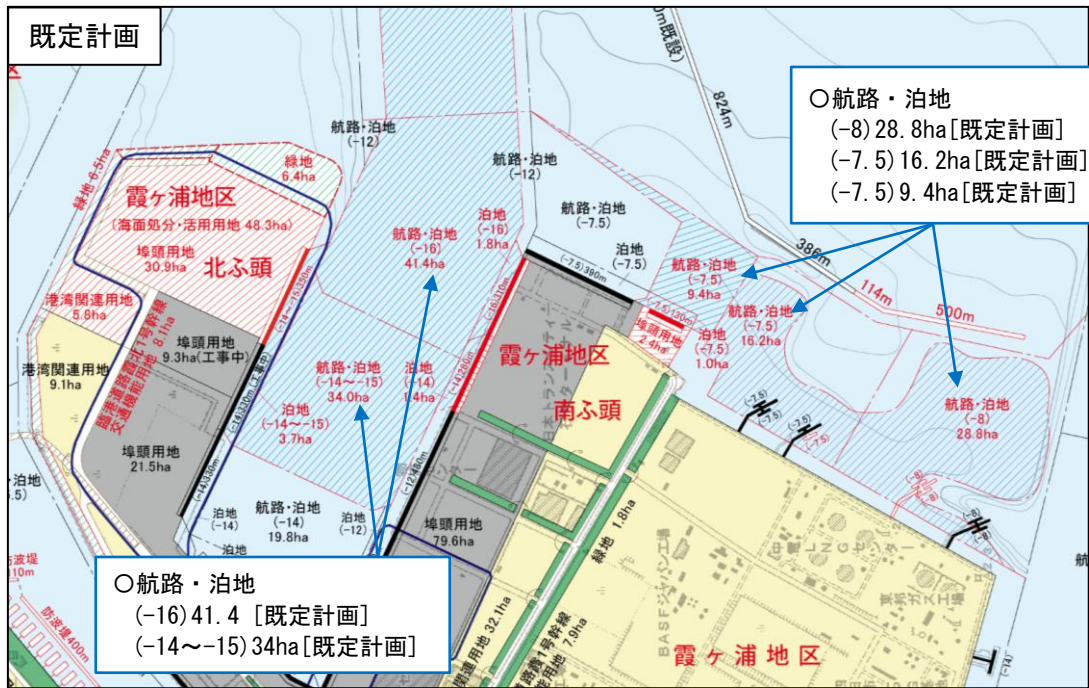
公共埠頭計画に対応した航路・泊地を計画する。

(3) 今回計画する航路・泊地の規模及び配置

今回計画する航路・泊地の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-5-6 今回計画する航路・泊地の規模及び配置

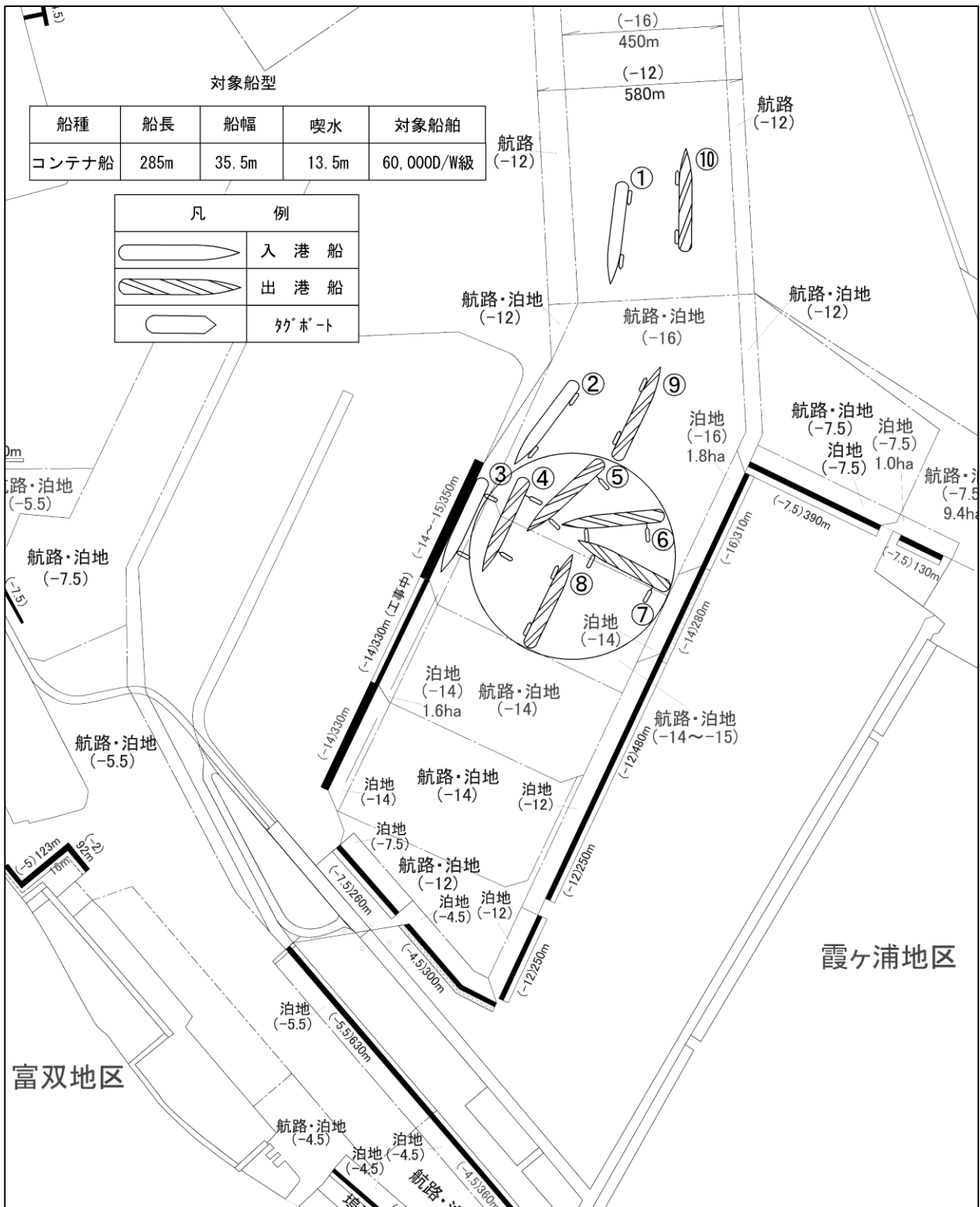
地区名	水深 (m)	面積 (ha)	今回計画	規模及び配置の考え方
天カ須賀	5.5	5.0	既定計画の 変更計画	対象船舶に対応できる水深及び航行、操船に必要な面積（船長の2倍もしくは3倍を直径とする円）を岸壁前面に確保する。
霞ヶ浦	16.0	41.4	既定計画	
	14～15	17.1	既定計画の 変更計画	
	14.0	-	既定計画	
	8.0	28.8	既定計画	
	7.5	9.0	既定計画	
	7.5	16.2	既定計画	
四日市	12.0	8.0	既定計画	
	6.5	1.0	既定計画	
	5.5	1.0	既定計画	



図Ⅲ-5-3(1) 今回計画する航路・泊地の位置図（霞ヶ浦地区）

(4) 操船例図

今回計画する泊地及び航路・泊地に係る操船例図は、次に示すとおりである。



図Ⅲ-5-4 操船例図（霞ヶ浦北埠頭 82 号岸壁）

6. 外郭施設計画

6. 1 防波堤計画

(1) 主要な防波堤の現況

主要な防波堤の現況は、次のとおりである。

表Ⅲ-6-1 主要な防波堤の現況

地区名	施設名	延長 (m)	状況
霞ヶ浦	霞ヶ浦防波堤	1,210	既設
四日市	東防波堤	2,450	既設

(2) 防波堤計画の必要性

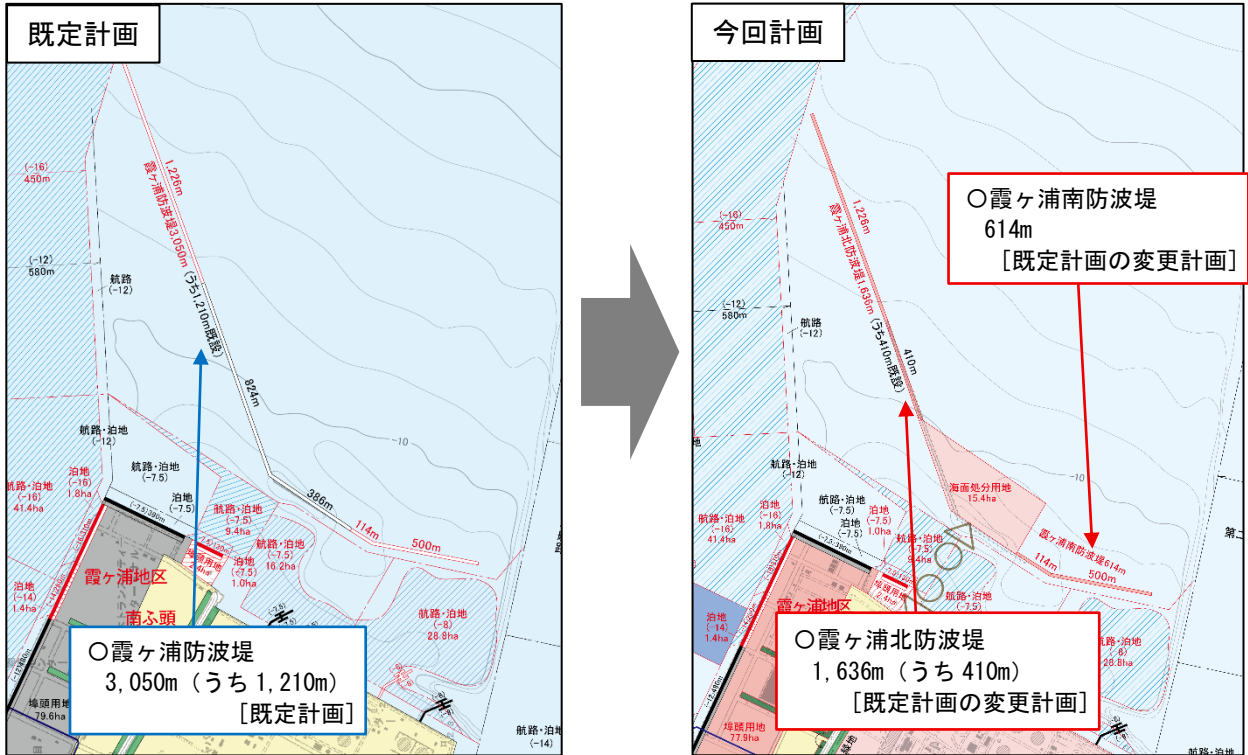
霞ヶ浦地区沖合における海面処分用地の整備に伴う霞ヶ浦防波堤の一部を護岸化するため、霞ヶ浦防波堤を分断した形状で規模・配置を設定する必要がある。

(3) 今回計画する防波堤の規模及び配置

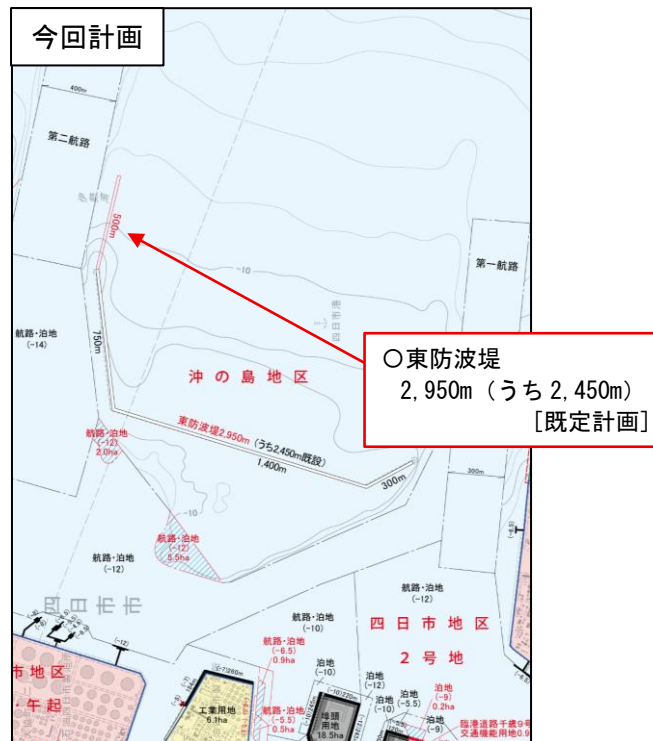
今回計画する防波堤の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-6-2 今回計画する防波堤の規模及び配置

地区名	施設名	延長	今回計画	防波堤の規模及び配置の考え方
霞ヶ浦	霞ヶ浦北防波堤	1,636m (うち410m既設)	既定計画の 変更計画	港内の静穏及び船舶航行の安全性に対応した外郭施設を計画する。
	霞ヶ浦南防波堤	614m	既定計画の 変更計画	
四日市	東防波堤	2,950m (うち2,450m既設)	既定計画	



図Ⅲ-6-1(1) 今回計画する防波堤の位置図（霞ヶ浦地区）



Ⅲ-6-1(2) 今回計画する防波堤の位置図（四日市地区）

7. 小型船だまり計画

7. 1 種類別の小型船及びプレジャーボート等隻数

種類別の小型船及びプレジャーボート等の目標年次における隻数とその考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-7-1 種類別の小型船隻数

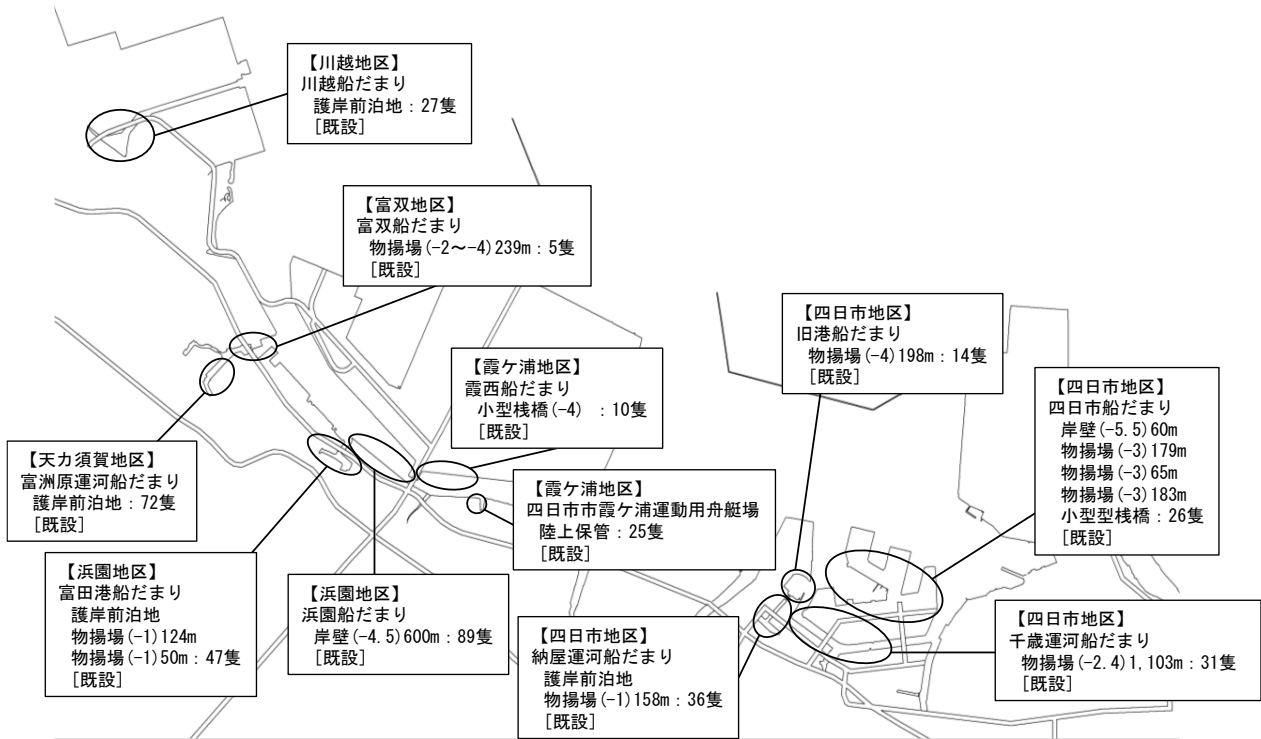
種類	現況隻数	将来隻数	隻数算定の考え方
官公庁船	9	9	現状程度として設定
ポートサービス船	16	16	現状程度として設定
曳船	4	4	現状程度として設定
内航タンカー	10	10	現状程度として設定
その他業務船	11	11	現状程度として設定
作業船	121	121	現状程度として設定
漁船	22	22	現状程度として設定
プレジャーボート (うちマリーナ施設収容)	293 (95)	293 (95)	現状程度として設定
合計 (うちマリーナ施設収容)	486 (95)	486 (95)	

7. 2 主要な小型船だまりの現況

主要な小型船だまりの現況は、次のとおりである。

表Ⅲ-7-2 主要な小型船だまりの現況

地区名	施設名	船舶種類	収容 隻数	施設規模
川越	川越船だまり	作業船	1	護岸前泊地
		漁船 プレジャーボート	4 22	
天カ須賀・ 富双	富洲原運河 船だまり	作業船	2	護岸前泊地
		漁船 プレジャーボート	2 65	
	富双船だまり	漁船 プレジャーボート	4	岸壁(-5)123m 物揚場(-2~-4)239m 物揚場(-2)92m 物揚場(-2)83m 護岸前泊地 埠頭用地 2ha
			4	
その他	その他業務船	5	護岸前泊地	
浜園	富田港船だまり	漁船 プレジャーボート	6 41	物揚場(-1)124m 物揚場(-1)50m 護岸前泊地 埠頭用地 0.6ha
		作業船	89	
霞ヶ浦	霞西船だまり	内航タンカー	10	小型棧橋(-4)
	四日市市霞ヶ浦 運動用舟艇場	プレジャーボート	25	陸上保管
	その他	官公庁船	4	岸壁(-4.5)420m
四日市	旧港船だまり	その他業務船	6	物揚場(-4)198m 埠頭用地 0.5ha
		作業船	5	
		漁船	2	
		プレジャーボート	1	
	四日市船だまり	官公庁船 ポートサービス船 曳船 作業船	5	岸壁(-5.5)60m 物揚場(-3)179m 物揚場(-3)65m 物揚場(-3)183m 小型棧橋 9基
16				
4				
1				
千歳運河 船だまり	作業船 漁船 プレジャーボート	19	物揚場(-2.4)1,103m 埠頭用地 1.2ha	
		1		
		11		
納屋運河 船だまり	作業船 漁船 プレジャーボート	4	物揚場(-1)158m 埠頭用地 0.1ha 護岸前泊地	
		3		
		29		



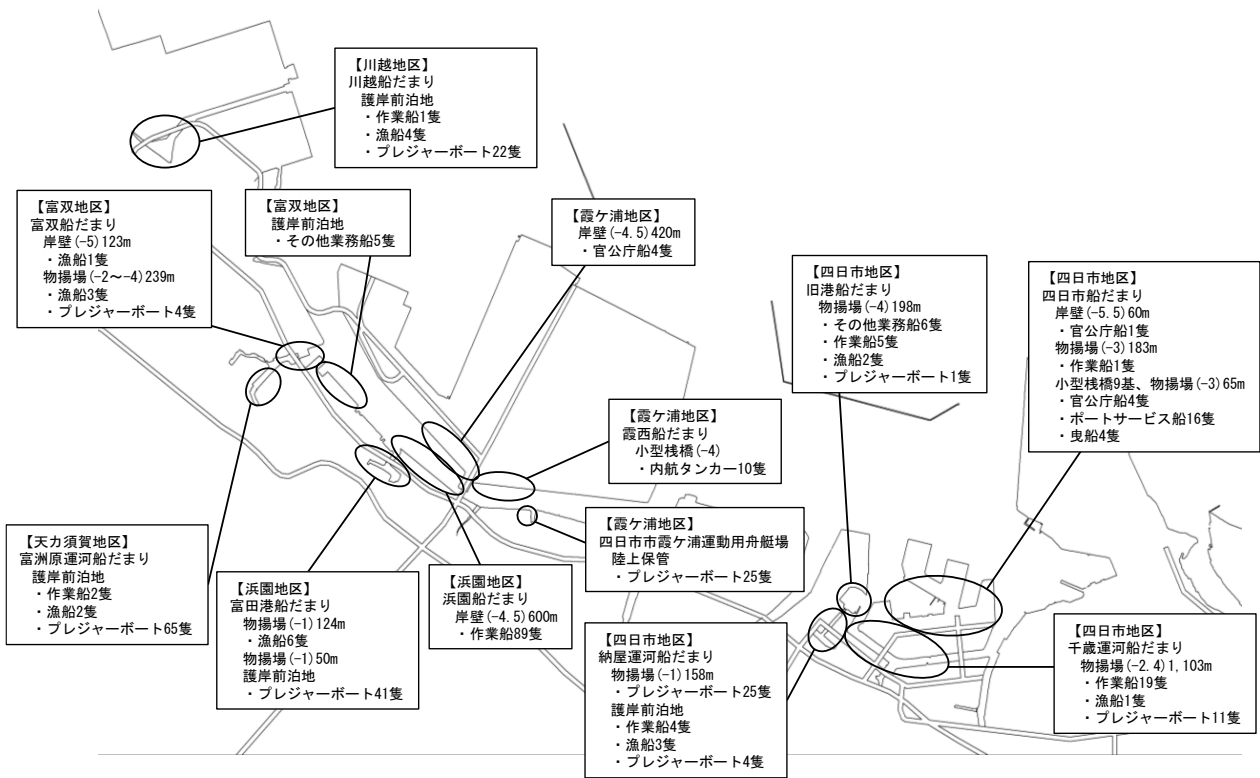
図Ⅲ-7-1 主要な小型船だまり現況図

7. 3 小型船及びプレジャーボート等の係留現況

小型船及びプレジャーボート等 486 隻の係留現況は、次のとおりである。

表Ⅲ-7-3 小型船及びプレジャーボート等の係留現況

地区名	係留施設名	施設規模	船種別係留隻数								計	
			官公庁船	ボートサービス船	曳船	内航タンカー	その他業務船	作業船	漁船	プレジャーボート		
川越	川越東地区海岸堤前泊地	-								2	15	17
	川越A地区西側護岸1前泊地	-							1	2	7	10
天カ須賀・富双	富双1号2号岸壁	岸壁(-5)123m								1		1
	富双4号5号岸壁	岸壁(-7.5)250m					5					5
	富田一色物揚場	物揚場(-2)200m								3	4	7
	富洲原運河北物揚場前泊地	-									24	24
	富洲原運河南物揚場前泊地	-							2	2	16	20
	富洲原港西側防潮護岸前泊地	-									25	25
浜園	富田地区L21A物揚場	物揚場(-1)124m								6	6	12
	富田地区L20B物揚場	物揚場(-1)50m									4	4
	富田港護岸	-									31	31
	浜園埠頭50~59号岸壁	岸壁(-4.5)600m							89			89
霞ヶ浦	霞ヶ浦南埠頭30~36号岸壁	岸壁(-4.5)420m	4									4
	霞西1号さん橋	小型栈橋(-4)				10						10
	四日市市霞ヶ浦運動用舟艇場	陸上保管									25	25
四日市	旧港1号2号物揚場	物揚場(-4)198m					6	5	2	1		14
	高砂町北側護岸前泊地	-							4	2	1	7
	納屋防災緑地北側護岸前泊地	-								1	3	4
	納屋運河物揚場	物揚場(-1)158m									25	25
	千歳町5号物揚場	物揚場(-2.4)420m							3		4	7
	千歳町6号物揚場	物揚場(-2.4)273m							16	1	7	24
	千歳7号物揚場	物揚場(-2)183m							1			1
	千歳8号物揚場	物揚場(-2.6)65m										
	小型栈橋	小型栈橋9基	4	16	4							24
	第1埠頭南側基部岸壁	岸壁(-5.5)60m	1									1
計 (マリナー施設)			9	16	4	10	11	121	22	198 (95)	391 (95)	
合計			9	16	4	10	11	121	22	293	486	



図Ⅲ-7-2 小型船及びプレジャーボート等の係留現況図

7. 4 小型船だまり計画の必要性

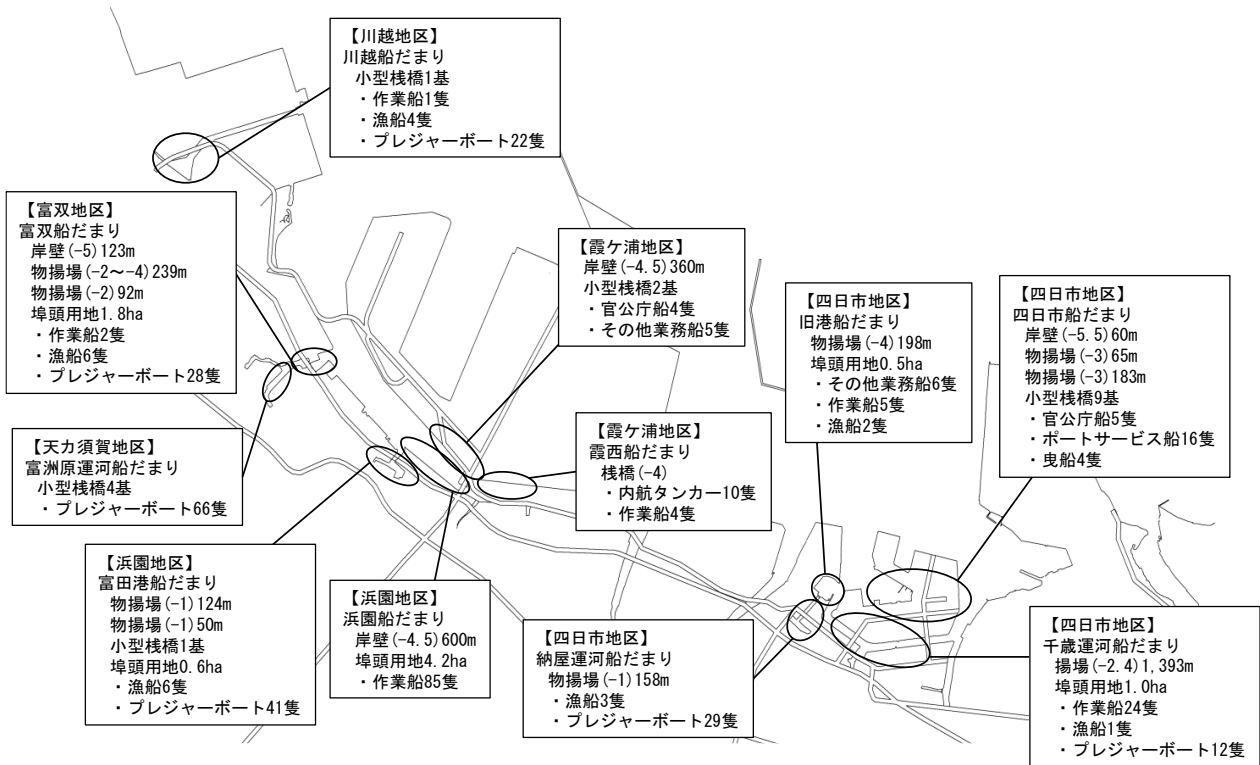
四日市港内に点在する小型船舶の収容隻数の減少傾向を踏まえ、既存の係留施設や護岸前泊地といった既存ストックを有効活用した小型船の分散収容を行うものとし、小型船を適正収容するための小型船だまり計画の見直しが必要である。

7. 5 再配置による将来収容計画の考え方

係留施設への収容隻数の考え方については、既定計画の収容の考え方と現状の係留施設位置を考慮し、船だまり等の恒久係留施設への収容隻数を設定する。

表Ⅲ-7-4 再配置による小型船及びプレジャーボート等の船種別将来収容計画

地区名	係留施設名	施設規模	船種別係留隻数								
			官公庁船	ボートサービス船	曳船	内航タンカー	その他業務船	作業船	漁船	プレジャーボート	計
川越	川越船だまり	小型栈橋 1 基						1	4	22	27
天カ須賀・富双	富双船だまり	岸壁(-5)123m 物揚場(-2~4)239m 物揚場(-2)92m 埠頭用地 1.8ha						2	6	28	36
	富洲原運河船だまり	小型栈橋 4 基								66	66
浜園	富田港船だまり	物揚場(-1)124m 小型栈橋 1 基 埠頭用地 0.6ha							6	41	47
	浜園船だまり	岸壁(-4.5)600m 埠頭用地 4.2ha						85			85
霞ヶ浦	霞南船だまり	岸壁(-4.5)360m 小型栈橋 2 基	4					5			9
	霞西船だまり	栈橋(-4)				10		4			14
四日市	旧港船だまり	物揚場(-4)198m 埠頭用地 0.5ha						6	5	2	13
	納屋運河船だまり	物揚場(-1)158m 埠頭用地 0.1ha							3	29	32
	千歳運河船だまり	物揚場(-2.4)1,393m 埠頭用地 1.0ha						24	1	12	37
	四日市船だまり	岸壁(-5.5)60m 物揚場(-3)65m 物揚場(-3)183m 小型栈橋 9 基	5	16	4						25
計 (マリーナ施設)			9	16	4	10	11	121	22	198 (95)	391 (95)
合計			9	16	4	10	11	121	22	293	486



図Ⅲ-7-3 小型船及びプレジャーボート等の配置計画

7. 6 今回計画する小型船だまりの規模及び配置

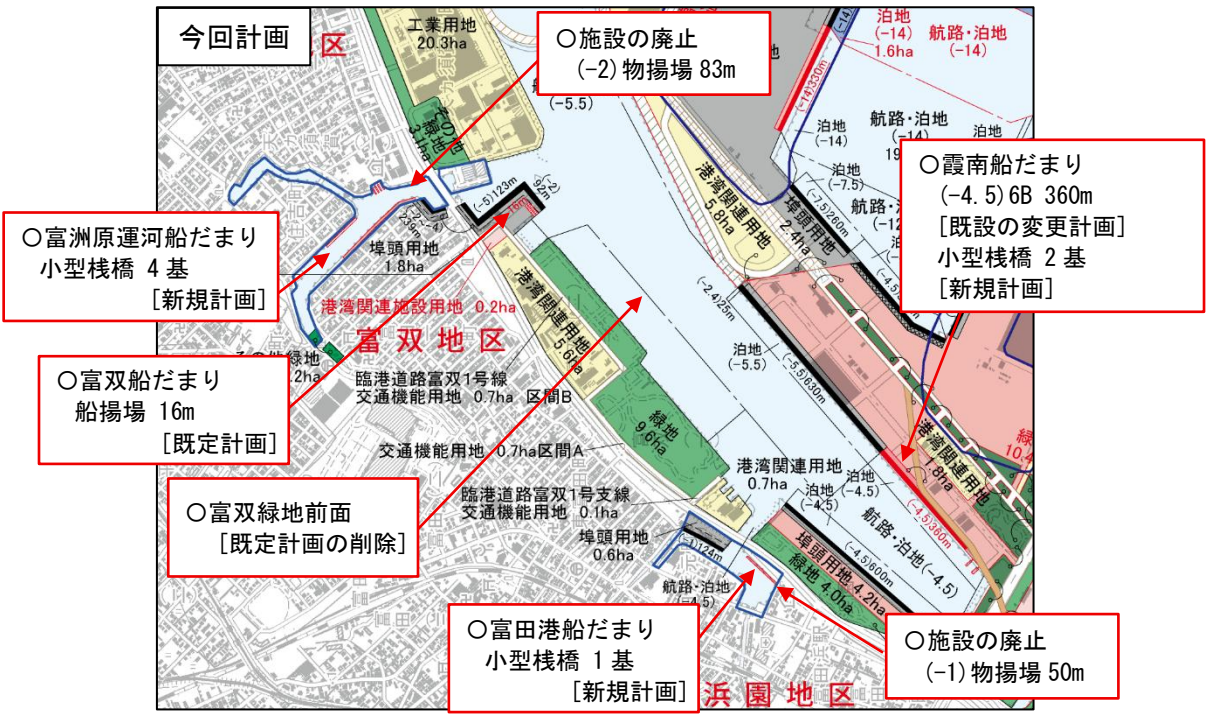
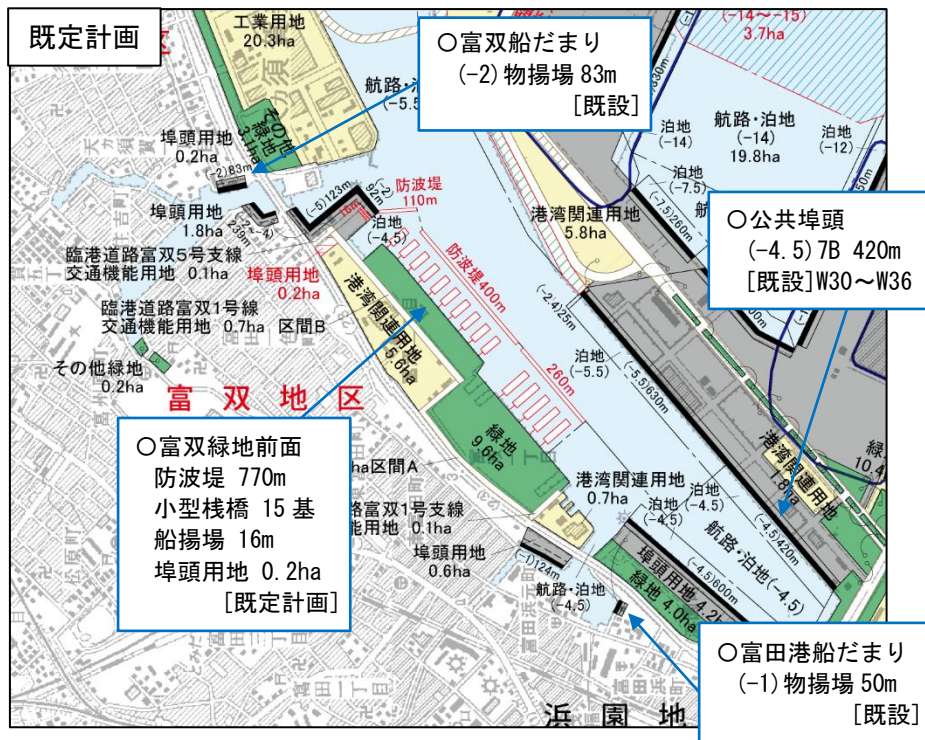
今回計画する小型船だまりの規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-7-5 今回計画する小型船だまりの規模及び配置

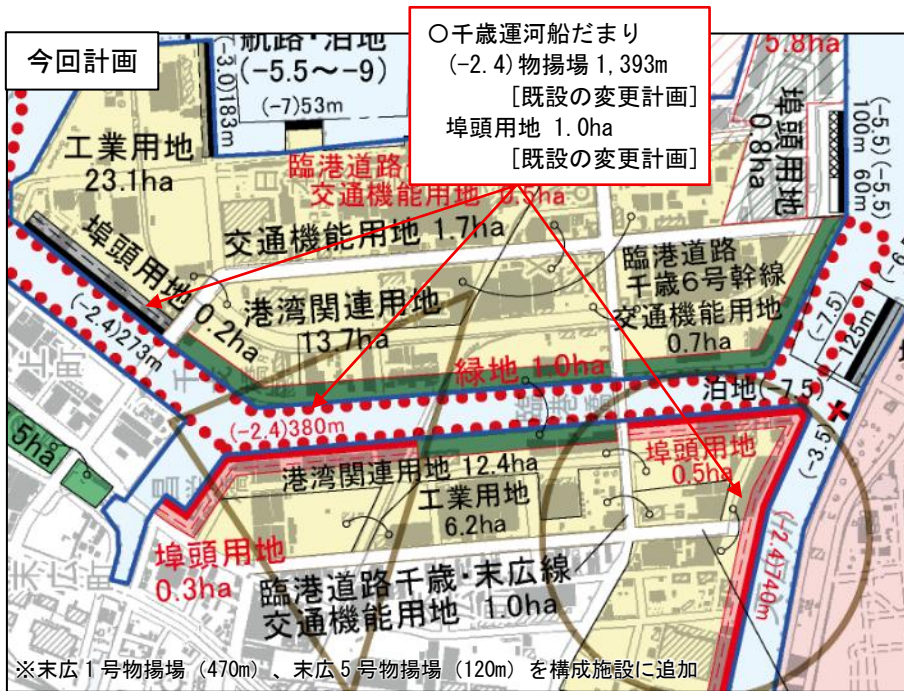
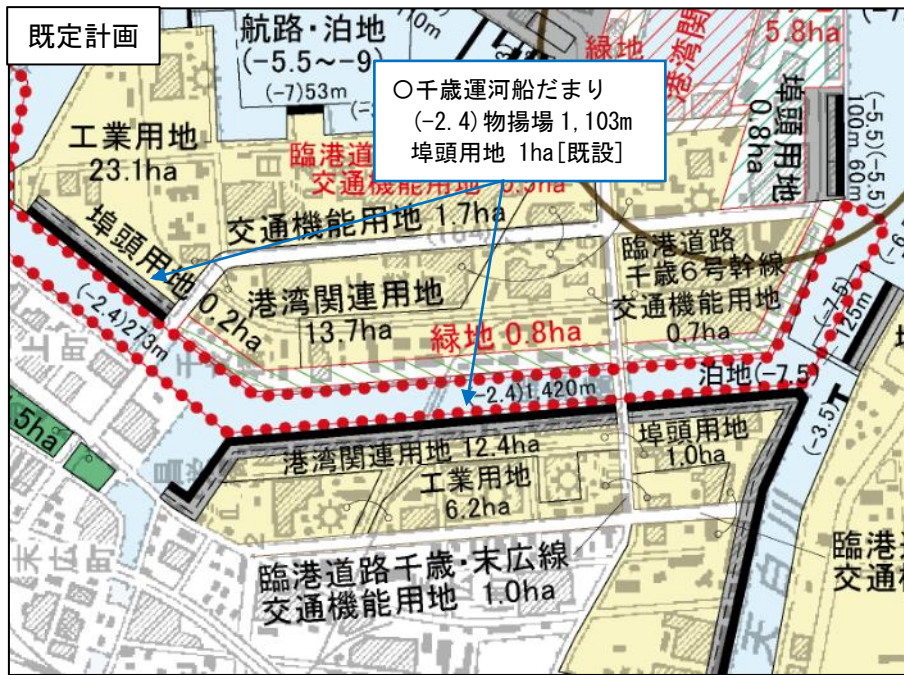
地区名	施設名	収容 隻数	施設規模	規模及び配置の 考え方
川越	川越船だまり	27	小型栈橋 1基 (新規計画)	恒久係留施設として小型 栈橋を配置
天カ須賀・ 富双	富洲原運河 船だまり	66	小型栈橋 4基 (新規計画)	恒久係留施設として小型 栈橋を配置
	富双船だまり	36	岸壁(-5) 123m (既設) 物揚場(-2~-4) 239m (既設) 物揚場(-2) 92m (既設) 船揚場 16m (既定計画) 埠頭用地 1.8ha (既設)	既存施設を小型船だまり として位置づけ
浜園	浜園船だまり	85	岸壁(-4.5) 600m (既設) 埠頭用地 4.2h (既設の変更計画)	物揚場の廃止による埠頭 用地の変更
	富田港 船だまり	47	物揚場(-1) 124m (既設) 小型栈橋 1基 (新規計画) 埠頭用地 0.6ha (既設)	恒久係留施設として小型 栈橋を配置
霞ヶ浦	霞南船だまり	9	岸壁(-4.5) 360m (既設の変更計画) 小型栈橋 2基 (新規計画)	既存施設を小型船だまりと して位置づけ 恒久係留施設として小型 栈橋を配置
四日市	千歳運河 船だまり	37	物揚場(-2.4) 1,393m (うち 300m 廃止) (既設の変更計画) 埠頭用地 1.0ha (既設の変更計画)	物揚場の一部廃止・構成施 設の対象範囲の変更による 係留延長の変更 (末広1号物揚場 470m、末 広5号物揚場 120mを構成施 設に追加)



図Ⅲ-7-4(1) 今回計画する小型船だまり位置図（川越地区）



図Ⅲ-7-4(2) 今回計画する小型船だまり位置図 (天力須賀・富双・霞ヶ浦地区)



図Ⅲ-7-4(3) 今回計画する小型船だまり位置図(四日市地区)

8. マリーナ計画

8. 1 プレジャーボート隻数

プレジャーボート等の目標年次における隻数とその考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-8-1 種類別の小型船隻数

種類	現況隻数	将来隻数	隻数算定の考え方
プレジャーボート (うちマリーナ保管艇)	293 (95)	293 (95)	現状程度として設定

8. 2 プレジャーボートの係留現況

主要なマリーナの現況は、次のとおりである。

表Ⅲ-8-2 主要なマリーナの現況

地区名	公専区分	収容隻数	状況
天カ須賀	専用	95	既設



図Ⅲ-8-1 主要なマリーナ現況図

8. 3 マリーナ計画の必要性

プレジャーボートの適正収容を推進するため、既存の民間マリーナをマリーナ計画に位置づける必要がある。

8. 4 将来収容計画の考え方

設定した将来のプレジャーボートのマリーナ保管艇の 95 隻は、既存の民間マリーナに継続して収容するものとした。

表Ⅲ-8-3 プレジャーボートの将来収容隻数

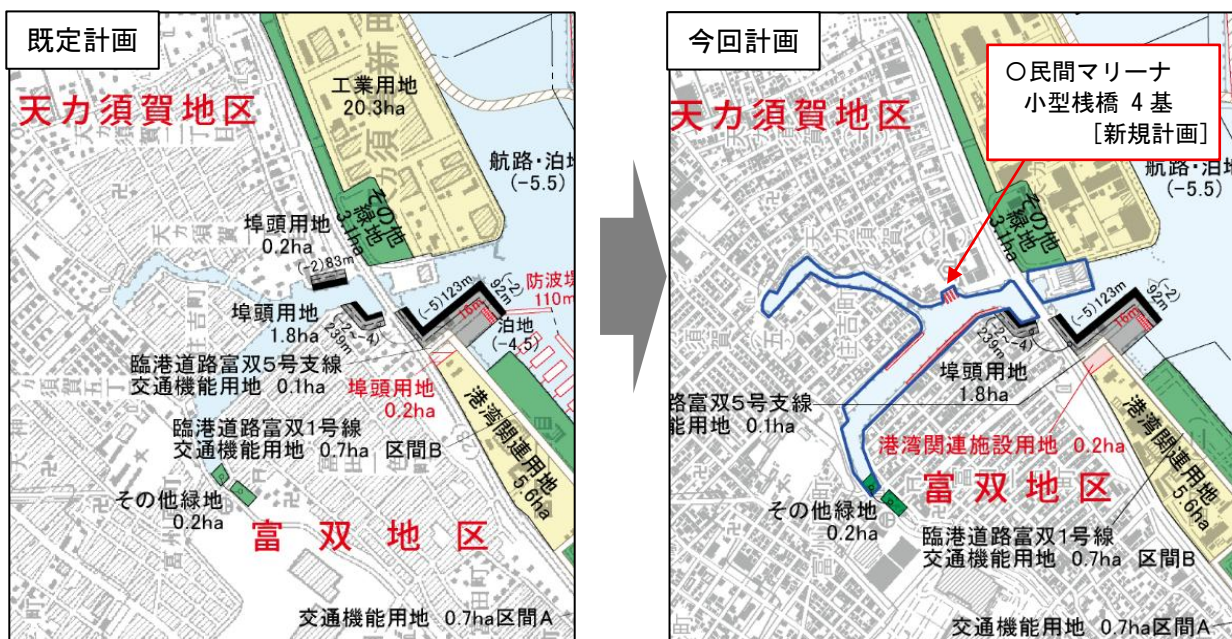
地区名	公専区分	施設名	将来収容隻数
天カ須賀	専用	民間マリーナ	95 隻

8. 5 今回計画するマリーナの規模及び配置

今回計画するマリーナの規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-8-4 今回計画する小型船だまりの規模及び配置

地区名	施設名	収容隻数	施設規模	規模及び配置の考え方
天カ須賀	民間マリーナ	95	小型栈橋 4 基 (新規計画) (うち 4 基既設)	民間のマリーナ施設を計画に位置付け



図Ⅲ-8-2 今回計画するマリーナ位置図 (天カ須賀地区)

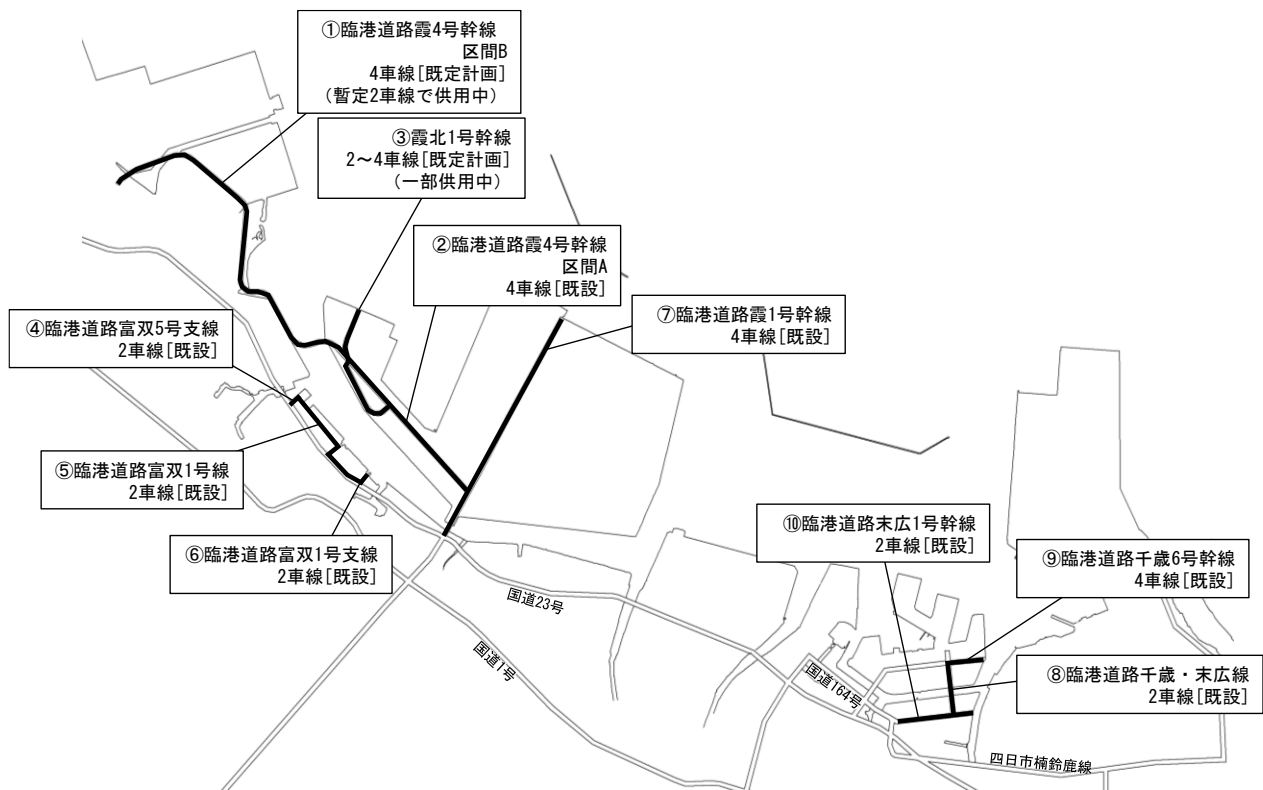
9. 臨港交通施設計画

9. 1 主要な臨港道路の現況

主要な臨港道路等の交通量等の現況は、次のとおりである。

表Ⅲ-9-1 主要な臨港道路の現況

種別	番号	施設名	起点	終点	車線数	交通量 (台/日)	大型車 混入率 (%)	基準 交通量 (台/時)	状況
臨港道路	①	臨港道路 霞 4 号幹線 区間 A	臨港道路 霞 1 号幹線	霞ヶ浦地区 南埠頭	4	-	-	2,400	既設
	②	臨港道路 霞 4 号幹線 区間 B	霞ヶ浦地区 南埠頭	町道川越 中央線	4	-	-	2,400	既定計画 (暫定 2 車線 で供用中)
	③	臨港道路 霞北 1 号幹線	霞ヶ浦地区 北埠頭	臨港道路 霞 4 号幹線	2~4	-	-	2,400	既定計画 (一部 供用中)
	④	臨港道路 富双 5 号支線	富双地区北	国道 23 号	2	-	-	650	既設
	⑤	臨港道路 富双 1 号線	富双地区南	富双地区北	2	-	-	650	既設
	⑥	臨港道路 富双 1 号支線	富双地区南東	富双地区南	2	-	-	650	既設
	⑦	臨港道路 霞 1 号幹線	霞ヶ浦地区 南埠頭	国道 23 号	4	-	-	2,400	既設
	⑧	臨港道路 千歳・末広線	国道 164 号	臨港道路 末広 1 号 幹線	2	-	-	650	既設
	⑨	臨港道路 千歳 6 号幹線	四日市地区 第 1 埠頭	国道 164 号	4	-	-	2,400	既設
	⑩	臨港道路 末広 1 号幹線	四日市地区南	県道 6 号	2	-	-	650	既設
国道	⑪	国道 23 号	-	-	4	50,841	33.4	-	既設
	⑫	国道 164 号	-	-	4	1,801	30.2	-	既設
	⑬	国道 1 号	-	-	4	27,394	8.8	-	既設
県道・市道	⑭	桑名四日市線	国道 23 号	国道 1 号	4	3,023	8.7	-	既設
	⑮	四日市楠鈴鹿線	-	-	2	19,719	15.7	-	既設



図Ⅲ-9-1 主要な臨港道路の現況図

9. 2 臨港交通施設計画の必要性

港湾物流における定時性の確保や、これに伴い期待される貨物量の増加、また災害時における国道寸断に備えた港内物流や緊急物資輸送ルート確保の他、副次的効果として港湾物流が国道23号・1号から臨港道路に移ることによる国道の慢性的な渋滞の緩和を目的とし、臨港交通施設整備計画「臨港道路霞・四日市線」を位置付け、臨港交通体系の南北軸の強化を図る必要がある。

9. 3 基準交通量

今回計画する臨港道路の交通量、規模及び配置の考え方は次のとおりである。

表Ⅲ-9-2 基準交通量

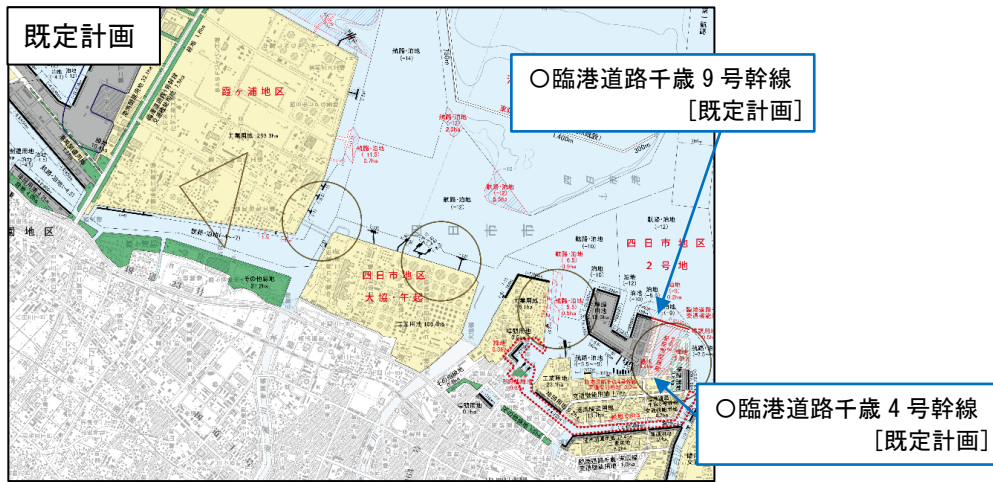
道路の種類	基準交通量	
	2車線	多車線
港湾と国道等を連絡する道路	650 台/時間	600 台/時間・車線
その他の道路	500 台/時間	350 台/時間・車線

9. 4 今回計画する臨港道路の規模及び配置

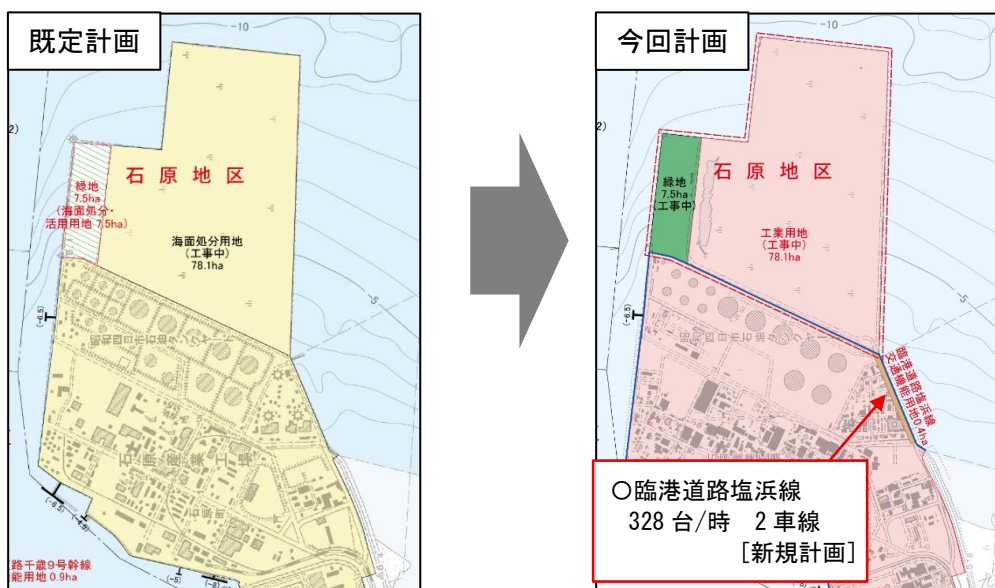
今回計画する臨港道路の交通量、規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅲ-9-3 今回計画する臨港道路の規模及び配置

施設名	起点	終点	車線数	交通量 (台/時)	今回計画	配置の考え方
臨港道路 霞4号幹線 区間B	霞ヶ浦地区 南地区	町道川越 中央線	4	980	既定計画	埠頭と背後道路を 連絡するよう配置 する。
臨港道路 霞北1号幹線	霞ヶ浦地区 北埠頭	臨港道路 霞4号幹線	2~4	362	既定計画の 変更計画	埠頭と背後道路を 連絡するよう配置 する。
臨港道路 霞・四日市線	臨港道路 霞4号幹線	国道164号	4	1,942	新規計画	埠頭間を連絡する よう配置する。
臨港道路 千歳4号幹線	四日市地区 第1埠頭	国道164号	2	18	既定計画	緑地と背後道路を 連絡するよう配置 する。
臨港道路 千歳9号幹線	四日市地区 第1埠頭	臨港道路千歳 4号幹線	2	318	既定計画	埠頭と背後道路を 連絡するよう配置 する。
臨港道路 塩浜線	塩浜地区	石原地区	2	328	新規計画	工業用地と背後道 路を連絡するよう 配置する。



図Ⅲ-9-2(2) 今回計画する臨港道路の位置図（霞ヶ浦・四日市地区）



図Ⅲ-9-2(3) 今回計画する臨港道路の位置図（霞ヶ浦・四日市地区）

IV. 港湾の環境の整備及び保全に関する資料

1. 自然的環境を整備又は保全する区域

1. 1 自然的環境を保全する区域

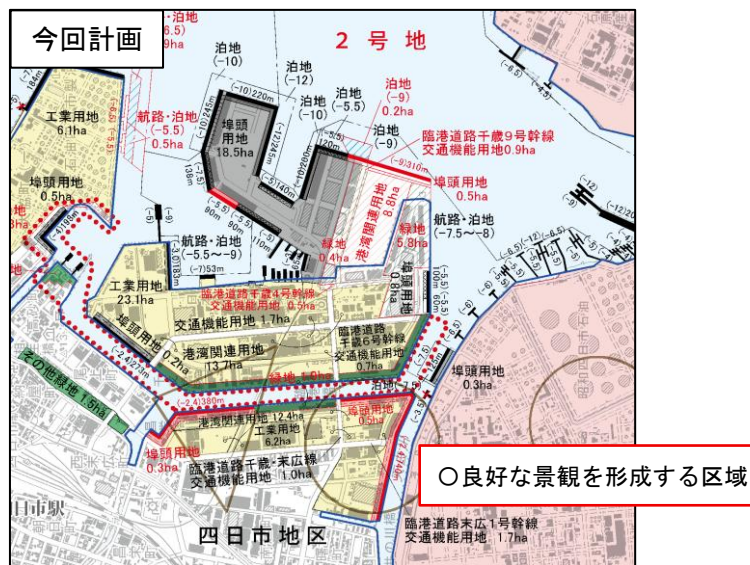
朝明地区の高松海岸の砂浜及びその前面の干潟において、動植物などの沿岸域の生態系を維持し、貴重な自然を次世代に継承するため、自然的環境を保全する区域を次のとおり計画する。



図IV-1-1 自然的環境を保全する区域

1. 2 良好な景観を形成する区域

潮吹き防波堤、末広橋梁などの重要文化財や石積物揚場が残る千歳運河沿いの区域については、歴史的遺産や貴重な港湾景観を活かしたまちづくりを促進させるため、「良好な景観を形成する区域」を次のとおり計画する。



図IV-1-2 良好な景観を形成する区域

1. 3 廃棄物処理計画

(1) 海面処分用地の現況

海面処分用地の現況は、次のとおりである。

表IV-1-1 海面処分用地の現況

地区名	面積 (ha)	種類別処分容量 (万 m ³)
石原	78.1	一般廃棄物、産業廃棄物、 浚渫土砂 160
霞ヶ浦	49.3	浚渫土砂 600

(2) 海面処分用地確保の必要性

石原地区の海面処分用地の埋立完了後には、航路や泊地整備で発生する浚渫土、維持浚渫土砂、県内工事や海岸事業の発生土の新たな受入先を確保する必要がある。

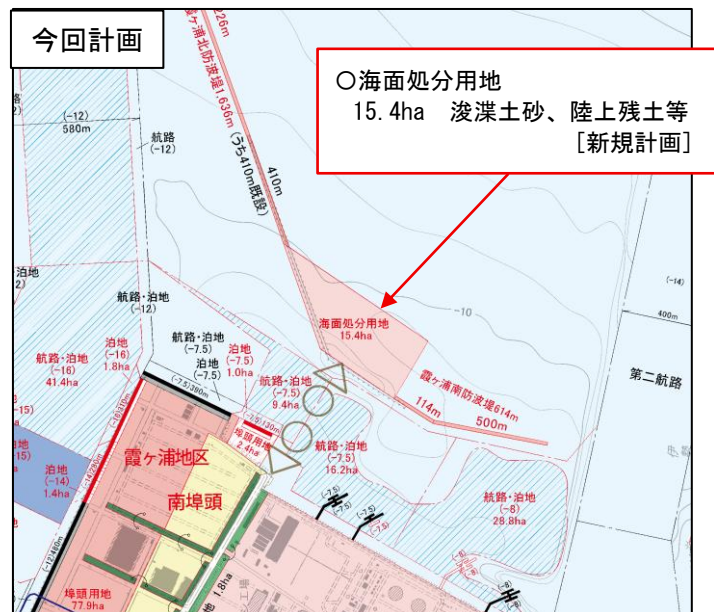
石原地区の海面処分用地が埋立完了した後に発生する維持浚渫土砂や県内工事発生土等約 290 万 m³ の処分先として、既定計画で位置づけられた海面処分用地では受入容量が不足することから、海面処分用地 15.4ha を新規計画として位置づける。

(3) 今回計画する海面処分用地の規模及び配置

今回計画する海面処分用地の規模及び配置は、次のとおりである。

表IV-1-2 今回計画する海面処分用地の規模及び配置

地区名	面積 (ha)	処分容量 (万 m ³)	今回計画
霞ヶ浦	15.4	浚渫土砂、陸上残土等 290	新規計画



図IV-1-3 今回計画する海面処分用地の位置図

2. 港湾環境整備施設計画

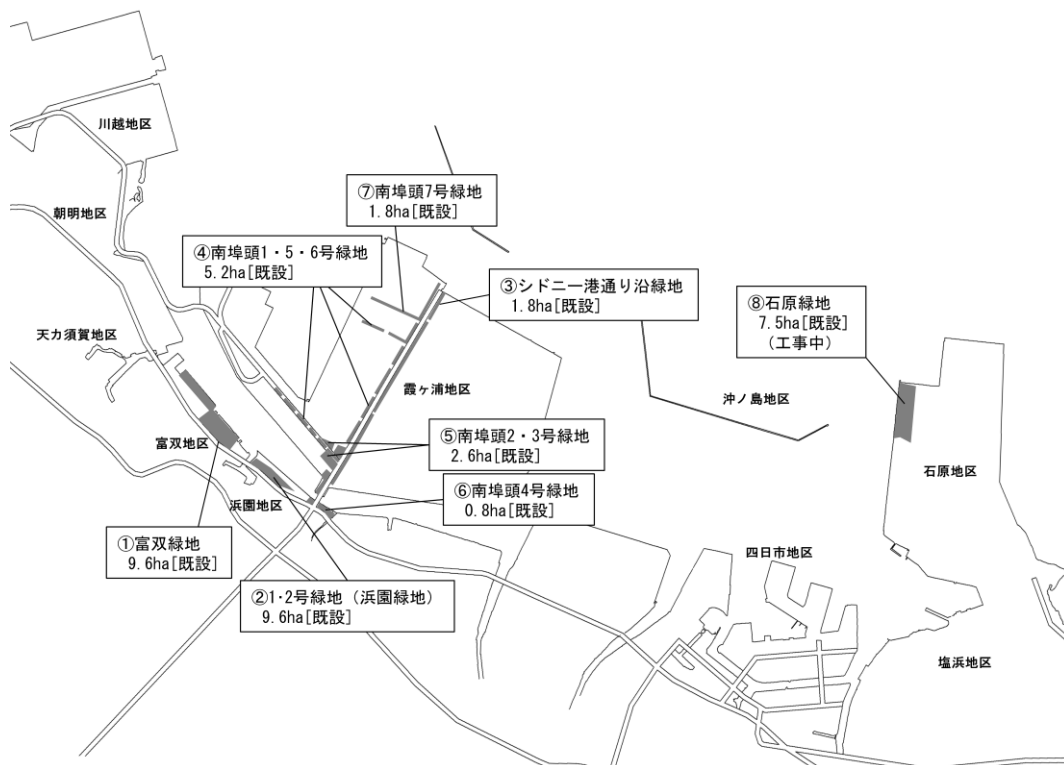
2. 1 緑地計画

(1) 緑地の現況

緑地の現況は次のとおりである。

表IV-2-1 緑地の現況

No.	地区名	名称	規模 (ha)	種類	状況
①	富双	富双緑地	9.6	レクリエーション緑地	既設
②	浜園	1・2号緑地（浜園緑地）	4.0	修景緑地	既設
③	霞ヶ浦	シドニー港通り沿緑地	1.8	道路沿緑地	既設
④		南埠頭1・5・6号緑地	5.2	道路沿緑地	既設
⑤		南埠頭2・3号緑地	2.6	休息緑地	既設
⑥		南埠頭4号緑地	0.8	修景緑地	既設
⑦		南埠頭7号緑地	1.8	修景緑地	既設
⑧	石原	石原緑地	7.5	修景緑地	既設 (工事中)



図IV-2-1 緑地の現況位置図

(2) 緑地計画の必要性

四日市港周辺地域の賑わい創出に向け、官民が連携して「四日市みなとまちづくりプラン〔基本構想〕(令和3年11月)が作成されており、老朽化・遊休化が進む港湾施設を有効活用した港湾緑地への転換が望まれている。

また、四日市市緑の基本計画(令和4年3月)では、緑地割合8.1%を目標としているが、四日市港臨港地区内における緑地割合は3.0%未満であり、目標達成に向けて新たな緑地の整備が求められている。

(3) 地区ごとの緑地の考え方

本港の地区ごとの緑地の確保の考え方は、次のとおりである。

表IV-2-2 地区ごとの緑地の確保の考え方

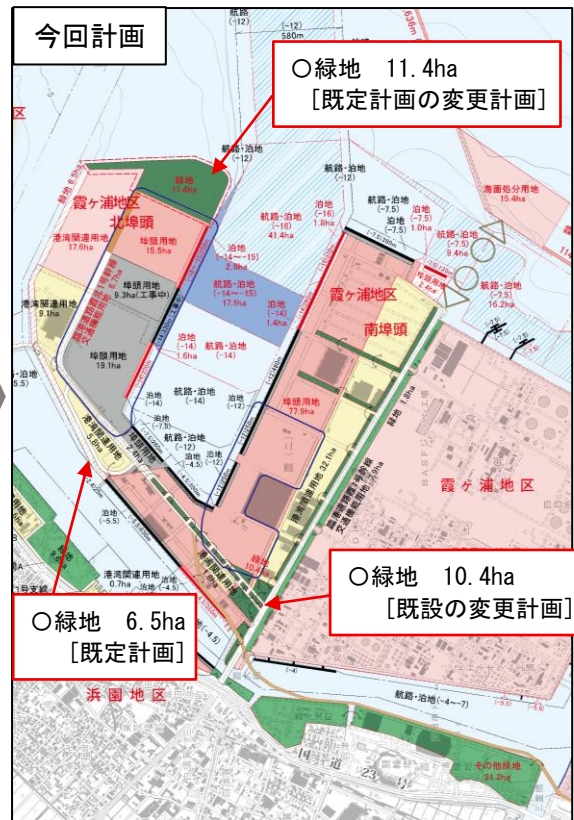
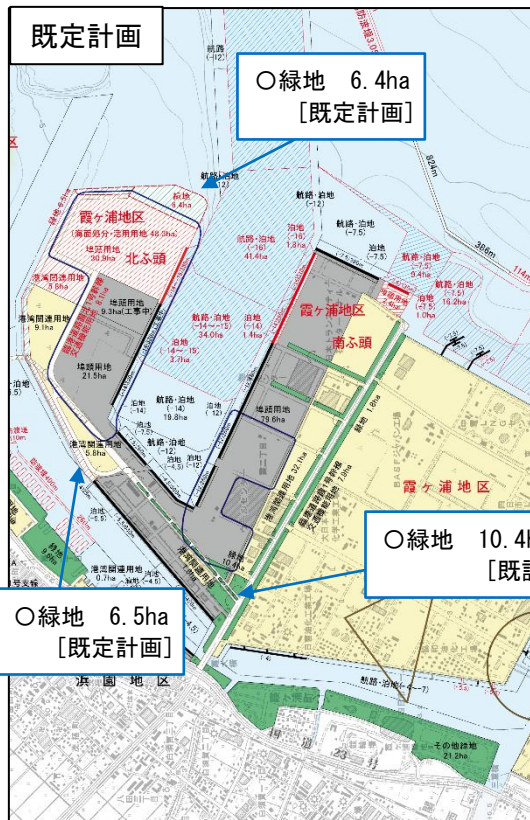
地区名	地区ごとの緑地の確保の考え方
霞ヶ浦	四日市港の緑地化率を増加させるとともに、魅力ある親水空間を創出し、継承していくため緑地を計画する。
四日市	歴史的遺産や貴重な港湾景観を活かしたまちづくりを促進させるとともに、魅力ある親水空間を創出し、継承していくための緑地を計画する。

(4) 今回計画する緑地の規模及び配置

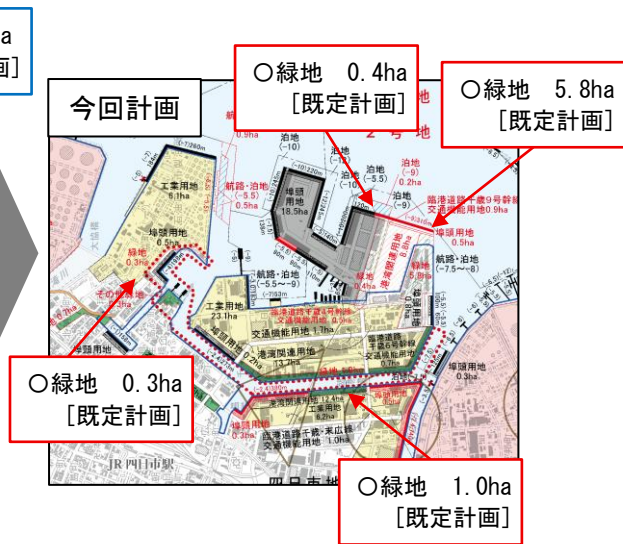
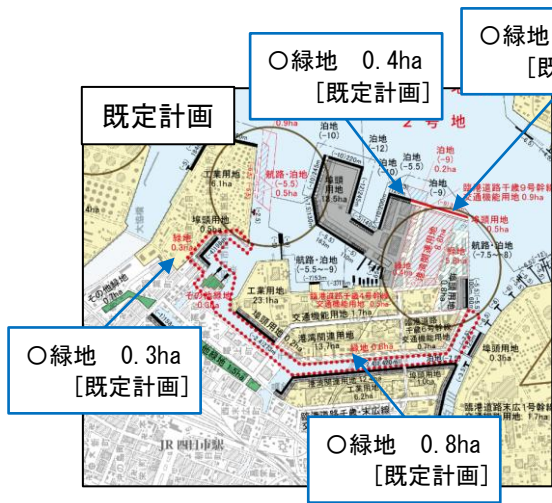
今回計画する緑地の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表IV-2-3 今回計画する緑地の規模及び配置

地区名	名称	規模 (ha)	主な用途	今回計画	規模の考え方	配置の考え方
霞ヶ浦	北埠頭 1号緑地	11.4	レクリエーション 緑地	既定計画の 変更計画	レクリエーション機能のほか、休息・緩衝緑地としての機能を有する区域を確保する。	霞ヶ浦北埠頭の水際線に配置する。
	北埠頭 2号緑地	6.5	修景緑地	既定計画	景観的に区切りを与えるために、植栽、遊歩道を配置する区域を確保する。	霞ヶ浦北埠頭外周護岸沿いに配置する。
	南埠頭 1・5・6号 緑地	5.2	道路沿緑地	既定の 変更計画	臨港交通施設計画による緑地面積の変更	既定の緑地から新規計画として位置づけられる臨港交通施設を除いた配置とする。
	南埠頭 2・3号緑地	2.6	休息緑地			
	南埠頭 4号緑地	0.8	修景緑地			
	南埠頭 7号緑地	1.8	修景緑地			
四日市	2号地1号 緑地	5.8	シンボル緑地	既定計画	旅客船埠頭と一体的に交流に必要な区域を確保する。	旅客船埠頭と一体的に利用できる配置とする。
	2号地2号 緑地	0.4	修景緑地	既定計画		
	旧港緑地	0.3	修景緑地	既定計画	旧港整備計画(H3.2)の規模を臨海部の港湾緑地として確保する。	重要文化財である「潮吹き防波堤」と一体的に利用できる配置とする。
	千歳運河 緑地	1.0	休息緑地	既定計画の 変更計画	休息緑地として必要な区域を確保する。	千歳運河沿いに配置する。



図IV-2-2(1) 今回計画する緑地位置図（霞ヶ浦地区）



図IV-2-2(2) 今回計画する緑地位置図（四日市地区）

V. 土地造成及び土地利用計画

1. 土地造成計画

1. 1 土地造成の必要性

港湾施設の計画に対応するとともに、多様な機能が調和し、連携する質の高い港湾空間の形成を図るため、土地造成を計画する。

1. 2 土地造成に係る土地利用の区分別面積

土地の造成に係る土地利用の区分別面積とその主な内容及び配置の考え方は、次のとおりである。

表V-1-1 土地造成に係る土地利用の区分別面積

地区名	土地利用区分	面積 (ha)		主な内容	今回計画	面積及び配置の考え方
			うち造成			
霞ヶ浦	埠頭用地	15.5	15.5	荷さばき地	既定計画の変更計画	コンテナバース背後に荷捌等に必要な用地を確保する。
		2.4	2.4	荷さばき地	既定計画	霞ヶ浦南埠頭の公共岸壁背後に荷捌等に必要な用地を確保する。
	港湾関連用地	17.6	17.6	保管・流通施設用地、業務用地等	既定計画の変更計画	コンテナフレートセンター等のコンテナターミナルの補完機能のための用地を確保する。
	交通機能用地	6.7	1.1	臨港道路北1号幹線	既定計画の変更計画	臨港道路北1号幹線の計画に必要な用地を確保する。
	緑地	11.4	11.4	レクリエーション緑地	既定計画の変更計画	レクリエーション機能のほか、休息・緩衝緑地としての機能を有する区域を霞ヶ浦北埠頭の水際線に確保する。
		6.5	3.3	修景緑地	既定計画	植栽、遊歩道を配置するための区域を霞ヶ浦北埠頭周辺護岸沿いに配置する。
	海面処分用地	15.4	15.4	土砂処分	新規計画	港内浚渫土砂や陸上残土等を処分するための区域を、霞ヶ浦防波堤沖に配置する。
四日市	埠頭用地	0.5	0.5	旅客施設用地	既定計画	第1・第2埠頭間埋立前面新規岸壁の背後にエプロンとしての区画を確保する。
	緑地	5.8	0.5	シンボル緑地	既定計画	旅客船埠頭と一体的に利用できる規模・配置とする。
	港湾関連用地	8.8	5.9	保管施設用地	既定計画	旅客船埠頭と一体的に利用できる規模・配置とする。

2. 土地利用計画

2. 1 土地造成に係らない土地利用計画

土地造成に係らない土地利用の区分別面積と変更の理由は、次のとおりである。

表V-2-1 土地造成に係らない土地利用計画

地区名	変更前		変更後		変更理由	
	土地利用	面積 (ha)	土地利用	面積 (ha)		
霞ヶ浦	埠頭用地	30.9	埠頭用地	15.5	コンテナ貨物需要に対応したターミナル等の用地を確保しつつ、魅力ある親水空間を創出・継承する緑地を確保する。	
			港湾関連用地	9.3		
			交通機能用地	1.1		
			緑地	5.0		
	交通機能用地	8.1	港湾関連用地	2.5		
			交通機能用地	5.6		
	埠頭用地	79.6	埠頭用地	77.9		臨港道路霞・四日市線の法線上の土地利用を変更する。
			交通機能用地	1.7		
	緑地	10.4	緑地	10.4		
			交通機能用地	0.0		
工業用地	253.3	工業用地	253.3			
		交通機能用地	0.0			
その他緑地	21.2	交通機能用地	0.0			
		その他緑地	21.2			
富双	埠頭用地	0.2	港湾関連用地	0.2	土地利用ニーズに対応可能な用地を確保する。	
四日市	工業用地	106.4	工業用地	105.1	臨港道路霞・四日市線の法線上の土地利用を変更する。	
			交通機能用地	1.3		
	その他緑地	0.7	交通機能用地	0.0		
			その他緑地	0.7		
埠頭用地	1.0	埠頭用地	0.8	千歳運河沿いにまちづくりと一体的な親水空間を創出するための緑地を確保する。		
		緑地	0.2			
塩浜	工業用地	395.3	工業用地	394.9	臨港道路塩浜線の法線上の土地利用を変更する。	
			交通機能用地	0.4		
石原	海面処分用地	78.1	工業用地	78.1	海面処分用地埋立が完了した用地において脱炭素化に資する用地を確保する。	

※端数処理のため、内訳の和は必ずしも合計とはならない。

2. 2 土地利用計画

土地利用計画の変更後と変更前は、次のとおりである。

表 V-2-2 変更後の土地利用計画

用途 地区名	埠頭 用地	港湾 関連 用地	交流 厚生 用地	工業 用地	都市 機能 用地	交通 機能 用地	緑地	海面 処分 用地	合 計
川越地区				(120.3) 120.3		(2.0) 2.0			(122.3) 122.3
朝明地区						(0.8) 0.8			(0.8) 0.8
天カ須賀 地区				(20.3) 20.3			(0.0) 3.1		(20.3) 23.4
富双地区	(2.4) 2.4	(6.5) 6.5				(1.7) 1.7	(9.6) 9.8		(20.2) 20.4
浜園地区	(4.2) 4.2						(4.0) 4.0		(8.2) 8.2
霞ヶ 浦地 区	北埠頭	(46.3) 46.3	(32.5) 32.5			(10.1) 10.1	(17.9) 17.9		(106.8) 106.8
	南埠頭	(80.3) 80.3	(33.9) 33.9			(9.6) 9.6	(10.4) 10.4	(15.4) 15.4	(151.0) 151.0
	工業 用地			(253.3) 253.3		(4.4) 4.4	(1.8) 23.0		(259.5) 280.7
	小計	(126.6) 126.6	(66.4) 66.4		(253.3) 253.3		(24.1) 24.1	(30.1) 51.3	(517.3) 537.1
四日 市地 区	大協 午起			(111.2) 111.2		(2.9) 2.9			(114.1) 114.1
	1号地	(1.1) 1.1	(12.4) 12.4		(6.2) 6.2	(2.3) 2.3	(0.2) 0.2		(22.2) 22.2
	2号地	(20.6) 20.6	(22.5) 22.5		(23.1) 23.1	(4.5) 4.5	(7.3) 9.8		(78.0) 80.5
	小計	(21.7) 21.7	(34.9) 34.9		(140.5) 140.5	(9.7) 9.7	(7.5) 10		(214.3) 216.8
塩浜地区				(394.9) 394.9		(0.4) 0.4		(395.3) 395.3	
石原地区				(78.1) 78.1		(7.5) 7.5		(85.6) 85.6	
磯津地区								(0.0) 0.0	
楠地区					(9.7) 9.7			(9.7) 9.7	
合 計	(154.9) 154.9	(107.8) 107.8	0.0	(1,007.4) 1,007.4	(9.7) 9.7	(39.4) 39.4	(58.0) 85.0	(15.4) 15.4	(1,392.6) 1,419.6

注1) ()内は港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する区域の保全に特に密接に関連する土地利用計画で内数である。

注2) 端数処理のため内数の和は必ずしも合計とはならない。

表 V-2-3 変更前の土地利用計画

用途 地区名	埠頭 用地	港湾 関連 用地	交流 厚生 用地	工業 用地	都市 機能 用地	交通 機能 用地	緑地	海面 処分 用地	合 計
川越地区				(120.3) 120.3		(2.0) 2.0			(122.3) 122.3
朝明地区						(0.8) 0.8			(0.8) 0.8
天カ須賀 地区	(0.2) 0.2			(20.3) 20.3			(0.0) 3.1		(20.5) 23.6
富双地区	(2.6) 2.6	(6.3) 6.3				(1.7) 1.7	(9.6) 9.8		(20.2) 20.4
浜園地区	(4.2) 4.2						(4.0) 4.0		(8.2) 8.2
霞ヶ 浦地 区	北埠頭	(61.7) 61.7	(20.7) 20.7			(11.5) 11.5	(12.9) 12.9		(106.8) 106.8
	南埠頭	(82.0) 82.0	(33.9) 33.9			(7.9) 7.9	(10.4) 10.4		(135.6) 135.6
	工業 用地			(253.3) 253.3			(1.8) 23.0		(255.1) 276.3
	小計	(143.7) 143.7	(54.6) 54.6		(253.3) 253.3		(19.4) 19.4	(25.1) 46.3	(497.5) 518.7
四日 市地 区	大協 午起			(112.5) 112.5					(112.5) 112.5
	1号地	(1.3) 1.3	(12.4) 12.4		(6.2) 6.2	(2.3) 2.3			(22.2) 22.2
	2号地	(20.6) 20.6	(22.5) 22.5		(23.1) 23.1	(4.2) 4.2	(7.3) 9.8		(80.2) 80.2
	小計	(21.9) 21.9	(34.9) 34.9		(141.8) 141.8	(6.5) 6.5	(7.3) 9.8		(212.4) 214.9
塩浜地区				(395.3) 395.3				395.3	
石原地区						(7.5) 7.5	(78.1) 78.1	(85.6) 85.6	
磯津地区								(0.0) 0.0	
楠地区					(9.7) 9.7			(9.7) 9.7	
合 計	(172.6) 172.6	(95.8) 95.8	(0.0) 0.0	(931.0) 931.0	(9.7) 9.7	(30.4) 30.4	(53.5) 80.5	(78.1) 78.1	(1,371.1) 1,398.1

注1) ()内は港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する区域の保全に特に密接に関連する土地利用計画で内数である。

注2) 端数処理のため内数の和は必ずしも合計とはならない。

3. 臨港地区の範囲

現在の四日市港臨港地区は、都市計画法に基づき、当初、昭和 41 年 3 月に指定され、分区については、港湾法第 39 条の規程に基づき、昭和 41 年 4 月に指定されたものである。その後の状況の変化により、見直しを行い、現在の臨港地区は 1,170ha となっている。

今後、港湾計画の遂行に伴い、港湾の管理運営を円滑に行うために必要と考えられる臨港地区（管理者の案）は、次のとおりである。



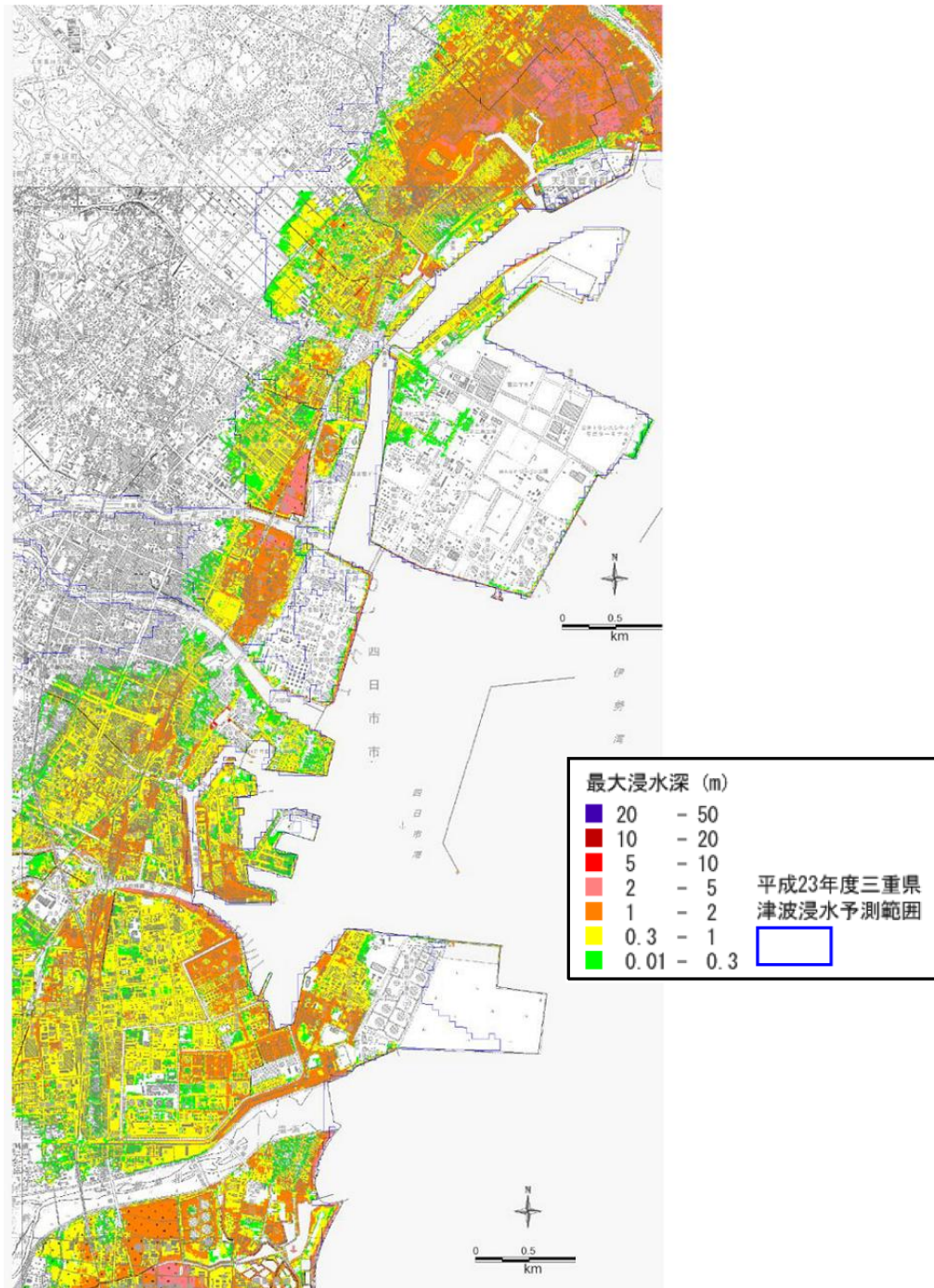
図 V-3-1 臨港地区の範囲

4. 地盤高

4. 1 浸水想定

平成 25 年度三重県地震被害想定調整結果により、南海トラフ巨大地震により想定される津波浸水域図が取りまとめられている。

四日市港周辺における親水想定は、次に示すとおりである。

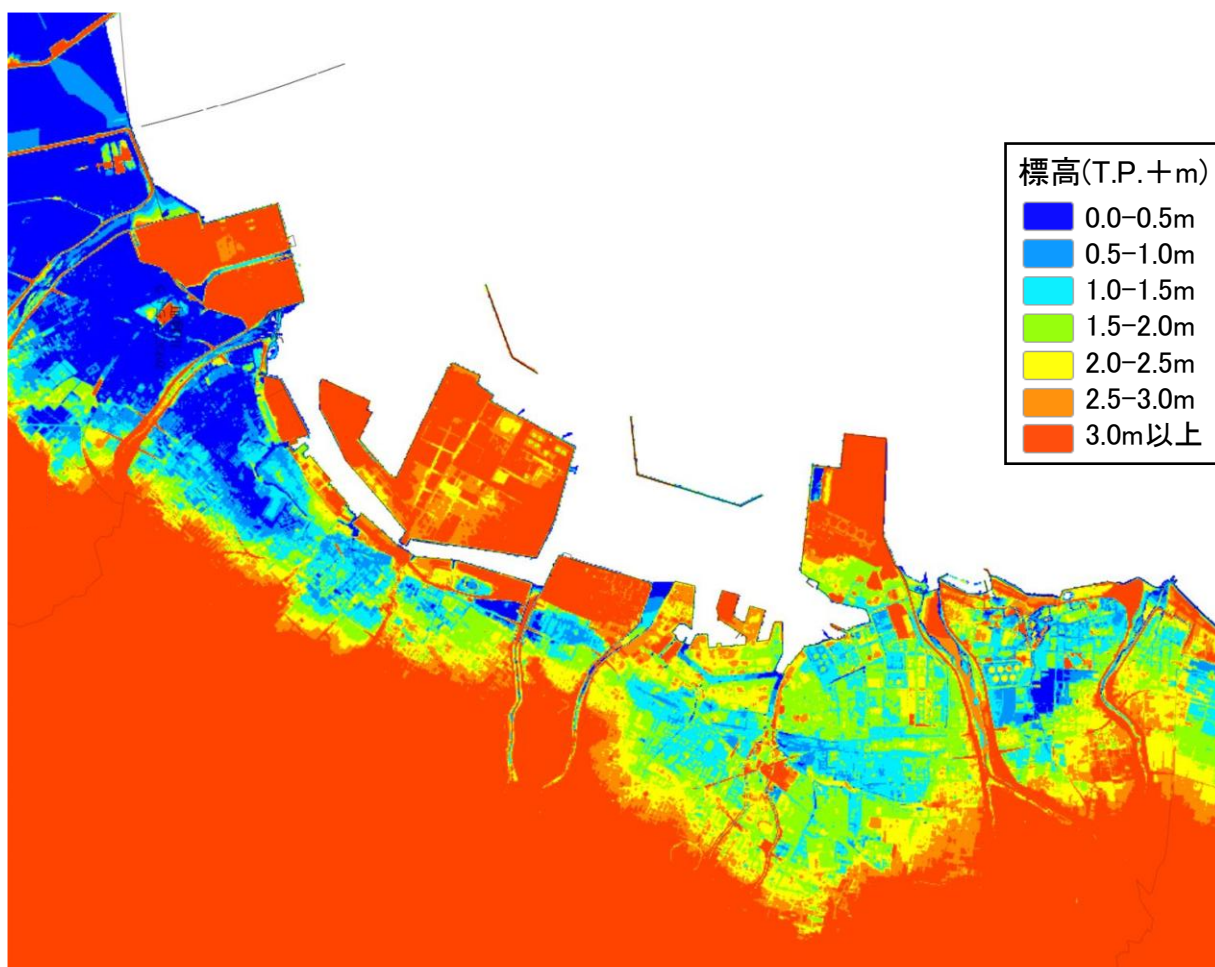


資料：平成 25 年度三重県地震被害想定調査結果

図 V-4-1 四日市港周辺の浸水想定

4. 2 地盤高

四日市港周辺の地盤高は、次に示すとおりである。



資料：国土地理院地図

図 V-4-2 四日市港周辺の地盤高

VI. 港湾の効率的な運営に関する資料

1. 効率的な運営を特に促進する区域

コンテナ船により運送される貨物等を取り扱う以下の埠頭について、効率的な運営を特に促進するよう措置することを計画する。(法第43条の11第1項の規定に基づく港湾運営会社によるものを含む。)

ただし、「効率的な運営を特に促進する区域」については、霞ヶ浦地区(北埠頭)水深14m岸壁(W81)の利用を開始する時点で、区域の設定を見直すこととする。

霞ヶ浦地区(北埠頭)

岸壁1バース 水深14~15m 延長350m(コンテナ船用) [既定計画] W82

岸壁2バース 水深14m 延長660m(うち1バース既設、1バース工事中)(コンテナ船用)
[既設] W80~W81

埠頭用地 43.9ha(うち19.1ha既設、9.3ha工事中) [既定計画の変更計画]

霞ヶ浦地区(南埠頭)

岸壁2バース 水深12m 延長500m [既設] W26・W27

埠頭用地 19.5ha [既設]

Ⅶ. その他重要事項

1. 国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設

今回新規に計画している施設及び既に計画されている施設のうち、本港が国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設は次のとおりである。

霞ヶ浦地区

第三航路 水深 16m 幅員 450m [既定計画]

泊地 水深 16m 面積 1.8ha [既定計画]

泊地 水深 14～15m 面積 2.8ha [既定計画の変更計画]

泊地 水深 14m 面積 1.6ha [既定計画の変更計画]

泊地 水深 14m 面積 1.4ha [既定計画]

航路・泊地 水深 16m 面積 41.4ha [既定計画]

航路・泊地 水深 14～15m 面積 17.1ha [既定計画の変更計画]

(北埠頭)

水深 14～15m 岸壁 1 バース 延長 350m (コンテナ船用) [既定計画] W82

(南埠頭)

水深 16m 岸壁 1 バース 延長 310m [既定計画] W22

水深 14m 岸壁 1 バース 延長 280m [既定計画] W23

臨港道路霞北 1 号幹線 [既定計画の変更計画]

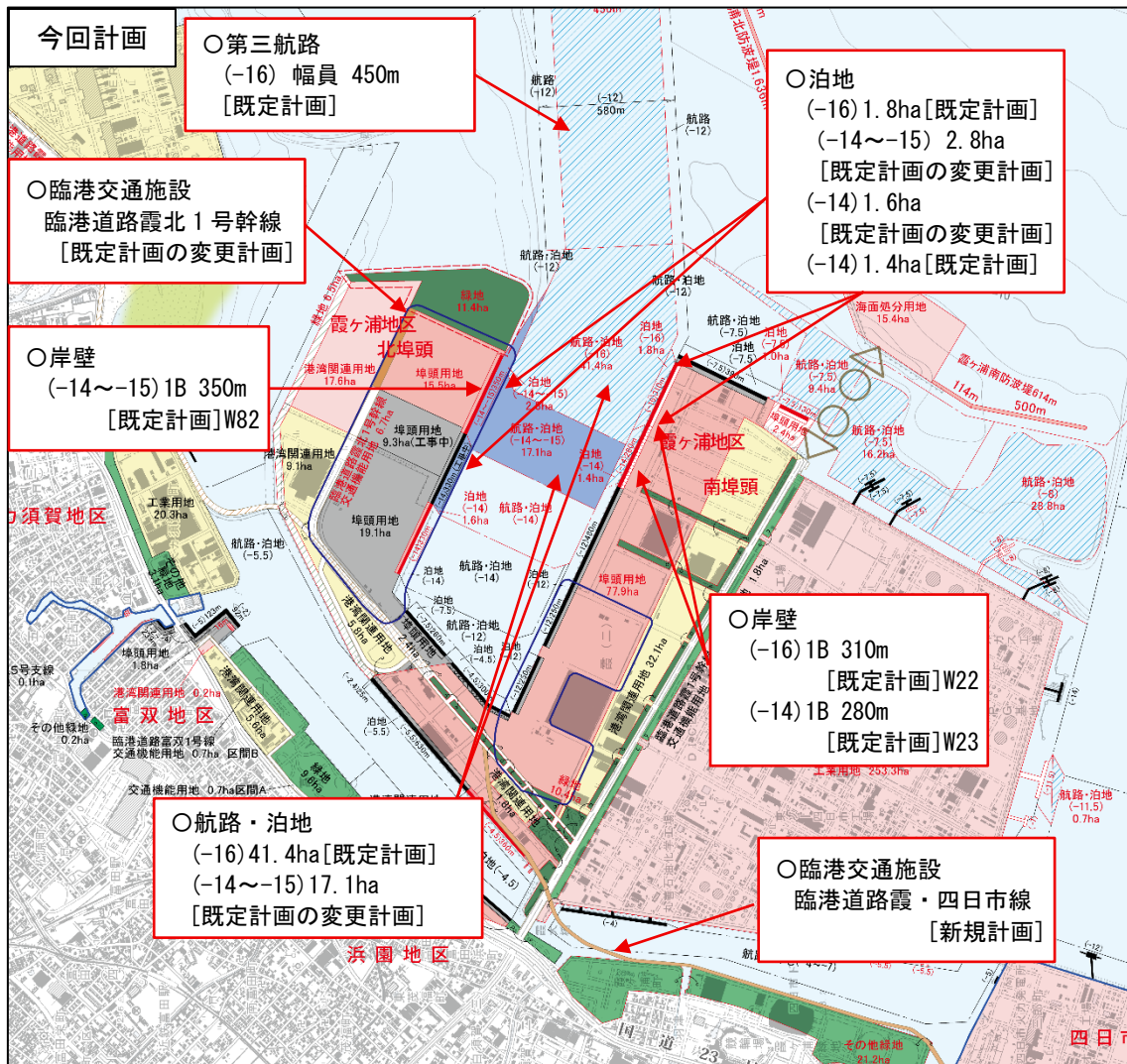
起点 霞ヶ浦地区北埠頭

終点 臨港道路霞 4 号幹線 2～4 車線

臨港道路霞・四日市線 [新規計画]

起点 臨港道路霞 4 号幹線

終点 国道 164 号 4 車線



図Ⅶ-1-1 国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点として機能するために必要な施設

2. 大規模地震対策施設計画

2. 1 緊急物資輸送の拠点として機能するために必要な施設

(1) 大規模地震対策施設（緊急物資輸送対応の施設）の現況

大規模地震対策施設（緊急物資輸送対応の施設）の現況は、次のとおりである。

表Ⅶ-2-1 大規模地震対策施設の現況（緊急物資輸送対応の施設）

機能	地区名	施設名	水深	バース数	延長	状況
緊急物資輸送用岸壁	霞ヶ浦	霞ヶ浦南埠頭 23号岸壁	14.0m	1	280m	既定計画
	四日市	第3埠頭15号岸壁	10.0m	1	245m	既設

(2) 大規模地震対策施設（緊急物資輸送対応の施設）の必要性

大規模災害時が発生した場合に、物資の緊急輸送、住民の避難等に供するため、霞ヶ浦地区及び四日市地区においては、既定計画どおり緊急物資輸送用岸壁や広場、緊急輸送道路を計画する。

(3) 大規模地震対策施設計画（緊急物資輸送対応の施設）

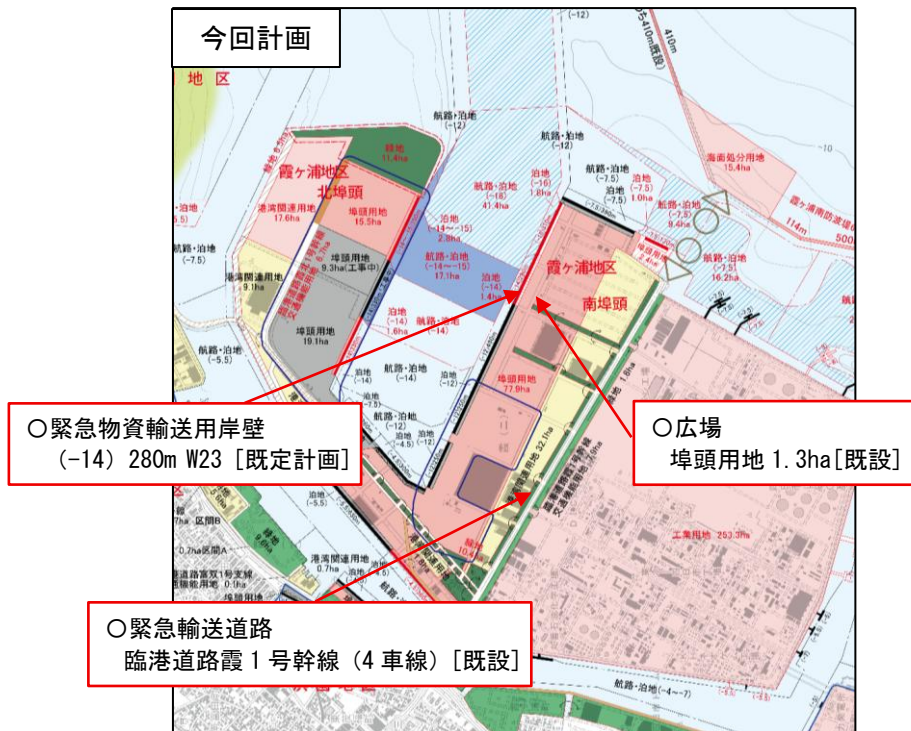
今回計画している施設のうち、以下の施設について大規模地震対策施設（緊急物資輸送対応の施設）として計画する。

表Ⅶ-2-2 大規模地震対策施設計画（緊急物資輸送対応の施設）

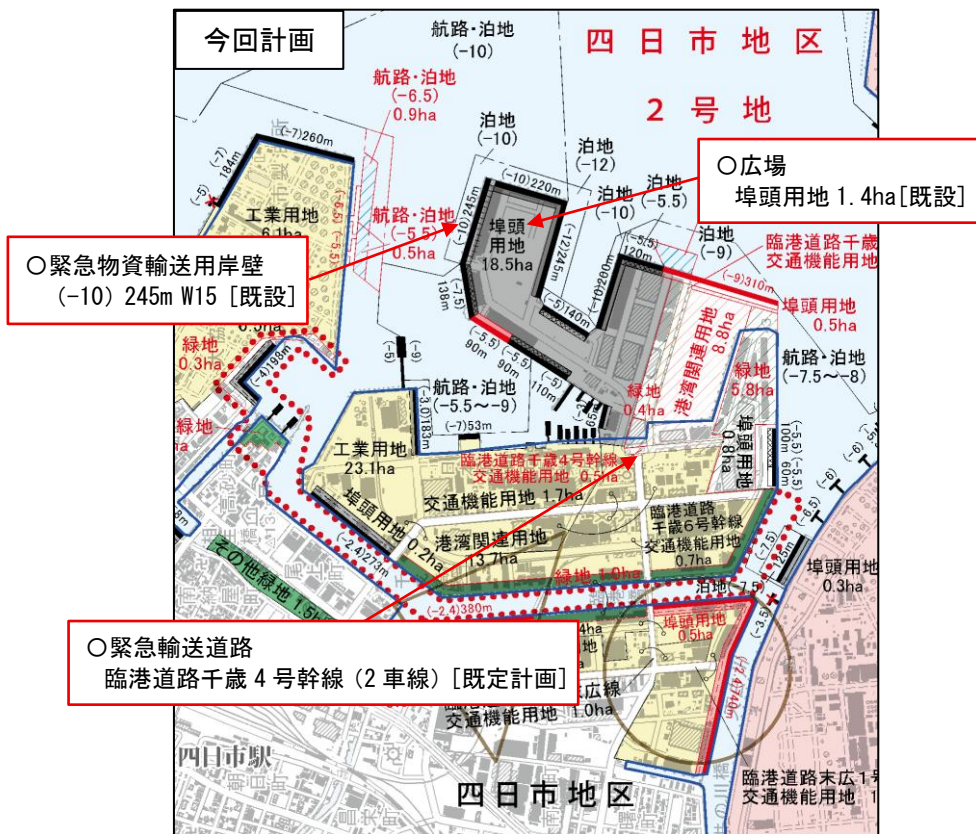
機能	地区名	施設名	水深	バース数	延長	今回計画
緊急物資輸送用岸壁	霞ヶ浦	霞ヶ浦南埠頭 23号岸壁	14.0m	1	280m	既定計画
広場		埠頭用地 1.3ha				既設
緊急輸送道路		臨港道路霞1号幹線 4車線				既設
緊急物資輸送用	四日市	第3埠頭 15号岸壁	10.0m	1	245m	既設
広場		埠頭用地 1.4ha				既設
緊急輸送道路		臨港道路千歳4号幹線 2車線				既定計画

(4) 大規模地震対策施設（緊急物資輸送対応の施設）の計画位置

大規模地震対策施設の計画位置は、次のとおりである。



図VII-2-1(1) 大規模地震対策施設計画位置図（緊急物資輸送対応の施設 霞ヶ浦地区）



図VII-2-1(2) 大規模地震対策施設計画位置図（緊急物資輸送対応の施設 四日市地区）

2. 2 幹線貨物輸送の拠点として機能するために必要な施設

(1) 大規模地震対策施設（幹線物資輸送対応の施設）の現況

大規模地震対策施設（幹線物資輸送対応の施設）の現況は、次のとおりである。

表Ⅶ-2-3 大規模地震対策施設の現況（幹線貨物輸送対応の施設）

機能	地区名	施設名	水深	バース数	延長	状況
幹線貨物輸送用岸壁	霞ヶ浦	霞ヶ浦北埠頭 81号岸壁	14.0m	1	330m	既設 (工事中)

(2) 大規模地震対策施設（幹線物資輸送対応の施設）の必要性

大規模災害時においても経済活動を維持する国際海上コンテナ物流機能を維持するため、幹線貨物輸送用岸壁、埠頭用地、幹線貨物輸送道路を計画する。

(3) 大規模地震対策施設計画（幹線貨物輸送対応の施設）

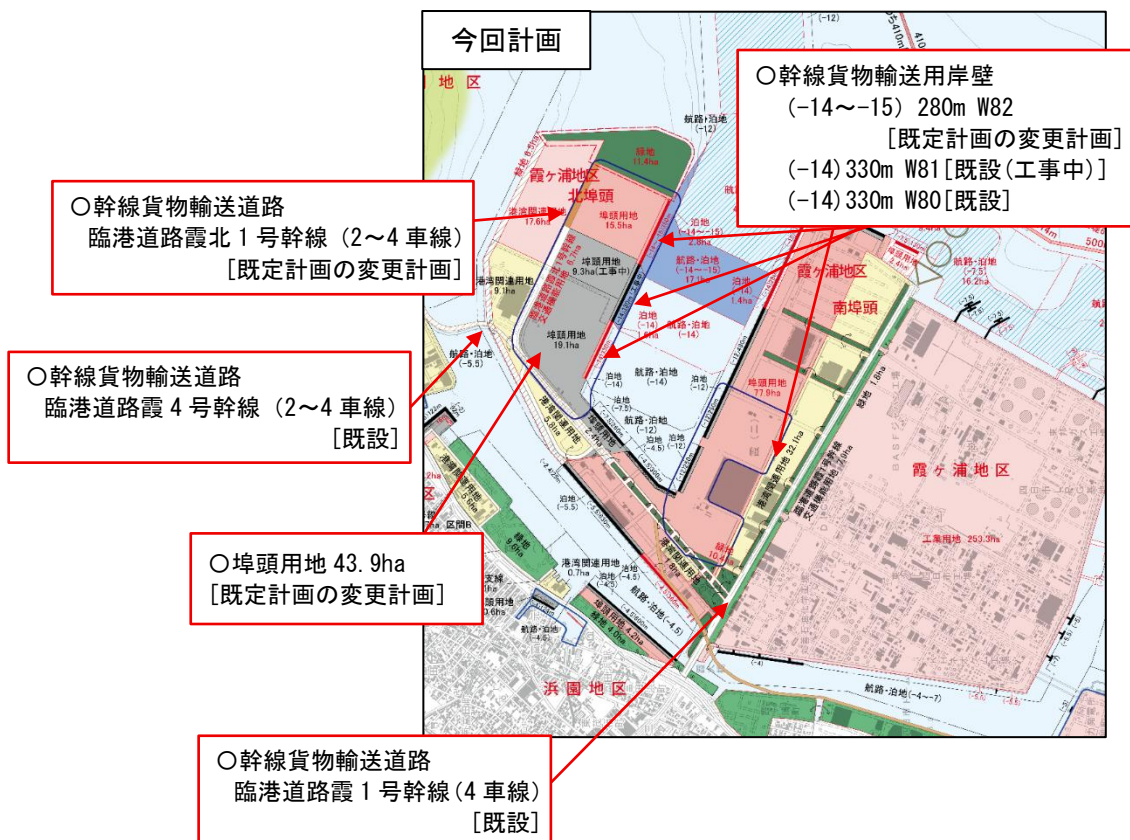
今回計画している施設のうち、幹線貨物輸送の拠点として機能するために必要な施設を大規模地震対策施設（幹線物資輸送対応の施設）として計画する。

表Ⅶ-2-4 大規模地震対策施設計画（幹線貨物輸送対応の施設）

機能	地区名	施設名	水深	バース数	延長	今回計画
幹線貨物輸送用岸壁	霞ヶ浦	霞ヶ浦北埠頭 82号岸壁	14.0～ 15.0m	1	350m	既定計画の 変更計画
		霞ヶ浦北埠頭 80号岸壁	14.0m	1	330m	既設
		霞ヶ浦北埠頭 81号岸壁	14.0m	1	330m	既設 (工事中)
		埠頭用地 43.9ha				
幹線貨物輸送道路	臨港道路霞北1号幹線 2～4車線					既定計画の 変更計画
	臨港道路霞4号幹線 2～4車線					既設
	臨港道路霞1号幹線 4車線					

(4) 大規模地震対策施設の計画位置

大規模地震対策施設の計画位置は、次のとおりである。

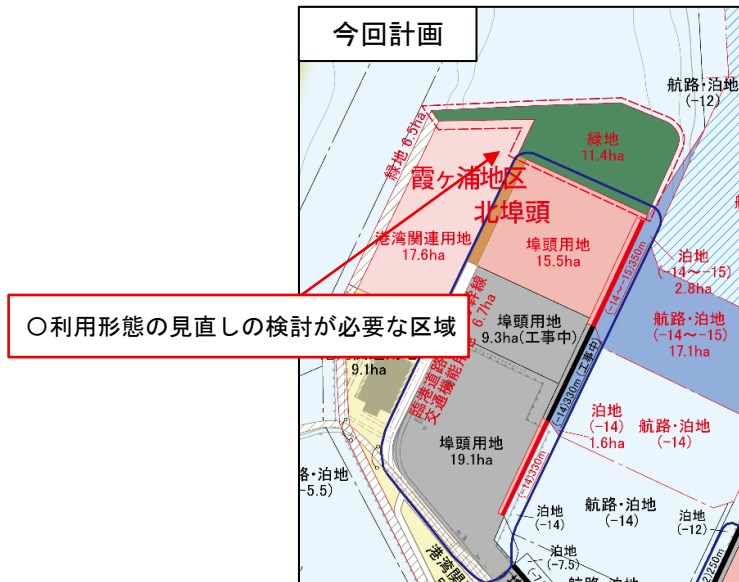


図VII-2-2 大規模地震対策施設計画位置図 (幹線貨物輸送対応の施設)

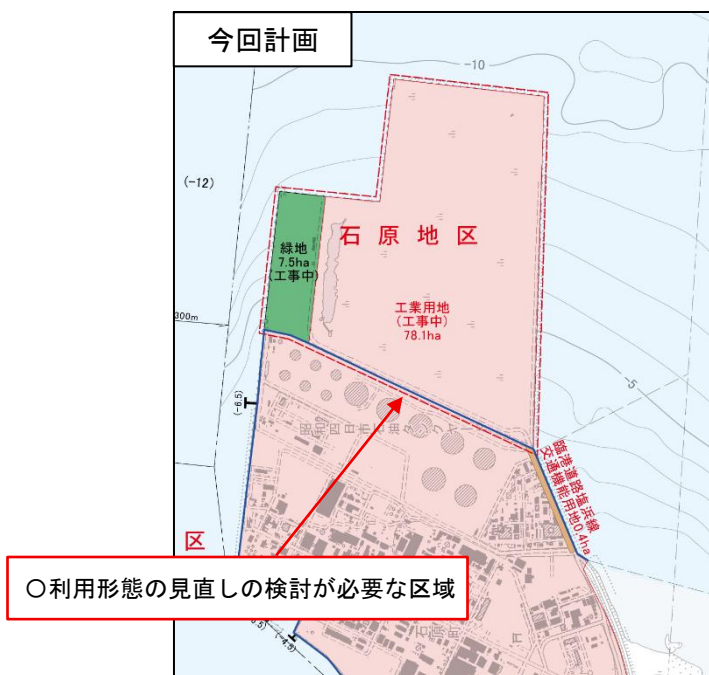
3. 港湾の再開発

3. 1 利用形態の見直しの検討が必要な区域

霞ヶ浦地区及び石原地区においては、利用形態の見直しが必要な区域を設定する。



図VII-3-1(1) 利用形態の見直しの検討が必要な区域の施設位置図（霞ヶ浦地区）



図VII-3-1(2) 利用形態の見直しの検討が必要な区域の施設位置図（四日市地区）

4. 港湾施設の利用

4. 1 物資補給等のための施設

(1) 物資補給岸壁の現況

物資補給岸壁の現況は、次のとおりである。

表Ⅶ-4-1 物資補給岸壁の現況

地区名	施設名	水深	バース	延長	状況
四日市	第2埠頭 10号岸壁	5.5m	1	120m	既設
	第2埠頭 12号岸壁	5.0m	1	140m	
	第3埠頭 16号岸壁	7.5m	1	138m	
	第2埠頭 19号岸壁	5.0m	1	110m	

(2) 物資補給岸壁の必要性

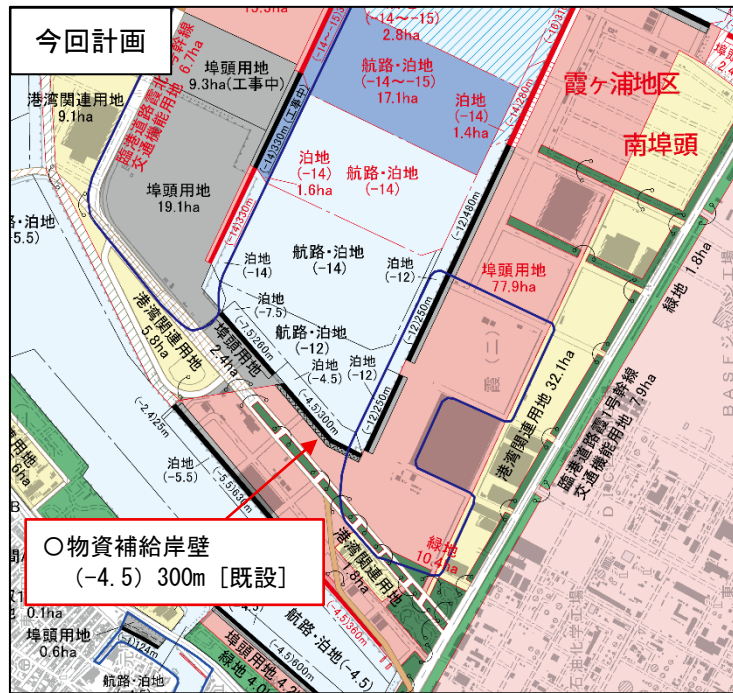
四日市港では燃料補給等のために係留している貨物船や、港内において大型船舶をけん引するために待機している曳船等の船舶が多くみられる。円滑な岸壁等の利用を図るため、これらの小型船舶の待機並びに物資補給の用に対応する施設が必要である。

(3) 物資補給等の施設の規模及び配置

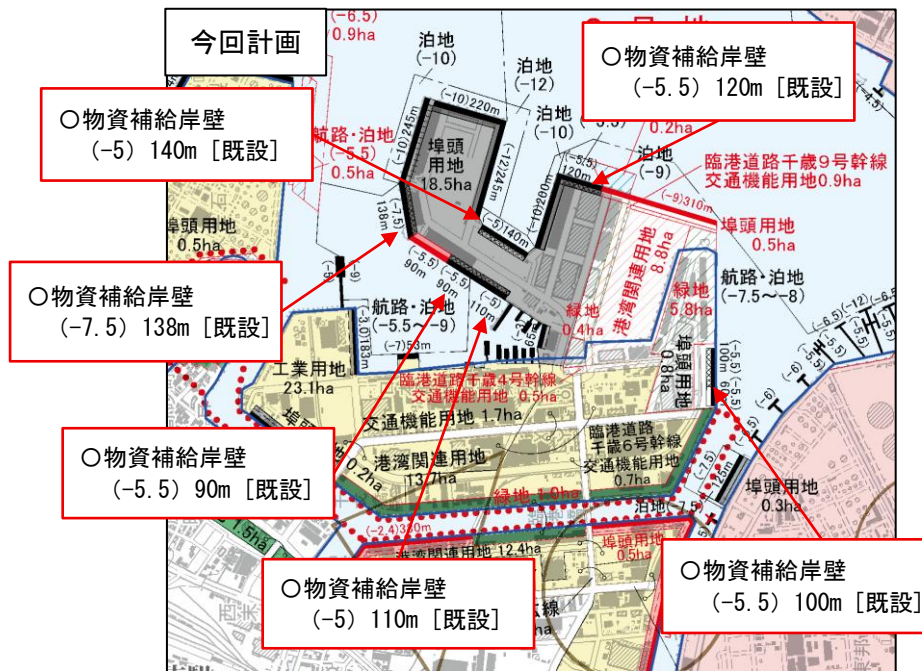
物資補給等の施設の規模及び配置の考え方は、次のとおりである。

表Ⅶ-4-2 物資補給等のための施設

地区名	施設名	水深	バース数	延長	規模及び配置の考え方
霞ヶ浦	霞ヶ浦南埠頭 W70～73号岸壁	4.5m	4	300m	貨物船、作業船等の待機並びに物資補給の用に対応するため、既存施設を有効に活用し、物資補給等のための施設を計画する。
四日市	第1埠頭 1号岸壁	5.5m	1	100m	
	第2埠頭 10号岸壁	5.5m	1	120m	
	第2埠頭 12号岸壁	5.0m	1	140m	
	第3埠頭 16号岸壁	7.5m	1	138m	
	第3埠頭 18号岸壁	5.5m	1	90m	
	第2埠頭 19号岸壁	5.0m	1	110m	



図VII-4-1(1) 物資補給等のための施設位置図（霞ヶ浦地区）



図VII-4-1(2) 物資補給等のための施設位置図（四日市地区）

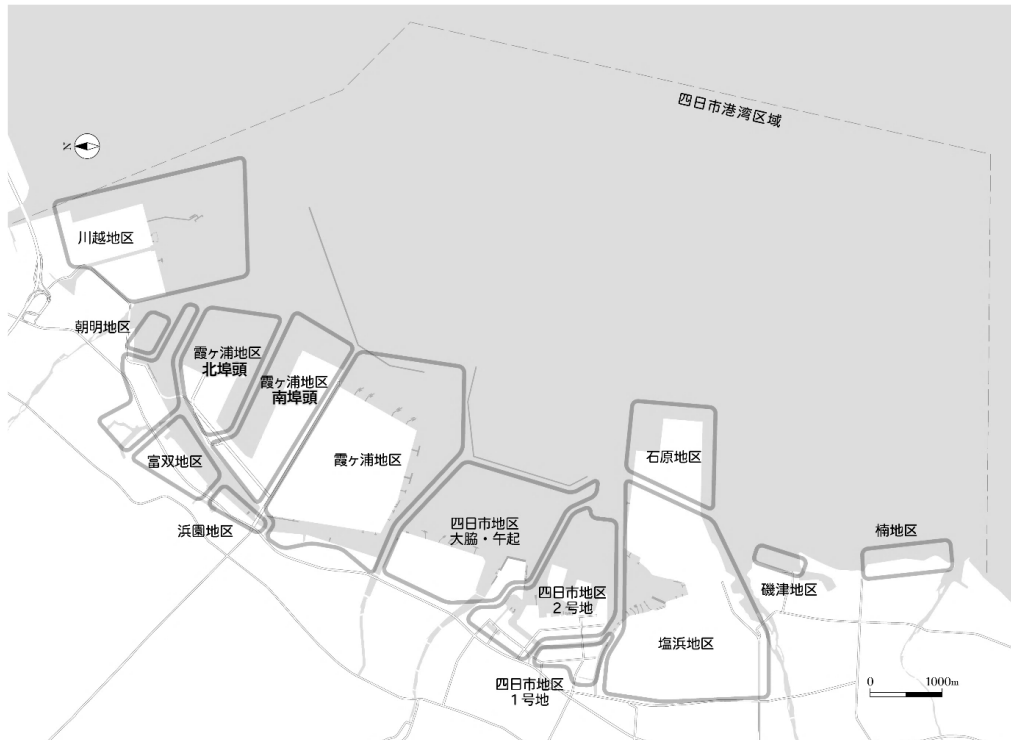
Ⅷ. その他資料

1. 港湾区域の範囲

現在指定されている四日市港の港湾区域は、次のとおりである。

表Ⅷ-1-1 港湾区域の範囲

範囲
三重郡川越町員弁川右岸の基点（北緯 35 度 1 分 29 秒、東経 136 度 41 分 45 秒）、同地点から 158 度 45 分 5,150 メートルの地点、同地点から 135 度 1,290 メートルの地点、鈴鹿市と四日市市との境界海岸（北緯 34 度 54 分 6 秒、東経 136 度 38 分 28 秒）から 90 度 6,000 メートルの地点及び同境界海岸を順次に結んだ線と陸岸により囲まれた海面並びに海蔵川三重橋、三滝川大協橋、天白川大井の川橋及び鈴鹿川右岸導流堤突端と左岸堤防基標とを結んだ線各下流の河川水面。 ただし、漁港法の規定により指定された川越漁港、磯津漁港及び楠漁港の区域を除く。 (昭和 46 年 3 月 19 日)



図Ⅷ-1-1 四日市港港湾区域図

2. 港湾の周辺状況

2. 1 経済的・社会的条件

(1) 位置

四日市港は、日本列島の太平洋岸中央部にあたり、三大湾地域のひとつである伊勢湾北西部に位置している。伊勢湾には、国際拠点港湾の名古屋港及び重要港湾の衣浦港、三河港、津松阪港が位置する。



図Ⅷ-2-1 四日市港の位置

(2) 背後地域

四日市港の背後圏として、三重県を一次背後圏、愛知県・岐阜県・滋賀県を二次背後圏と設定する。



図Ⅷ-2-2 四日市港の港湾計画における背後圏

(3) 人口動向

2010年から2020年にかけて全国的に人口は減少傾向にある。一次背後圏である三重県は、減少率が大きく、2020年で約95.4%となっている。一方、二次背後圏全体では、2010年から2015年にかけて増加傾向にある。

全国に占める三重県の人口の割合は、2010年から2020年にかけて横ばいに推移し、2020年で約1.4%となっている。

表Ⅷ-2-1 人口動向

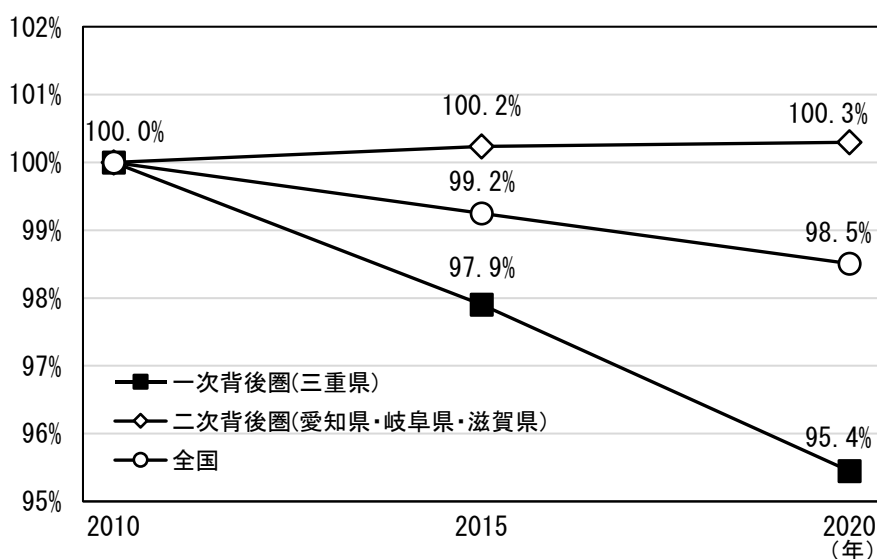
単位：千人

	2010年	2015年	2020年
一次背後圏 三重県	1,855 (1.4%)	1,816 (1.4%)	1,770 (1.4%)
二次背後圏	10,902 (8.5%)	10,928 (8.6%)	10,935 (8.7%)
愛知県	7,411 (5.8%)	7,483 (5.9%)	7,542 (6.0%)
岐阜県	2,081 (1.6%)	2,032 (1.6%)	1,979 (1.6%)
滋賀県	1,411 (1.1%)	1,413 (1.1%)	1,414 (1.1%)
背後圏計	12,757 (10.0%)	12,744 (10.0%)	12,705 (10.1%)
全国	128,057 (100.0%)	127,095 (100.0%)	126,146 (100.0%)

※（ ）は全国に占める割合

※端数処理のため合計と内訳の和は必ずしも一致しない。

資料：「国勢調査」総務省



図Ⅷ-2-3 人口動向 (2010年を100%とした場合)

(4) 産業構造

1) 就業構造

2020年における三重県の実業者総数は約85万人で、2010年から減少傾向にある。二次背後圏においても2020年に約520万人で2010年から約13万人減少している。

2020年における三重県及び二次背後圏では、全国に比べ全体に占める2次産業の割合が約30%と高く、3次産業が約62%と低い状況になっている。

表Ⅷ-2-2 産業別実業者数の推移

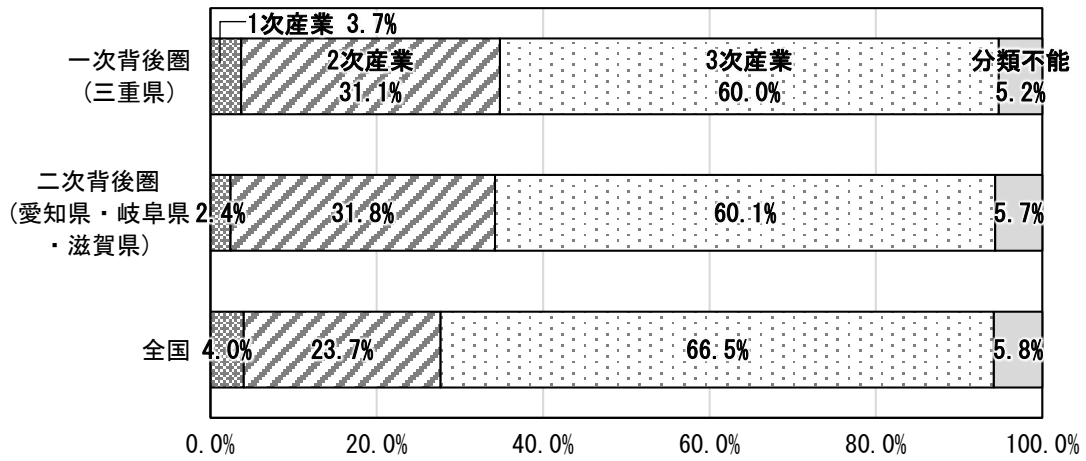
単位：千人

	産業	2010年		2015年		2020年		
		実業者数	シェア	実業者数	シェア	実業者数	シェア	
一次背後圏 三重県	1次産業	33	(3.7%)	31	(3.6%)	26	(3.1%)	
	2次産業	278	(31.1%)	270	(31.0%)	260	(30.7%)	
	3次産業	537	(60.0%)	542	(62.1%)	530	(62.7%)	
	総数	895	(100.0%)	873	(100.0%)	846	(100.0%)	
二次背後圏	1次産業	131	(2.4%)	125	(2.3%)	112	(2.1%)	
	2次産業	1,708	(31.8%)	1,722	(32.1%)	1,658	(31.6%)	
	3次産業	3,230	(60.1%)	3,292	(61.4%)	3,328	(63.5%)	
	総数	5,372	(100.0%)	5,363	(100.0%)	5,245	(100.0%)	
	愛知県	1次産業	81	(2.2%)	76	(2.1%)	69	(1.9%)
		2次産業	1,155	(31.4%)	1,174	(32.0%)	1,136	(31.5%)
		3次産業	2,205	(60.0%)	2,250	(61.3%)	2,298	(63.7%)
		総数	3,676	(100.0%)	3,669	(100.0%)	3,605	(100.0%)
	岐阜県	1次産業	32	(3.1%)	31	(3.1%)	27	(2.8%)
		2次産業	332	(32.5%)	326	(32.1%)	310	(31.9%)
		3次産業	625	(61.1%)	628	(61.8%)	614	(63.1%)
		総数	1,023	(100.0%)	1,016	(100.0%)	973	(100.0%)
	滋賀県	1次産業	19	(2.8%)	18	(2.6%)	16	(2.4%)
		2次産業	221	(32.7%)	221	(32.6%)	212	(31.9%)
		3次産業	400	(59.4%)	414	(61.1%)	417	(62.5%)
		総数	674	(100.0%)	678	(100.0%)	667	(100.0%)
全国	1次産業	2,381	(4.0%)	2,222	(3.8%)	1,963	(3.4%)	
	2次産業	14,123	(23.7%)	13,921	(23.6%)	13,259	(23.0%)	
	3次産業	39,646	(66.5%)	39,615	(67.2%)	40,679	(70.6%)	
	総数	59,611	(100.0%)	58,919	(100.0%)	57,643	(100.0%)	

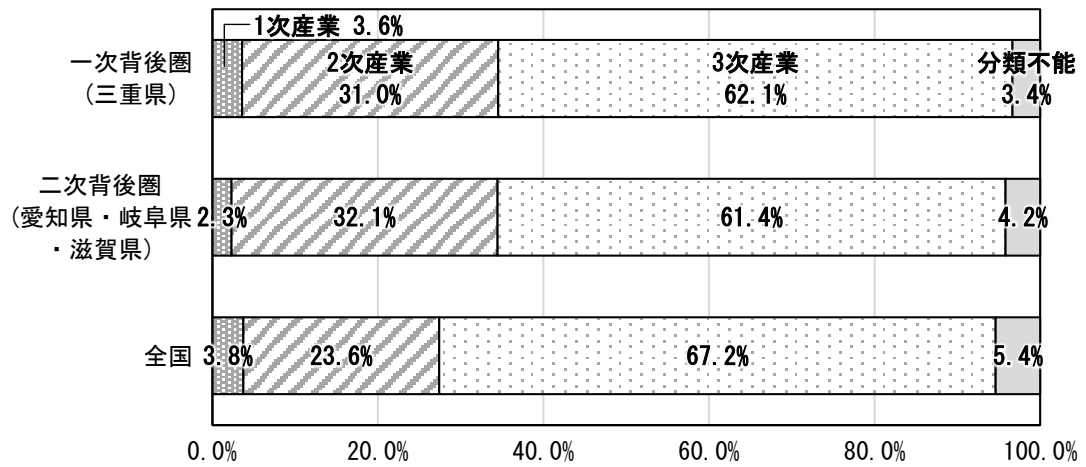
※総数には分類不能を含むため、第1・2・3次産業の計とは一致しない。

資料：「国勢調査」総務省

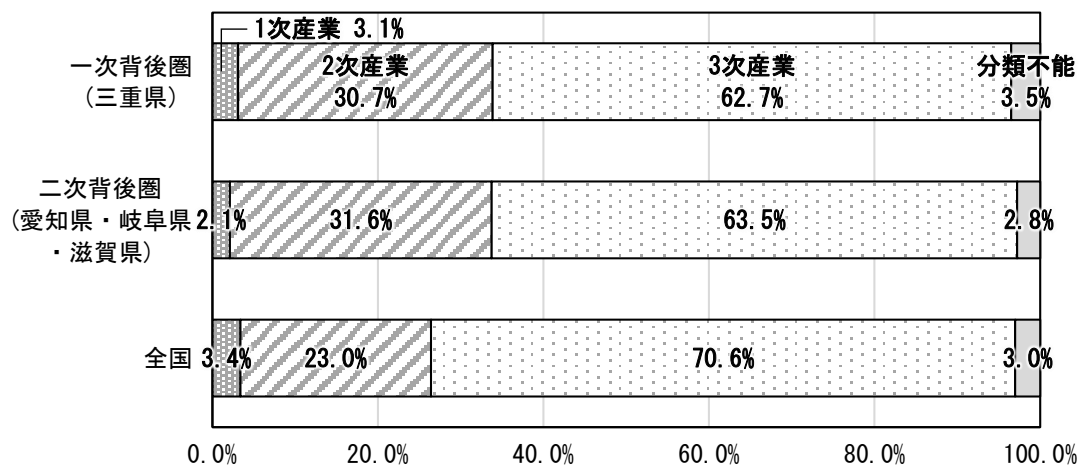
【2010年】



【2015年】



【2020年】



図Ⅷ-2-4 産業別就業者の比率

2) 工業

事業所数は、2007年から2017年にかけて全国的に減少傾向であったが、2022年には全体的に回復傾向にある。一次背後圏である三重県の事業所が全国に占める割合は、それぞれ約1.8%程度であり、2007年から2022年まで大きな変化は見られない。

表Ⅷ-2-3 事業所数の推移

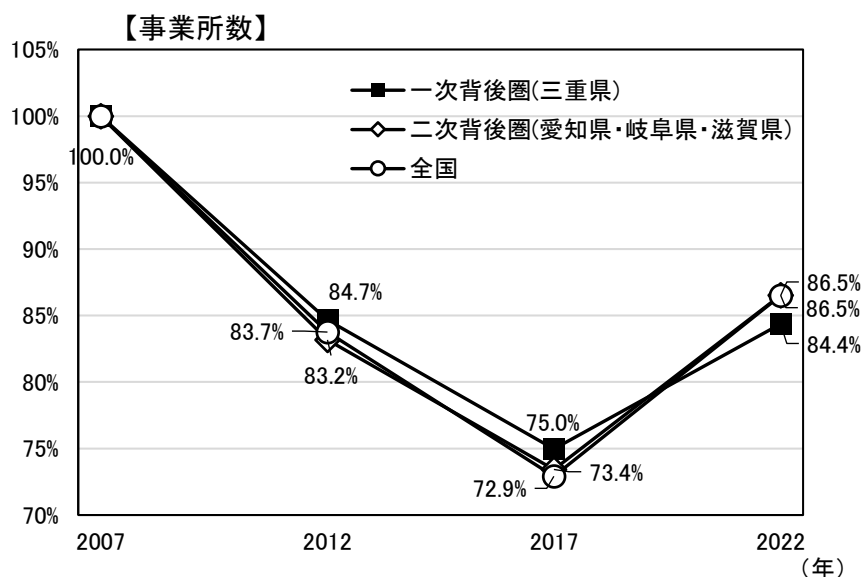
単位：事業所

	2007年		2012年		2017年		2022年	
	事業所数	シェア	事業所数	シェア	事業所数	シェア	事業所数	シェア
一次背後圏 三重県	4,598	(1.8%)	3,893	(1.8%)	3,447	(1.8%)	3,879	(1.7%)
二次背後圏	32,535	(12.6%)	27,063	(12.5%)	23,888	(12.7%)	28,151	(12.6%)
愛知県	21,768	(8.4%)	17,840	(8.2%)	15,576	(8.3%)	18,509	(8.3%)
岐阜県	7,508	(2.9%)	6,401	(3.0%)	5,621	(3.0%)	6,519	(2.9%)
滋賀県	3,259	(1.3%)	2,822	(1.3%)	2,691	(1.4%)	3,123	(1.4%)
背後圏計	37,133	(14.4%)	30,956	(14.3%)	27,335	(14.5%)	32,030	(14.3%)
全国	258,232	(100.0%)	216,262	(100.0%)	188,249	(100.0%)	223,391	(100.0%)

※従業員4人以上の事業所を対象としている。

※()は全国に占める割合

資料：「工業統計調査」経済産業省、「経済センサス-活動調査」総務省・経済産業省



図Ⅷ-2-5 事業所の推移 (2007年を100%とした場合)

製造品出荷額等は、2012年に全国的に減少したものの、増加傾向にある。2022年には全体的に2007年を上回る増加率となっている。

表Ⅷ-2-4 製造品出荷額等の推移

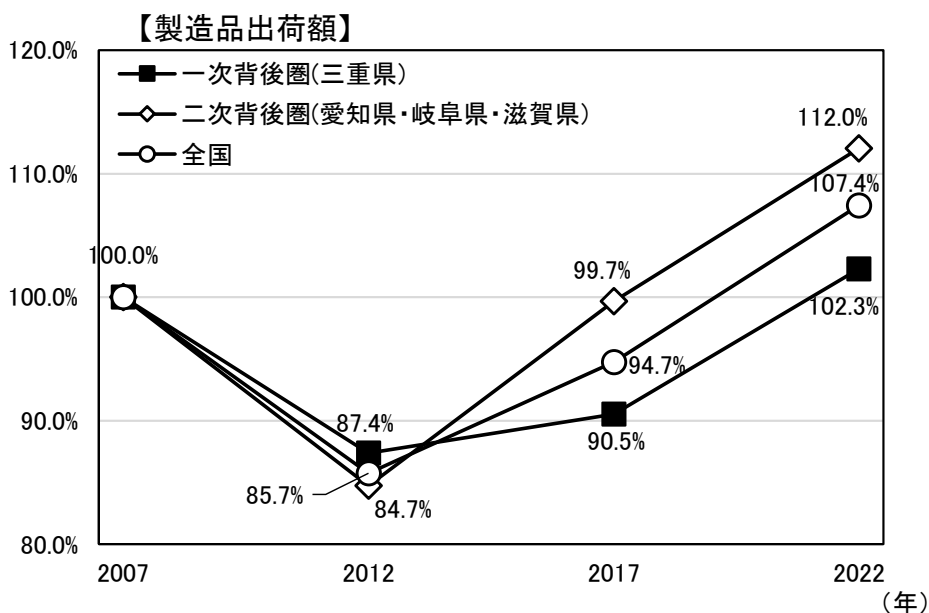
単位：億円

	2007年		2012年		2017年		2022年	
	出荷額	シェア	出荷額	シェア	出荷額	シェア	出荷額	シェア
一次背後圏 (三重県)	116,018	(3.4%)	101,370	(3.5%)	105,034	(3.3%)	118,668	(3.3%)
二次背後圏	605,937	(18.0%)	513,326	(17.8%)	603,888	(18.9%)	678,932	(18.8%)
愛知県	474,827	(14.1%)	400,332	(13.9%)	469,681	(14.7%)	524,098	(14.5%)
岐阜県	58,786	(1.7%)	50,082	(1.7%)	56,271	(1.8%)	65,412	(1.8%)
滋賀県	72,324	(2.1%)	62,912	(2.2%)	77,936	(2.4%)	89,422	(2.5%)
背後圏計	721,955	(21.4%)	614,696	(21.3%)	708,922	(22.2%)	797,600	(22.0%)
全国	3,367,566	(100.0%)	2,887,276	(100.0%)	3,190,358	(100.0%)	3,617,749	(100.0%)

※従業員4人以上の事業所を対象としている。

※()は全国に占める割合

資料：「工業統計調査」経済産業省、「経済センサス-活動調査」総務省・経済産業省



図Ⅷ-2-6 製造品出荷額等の推移 (2007年を100%とした場合)

2022年における一次背後圏の三重県では、「輸送用機械器具製造業」が約23%、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が約16%、二次背後圏では「輸送用機械器具製造業」が約45%、「電気機械器具製造業」が約8%となっている。

表Ⅷ-2-5 製造品出荷額等（2022年上位5業種）

【一次背後圏(三重県)】

	業種分類	出荷額等 (億円)	シェア
1位	輸送用機械器具製造業	27,244	(23.0%)
2位	電子部品・デバイス・電子回路製造業	18,993	(16.0%)
3位	化学工業	14,224	(12.0%)
4位	電気機械器具製造業	8,957	(7.5%)
5位	石油製品・石炭製品製造業	7,736	(6.5%)
	その他	41,513	(35.0%)
	一次背後圏(三重県) 合計	118,668	(100.0%)

【二次背後圏(愛知県・岐阜県・滋賀県)】

	業種分類	出荷額等 (億円)	シェア
1位	輸送用機械器具製造業	305,553	(45.0%)
2位	電気機械器具製造業	54,755	(8.1%)
3位	生産用機械器具製造業	37,139	(5.5%)
4位	鉄鋼業	35,607	(5.2%)
5位	化学工業	31,234	(4.6%)
	その他	214,644	(31.6%)
	二次背後圏(愛知県・岐阜県・滋賀県) 合計	678,932	(100.0%)

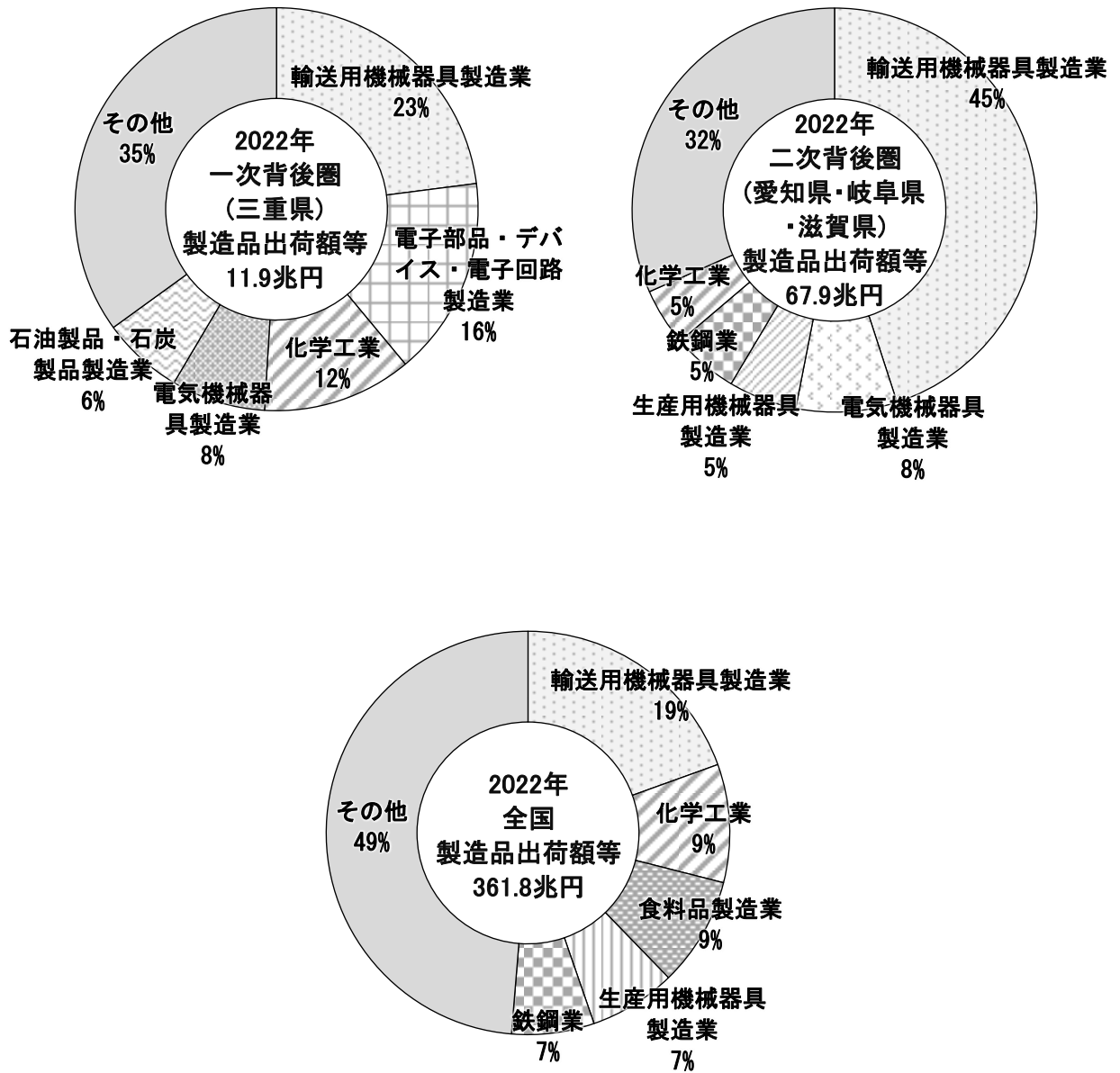
【全国】

	業種分類	出荷額等 (億円)	シェア
1位	輸送用機械器具製造業	705,284	(19.5%)
2位	化学工業	342,810	(9.5%)
3位	食料品製造業	317,264	(8.8%)
4位	生産用機械器具製造業	251,471	(7.0%)
5位	鉄鋼業	239,410	(6.6%)
	その他	1,761,509	(48.7%)
	全国 合計	3,617,749	(100.0%)

※従業員4人以上の事業所を対象としている。

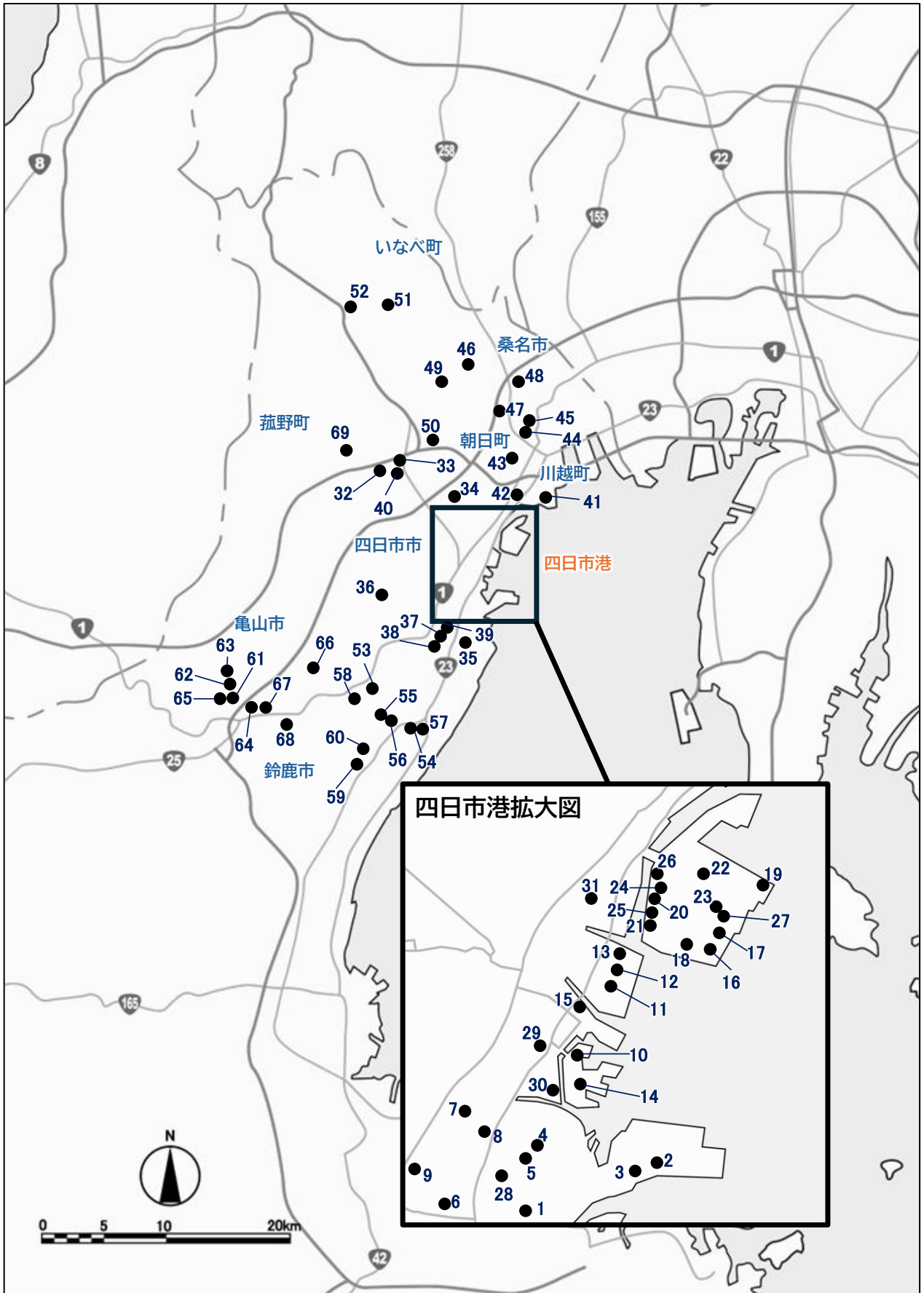
※端数処理のため合計と内訳の和は必ずしも一致しない。

資料:「2023年経済構造実態調査(製造業事業所調査)」経済産業省



図VIII-2-7 製造品出荷額等比率 (2022年)

3) 企業立地



図Ⅷ-2-8 四日市港背後企業立地状況

表Ⅷ-2-6 立地企業一覧

No	企業名	業種	地区名	No	企業名	業種	地区名
1	昭和四日市石油(株) 四日市製油所	石油製品・石炭製品	塩浜町	32	四日市YKKAP工業(株)	非鉄金属	四日市市 中野町
2	日本アエロジル(株)	化学工業	三田町	33	CKD(株)	はん用機械器具	四日市市 小牧町
3	石原産業(株)四日市工場	化学工業	石原町	34	キオクシア(株)四日市工場	電気機械器具	四日市市 山之色
4	三菱ケミカル(株) 東海事業所塩浜地区	化学工業	東邦町	35	東洋紡績(株)三重工場	化学工業	四日市市 楠町本郷
5	四日市合成(株)四日市工場	化学工業	宮東町	36	大陽化学(株)南部工場	食料品	四日市市 山田町
6	JSR(株)四日市工場	化学工業	川尻町	37	ライオン・スペシャリ ティ・ケミカルズ(株) 四日市工場	化学工業	四日市市 大治田
7	三菱ガス化学(株) 四日市工場	化学工業	日永東	38	三菱ケミカル(株) 東海事業所大治田工場	化学工業	四日市市 大治田
8	味の素(株)東海事業所	食料品	日永	39	三菱ケミカル(株) 東海事業所川尻地区	化学工業	四日市市 川尻
9	パナソニック インダストリー(株) 四日市工場	電子部品・デバイス・電子回路	馳出	40	ホンダオートボディー(株)	輸送用機械器具	四日市市 上海老町
10	日本板硝子(株)四日市工場	窯業・土石製品	千歳町	41	JERA川越火力発電所	エネルギー供給	川越町
11	コスモ石油(株) 四日市製油所	石油製品・石炭製品	大協町	42	株式会社TANISEI	石油製品・石炭製品	川越町
12	KHネオケム(株)	化学工業	大協町	43	(株)東芝三重工場	電気機械器具	朝日町
13	JERA四日市火力発電所	エネルギー供給	三郎町	44	桑名金属工業(株)	はん用機械器具	桑名市
14	第一工業製薬(株) 四日市工場千歳地区	化学工業	千歳町	45	桑名金属ファインテック (株)	はん用機械器具	桑名市
15	レゾナック・ガスプロダクト(株) 四日市工場	化学工業	北納屋町	46	ユナイテッド・セミコンダ クター・ジャパン(株) 三重工場	電子部品・デバイス・ 電子回路	桑名市
16	東邦ガス(株)四日市工場	エネルギー供給	霞	47	ヤマザキマザックマニュ ファクチャリング(株)	生産用機械器具	桑名市
17	JERA四日市LNGセンター	エネルギー供給	霞	48	NTN(株)桑名製作所	一般機械器具	桑名市
18	四日市LPG基地(株)	エネルギー供給	霞	49	株式会社ADEKA三重工場	化学工業	東員町
19	中部資材株式会社四日市支店 中部コールセンター	物流・倉庫	霞	50	TOYO TIRE(株)桑名工場	ゴム製品	東員町
20	東ソー(株)四日市事業所	化学工業	霞	51	トヨタ車体(株)いなべ工場	輸送用機械器具	いなべ町
21	KHネオケム(株) 四日市工場霞ヶ浦製造所	化学工業	霞	52	パロマ工業(株)北勢工場	一般機械器具	いなべ町
22	DIC株式会社四日市工場	化学工業	霞	53	旭化成(株)鈴鹿工場	化学工業	鈴鹿市
23	BASFジャパン(株) 四日市霞工場	化学工業	霞	54	AGF鈴鹿株式会社	飲料・たばこ・飼料	鈴鹿市
24	丸善石油化学(株) 四日市工場	化学工業	霞	55	住友電装(株)鈴鹿製作所	輸送用機械器具	鈴鹿市
25	上野製薬(株)四日市工場	化学工業	霞	56	住友ファーマ(株) 鈴鹿工場	化学工業	鈴鹿市
26	四日市オキントン(株) 四日市工場	化学工業	霞	57	富士電機(株)鈴鹿工場	電気機械器具	鈴鹿市
27	第一工業製薬(株) 四日市工場霞地区	化学工業	霞	58	本田技研工業(株) 鈴鹿製作所	輸送用機械器具	鈴鹿市
28	コスモ電子(株)	電子部品・デバイス・電子回路	宝町	59	高純度シリコン(株) 鈴鹿工場	電子部品・デバイス・ 電子回路製造業	鈴鹿市
29	住友電装(株)	自動車・自動車部品	西末広町	60	不二精機(株)鈴鹿工場	金属製品	鈴鹿市
30	伊藤製油(株)	食料品	未広町	61	(株)ジェイテクト亀山工場	輸送用機械器具	亀山市
31	富士電機(株)三重工場	電気機械器具	富士町	62	シャープ(株)亀山工場	電気機械器具	亀山市
				63	TOPPANエレクトロニクス プロダクツ(株)三重工場	印刷・同関連業	亀山市
				64	日東電工(株)亀山事業所	プラスチック製品	亀山市
				65	亀山ビード(株)亀山工場	金属製品	亀山市
				66	古河電気工業(株) 三重事業所	非鉄金属	亀山市
				67	(株)菱電三重製作所	業務用機械器具	亀山市
				68	カメヤマ(株)	化学工業	亀山市
				69	大和ハウス工業(株) 三重工場	金属製品	菟野町

4) 観光

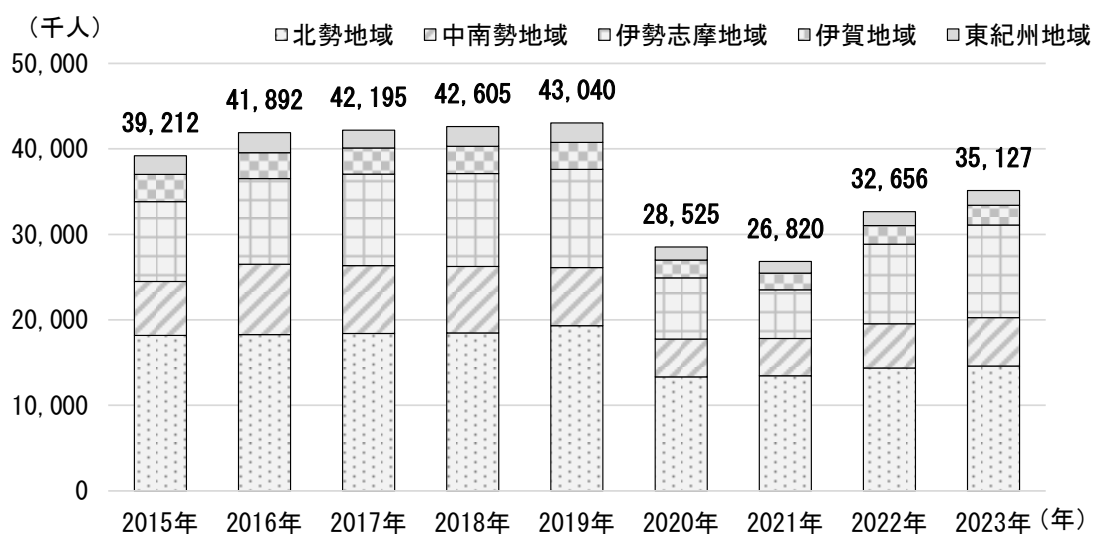
三重県における観光入込客数は、2015年から2019年にかけて増加傾向にあったが、2020年・2021年には大幅に減少し、それ以降は増加傾向にある。2023年における四日市市が立地している北勢地域もの重県全体における割合は、41.5%と最も多くなっている。

表Ⅷ-2-7 地域別観光入込客数の推移

単位：千人

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
北勢地域	18,195	18,276	18,401	18,469	19,330	13,344	13,470	14,382	14,593
中南勢地域	6,304	8,239	7,955	7,785	6,790	4,412	4,337	5,166	5,672
伊勢志摩地域	9,325	10,003	10,685	10,854	11,488	7,144	5,693	9,297	10,820
伊賀地域	3,197	3,026	3,058	3,182	3,158	2,090	1,979	2,182	2,322
東紀州地域	2,191	2,348	2,096	2,315	2,274	1,535	1,341	1,629	1,720
合計	39,212	41,892	42,195	42,605	43,040	28,525	26,820	32,656	35,127

資料：「観光レクリエーション入込客数推計書 観光客実態調査報告書 全国観光統計基準採用 令和5年」三重県



図Ⅷ-2-9 地域別観光入込客数の推移

(5) 背後地域の道路網

四日市港周辺の道路網は以下に示すとおりである。

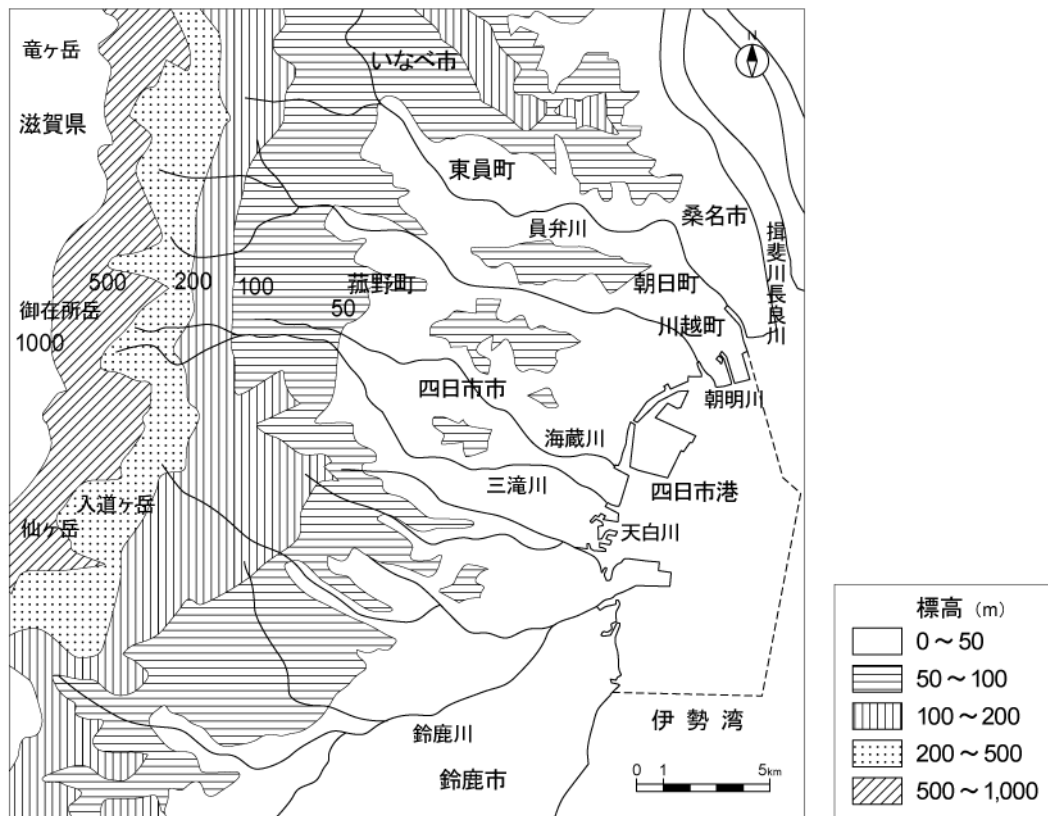


図Ⅷ-2-10 三重県道路網

2. 2 自然条件

(1) 地勢

当地域は伊勢湾に面して南北に弧状に伸びる伊勢平野の東部に位置し、東に向かって開け、はるか対岸には知多半島を望み、海岸線から西方2~4kmの間は平野部で、それに続いて標高50~100mの丘陵地及び台地が連なり、西端には南北に約50km、標高800~1,200mの鈴鹿連邦を擁している。その鈴鹿山脈から発する河川は北から員弁川、朝明川、海蔵川、三滝川、天白川及び鈴鹿川などで、その北部にはいわゆる木曾三川の揖斐川、長良川、木曾川の河川があり、このような河川の河口に形成された沖積土地帯に発達した地域である。

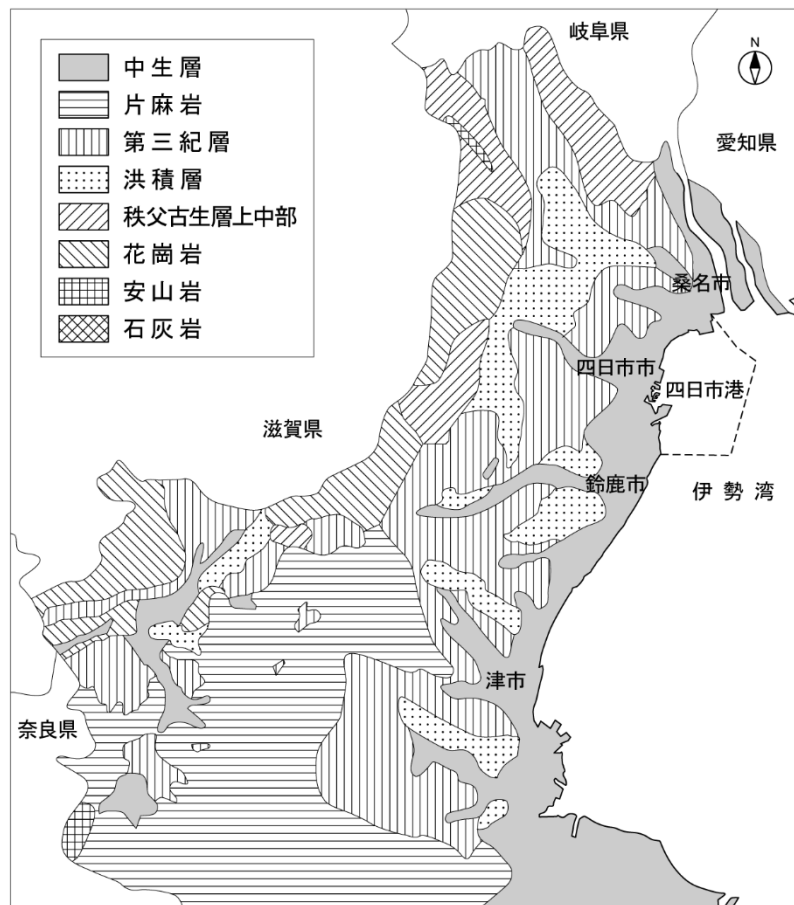


図Ⅷ-2-11 四日市港周辺の地勢

(2) 地質

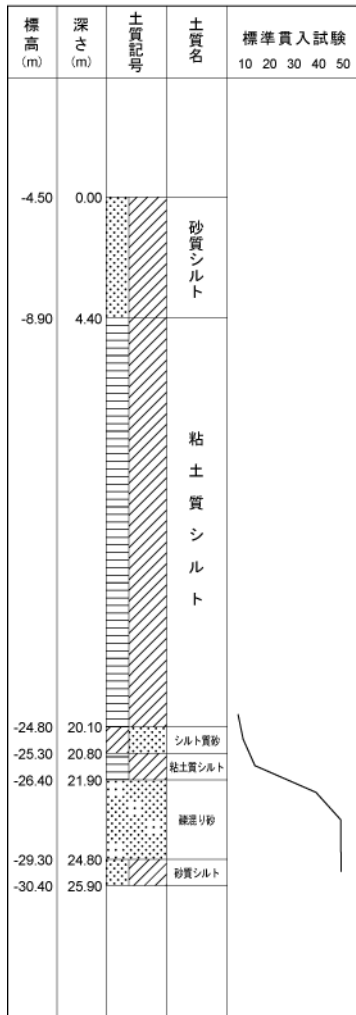
四日市港沿岸の地質は、海蔵川より南の午起地先から石原地先にかけては一般に軟弱な沖積粘土層が深く続き、その下部には粘土、シルト、砂礫等比較的薄い互層が連続しその粘土層はかなりしまっている。

海蔵川より北の霞ヶ浦地区、川越町、桑名市付近の平地盤は、ほぼ様な構成となっており、上部から上部砂層、上部粘土層、下部砂層、下部粘土層となっている。上部砂層の厚さは場所によって、5～10mの厚さで地域全般にわたっているが、霞ヶ浦地先ではこの層は見られない。その砂層は中位の強さをもっている。上部粘土層は霞ヶ浦付近で最も薄く約6m、長良川口で最も厚く約35mで南から北、西から東へ徐々に厚さを増し、全体に非常に軟弱である。下部砂層は厚さ約30m以下であるが、海蔵川付近で最も薄く1～2m程度で、この層はかなりしまっている。下部粘土層は、下部砂層の下位一体に広く分布し、上部粘土層よりはるかに硬くなっている。

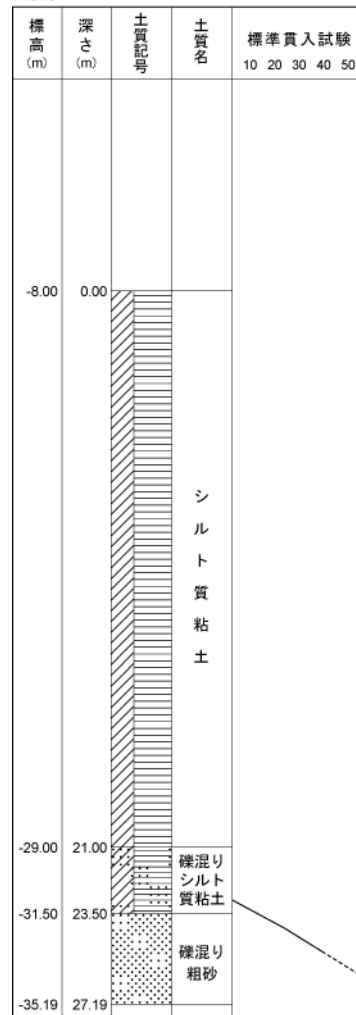


図Ⅷ-2-12 四日市港周辺の地質

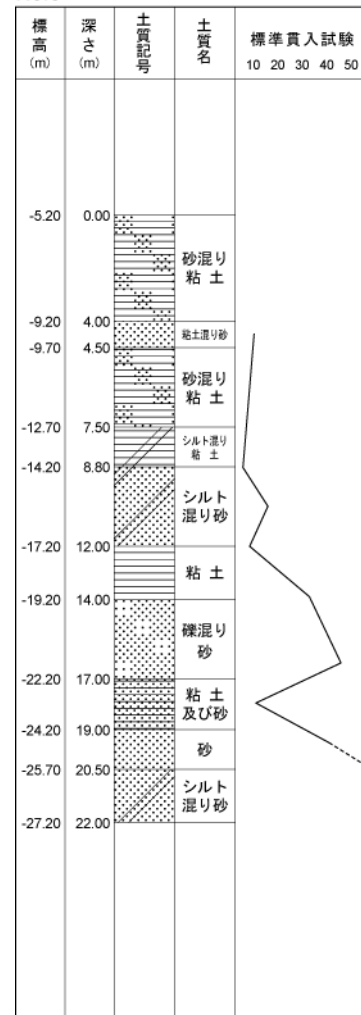
No.4



No.5



No.6



図Ⅷ-2-14(2) 四日市港ボーリング柱状図 (その2)

(3) 気象

1) 気候

四日市市の2022年の平均気温は15.8℃であり、年間降水量は1,758.5mmである。

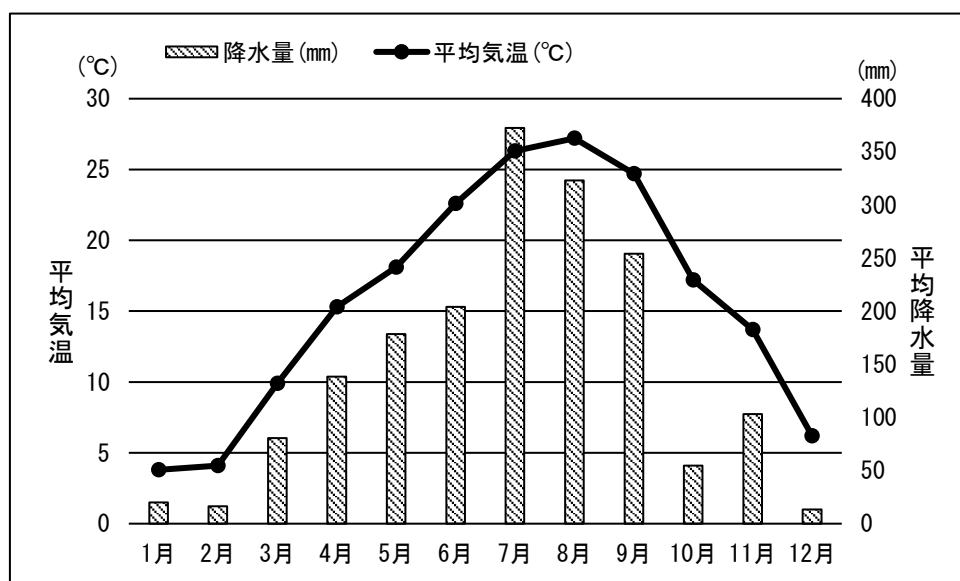
表Ⅷ-2-8 気象の概要

(2022年の平均)

月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温	平均気温(℃)	3.8	4.1	9.9	15.3	18.1	22.6	26.3	27.2	24.7	17.2	13.7	6.2
	平均最高気温(℃)	8.7	9.7	15.5	20.7	23.4	27.1	30.5	31.9	29.1	22.8	19.1	11.4
	平均最低気温(℃)	-0.4	-0.4	4.4	10.2	13.1	18.5	23.1	24.1	21.6	12.5	9.1	1.8
降雨日数		4	5	5	12	11	9	15	17	15	5	6	4
降水量(mm)		20.0	16.5	80.5	138.5	178.5	204.0	372.5	323.0	254.0	54.5	103.0	13.5

(2022年の平均)

年平均気温(℃)	15.8
年間降雨日数	98
年間降水量(mm)	1,758.5



注：降雨日数は、降雨量1mm以上の日数である

資料：四日市気象台の観測記録

図Ⅷ-2-15 平均気温及び降水量

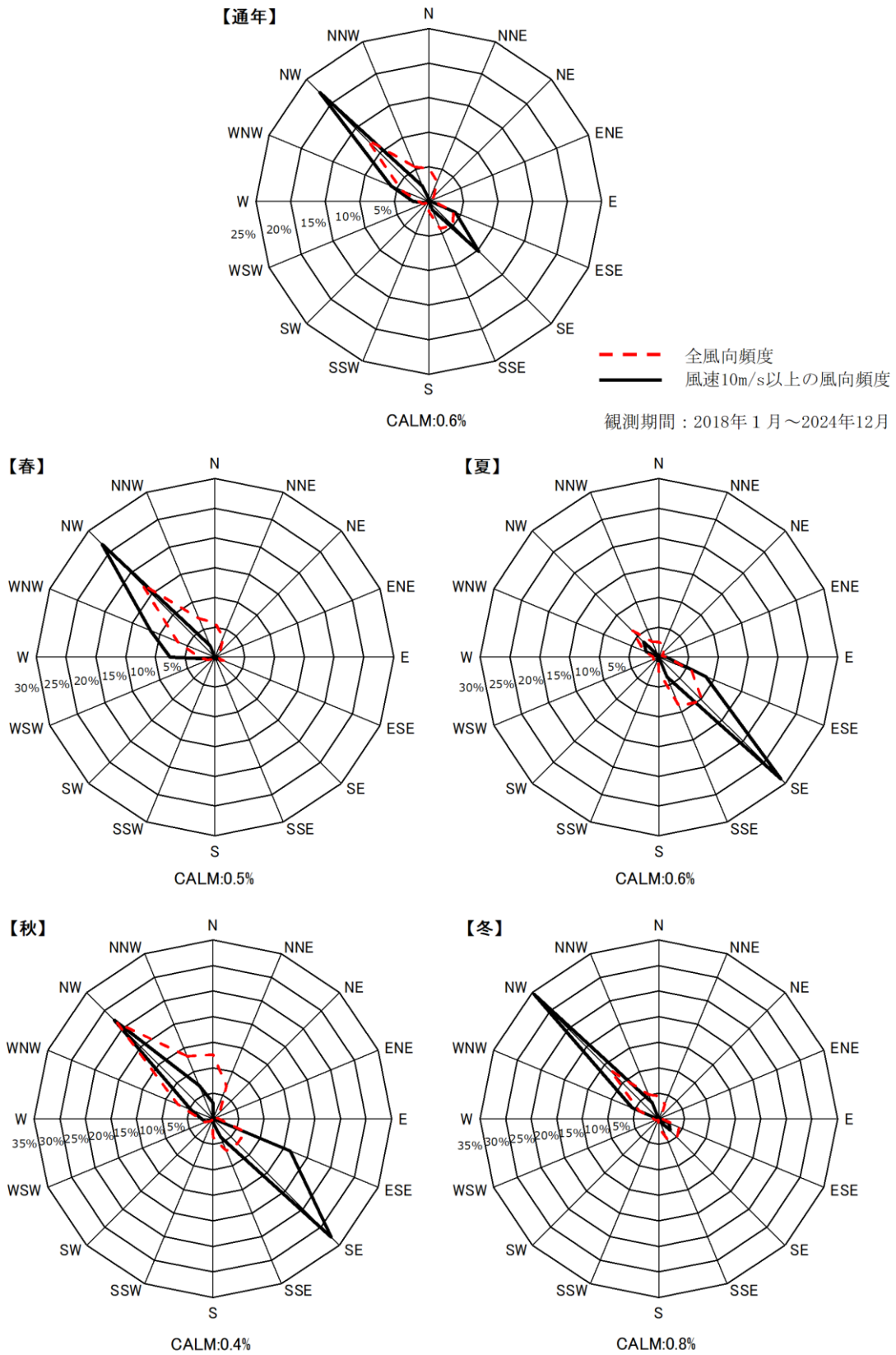
2) 風況

四日市港における風況観測は、下図に示す位置で実施されている。



図Ⅶ-2-16 風況観測位置図

四日市港の風況は、北西方向と南東方向の風が比較的多い傾向である。秋から春にかけては北西方向、夏秋は南東方向が多い傾向であった。



図Ⅷ-2-17 風況観測位置図

表Ⅷ-2-9 風向-風速別出現回数及び出現率

	春	夏	秋	冬	通年
欠測	141	605	847	117	1,710
測得率(%)	98.7%	94.5%	92.3%	98.9%	96.1%

※1日24回計測

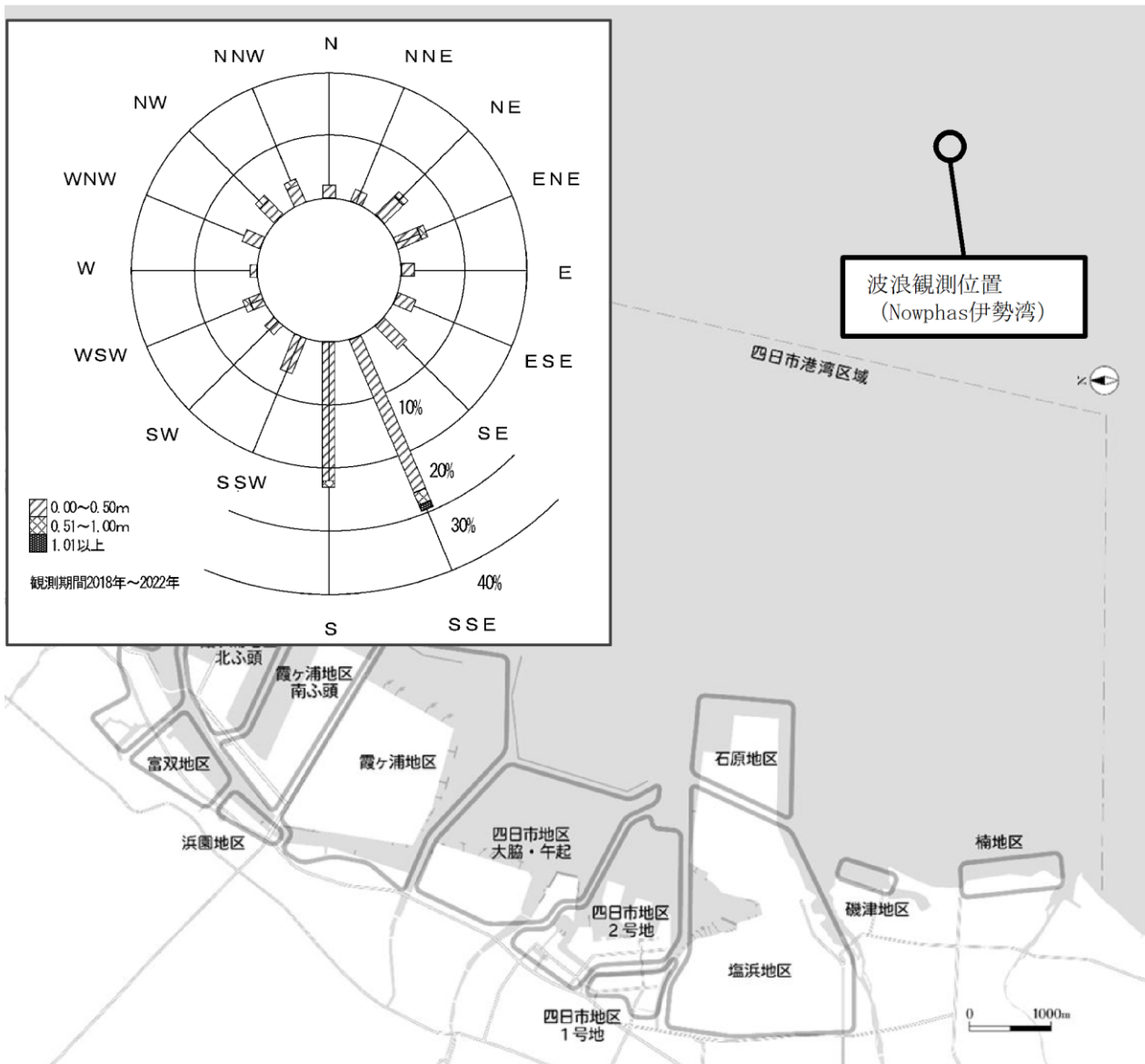
季節	風速 (m/s)	風向																計
		N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	
通年	0~1.9	1331 (3.12%)	875 (2.05%)	401 (0.94%)	189 (0.44%)	287 (0.67%)	815 (1.91%)	535 (1.26%)	241 (0.57%)	127 (0.30%)	31 (0.07%)	71 (0.17%)	239 (0.56%)	472 (1.11%)	768 (1.80%)	1802 (4.23%)	1812 (4.25%)	9996 (23.45%)
	2.0~3.9	2227 (5.23%)	1482 (3.48%)	385 (0.90%)	122 (0.29%)	280 (0.66%)	1845 (4.33%)	1614 (3.79%)	1196 (2.81%)	464 (1.09%)	62 (0.15%)	142 (0.33%)	391 (0.92%)	439 (1.03%)	1019 (2.39%)	2317 (5.44%)	1646 (3.86%)	15631 (36.67%)
	4.0~5.9	367 (0.86%)	233 (0.55%)	52 (0.12%)	11 (0.03%)	47 (0.11%)	354 (0.83%)	1218 (2.86%)	1432 (3.36%)	529 (1.24%)	18 (0.04%)	66 (0.15%)	137 (0.32%)	151 (0.35%)	952 (2.23%)	3283 (7.70%)	624 (1.46%)	9474 (22.23%)
	6.0~7.9	74 (0.17%)	29 (0.07%)	6 (0.01%)		7 (0.02%)	142 (0.33%)	582 (1.37%)	615 (1.44%)	140 (0.33%)	5 (0.01%)	9 (0.02%)	51 (0.12%)	104 (0.24%)	656 (1.54%)	2184 (5.12%)	344 (0.81%)	4948 (11.61%)
	8.0~9.9	8 (0.02%)	1 (0.00%)			2 (0.00%)	3 (0.01%)	68 (0.16%)	180 (0.42%)	100 (0.23%)	7 (0.02%)		10 (0.02%)	60 (0.14%)	283 (0.66%)	1010 (2.37%)	117 (0.27%)	1849 (4.34%)
	10.0~11.9	4 (0.01%)			1 (0.00%)	1 (0.00%)	31 (0.07%)	63 (0.15%)	11 (0.03%)		2 (0.00%)		6 (0.01%)	27 (0.06%)	76 (0.18%)	281 (0.66%)	32 (0.08%)	535 (1.26%)
	12.0~			1 (0.00%)		3 (0.01%)	29 (0.07%)	85 (0.20%)	8 (0.02%)	1 (0.00%)			1 (0.00%)	6 (0.01%)	10 (0.02%)	42 (0.10%)	3 (0.01%)	189 (0.44%)
	総計	4011 (9.41%)	2620 (6.15%)	845 (1.98%)	325 (0.76%)	628 (1.47%)	3284 (7.70%)	4277 (10.03%)	3603 (8.45%)	1268 (2.97%)	118 (0.28%)	288 (0.68%)	835 (1.96%)	1259 (2.95%)	3764 (8.83%)	10919 (25.62%)	4578 (10.74%)	42622 (100.00%)
	強風 (10m以上)	4 (0.01%)		1 (0.00%)	1 (0.00%)	4 (0.01%)	60 (0.14%)	148 (0.35%)	19 (0.04%)	1 (0.00%)	2 (0.00%)		7 (0.02%)	33 (0.08%)	86 (0.20%)	323 (0.76%)	35 (0.08%)	724 (1.70%)
	0~1.9	342 (3.30%)	224 (2.16%)	72 (0.69%)	34 (0.33%)	66 (0.64%)	175 (1.69%)	104 (1.00%)	59 (0.57%)	36 (1.41%)	9 (0.09%)	19 (0.18%)	41 (0.40%)	82 (0.79%)	166 (1.60%)	530 (5.11%)	416 (4.01%)	2375 (22.91%)
2.0~3.9	445 (4.29%)	340 (3.28%)	71 (0.68%)	23 (0.22%)	66 (0.64%)	537 (5.18%)	373 (3.60%)	310 (2.99%)	146 (1.32%)	27 (0.26%)	25 (0.24%)	62 (0.60%)	75 (0.72%)	165 (1.59%)	419 (4.04%)	298 (2.87%)	3382 (32.62%)	
4.0~5.9	104 (1.00%)	65 (0.63%)	11 (0.11%)	4 (0.04%)	14 (0.14%)	110 (1.06%)	305 (2.94%)	342 (3.30%)	137 (1.22%)	11 (0.11%)	5 (0.05%)	28 (0.27%)	23 (0.22%)	219 (2.11%)	701 (6.76%)	172 (1.66%)	2251 (21.71%)	
6.0~7.9	22 (0.21%)	9 (0.09%)				39 (0.38%)	195 (1.88%)	123 (1.19%)	23 (0.22%)	2 (0.02%)	2 (0.02%)	16 (0.15%)	16 (0.15%)	200 (1.93%)	708 (6.83%)	113 (1.09%)	1468 (14.16%)	
8.0~9.9						21 (0.20%)	50 (0.48%)	22 (0.21%)				4 (0.04%)	3 (0.03%)	110 (1.06%)	377 (3.64%)	53 (0.51%)	640 (6.17%)	
10.0~11.9						8 (0.08%)	12 (0.12%)	3 (0.03%)				2 (0.02%)	1 (0.01%)	25 (0.24%)	145 (1.40%)	16 (0.15%)	212 (2.04%)	
12.0~						3 (0.03%)	4 (0.04%)							3 (0.03%)	29 (0.28%)	1 (0.01%)	40 (0.39%)	
総計	913 (8.81%)	638 (6.15%)	154 (1.49%)	61 (0.59%)	146 (1.41%)	893 (8.61%)	1043 (10.06%)	859 (8.29%)	342 (3.30%)	49 (0.47%)	51 (0.49%)	153 (1.48%)	200 (1.93%)	888 (8.56%)	2909 (28.06%)	1069 (10.31%)	10368 (100.00%)	
強風 (10m以上)						2 (0.02%)	2 (0.02%)					3 (0.03%)	29 (0.28%)	45 (0.43%)	103 (0.99%)	8 (0.08%)	192 (1.85%)	
0~1.9	226 (2.06%)	173 (1.58%)	130 (1.18%)	74 (0.67%)	137 (1.25%)	342 (3.11%)	237 (2.16%)	109 (0.99%)	37 (0.34%)	10 (0.09%)	16 (0.15%)	59 (0.54%)	114 (1.04%)	161 (1.47%)	252 (2.29%)	344 (3.13%)	2421 (22.05%)	
2.0~3.9	273 (2.49%)	263 (2.40%)	92 (0.84%)	44 (0.40%)	120 (1.09%)	674 (6.14%)	862 (7.85%)	536 (4.88%)	145 (1.32%)	13 (0.12%)	45 (0.41%)	107 (0.97%)	68 (0.62%)	163 (1.48%)	332 (3.02%)	183 (1.67%)	3920 (35.70%)	
4.0~5.9	46 (0.42%)	45 (0.41%)	21 (0.19%)	4 (0.04%)	22 (0.20%)	180 (1.64%)	737 (6.71%)	838 (7.63%)	246 (2.24%)	5 (0.05%)	29 (0.26%)	39 (0.36%)	17 (0.15%)	142 (1.29%)	489 (4.45%)	54 (0.49%)	2914 (26.54%)	
6.0~7.9	7 (0.06%)	8 (0.07%)	2 (0.02%)		7 (0.06%)	74 (0.67%)	314 (2.86%)	404 (3.68%)	86 (0.78%)	2 (0.02%)	3 (0.03%)	12 (0.11%)	1 (0.01%)	93 (0.85%)	234 (2.13%)	26 (0.24%)	1273 (11.59%)	
8.0~9.9	1 (0.01%)				2 (0.02%)	2 (0.02%)	31 (0.28%)	95 (0.87%)	59 (0.54%)	7 (0.06%)				20 (0.18%)	79 (0.72%)	5 (0.05%)	301 (2.74%)	
10.0~11.9				1 (0.01%)	1 (0.01%)	9 (0.08%)	25 (0.23%)	6 (0.05%)		2 (0.02%)				7 (0.06%)	10 (0.09%)	1 (0.01%)	62 (0.56%)	
12.0~			1 (0.01%)		3 (0.03%)	17 (0.15%)	63 (0.57%)	5 (0.05%)							1 (0.01%)		90 (0.82%)	
総計	553 (5.04%)	489 (4.45%)	246 (2.24%)	125 (1.14%)	292 (2.66%)	1327 (12.08%)	2333 (21.25%)	1957 (17.82%)	521 (4.74%)	32 (0.29%)	93 (0.85%)	217 (1.98%)	200 (1.82%)	586 (5.34%)	1397 (12.72%)	613 (5.58%)	10981 (100.00%)	
強風 (10m以上)			1 (0.01%)	1 (0.01%)	4 (0.04%)	26 (0.24%)	88 (0.80%)	11 (0.10%)		2 (0.02%)		7 (0.06%)	11 (0.10%)	1 (0.01%)	11 (0.10%)	1 (0.01%)	152 (1.38%)	
0~1.9	365 (3.51%)	216 (2.08%)	88 (0.85%)	38 (0.37%)	46 (0.44%)	189 (1.82%)	126 (1.21%)	51 (0.49%)	38 (0.37%)	5 (0.05%)	18 (0.17%)	53 (0.51%)	121 (1.16%)	175 (1.68%)	461 (4.43%)	521 (5.01%)	2511 (24.14%)	
2.0~3.9	820 (7.88%)	443 (4.26%)	101 (0.97%)	17 (0.16%)	55 (0.53%)	409 (3.93%)	305 (2.93%)	299 (2.87%)	162 (1.56%)	15 (0.14%)	36 (0.35%)	93 (0.89%)	112 (1.08%)	241 (2.32%)	659 (6.34%)	575 (5.53%)	4342 (41.74%)	
4.0~5.9	96 (0.92%)	52 (0.50%)	6 (0.06%)	3 (0.03%)	11 (0.11%)	56 (0.54%)	169 (1.62%)	243 (2.34%)	142 (1.37%)	2 (0.02%)	11 (0.11%)	21 (0.20%)	20 (0.19%)	212 (2.04%)	982 (9.44%)	166 (1.60%)	2192 (21.07%)	
6.0~7.9	11 (0.11%)	4 (0.04%)	1 (0.01%)			29 (0.28%)	69 (0.66%)	86 (0.83%)	31 (0.30%)	1 (0.01%)	1 (0.01%)	5 (0.05%)	6 (0.06%)	118 (1.13%)	484 (4.65%)	85 (0.82%)	931 (8.95%)	
8.0~9.9	5 (0.05%)	1 (0.01%)			1 (0.01%)	16 (0.15%)	34 (0.33%)	19 (0.18%)				3 (0.03%)	3 (0.03%)	32 (0.31%)	162 (1.56%)	22 (0.21%)	298 (2.86%)	
10.0~11.9	4 (0.04%)					13 (0.12%)	24 (0.23%)	2 (0.02%)				1 (0.01%)	1 (0.01%)	3 (0.03%)	32 (0.31%)	7 (0.07%)	87 (0.84%)	
12.0~						8 (0.08%)	18 (0.17%)	3 (0.03%)	1 (0.01%)			1 (0.01%)	2 (0.02%)	3 (0.03%)	3 (0.03%)	2 (0.02%)	41 (0.39%)	
総計	1301 (12.51%)	716 (6.88%)	196 (1.88%)	58 (0.56%)	113 (1.09%)	720 (6.92%)	745 (7.16%)	703 (6.76%)	374 (3.60%)	23 (0.22%)	66 (0.63%)	177 (1.70%)	265 (2.55%)	784 (7.54%)	2783 (26.75%)	1378 (13.25%)	10402 (100.00%)	
強風 (10m以上)	4 (0.04%)					21 (0.20%)	42 (0.40%)	5 (0.05%)	1 (0.01%)			2 (0.02%)	3 (0.03%)	6 (0.06%)	35 (0.34%)	9 (0.09%)	128 (1.23%)	
0~1.9	398 (3.66%)	262 (2.41%)	111 (1.02%)	43 (0.40%)	38 (0.35%)	109 (1.00%)	68 (0.63%)	22 (0.20%)	16 (0.15%)	7 (0.06%)	18 (0.17%)	86 (0.79%)	155 (1.43%)	266 (2.45%)	559 (5.14%)	531 (4.88%)	2689 (24.74%)	
2.0~3.9	689 (6.34%)	436 (4.01%)	121 (1.11%)	38 (0.35%)	39 (0.36%)	225 (2.07%)	74 (0.68%)	51 (0.47%)	11 (0.10%)	7 (0.06%)	36 (0.33%)	129 (1.19%)	184 (1.69%)	450 (4.14%)	907 (8.34%)	590 (5.43%)	3987 (36.68%)	
4.0~5.9	121 (1.11%)	71 (0.65%)	14 (0.13%)			8 (0.07%)	7 (0.06%)	9 (0.08%)	4 (0.04%)		4 (0.04%)	21 (0.19%)	49 (0.45%)	91 (0.84%)	379 (3.49%)	1111 (10.22%)	232 (2.13%)	2117 (19.47%)
6.0~7.9	34 (0.31%)	8 (0.07%)	3 (0.03%)				4 (0.04%)	2 (0.02%)				3 (0.03%)	18 (0.17%)	81 (0.75%)	245 (2.25%)	758 (6.97%)	120 (1.10%)	1276 (11.74%)
8.0~9.9	2 (0.02%)						1 (0.01%)					3 (0.03%)	54 (0.50%)	121 (1.11%)	392 (3.61%)	37 (0.34%)	610 (5.61%)	
10.0~11.9						1 (0.01%)	2 (0.02%)					3 (0.03%)	25 (0.23%)	41 (0.38%)	94 (0.86%)	8 (0.07%)	174 (1.60%)	
12.0~						1 (0.01%)							4 (0.04%)	4 (0.04%)	9 (0.08%)		18 (0.17%)	
総計	1244 (11.44%)	777 (7.15%)	249 (2.29%)	81 (0.75%)	77 (0.71%)	344 (3.16%)	156 (1.44%)	84 (0.77%)	31 (0.29%)	14 (0.13%)	78 (0.72%)	288 (2.65%)	594 (5.46%)	1506 (13.85%)	3830 (35.23%)	1518 (13.96%)	10871 (100.00%)	
強風 (10m以上)						11 (0.10%)	16 (0.15%)	3 (0.03%)				2 (0.02%)	1 (0.01%)	28 (0.26%)	174 (1.60%)	17 (0.16%)	252 (2.32%)	

(4) 海象

1) 波浪

波浪観測位置と波向別・波高階級別の発生頻度分布を図Ⅷ-2-18 に示す。また、「波高一周期」、「波高-波向」、「周期-波向」、「四季別波高-波向」の出現頻度分布を表Ⅷ-2-10～表-2-12 に示す。

波向別の波浪出現状況を見ると、出現率の最も多い波向はSSEの28.3%、次いでSの23.4%である。伊勢湾湾口方向（SSE～SSW）の波浪が全体の51.7%を占めている。



図Ⅷ-2-18 波浪観測位置図・波向別波高出現頻度図（通年）

表Ⅷ-2-10 波高-周期別出現頻度表

規定回数	131,472 回
測得回数	123,953 回 (94.3%)
欠測回数	7,519 回 (5.7%)

【期間：2018年～2022年】

測得率：94.3%

波高\周期	0.0～	1.1～	2.1～	3.1～	4.1～	5.1～	6.1～	7.1～	8.1～	9.1～	10.1～	11.1～	12.1～	13.1～	14.1～	静穏	合計	累計
0.00～				12 0.0%	29 0.0%	20 0.0%	4 0.0%	1 0.0%									66	66
0.11～			1,725 1.4%	13,606 11.0%	9,669 7.8%	2,251 1.8%	452 0.4%	99 0.1%	14 0.0%								27,816	27,882
0.21～			10,262 8.3%	19,436 15.7%	12,273 9.9%	5,109 4.1%	1,999 1.6%	581 0.5%	151 0.1%	23 0.0%	22 0.0%	2 0.0%					49,858	77,740
0.31～			10,581 8.5%	5,990 4.8%	2,296 1.9%	1,775 1.4%	1,203 1.0%	611 0.5%	204 0.2%	50 0.0%	8 0.0%						22,718	100,458
0.41～			6,335 5.1%	3,019 2.4%	819 0.7%	392 0.3%	329 0.3%	239 0.2%	104 0.1%	58 0.0%	14 0.0%						11,309	111,767
0.51～			2,967 2.4%	1,991 1.6%	341 0.3%	128 0.1%	105 0.1%	63 0.1%	38 0.0%	9 0.0%	8 0.0%	1 0.0%					5,651	117,418
0.61～			961 0.8%	1,720 1.4%	255 0.2%	75 0.1%	53 0.0%	23 0.0%	3 0.0%	6 0.0%	5 0.0%	3 0.0%	2 0.0%				3,106	120,524
0.71～			115 0.1%	1,137 0.9%	183 0.1%	28 0.0%	25 0.0%	29 0.0%	1 0.0%				1 0.0%	1 0.0%			1,520	122,044
0.81～			2 0.0%	584 0.5%	159 0.1%	14 0.0%	4 0.0%	11 0.0%									774	122,818
0.91～			314 0.3%	149 0.1%	5 0.0%	2 0.0%			1 0.0%								471	123,289
1.01～			172 0.1%	199 0.2%	4 0.0%												375	123,664
1.21～			19 0.0%	117 0.1%	13 0.0%												149	123,813
1.41～				40 0.0%	40 0.0%												80	123,893
1.61～				10 0.0%	31 0.0%	2 0.0%											43	123,936
1.81～					9 0.0%	3 0.0%											12	123,948
2.01～						1 0.0%											1	123,949
2.21～								1 0.0%									1	123,950
2.41～							1 0.0%	1 0.0%									2	123,952
2.61～								1 0.0%									1	123,953
2.81～																	0	123,953
合計	0 0.0%	0 0.0%	32,948 26.6%	48,000 38.7%	26,539 21.4%	9,894 8.0%	4,183 3.4%	1,660 1.3%	516 0.4%	146 0.1%	57 0.0%	6 0.0%	3 0.0%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	123,953	
累計	0 0.0%	0 0.0%	32,948 26.6%	80,948 65.3%	107,487 86.7%	117,381 94.7%	121,564 98.1%	123,224 99.4%	123,740 99.8%	123,886 99.9%	123,943 100.0%	123,949 100.0%	123,952 100.0%	123,953 100.0%	123,953 100.0%	123,953 100.0%		

表Ⅷ-2-11 波高一波向別出現頻度表

規定回数	131,472 回
測得回数	123,953 回 (94.3%)
欠測回数	7,519 回 (5.7%)

【期間：2018～2022年】

測得率：94.3%

波高\波向	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	静穏	合計	累計
0.00～		2	1	1	3	5	27	12	8	1	3		2	1				66	66
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%				0.1%	0.1%
0.11～	683	1,329	1,197	501	688	1,897	7,989	6,307	2,541	692	440	387	830	1,079	843	413		27,816	27,882
	0.6%	1.1%	1.0%	0.4%	0.6%	1.5%	6.4%	5.1%	2.0%	0.6%	0.4%	0.3%	0.7%	0.9%	0.7%	0.3%		22.4%	22.5%
0.21～	1,201	2,426	2,281	721	1,049	2,306	15,881	13,083	3,401	1,005	812	523	1,445	1,603	1,371	750		49,858	77,740
	1.0%	2.0%	1.8%	0.6%	0.8%	1.9%	12.8%	10.6%	2.7%	0.8%	0.7%	0.4%	1.2%	1.3%	1.1%	0.6%		40.2%	62.7%
0.31～	659	882	1,224	432	837	875	6,011	5,585	1,174	689	785	385	911	784	757	728		22,718	100,458
	0.5%	0.7%	1.0%	0.3%	0.7%	0.7%	4.8%	4.5%	0.9%	0.6%	0.6%	0.3%	0.7%	0.6%	0.6%	0.6%		18.3%	81.0%
0.41～	319	544	733	264	575	446	2,398	2,191	594	378	574	270	593	584	409	437		11,309	111,767
	0.3%	0.4%	0.6%	0.2%	0.5%	0.4%	1.9%	1.8%	0.5%	0.3%	0.5%	0.2%	0.5%	0.5%	0.3%	0.4%		9.1%	90.2%
0.51～	122	473	361	87	275	170	996	823	294	125	483	128	252	442	413	207		5,651	117,418
	0.1%	0.4%	0.3%	0.1%	0.2%	0.1%	0.8%	0.7%	0.2%	0.1%	0.4%	0.1%	0.2%	0.4%	0.3%	0.2%		4.6%	94.7%
0.61～	40	342	195	12	68	51	565	463	116	44	315	66	143	313	304	69		3,106	120,524
	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.5%	0.4%	0.1%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.1%		2.5%	97.2%
0.71～	9	122	95	3	25	25	342	240	35	27	105	40	74	173	179	26		1,520	122,044
	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%		1.2%	98.5%
0.81～	8	31	49	9	9	14	247	127	20	18	25	29	23	73	69	23		774	122,818
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%		0.6%	99.1%
0.91～	4	2	25	15	7	20	195	88	7	7	6	13	22	27	27	6		471	123,289
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.4%	99.5%
1.01～	6	1	12	15	6	20	183	63	12	7	4	4	12	17	11	2		375	123,664
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.3%	99.8%
1.21～			1	3			92	34	8	3		4	3	1				149	123,813
			0.0%	0.0%			0.1%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%				0.1%	99.9%
1.41～							55	21	3			1						80	123,893
							0.0%	0.0%	0.0%			0.0%						0.1%	100.0%
1.61～							29	14										43	123,936
							0.0%	0.0%										0.0%	100.0%
1.81～							10	2										12	123,948
							0.0%	0.0%										0.0%	100.0%
2.01～							1											1	123,949
							0.0%											0.0%	100.0%
2.21～								1										1	123,950
								0.0%										0.0%	100.0%
2.41～							1	1										2	123,952
							0.0%	0.0%										0.0%	100.0%
2.61～									1									1	123,953
									0.0%									0.0%	100.0%
2.81～																		0	123,953
																		0.0%	100.0%
合計	3,051	6,154	6,174	2,063	3,542	5,829	35,022	29,055	8,214	2,996	3,552	1,850	4,310	5,097	4,383	2,661	0	123,953	
	2.5%	5.0%	5.0%	1.7%	2.9%	4.7%	28.3%	23.4%	6.6%	2.4%	2.9%	1.5%	3.5%	4.1%	3.5%	2.1%	0.0%	100.0%	

表Ⅷ-2-12 周期—波向別出現頻度表

規定回数	131,472 回
測得回数	123,953 回 (94.3%)
欠測回数	7,519 回 (5.7%)

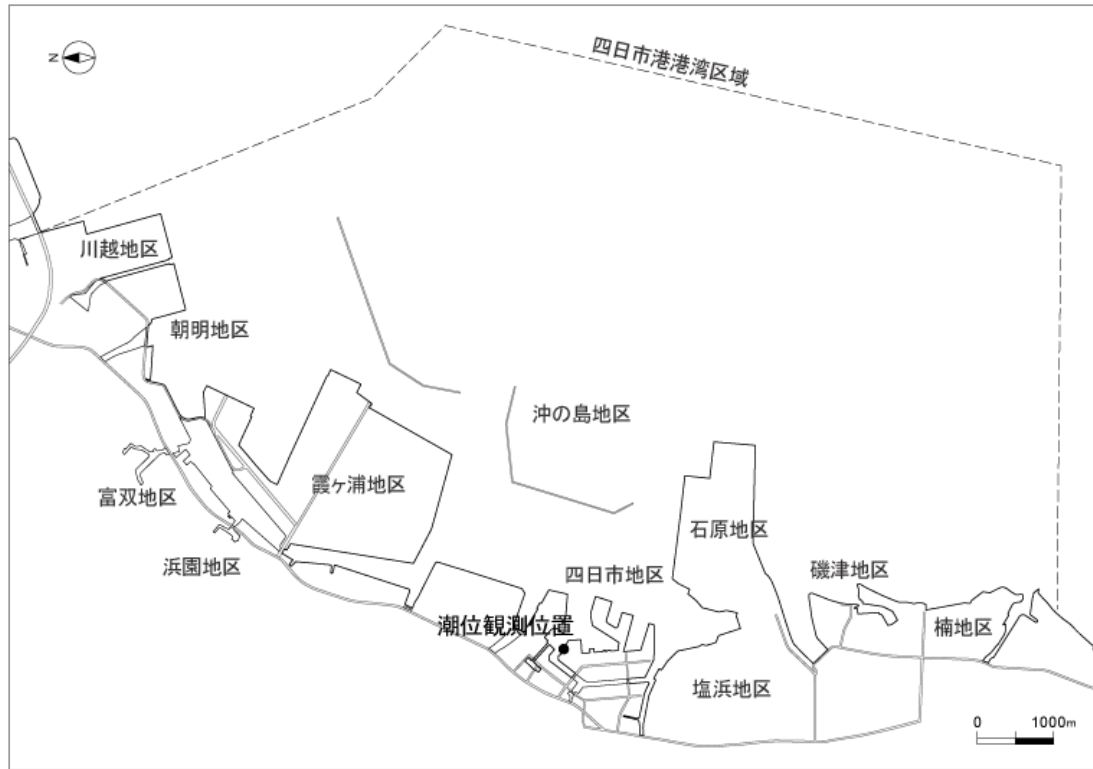
【期間：2018～2022年】

測得率：94.3%

周期\波向	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	静穏	合計	累計
0.0～																		0	0
																		0.0%	0.0%
1.1～																		0	0
																		0.0%	0.0%
2.1～	1,396	2,426	2,300	862	2,136	1,816	3,685	3,475	2,363	1,476	2,294	985	2,190	2,004	1,964	1,576		32,948	32,948
	1.1%	2.0%	1.9%	0.7%	1.7%	1.5%	3.0%	2.8%	1.9%	1.2%	1.9%	0.8%	1.8%	1.6%	1.6%	1.3%		26.6%	26.6%
3.1～	1,372	2,820	3,137	1,008	1,113	2,418	12,581	9,680	3,516	1,201	1,121	757	1,816	2,524	1,972	964		48,000	80,948
	1.1%	2.3%	2.5%	0.8%	0.9%	2.0%	10.1%	7.8%	2.8%	1.0%	0.9%	0.6%	1.5%	2.0%	1.6%	0.8%		38.7%	65.3%
4.1～	268	838	680	181	261	1,287	11,054	8,382	1,697	273	122	101	298	549	428	120		26,539	107,487
	0.2%	0.7%	0.5%	0.1%	0.2%	1.0%	8.9%	6.8%	1.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	0.4%	0.3%	0.1%		21.4%	86.7%
5.1～	15	66	54	8	28	252	4,865	4,076	434	34	12	6	6	19	18	1		9,894	117,381
	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	3.9%	3.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		8.0%	94.7%
6.1～		4	3	3	2	41	1,922	2,047	145	11	2	1		1	1			4,183	121,564
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.7%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%			3.4%	98.1%
7.1～				1	2	12	658	954	31	1	1							1,660	123,224
				0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%							1.3%	99.4%
8.1～						2	183	310	21									516	123,740
						0.0%	0.1%	0.3%	0.0%									0.4%	99.8%
9.1～						1	53	87	5									146	123,886
						0.0%	0.0%	0.1%	0.0%									0.1%	99.9%
10.1～							18	37	2									57	123,943
							0.0%	0.0%	0.0%									0.0%	100.0%
11.1～							2	4										6	123,949
							0.0%	0.0%										0.0%	100.0%
12.1～							1	2										3	123,952
							0.0%	0.0%										0.0%	100.0%
13.1～								1										1	123,953
								0.0%										0.0%	100.0%
14.1～																		0	123,953
																		0.0%	100.0%
合計	3,051	6,154	6,174	2,063	3,542	5,829	35,022	29,055	8,214	2,996	3,552	1,850	4,310	5,097	4,383	2,661	0	123,953	
	2.5%	5.0%	5.0%	1.7%	2.9%	4.7%	28.3%	23.4%	6.6%	2.4%	2.9%	1.5%	3.5%	4.1%	3.5%	2.1%	0.0%	100.0%	

2) 潮位

四日市港における潮位観測位置を図V-2-20、潮位図を図V-2-21 に示す。過去における最高潮位は、昭和34年9月26日伊勢湾台風時の4.541mである。

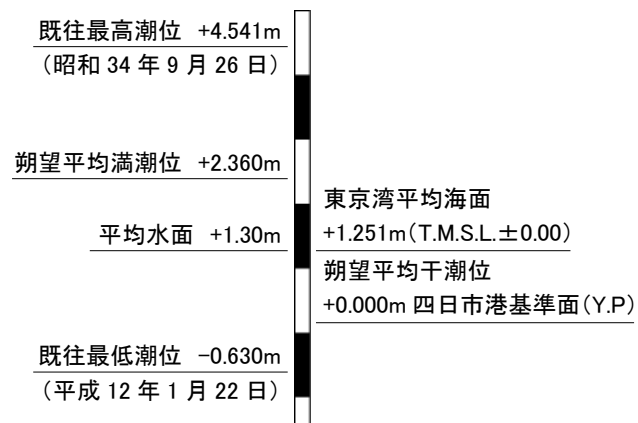


図V-2-20 潮位観測位置図

検潮所の場所：四日市市千歳町（北緯 $34^{\circ} 57' 24''$ 、東経 $136^{\circ} 38' 26''$ ）

検潮器の種類：フース型

検潮所の管理者：四日市港管理組合



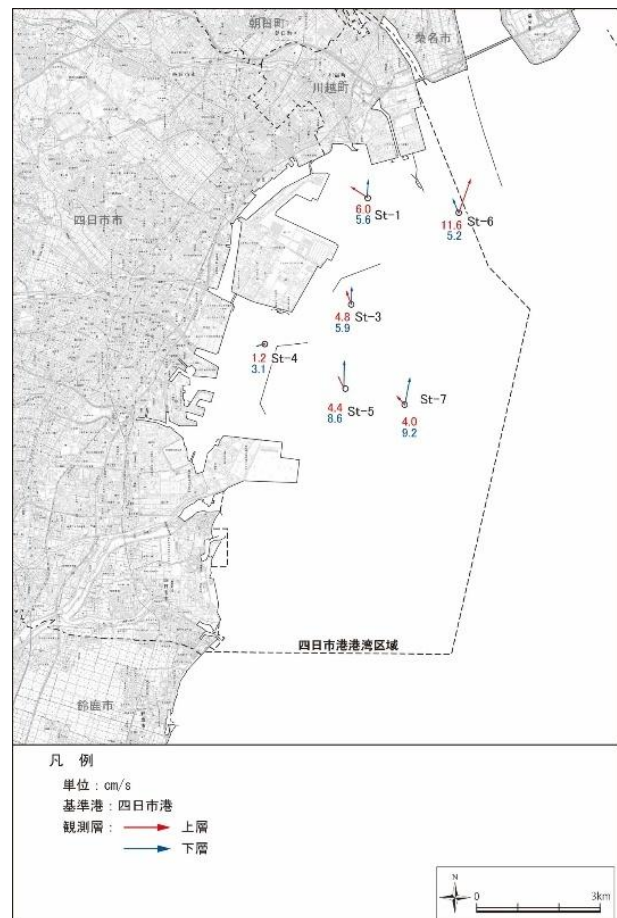
図V-2-21 潮位図

3) 潮流

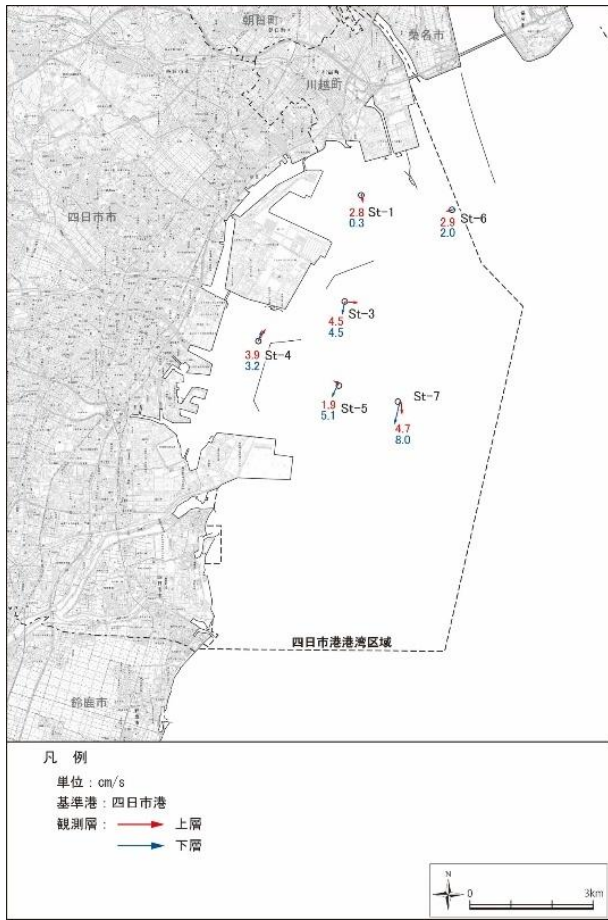
四日市港及び周辺海域の流況については、図Ⅷ-2-22(1)～図Ⅷ-2-22(4)のとおりである。



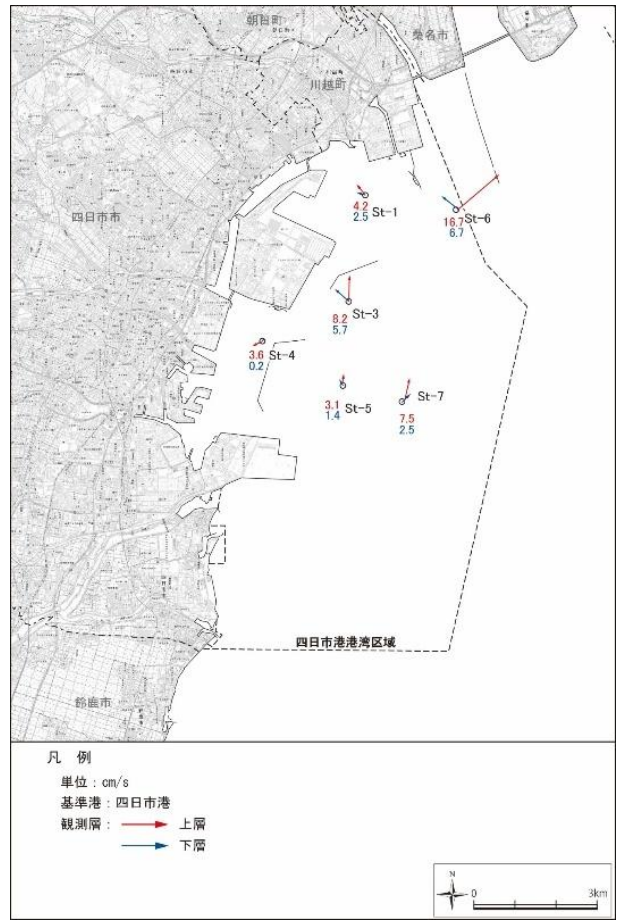
図Ⅷ-2-22(1) 平均大潮期流況図
 (冬季：下げ潮最強時)



図Ⅷ-2-22(2) 平均大潮期流況図
 (冬季：上げ潮最強時)



图Ⅷ-2-22(3) 平均大潮期流況図
(夏季：下げ潮最強時)



图Ⅷ-2-22(4) 平均大潮期流況図
(夏季：上げ潮最強時)

3. 港湾の沿革

四日市港における沿革は表Ⅷ-3-1 に示すとおりである。

表Ⅷ-3-1(1) 四日市港の沿革

時 期	事 項	
明治	3 年	四日市－東京間定期航路開設
	8 年	三菱汽船会社が伊勢湾と京浜地区を結ぶ定期航路を開設
	17 年	四日市港旧港、稲葉三右衛門による修築工事完成
	22 年	特別輸出港に指定
	30 年	特別輸入港に指定
	32 年	開港場に指定（外国との貿易が始まる）
	34 年	第 2 種重要港湾に指定
	35 年	繰綿の輸入開始
大正	6 年	第 1 号埋立地（現末広町）が完成
	14 年	第 2 号埋立地（現千歳町）が完成
昭和	3 年	防波堤、航路泊地、物揚場、上屋等が完成
		第 3 号埋立地（現石原町）が完成
	7 年	豪州定期航路が寄港、羊毛の輸入が始まる
	11 年	第 1 号埠頭を中心とする第 2 期修築工事完成
	27 年	三重県が正式に港湾管理者となり、特定重要港湾に指定
	34 年	第 1 石油化学コンビナート（塩浜地区）が本格的に稼働開始
		伊勢湾台風により大被害を受ける
	38 年	第 2 石油化学コンビナート（午起地区）が本格的に稼働開始
	41 年	四日市港管理組合設立
	43 年	四日市港とシドニー港、姉妹港提携調印
	44 年	豪州コンテナ航路第一船「オーストラリアン・エンタープライズ号」入港
	46 年	港湾区域の拡張
	47 年	第 3 石油化学コンビナート（霞ヶ浦地区）が本格的に稼働開始
		乗用車の本格的輸出開始
51 年	霞埠頭事務所が開設	
56 年	霞 1 号幹線を「シドニー港通り」と命名	

表Ⅷ-3-1(2) 四日市港の沿革

時 期		事 項
平成	7年	公共コンテナ埠頭（霞ヶ浦南埠頭 26 号コンテナターミナル）完成
	8年	四日市港国際物流センター完成
		第 11 回「海の祭典」が四日市港を中心に開催 旧港港湾施設（潮吹き防波堤他）が国の重要文化財に指定
	10年	末広橋梁が国の重要文化財に指定
	11年	開港 100 周年記念式典挙行
		四日市港ポートビルオープン
	14年	外貿コンテナ貨物年間取扱量が 200 万トンを突破する
		単独港湾管理者として初めて ISO14001 承認取得
	16年	伊勢湾（名古屋港、四日市港）としてスーパー中樞港湾に指定
	17年	指定特定重要港湾に指定
	18年	特定国際コンテナ埠頭の運営事業開始
		霞ヶ浦北埠頭 80 号岸壁供用開始
	19年	外貿コンテナ貨物年間取扱量 300 万トン突破
		北米西海岸コンテナ航路（川崎汽船）第 1 船「ヴィンセント・トーマス・ブリッジ」が入港
	20年	公共くん蒸施設完成
23年	特定重要港湾から国際拠点港湾に名称変更	
27年	特例港湾運営会社（四日市港埠頭株）が霞ヶ浦南埠頭 27 号コンテナターミナルの運営を開始	
29年	名古屋四日市国際港湾株設立、港湾運営会社指定及び運営開始	
30年	霞 4 号幹線（四日市・いなばポートライン）開通	
令和	元年	開港 120 周年記念四日市港まつり開催

4. 港湾施設の現況

4. 1 水域施設

(1) 航路

表Ⅷ-4-1 航路

名称	水深(m)	幅員(m)	延長(m)
四日市港第一航路	12.0	300	1,860
四日市港第二航路	14.0	400	1,200
四日市港第三航路	12.0~14.0	430~580	1,870
四日市港午起航路	12.0	200~615	1,280

資料：四日市港管理組合例規集

(2) 泊地

表Ⅷ-4-2 泊地

名称	面積(m ²)	位置
被覆内泊地	13,130,000	霞ヶ浦防波堤、四日市港東防波堤 及び旭防波堤の内
被覆外泊地	48,515,500	霞ヶ浦防波堤、四日市港東防波堤 及び旭防波堤の外

資料：四日市港管理組合例規集

4. 2 外かく施設

(1) 防波堤

表Ⅷ-4-3 防波堤

名称	延長(m)	形式
旭防波堤	520	直立堤混成堤併用
旧港防波堤	77	傾斜堤
四日市港東防波堤	2,450.4	直立堤
霞ヶ浦防波堤	1,273.6	混成堤

資料：四日市港管理組合例規集

(2) 防砂堤

表Ⅷ-4-4 防砂堤

名称	延長(m)
天カ須賀防砂堤	296.9

資料：四日市港管理組合例規集

(3) 護岸

表Ⅷ-4-5 護岸

名称	延長(m)
霞ヶ浦工業用地東側護岸	1,260.71
霞ヶ浦工業用地南側護岸	974.37
霞ヶ浦南埠頭南側護岸	80
天カ須賀製造業団地護岸	1,030
富田埠頭北側護岸	148
千歳護岸	111.3
第1埠頭護岸	65

資料：四日市港管理組合例規集

4. 3 けい留施設

(1) 公共大型船けい船岸

表Ⅷ-4-6 公共大型船けい船岸

地区名	名称	水深(m)	延長(m)	バース数
四日市	第1埠頭1号岸壁	5.5	100	1
	第1埠頭南側基部岸壁	5.5	60	
	第1埠頭2号3号岸壁	8.5	245	1
	第1埠頭4号5号岸壁	9.0	215	1
	石炭埠頭7号(A)(B)岸壁	7.5	125	1
	第2埠頭8号岸壁	10.0	190	1
	第2埠頭9号岸壁	10.0	200	1
	第2埠頭10号岸壁	5.5	200	2
	第2埠頭11号岸壁	10.0	200	1
	第2埠頭12号岸壁	5.0	140	2
	第3埠頭13号岸壁	12.0	245	1
	第3埠頭14号岸壁	10.0	220	1
	第3埠頭15号岸壁	10.0	245	1
	第3埠頭16号岸壁	7.5	138	1
	第3埠頭17号18号岸壁	5.5	180	2
	第2埠頭19号岸壁	5.0	110	1
富双	富双埠頭1号2号岸壁	5.0	123	2
	富双埠頭3号岸壁	6.0	85	1
	富双埠頭4号岸壁	7.5	125	1
	富双埠頭5号岸壁	7.5	125	1
	富双埠頭6号岸壁	7.5	170	1
霞ヶ浦	霞ヶ浦南埠頭22号岸壁	14.0	280	1
	霞ヶ浦南埠頭23号岸壁	12.0	240	1
	霞ヶ浦南埠頭24号岸壁	12.0	240	1
	霞ヶ浦南埠頭25号岸壁	12.0	240	1
	霞ヶ浦南埠頭26号岸壁	12.0	250	1
	霞ヶ浦南埠頭27号岸壁	12.0	250	1
	霞ヶ浦南埠頭30-36号岸壁	4.5	420	7
	霞ヶ浦南埠頭37-41・43-44号岸壁	5.5	630	7
	霞ヶ浦南埠頭60-62号岸壁	7.5	390	3
	霞ヶ浦南埠頭70-73号岸壁	4.5	300	4
	霞ヶ浦南埠頭74号岸壁	7.5	130	1
霞ヶ浦南埠頭75号岸壁	7.5	130	1	
霞ヶ浦北埠頭80号岸壁	14.0	330	1	
浜園	浜園埠頭50-59号岸壁	4.5	600	10

資料：四日市港管理組合例規集

(2) 公共小型船けい船岸

表Ⅷ-4-7 公共小型船けい船岸

地区名	名称	水深(m)	延長(m)
四日市	第1、第2埠頭間6号岸壁	3.0	179
	千歳町1号物揚場	3.2	50
	千歳町2号物揚場	1.5	184
	千歳町3号物揚場	1.5	220
	千歳町4号物揚場	1.5	260
	千歳町5号物揚場	1.5	420
	千歳町6号物揚場	1.5	273
	千歳町7号物揚場	2.0	183
	千歳町8号物揚場	2.6	65
	末広町1号物揚場	1.5	470
	末広町2号物揚場	1.5	270
	末広町3号物揚場	1.5	300
	末広町4号物揚場	1.5	260
	末広町5号物揚場	1.5	120
	旧港高砂町1号さん橋	1.5	11×2
	旧港高砂町2号さん橋	1.5	10
	旧港1号物揚場	4.0	130
	旧港2号物揚場	4.0	68
	納屋運河物揚場	0.5	158
	ひき船さん橋	4.5	90×2
小型船さん橋	3.5	22×2	
霞ヶ浦	霞西1号さん橋	4.0	450
浜園	富田一色物揚場	2.0	200
	富田地区L20B物揚場	1.0	50
	富田地区L21A物揚場	1.0	124
富双	富双埠頭先端物揚場	2.0	92
	富双埠頭基部物揚場	2.0~4.0	39
	富洲原運河北物揚場	0.6	200
	富洲原運河南物揚場	0.6	400
天カ須賀	天カ須賀物揚場	2.0	83

資料：四日市港管理組合例規集

(3) 専用係留施設

表Ⅷ-4-8(1) 専用係留施設

地区名	施設名	延長 (m)	水深 (m)	バース 数	備考
塩浜	コスモ石油塩浜第1号栈橋	-	5.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油塩浜第2号栈橋		5.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油塩浜第3号栈橋	-	6.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油塩浜第5号栈橋	-	5.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油塩浜第6号栈橋	-	5.4	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油塩浜第7号栈橋	-	6.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油塩浜第8号栈橋	-	12.0	1	コスモ石油(株)
	昭和四日市石油A栈橋	-	5.0	2	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油B栈橋	-	5.0	4	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油C栈橋	-	4.0	6	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油D栈橋	230	12.0	1	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油E栈橋	206	12.0	3	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油F栈橋	-	8.0	1	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油G栈橋	-	8.0	1	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油H栈橋	-	8.0	1	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油I栈橋	-	8.0	1	昭和四日市石油(株)
昭和四日市石油J栈橋	-	6.0	1	昭和四日市石油(株)	

資料：四日市港港湾台帳

表Ⅷ-4-8(2) 専用係留施設

地区名	施設名	延長 (m)	水深 (m)	バース 数	備考
塩浜	昭和四日市石油 K 栈橋	-	9.0	1	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油 L 栈橋	-	12.0	1	昭和四日市石油(株)
	三菱ケミカル第 1 号栈橋	-	6.0	1	三菱化学(株)
	三菱ケミカル第 2 号栈橋	-	6.0	1	三菱化学(株)
	三菱ケミカル第 3 号栈橋	-	6.5	1	三菱化学(株)
	三菱化学三田栈橋	-	6.5	1	三菱化学(株)
	石原産業 1 号栈橋	-	6.5	1	石原産業(株)
	石原産業 2 号栈橋	-	8.0	1	石原産業(株)
	石原産業 3 号栈橋	-	5.0	1	石原産業(株)
	石原産業重油栈橋	-	4.5	1	石原産業(株)
四日市	コスモ石油四日市第 1 号栈橋	-	3.0	4	コスモ石油(株)
	コスモ石油四日市第 2 号栈橋	-	5.0	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油四日市第 3 号栈橋	-	5.0	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油四日市第 5 号栈橋	184	7.0	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油四日市第 6 号栈橋	184	7.0	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油四日市第 7 号栈橋	-	2.5	2	コスモ石油(株)
	コスモ石油四日市第 8 号栈橋	260	7.0	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油四日市第 9 号栈橋	260	7.0	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油午起第 1 号栈橋	-	12.0	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油午起第 2 号栈橋	-	6.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油午起第 3 号栈橋	-	4.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油午起第 5 号栈橋	-	5.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油午起第 6 号栈橋	-	6.5	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油午起第 7 号栈橋	-	8.0	1	コスモ石油(株)
	コスモ石油午起第 8 号栈橋	-	8.0	1	コスモ石油(株)
コスモ石油午起第 9 号栈橋	-	12.0	1	コスモ石油(株)	

資料：四日市港港湾台帳

表Ⅷ-4-8(3) 専用係留施設

地区名	施設名	延長 (m)	水深 (m)	バース 数	備考
四日市	四日市火力2号栈橋	-	5.0	1	(株)JERA
	日本板硝子第一岸壁	53	7.0	1	日本板硝子(株)
	日本板硝子栈橋	18	3.0	1	日本板硝子(株)
	太平洋セメントA栈橋	-	9.0	1	太平洋セメント(株)
	太平洋セメントB栈橋	-	5.0	1	太平洋セメント(株)
霞ヶ浦	霞1号栈橋	-	4.5	1	霞共同事業(株)
	霞3号栈橋	-	4.5	1	霞共同事業(株)
	霞4号栈橋	-	7.0	1	霞共同事業(株)
	霞5号栈橋	-	5.5	1	霞共同事業(株)
	霞6号栈橋	-	5.0	1	霞共同事業(株)
	霞9号栈橋	-	14.0	1	四日市エルピージー 基地(株)・(株)JERA
	霞10号栈橋	-	8.0	1	四日市エルピージー 基地(株)
	霞11号栈橋	-	8.0	1	四日市エルピージー 基地(株)
	霞15号栈橋	-	7.5	1	東ソー(株)
	霞16号栈橋	-	7.5	1	東ソー(株)
	霞17号栈橋	-	7.5	1	東ソー(株)
天カ須賀	TANISEI 第1号栈橋	-	5.5	1	谷口石油精製(株)
	TANISEI 第2号栈橋	-	7.5	1	谷口石油精製(株)
川越	川越火力LNG受入栈橋	-	14.0	1	(株)JERA
	川越火力発電所バンカー用栈橋	-	6.5	1	(株)JERA
	川越火力発電所1号栈橋	-	4.5	1	(株)JERA

資料：四日市港港湾台帳

(4) シーバース

表Ⅷ-4-9 シーバース

地区名	施設名	延長(m)	水深(m)	バース数	備考
塩浜	昭和四日市石油シーバース (INNER)	-	18.0	1	昭和四日市石油(株)
	昭和四日市石油シーバース (OUTER)	-	22.0	1	昭和四日市石油(株)
四日市	コスモ石油シーバース	-	20.8	1	コスモ石油(株)

資料：四日市港港湾台帳

(5) 浮さん橋

表Ⅷ-4-10 浮さん橋

地区名	施設名	延長(m)	幅員(m)	深さ(m)	構造
四日市	千歳1号浮さん橋	20	6	1.3	鋼製台船
	千歳2号浮さん橋	18	5	1.3	鋼製台船
	千歳3号浮さん橋	12	5	1.3	鋼製台船
	千歳4号浮さん橋	10	3	1.2	鋼製台船
	旧港2号浮さん橋	24	10	2.9	PC製台船
霞ヶ浦	霞ヶ浦浮さん橋	20	8	2.2	RC製台船

資料：四日市港管理組合例規集

6) 船あげ場

表Ⅷ-4-11 船あげ場

地区名	施設名	位置
四日市	納屋運河船あげ場	四日市市富田浜町
浜園	富田船あげ場	四日市市住吉町
富双	富洲原船あげ場	四日市市南納屋町

資料：四日市港管理組合例規集

(7) 泡消火施設

表Ⅷ-4-12 泡消火施設

施設名	能力	数量	位置
泡消火施設	最大能力 1,900ℓ/分	1	石炭埠頭7号岸壁四日市市東邦町

資料：四日市港管理組合例規集

4. 4 臨港交通施設

(1) 可動橋

表Ⅷ-4-13 可動橋

地区名	施設名	幅員(m)	延長(m)	可動部延長(m)	位置
四日市	臨港橋	11.0	72.6	26.4	四日市市千歳町地先

資料：四日市港管理組合例規集

(2) 運河

表Ⅷ-4-14 運河

地区名	施設名	幅員(m)	延長(km)	水深(m)	位置
四日市	納屋運河	30 ~65	0.26	0.5	納屋公園南端より納屋防災緑地北端
	堅川運河	31	0.3	0.5	旧港より蓬莱橋
	千歳運河	70	1.46	1.5	高砂町尾上町及び末広町千歳町の間
	大井の川運河	60	0.7	1.5	1号地南端より大井の川上流大井の川橋
富双・ 天カ須賀	富洲原運河	25	1.11	0.6	旧富洲原港口より附近一帯

資料：四日市港管理組合例規集

(3) 臨港道路

表Ⅷ-4-15(1) 臨港道路

地区名	施設名	幅員 (m)	延長 (m)	備考
四日市	千歳1号幹線	20~22	902	千歳4号幹線に接続
	千歳2号幹線	16	287	千歳1号幹線に接続
	千歳3号幹線	16	306	千歳1号幹線に接続
	千歳4号幹線	14~20	378	国道164号に接続
	千歳5号幹線	8~22	428	千歳4号幹線に接続
	千歳6号幹線	22	321	国道164号に接続
	千歳7号幹線	15	933	国道164号に接続
	千歳8号幹線	14~16	413	国道164号に接続
	千歳1号支線	15~25	157	
	千歳2号支線	20	47	
	千歳3号支線	20	80	
	千歳4号支線	11	33	
	千歳6号支線	11	33	
	千歳7号支線	11	33	
	千歳8号支線	11	33	
	千歳9号支線	10.5~11	133	
	千歳10号東支線	14	154	
	千歳10号支線	10	128	
	千歳11号支線	14	128	
	千歳12号支線	10	33	
千歳13号支線	14~19	61		
千歳14号支線	7~9	89		
千歳15号支線	10	26		
千歳16号支線	7	32		
千歳17号支線	7~12	90		

資料：四日市港管理組合例規集

表Ⅷ-4-15(2) 臨港道路

地区名	施設名	幅員 (m)	延長 (m)	備考
四日市	千歳 19 号支線	7~10	181	
	千歳 20 号支線	7	155	
	千歳 21 号支線	9	104	
	千歳 22 号支線	14	75	
	千歳 23 号支線	4	42	
	第 3 埠頭荷捌地道路	16.5~ 17.5	314	
	末広 1 号幹線	22	750	県道四日市楠鈴鹿線に接続
	末広 2 号幹線	6~9	893	県道四日市楠鈴鹿線に接続
	末広 1 号支線	14	117	
	末広 2 号支線	10	84	
	末広 3 号支線	15	168	
	末広 5 号支線	7	109	
	末広 6 号支線	4	33	
	末広 7 号支線	5	41	
	末広 8 号支線	7	29	
	末広 9 号支線	8~13	209	
	末広 10 号支線	4	37	
	千歳・末広線	14~22	331	国道 164 号に接続
	東邦 1 号幹線	13	836	県道四日市楠鈴鹿線に接続
	東邦 1 号支線	8	65	
東邦 2 号支線	8	60		
東邦 3 号支線	8	150		
午起線	5	722		
霞ヶ浦	霞 1 号幹線 (通称シドニー港通り)	25~54	2,330	県道中村富田線に接続
	霞 2 号幹線	30	1,414	霞 4 号幹線に接続
	霞 3 号幹線	20~21	1,045	

資料：四日市港管理組合例規集

表Ⅷ-4-15(3) 臨港道路

地区名	施設名	幅員 (m)	延長 (m)	備考
霞ヶ浦	霞 4 号幹線	10.5~50	4,915	霞 1 号幹線に接続
	霞 5 号幹線	18	1,016	霞 1 号幹線に接続
	霞 1 号支線	21	105	
	霞 2 号支線	21	333	
	霞 3 号支線	21	372	
	霞 4 号支線	21	488	
	霞 5 号支線	21	507	
	霞 6 号支線	21	529	
	霞 7 号支線	18	60	
	霞 8 号支線	18	142	
	霞 9 号支線	18	60	
	霞 10 号支線	18	142	
	霞 11 号支線	18	142	
	霞 12 号支線	18	202	
	霞 13 号支線	18	60	
	霞 14 号支線	18~20	598	
	霞 15 号支線	20	82	
	霞 16 号支線	20	84	
	霞 17 号支線	21	60	
	霞 18 号支線	20	53	
	霞 19 号支線	20	53	
	霞北 1 号幹線	17~50	636	霞 4 号幹線に接続
	霞北 1 号支線	20~23.5	652	
霞西側道路	10	1,149	霞 1 号幹線に接続	
浜園	浜園 1 号幹線	18	424	霞 1 号幹線に接続
	浜園 1 号支線	18	27	

資料：四日市港管理組合例規集

表Ⅷ-4-15(4) 臨港道路

地区名	施設名	幅員 (m)	延長 (m)	備考
浜園	浜園 3 号支線	18	40	
	浜園 4 号支線	18	40	
	浜園護岸道路	5~6.5	350	
	富田浜線	3	39	
富双	富双 1 号幹線	13	740	国道 23 号に接続
	富双 2 号幹線	8	539	
	富双 1 号支線	13	92	
	富双 2 号支線	15	125	
	富双 3 号支線	15	115	
	富双 5 号支線	9~15	197	
	富双 6 号支線	7	90	

資料：四日市港管理組合例規集

(4) 橋梁

表Ⅷ-4-16 橋梁

地区名	施設名	幅員(m)	延長(m)
霞ヶ浦	霞大橋	32.00	65.39
川越	臨海橋	20.80	34.44
塩浜	東邦橋	11.8	8.6

資料：四日市港管理組合例規集

4. 5 航行補助施設

表Ⅷ-4-17 航行補助施設

施設名	内容
信号施設	信号旗及び夜間発行信号
無線施設	入出港船舶との港務連絡 国際 VHF 無線電話 呼出名称 よつかいちポートラジオ

資料：四日市港管理組合例規集

4. 6 荷さばき施設

(1) 上屋

表Ⅷ-4-18 上屋

地区名	施設名	面積 (㎡)	構造	所在地
四日市	B 上屋	1,800	鉄骨造平屋建折版葺	第 1 埠頭 2 号岸壁隣接
	C 上屋	1,800	鉄骨造平屋建波型折版葺	第 1 埠頭 3 号岸壁隣接
	D 上屋	1,800	鉄骨造平屋建波型折版葺	第 1 埠頭 4 号岸壁隣接
	E 上屋	1,768	鉄骨造平屋建波型折版葺	第 1 埠頭 5 号岸壁隣接
	F 上屋	1,620	鉄筋コンクリート建	第 1、第 2 埠頭間 6 号岸壁隣接
	G 上屋	1,566	鉄骨造平屋建アルミ瓦棒葺	第 1、第 2 埠頭間 6 号岸壁隣接
	2 B 上屋	2,325	鉄筋コンクリート建	第 2 埠頭 8 号岸壁隣接
	2 C 上屋	2,560	鉄骨造平屋建アルミ瓦棒葺	第 2 埠頭 9 号岸壁隣接
	2 D 上屋	2,560	鉄骨造平屋建アルミ瓦棒葺	第 2 埠頭 9 号岸壁隣接
	2 E 上屋	2,192	鉄骨造平屋建陸屋根 コンクリート造	第 2 埠頭 11 号岸壁隣接
	2 F 上屋	2,212	鉄骨造平屋建陸屋根 コンクリート造	第 2 埠頭 11 号岸壁隣接
	鉄鋼上屋	4,463	鉄骨造平屋建石綿大波 ストレート直葺	第 3 埠頭 17、18 号岸壁隣接
	3 C 上屋	5,476	鉄骨造平屋建アルミ瓦棒葺	第 3 埠頭 15 号岸壁隣接
	3 D 上屋	2,478	鉄骨造平屋建石綿大波 ストレート葺	第 3 埠頭 16 号岸壁隣接
霞ヶ浦	霞 1 号上屋	7,584	鉄筋コンクリート 一部鉄筋造平屋建折版葺	霞ヶ浦埠頭 39、40 号岸壁隣接

資料：四日市港管理組合例規集

(2) くん蒸庫及び附属設備

表Ⅷ-4-19 くん蒸庫及び附属設備

施設名	面積(m ²)	構造
くん蒸庫	111	鉄骨造
荷さばき地	1,154	コンクリート舗装
雨天荷役施設	576	鉄骨造、コンクリート舗装
待機室	25	鉄骨造

資料：四日市港管理組合例規集

(3) 荷役機械

表Ⅷ-4-20 荷役機械

地区名	施設名	能力	数量 (基)	位置
四日市	第3埠頭機械式連続 アンローダー(附属設備を含む)	800 T/H	1	第3埠頭13号岸壁
霞ヶ浦	霞ヶ浦南埠頭バケットエレベーター式 連続アンローダー(附属設備を含む)	1,500 T/H	1	霞ヶ浦南埠頭22号岸壁
	霞ヶ浦南埠頭バケットエレベーター式 連続アンローダー2号機	1,500 T/H	1	
	霞ヶ浦南埠頭走行起伏シャトル式 シップローダー(附属設備を含む)	1,200 T/H	1	霞ヶ浦南埠頭60、61号岸壁
	霞ヶ浦南埠頭コンテナクレーン1号機 (附属設備を含む)	48.5 T吊	1	霞ヶ浦南埠頭27号岸壁
	霞ヶ浦南埠頭コンテナクレーン2号機 (附属設備を含む)	48.5 T吊	1	霞ヶ浦南埠頭26号岸壁
	霞ヶ浦南埠頭コンテナクレーン3号機 (附属設備を含む)	46.6 T吊	1	霞ヶ浦南埠頭26号岸壁
	霞ヶ浦南埠頭グラブバケット・ ロープトリ式橋形アンローダー (附属設備を含む)	1,800 T/H	1	霞ヶ浦南埠頭23号岸壁
	霞ヶ浦北埠頭コンテナクレーン1号機 (附属設備を含む)	55.5 T吊	1	霞ヶ浦北埠頭80号岸壁
	霞ヶ浦北埠頭コンテナクレーン2号機 (附属設備を含む)	55.5 T吊	1	霞ヶ浦北埠頭80号岸壁
霞ヶ浦北埠頭コンテナクレーン3号機 (附属設備を含む)	55.5 T吊	1	霞ヶ浦北埠頭80号岸壁	

資料：四日市港管理組合例規集

(4) 荷さばき地

表Ⅷ-4-21(1) 荷さばき地

地区名	施設名	面積(m ²)	位置
四日市	千歳 1 号荷さばき地	7,983.15	第 2、第 3 埠頭間 12 号岸壁隣接地
	千歳 2 号荷さばき地	7,362.30	第 3 埠頭基部 13 号岸壁隣接地
	千歳 3 号荷さばき地	4,554.30	第 3 埠頭 13 号岸壁隣接地
	千歳 4 号荷さばき地	2,178.80	第 3 埠頭 13 号岸壁隣接地
	千歳 5 号荷さばき地	2,485.00	第 3 埠頭 14 号岸壁隣接地
	千歳 6 号荷さばき地	13,527.00	第 3 埠頭千歳 3 号荷さばき地隣接地
	千歳 7 号荷さばき地	1,870.852	第 2 埠頭 19 号岸壁隣接地
	千歳 8 号荷さばき地	1,736.537	第 2 埠頭 19 号岸壁隣接地
	千歳 9 号荷さばき地	2,783.286	第 2 埠頭 8 号岸壁隣接地
	末広 1 号荷さばき地	735.91	末広町 2 号物揚場隣接地
	末広 2 号荷さばき地	460.07	
霞ヶ浦	霞東 1 号荷さばき地	10,966.55	霞ヶ浦南埠頭 25 号岸壁隣接地
	霞東 2 号荷さばき地	44,412.77	霞東 1 号荷さばき地隣接地
	霞東 3 号荷さばき地	9,854.425	霞ヶ浦南埠頭 24 号岸壁隣接地
	霞東 4 号荷さばき地	11,193.992	霞東 3 号荷さばき地隣接地
	霞東 5 号荷さばき地	12,897.88	霞ヶ浦南埠頭 23 号岸壁隣接地
	霞東 6 号荷さばき地	12,183.262	霞ヶ浦南埠頭 22 号岸壁隣接地
	霞東 7 号荷さばき地	5,026.160	霞ヶ浦南埠頭 60 号岸壁隣接地
	霞東 8 号荷さばき地	13,280.654	霞ヶ浦南埠頭 61 号岸壁隣接地
	霞東 9 号荷さばき地	9,138.41	霞ヶ浦南埠頭 62 号岸壁隣接地
	霞中 1 号荷さばき地	89,618.52	霞ヶ浦南埠頭 26 号岸壁隣接地
	霞中 2 号荷さばき地	30,420.00	霞ヶ浦南埠頭 27 号岸壁隣接地
	霞中 3 号荷さばき地	28,959.00	霞中 2 号荷さばき地隣接地
	霞西 1 号荷さばき地	9,093.07	霞ヶ浦南埠頭 30・31・32 号岸壁隣接地
	霞西 2 号荷さばき地	6,096.40	霞ヶ浦南埠頭 33・34 号岸壁隣接地

資料：四日市港管理組合例規集

表Ⅷ-4-21(2) 荷さばき地

地区名	施設名	面積(m ²)	位置
霞ヶ浦	霞西 3 号荷さばき地	9,647.99	霞ヶ浦南埠頭 37・38 号岸壁隣接地
	霞西 4 号荷さばき地	9,650.60	霞ヶ浦南埠頭 41・43 号岸壁隣接地
	霞西 5 号荷さばき地	6,111.00	霞ヶ浦南埠頭 35・36 号岸壁隣接地
	霞西 11 号荷さばき地	14,114.88	霞ヶ浦南埠頭 70・71 号岸壁隣接地
	霞西 12 号荷さばき地	6,364.93	霞ヶ浦南埠頭 72・73 号岸壁隣接地
	霞西 13 号荷さばき地	5,078.24	霞ヶ浦南埠頭 74 号岸壁隣接地
	霞西 14 号荷さばき地	6,854.30	霞ヶ浦南埠頭 75 号岸壁隣接地
	霞北 1 号荷さばき地	138,138.71	霞ヶ浦北埠頭 80 号岸壁隣接地
浜園	浜園 1 号荷さばき地	8,239.23	浜園埠頭 56・57・58・59 号岸壁隣接地
	浜園 2 号荷さばき地	4,067.50	浜園埠頭 54・55 号岸壁隣接地

資料：四日市港管理組合例規集

(5) 荷さばき地附属施設

表Ⅷ-4-22 荷さばき地附属施設

施設名	数量	位置
冷凍コンセント	102 個	霞中1号荷さばき地内
冷凍コンセント	20 個	霞中 2 号荷さばき地内
冷凍コンセント	360 個	霞北 1 号荷さばき地内
コンテナ洗浄場	990 m ²	霞中 1 号荷さばき地内
コンテナ洗浄場	629.2 m ²	霞北 1 号荷さばき地内
光ファイバー通信線	2 回線	霞中 1 号荷さばき地内
光ファイバー通信線	12 回線	霞ヶ浦南北埠頭間

資料：四日市港管理組合例規集

4. 7 旅客施設

表Ⅷ-4-23 旅客施設

施設名	面積(m ²)	位置
船員船客待合所	64.04	四日市市千歳町37番地

資料：四日市港管理組合例規集

4. 8 保管施設

(1) 野積場

表Ⅷ-4-24 野積場

地区名	施設名	面積(m ²)	位置
四日市	末広1号野積場	1,318.00	四日市市末広町18-2の内
	東邦1号野積場	2,503.69	四日市市東邦町1の2及び1の9の内
	東邦2号野積場	6,549.90	
	旧港1号野積場	1,706.09	四日市市大協町1の1地先
	旧港2号野積場	826.47	四日市市稲葉町3489の6
霞ヶ浦	霞1号野積場	13,246.772	霞西3号荷さばき地隣接地
	霞2号野積場	5,244.164	霞1号上屋隣接地
	霞5号野積場	45,967.58	四日市市霞二丁目1-1の内

資料：四日市港管理組合例規集

(2) 石炭等保管用地

表Ⅷ-4-25 石炭等保管用地

地区名	施設名	面積(m ²)	位置
霞ヶ浦	石炭等保管用地	108,527.46	四日市市霞二丁目11番3及び16番5

資料：四日市港管理組合例規集

4. 9 船舶補給施設

(1) 給水設備

表Ⅷ-4-26 給水設備

施設名	能力	箇数	位置
水栓	最大能力 12 トン/時間	1	四日市市中納屋町
水栓	最大能力 45 トン/時間	3	富双埠頭内
水栓	最大能力 45 トン/時間	6	第2埠頭内
水栓	最大能力 45 トン/時間	11	第3埠頭内
水栓	最大能力 45 トン/時間	42	霞ヶ浦南埠頭内
水栓	最大能力 45 トン/時間	6	霞ヶ浦北埠頭内
水栓	最大能力 45 トン/時間	1	石炭埠頭内

資料：四日市港管理組合例規集

4. 10 廃棄物処理施設

(1) 廃棄物埋立護岸

表Ⅷ-4-27 廃棄物埋立護岸

地区名	施設名	延長(m)
石原	石原地区廃棄物埋立護岸	2,588.5

資料：四日市港管理組合例規集

4. 1 1 港湾環境整備施設

(1) 緑地

表Ⅷ-4-28 緑地

地区名	施設名	面積(m ²)	位置
霞ヶ浦	霞ヶ浦緑地	17,102.435	四日市霞二丁目
富双	富双緑地	96,430	四日市市富双一丁目

資料：四日市港管理組合例規集

(2) 公園

表Ⅷ-4-29 公園

地区名	施設名	面積(m ²)	位置
四日市	千歳公園	864.00	四日市市千歳町34番地
	みなと公園	1,427.00	四日市市千歳町9番地
霞ヶ浦	霞港公園	15,367.16	四日市市霞2丁目1番地の1
	シドニー港公園	7,376.89	四日市市霞2丁目1番地の1
	ポート緑地	2,374.16	四日市市霞2丁目1番地の1

資料：四日市港管理組合例規集

4. 1 2 港湾厚生施設

(1) 休憩所

表Ⅷ-4-30 休憩所

地区名	施設名	面積(m ²)	構造	位置
霞ヶ浦	霞地区休憩所	建物 68.04 敷地 171	鉄骨平屋建	霞ヶ浦南埠頭 25 号岸壁背後

資料：四日市港管理組合例規集

(2) 港湾厚生施設

表Ⅷ-4-31 港湾厚生施設

施設名	施設の概要	所在地
四日市港第 1 船員会館	鉄筋コンクリート造 3 階建、 宿泊、集会所ほか	四日市市尾上町 1-36
四日市港第 2 船員会館	鉄筋コンクリート造 3 階建、 宿泊、集会所ほか	四日市市富双 2 丁目 1-1
四日市第 1 港湾労働者 福祉センター	鉄筋コンクリート造 3 階建、 売店、食堂、会議室、診療所ほか	四日市市千歳町 9
四日市第 2 港湾労働者 福祉センター	鉄筋コンクリート造 2 階建、 売店、食堂、会議室ほか	四日市市霞 2 丁目 1-1

資料：四日市港港湾台帳

4. 1 3 施設用地

表Ⅷ-4-32 施設用地

所在地	面積(m ²)
四日市市千歳町	49,099
四日市市末広町	25,650
四日市市東邦町	21,033
四日市市大脇町二丁目	10,328
四日市市富双一丁目	2,186
四日市市富双二丁目	6,295
四日市市霞一丁目	2,051
四日市市霞二丁目	33,045

資料：四日市港管理組合例規集

4. 14 管理事務所

表Ⅷ-4-33 管理事務所

施設名	面積(m ²)	位置
上屋附属事務所	6室延 284.34	第2埠頭2B上屋内及び霞埠頭第1号上屋内
第三埠頭附属事務所	3室延 429.0	第3埠頭内
埠頭ビル内事務所	1室 53.07	四日市市千歳町37番地
霞26附属事務所	4室延 201.14	霞中1号荷さばき地内

資料：四日市港管理組合例規集

4. 15 陸上電力供給施設

表Ⅷ-4-34 陸上電力供給施設

施設名	能力	数量	位置
陸上電力供給施設	3φ AC220V30A/施設	11施設	西1号さん橋霞1丁目西

資料：四日市港管理組合例規集

5. 過去における港湾計画等の概要

過去における港湾計画の概要を以下に示す。

表Ⅷ-5-1 港湾審議会の経緯

計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 36 年 3 月	港湾審議会 第 14 回 計画部会	四日市	岸壁	-10m 2 バース	380m
				-7.5m 1 バース	125m
			係船浮標	-10m	3 基
				-10m	830,000 m ²
				-9m	200,000 m ²
				-4m	75,000 m ²
			航路	-16m	300m
			防波堤	旭防波堤	450m
				東防波堤	2,300m
			埋立	石原	569,000 m ²
		午起		772,000 m ²	
		富田・ 富洲原	岸壁	-6m	485m
				-5m	120m
			埋立		184,000 m ²
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 45 年 5 月 (改訂)	港湾審議会 第 41 回 計画部会	四日市	岸壁	-11m 1 バース	245m
				-10m 3 バース	665m
				-7.5m 1 バース	136m
				-5.5m 2 バース	180m
				-5m 5 バース	350m
			係船浮標	-10~-12m	3 基
			泊地	-12m	1,838,000 m ²
				-11m	254,000 m ²
				-10m	999,000 m ²
				-9m	60,000 m ²
		埠頭用地		158,000 m ²	
		霞ヶ浦 南埠頭	岸壁	-12m 4 バース (コンテナ船用)	1,000m
				-5.5m 6 バース	540m
				-4.5m 7 バース	420m
			埠頭用地		1,305,000 m ²
		霞ヶ浦 北埠頭	岸壁	-12m 4 バース	1,000m
				-10m 3 バース	600m
				-7.5m 3 バース (うち 1 バースカーフェリー用)	460m
			埠頭用地		880,000 m ²

計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 45 年 5 月 (改訂)	港湾審議会 第 41 回 計画部会	霞ヶ浦 西埠頭	岸壁	-4.5m 10 バース 600m	
			物揚場	-4m 600m	
			埠頭用地	95,000 m ²	
		霞ヶ浦・ 富双・ 朝明	泊地	-12m	2,300,000 m ²
				-10m	956,000 m ²
				-7.5m	718,000 m ²
				-5.5m	134,000 m ²
				-4.5m	326,000 m ²
				-4m	87,000 m ²
		富双	岸壁	-7.5m 3 バース 420m	
			埠頭用地	30,000 m ²	
		朝明	岸壁	-7.5m 3 バース 390m	
			埠頭用地	410,000 m ²	
		航路	航路	第 1 航路-12m	拡幅 100 m
				第 2 航路-12m	300m
				第 3 航路-12m	300m
		外郭施設	防波堤	東防波堤	1,248m
				霞ヶ浦防波堤	3,350m
		用地造成	工業用地	霞ヶ浦	2,570,000 m ²
				川越	1,740,000 m ²
				磯津	300,000 m ²
				吉崎	960,000 m ²
				北浜	2,000,000 m ²
水産関連 用地	富双		10,000 m ²		
	天カ須賀		230,000 m ²		
	朝明		60,000 m ²		
都市再開発 用地	霞ヶ浦		210,000 m ²		
	富田		90,000 m ²		
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 47 年 12 月 (一部変更)	港湾審議会 第 53 回 計画部会	霞ヶ浦 南埠頭	岸壁	-12m 2 バース 550m	
				(コンテナ船用)	
			-12m 2 バース 480m		
	霞ヶ浦 北埠頭	岸壁	-12m 2 バース 480m		

計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 49 年 5 月 (一部変更)	港湾審議会 第 61 回 計画部会	霞ヶ浦 北埠頭		霞ヶ浦 (北埠頭) 法線の計画変更	
			岸壁	-7.5m 3 バース 453m (うち 1 バースカーフェリー用)	
				-5.5m 2 バース 180m	
			埠頭用地	800,000 m ²	
			泊地	-12m 2,526,000 m ²	
				-7.5m 683,000 m ²	
-5.5m 170,000 m ²					
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 52 年 3 月 (一部変更)	港湾審議会 第 77 回 計画部会	川越		土地利用計画の変更	
			工業用地	1,210,000 m ²	
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 55 年 8 月 (一部変更)	港湾審議会 第 90 回 計画部会	四日市	岸壁	-12m 1 バース 245m	
			泊地	-12m 280,000 m ²	
			用地造成	15,000 m ²	
			小型船 だまり	泊地、物揚場、船揚場	
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 57 年 3 月 (改訂)	港湾審議会 第 97 回 計画部会	四日市	泊地	-12m 210,000 m ²	
			小型船 だまり (旧港)	泊地 (-4m) 10,000 m ²	
				埠頭用地 10,000 m ²	
				物揚場 (-4m) 100m	
			小型船 だまり (四日市)	波除堤 160m	
				浮棧橋 2 基	
			霞ヶ浦 南埠頭	岸壁	-14m 1 バース 280m
					-12m 2 バース 480m
					-10m 1 バース 185m
					-7.5m 3 バース 390m
		緑地 50,000 m ²			
		埠頭用地 350,000 m ²			
		臨港道路 霞 1 号幹線 4 車線			
		霞ヶ浦 北埠頭	岸壁	-5.5m 2 バース 180m	
				-14m 1 バース 280m	
				-12m 2 バース 480m	
			小型船 だまり	物揚場 (-4m) 680m	
				埠頭用地 30,000 m ²	
			臨港道路 霞 4 号幹線 4 車線		
			緑地 50,000 m ²		
埠頭用地 410,000 m ²					

計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 57 年 3 月 (改訂)	港湾審議会 第 97 回 計画部会	航路	第二航路	-12m 400m	
			第三航路	-14m 400m	
		川越・霞ヶ浦	泊地	-7.5~-14m 3,630,000 m ²	
		天カ須賀	泊地	-5m 170,000 m ²	
		朝明	海浜	500m	
			緑地	30,000 m ²	
		石原	危険物取扱施設用地	100,000 m ²	
			工業用地	930,000 m ²	
			泊地	-16m 900,000 m ²	
			臨港道路	石原 1 号線 2 車線	
			緑地	40,000 m ²	
		磯津	小型船だまり	泊地 (-4m)	40,000 m ²
				防波堤	270m
				物揚場 (-4m)	940m
				さん橋	1 基
				埠頭用地	50,000 m ²
			臨港道路	磯津 1 号線 2 車線	
			緑地	90,000 m ²	
		吉崎	臨港道路	吉崎 1 号線 2 車線	
			廃棄物処理用地	940,000 m ²	
			都市機能用地	270,000 m ²	
			緑地	20,000 m ²	
		沖の島	土砂処分用地	1,050,000 m ²	
外郭施設	防波堤	霞ヶ浦防波堤	3,050m		
		東防波堤	2,950m		
		石原防波堤	200m		
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 60 年 8 月 (軽易な変更)	地元審議会	四日市	ドルフィン	-6.5m 1 バース (専用)	
		富洲原	用地造成	緑地 10,000 m ²	
		天カ須賀	用地造成	都市再開発用地	200,000 m ²
危険物取扱施設用地	30,000 m ²				
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和 61 年 6 月 (一部変更)	港湾審議会 第 114 回 計画部会	霞ヶ浦	ドルフィン	-14m 1 バース (専用)	
		四日市	用地造成	-14m 890,000 m ²	
				-12m 12,000 m ²	
			航路 (第 2 航路)	-14m 400m	

計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
昭和63年11月 (一部変更)	港湾審議会 第125回 計画部会	石原	廃棄物 処理用地	870,000 m ²	
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成4年8月 (改訂)	港湾審議会 第142回 計画部会	川越	ドルフィン	-14m 1バース (専用)	
				-6.5m 1バース (専用)	
			泊地	-6.5~-14m	689,000 m ²
		朝明	海浜		650m
			緑地		34,000 m ²
		天カ須賀	ドルフィン	-7.5m 2バース (専用)	
			泊地	-5.5~-7.5m	469,000 m ²
		富双	旅客船埠頭	岸壁-5m 2バース	240m
				物揚場-4m	85m
			臨港道路	富双1号線	2車線
			緑地		35,000 m ²
		レクリエーション 施設用地			111,000 m ²
		航路	第二航路	-14m	400m
			第三航路	-15m	450m
		霞ヶ浦 北埠頭	岸壁	-14~-15m 2バース	700m
				-12m 2バース	480m
				-7.5m 2バース	260m
			泊地	-7.5~-15m	1,939,000 m ²
			防波堤	霞ヶ浦防波堤	3,050m
			臨港道路	霞北1号幹線	4車線
				霞4号幹線	4車線
			緑地		129,000 m ²
			土地造成	埠頭用地	498,000 m ²
		港湾関連用地		355,000 m ²	
		霞ヶ浦 南埠頭	岸壁	-12m 2バース	240m
				-10m 1バース	170m
			泊地	-7.5~-14m	226,000 m ²
			緑地		9,000 m ²
		土地造成	埠頭用地	65,000 m ²	
		霞ヶ浦 工業用地	ドルフィン	-8m 2バース (専用)	
				-7.5m 3バース (専用)	
-7m 1バース (専用)					
専用埠頭	-11.5m 栈橋 1バース				
泊地			1,343,000 m ²		
四日市 大協・ 午起	ドルフィン	-6.5m 1バース (専用)			
		-5.5m 1バース (専用)			
	泊地	-5.5~-12m	89,000 m ²		
	防波堤	東防波堤	2,950m		

計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成4年8月 (改訂)	港湾審議会 第142回 計画部会	四日市 2号地	旅客船埠頭	岸壁-10m 1バース	280m
			泊地	-10m	2,000 m ²
			小型船 だまり	旧港船だまり 小型栈橋	1基
				四日市船だまり 小型栈橋	10基
			臨港道路	千歳4号幹線	2車線
				千歳9号幹線	2車線
		緑地		65,000 m ²	
		土地造成	埠頭用地	5,000 m ²	
			交流拠点用地 (うち埋立 53,000 m ²)	88,000 m ²	
		磯津	小型船 だまり	泊地(-4m)	52,000 m ²
				防波堤	270m
				物揚場(-4m)	940m
				さん橋	1基
			臨港道路	磯津1号線	2車線
			緑地		85,000 m ²
		土地造成	埠頭用地	50,000 m ²	
		楠	マリーナ	防波堤	410m
				物揚場(-4m)	300m
				小型栈橋	5基
				船揚場	30m
				レクリエーション施設用地	169,000 m ²
			臨港道路	楠1号線	2車線
			廃棄物 処理用地		599,000 m ²
			都市機能 用地		179,000 m ²
緑地		20,000 m ²			
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成8年2月 (軽易な変更)	地元審議会	霞ヶ浦 南埠頭		土地利用計画の変更	
				港湾関連用地	18,000 m ²
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成10年7月 (改訂)	港湾審議会 第166回 計画部会	朝明	海浜	650m	
			緑地	34,000 m ²	
		天カ須賀	ドルフィン	-7.5m 1バース(専用)	
			泊地	-7.5m	48,000 m ²
		富双	臨港道路	富双1号線	2車線
			緑地		54,000 m ²
		航路	第二航路	-14m	400m
			第三航路	-14~-15m	400~450m

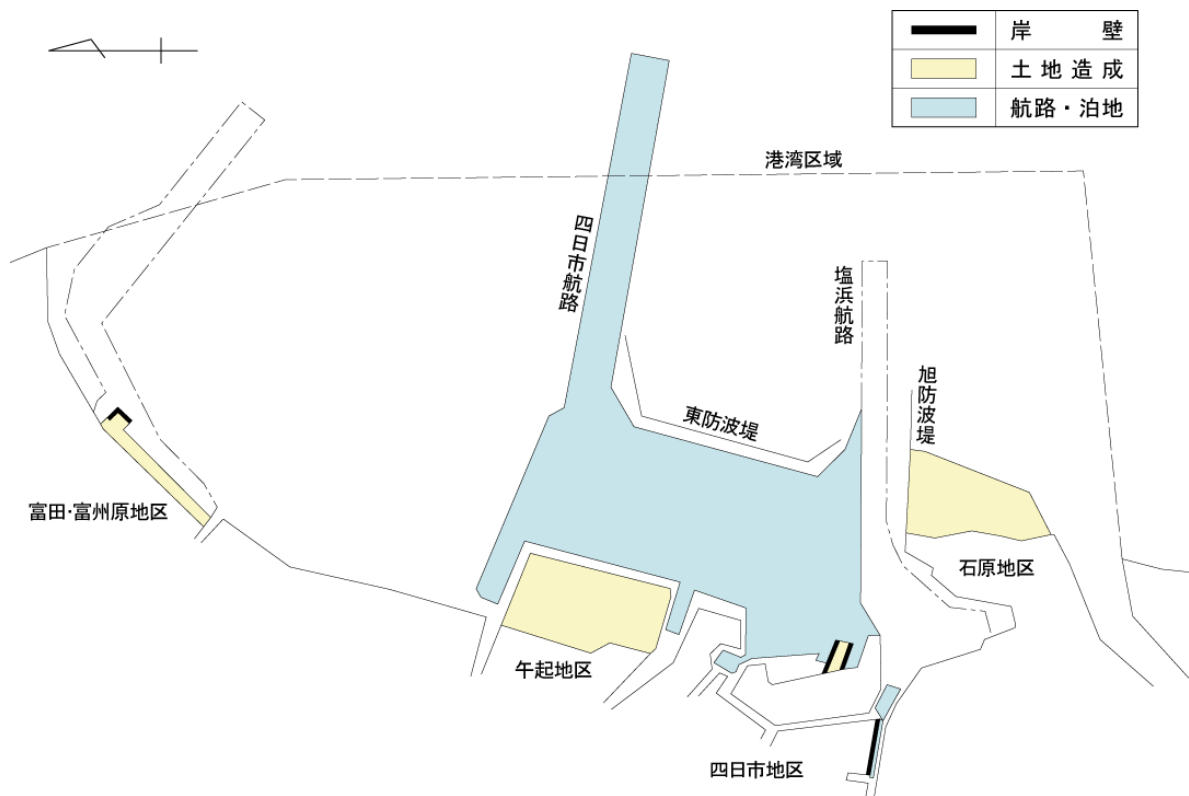
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容
平成 10 年 7 月 (改訂)	港湾審議会 第 166 回 計画部会	霞ヶ浦 北埠頭	岸壁	-14~-15m 1 バース 330~350m
				-14m 1 バース 330m
				-7.5m 1 バース 130m
			泊地	-14~-15m 873,000~ 934,000 m ²
				-7.5m 11,000 m ²
			防波堤	霞ヶ浦防波堤 3,050m
			臨港道路	霞北 1 号幹線 4 車線
				霞 4 号幹線 4 車線
			緑地	129,000 m ²
			土地造成	埠頭用地 280,000 m ²
				港湾関連用地 191,000 m ²
			霞ヶ浦 南埠頭	泊地
		-7.5~-14m 22,000 m ²		
		緑地 9,000 m ²		
		土地造成	埠頭用地 28,000 m ²	
		霞ヶ浦 工業用地	ドルフィン	-8m 2 バース (専用)
				-7.5m 3 バース (専用)
				-7m 1 バース (専用)
			専用埠頭	-11.5m 棧橋 1 バース
		泊地	-7.5~-11.5m 457,000 m ²	
		四日市 大協・ 午起	ドルフィン	-6.5m 1 バース (専用)
				-5.5m 1 バース (専用)
			泊地	-5.5~-12m 89,000 m ²
		防波堤	東防波堤 2,950m	
		四日市 2 号地	旅客船埠頭	岸壁-10m 1 バース 280m
			泊地	-10m 2,000 m ²
			臨港道路	千歳 4 号幹線 2 車線
				千歳 9 号幹線 2 車線
			緑地	65,000 m ²
		土地造成	埠頭用地 5,000 m ²	
			交流拠点用地 88,000 m ² (うち埋立 53,000 m ²)	
		磯津	小型船 だまり	泊地 (-4m) 52,000 m ²
				防波堤 270m
				物揚場 (-4m) 940m
				さん橋 1 基
			臨港道路	磯津 1 号線 2 車線
			緑地	85,000 m ²
			土地造成	埠頭用地 50,000 m ²

計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 10 年 7 月 (改訂)	港湾審議会 第 166 回 計画部会	楠	マリーナ	防波堤	410m
				物揚場 (-4m)	300m
				小型棧橋	5 基
				船揚場	30m
				レクリエーション施設用地	169,000 m ²
			臨港道路	楠 1 号線	2 車線
			廃棄物 処理用地		599,000 m ²
			都市機能 用地		179,000 m ²
緑地		20,000 m ²			
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 15 年 3 月 (軽易な変更)		富双		土地利用計画の変更	
			臨港道路	富双 1 号線	2 車線
		緑地		96,000 m ²	
		四日市 2 号地	岸壁	-5.5m 1 バース	100m
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 15 年 12 月 (軽易な変更)		朝明	緑地		35,000 m ²
		霞ヶ浦 北埠頭		配置の変更	
			臨港道路	霞 4 号幹線	4 車線
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 17 年 7 月 (一部変更)		航路	第三航路	-15m	430~450m
		霞ヶ浦 北埠頭	岸壁	-15m 2 バース	700m
			泊地	-15m	763,000 m ²
			臨港道路	霞 4 号幹線	2~4 車線
			埠頭用地		620,000 m ²
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 17 年 11 月 (軽易な変更)		浜園	旅客船埠頭	小型棧橋-4.5m	1 基
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 18 年 12 月 (軽易な変更)		楠		土地利用計画の変更	
			都市機能 用地		97,000 m ²
			海面処分 用地		657,000 m ²
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 22 年 1 月 (軽易な変更)		四日市	岸壁	-10m (耐震) 1 バース	245m
		磯津	小型船 だまり	[計画削除] 泊地 (-4m)	52,000 m ²
				[計画削除] 防波堤	270m
				[計画削除] 物揚場 (-4m)	940m
				[計画削除] さん橋	1 基
		臨港道路	[計画削除] 磯津 1 号線	2 車線	
		緑地	[計画削除]	85,000 m ²	
		土地造成	[計画削除] 埠頭用地	50,000 m ²	

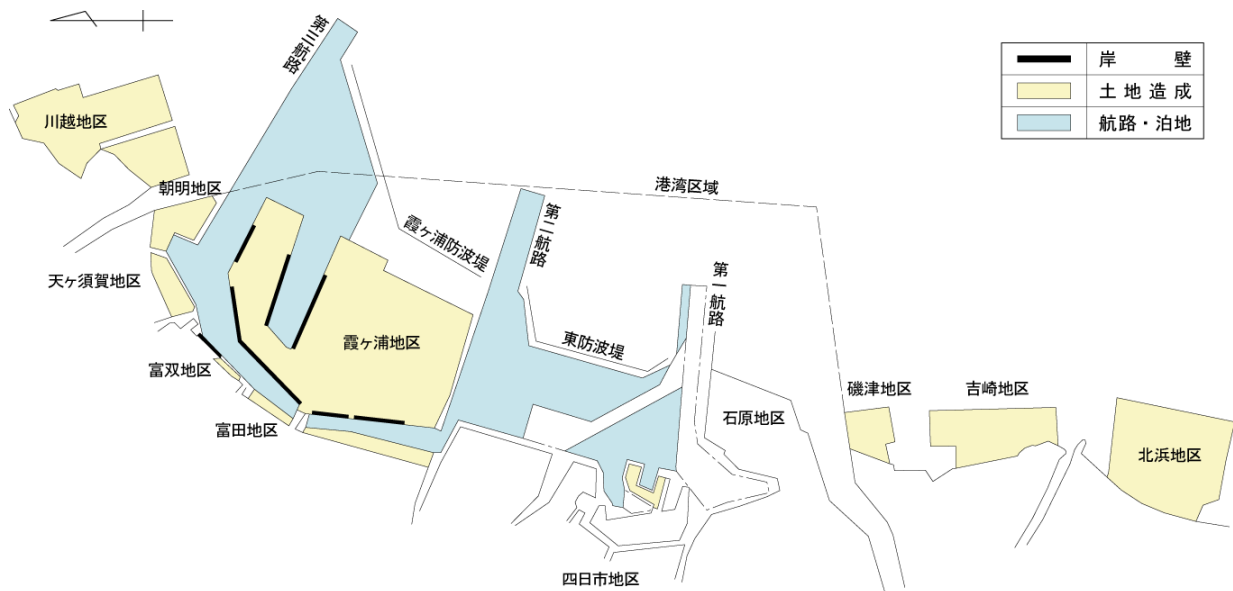
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 23 年 4 月 (改訂)	交通政策審 議会 第 41 回 港湾分科会 (改訂)	朝明	航路・泊地	-7.5m	48,000 m ²
		天カ須賀	ドルフィン	-7.5m 1 バース (専用)	
			防砂堤	天カ須賀防砂堤	300m
		富双	小型船 だまり	防波堤 小型栈橋 15 基 船揚場 埠頭用地 1 m ² (船舶役務施設用地)	770m 16m 2,000 m ²
				臨港道路	臨港道路富双 1 号線
		浜園	小型船 だまり	-4.5m	600m (うち 480m 既設、120m 既設の活用)
		霞ヶ浦 北埠頭	岸壁	-14~-15m 2 バース	680m
			泊地	-14~-15m	37,000 m ²
			臨港道路	臨港道路霞北 1 号幹線 臨港道路霞 4 号幹線	2~4 車線 4 車線
			廃棄物処理 用地	海面処分・活用用地	58,6000 m ²
			緑地		129,000 m ²
			埠頭用地		402,000 m ²
		霞ヶ浦 南埠頭	岸壁	-16m 1 バース -14m 1 バース -7.5m 1 バース -14~15m 1 バース () -14m 1 バース (大規模地震対策施設)	310m 280m 130m 330~350m 280m
				泊地	-16m -14m -7.5m
		霞ヶ浦 工業用地	ドルフィン	-8m 2 バース (専用) -7.5m 1 バース (専用) -7m 1 バース (専用) -5.5m 2 バース (専用) -11.5m 1 バース (専用)	
		霞ヶ浦	第三航路	-16m	400m
			航路・泊地	-16m	414,000 m ²
				-14~-15m	340,000 m ²
				-7.5m	94,000 m ²
				-7.5m	162,000 m ²
-8m	288,000 m ²				
-11.5m	7,000 m ²				
外郭施設	防波堤	霞ヶ浦防波堤	3,050m		

計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 23 年 4 月 (改訂)	交通政策審 議会 第 41 回 港湾分科会	四日市	岸壁	-10m 1 バース (大規模地震対策施設)	245m
			旅客船埠頭	-9m 1 バース	310m
				埠頭用地 (旅客施設用地) 港湾関連用地 (保管施設用地)	5,000 m ² 88,000 m ²
			ドルフィン	-6.5m 1 バース (専用) -5.5m 1 バース (専用)	
			泊地	-9m	2,000 m ²
			航路・泊地	-12m	75,000 m ²
				-5.5m -6.5m	5,000 m ² 9,000 m ²
		臨港道路	臨港道路千歳 4 号幹線	2 車線	
			臨港道路千歳 9 号幹線	2 車線	
緑地		73,000 m ²			
外郭施設	防波堤	東防波堤	2,950m (うち 2,450m 既設)		
石原	廃棄物処理 用地	海面処分用地 海面処分・活用用地	781,000 m ² 75,000 m ²		
	緑地		75,000 m ²		
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 23 年 12 月 (一部変更)	交通政策審 議会 第 47 回 港湾分科会 (一部変 更)	霞ヶ浦 北埠頭	岸壁	-14m 1 バース -14~-15m 2 バース	330m 680m
			埠頭用地		580,000 m ² (うち 150,000 m ² 既設)
		霞ヶ浦 南埠頭	岸壁	-12m 1 バース -12m 1 バース	250m 250m
			埠頭用地		204,000 m ²
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 24 年 11 月 (軽易な変更)	四日市港 港湾審議会	四日市	岸壁	-5.5m 1 バース	60m
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
平成 27 年 11 月 (軽易な変更)	四日市港 港湾審議会	霞ヶ浦 北埠頭	緑地		129,000 m ²
		霞ヶ浦	土地利用	埠頭用地 港湾関連用地 工業用地 交通機能用地 緑地地	1,440,000 m ² 543,000 m ² 2,533,000 m ² 194,000 m ² 463,000 m ²
				物揚場	-2.4m 1 バース
		塩浜	ドルフィン	-9.0m 1 バース (専用・耐震)	
				-12.0m 1 バース (専用・耐震) -9.0m 1 バース (専用・耐震) -12.0m 1 バース (専用・耐震)	

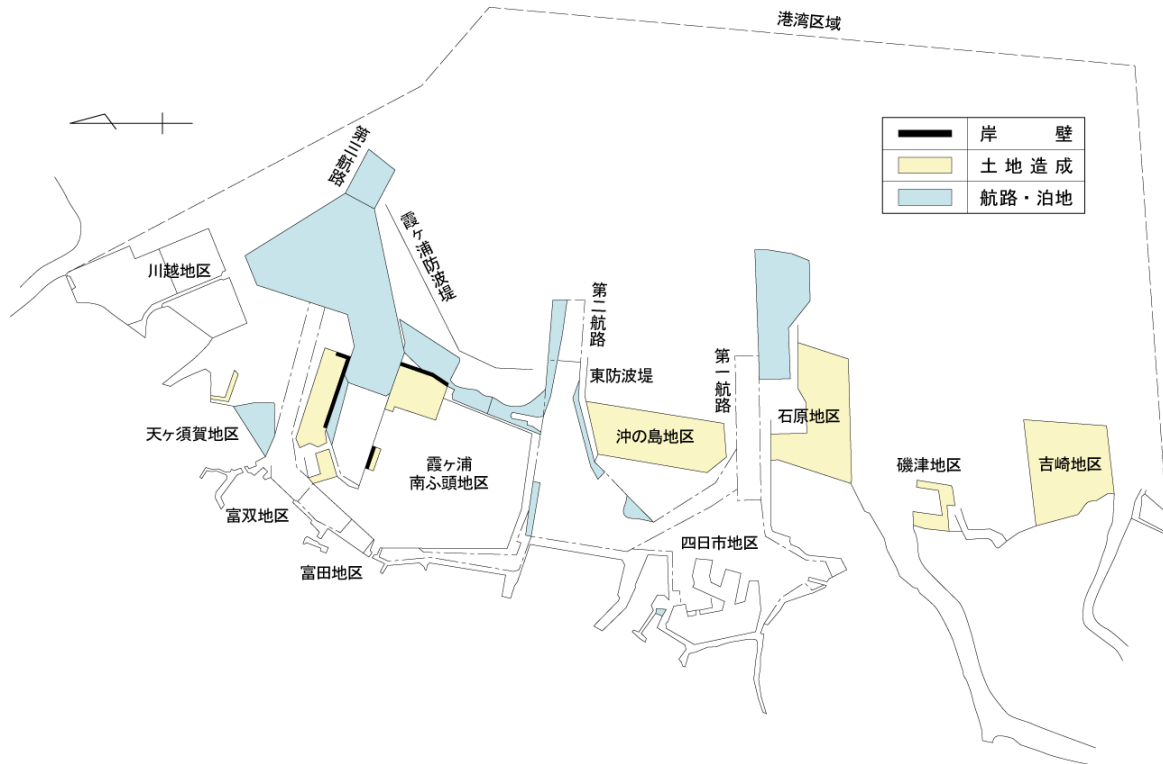
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
令和3年3月 (軽易な変更)	四日市港 港湾審議会	霞ヶ浦 北埠頭	埠頭用地		3,000 m ²
		霞ヶ浦 工業用地	専用埠頭	小型栈橋 1基	
		霞ヶ浦	土地利用	埠頭用地 港湾関連用地 工業用地 交通機能用地 緑地	1,437,000 m ² 546,000 m ² 2,533,000 m ² 194,000 m ² 463,000 m ²
		四日市	岸壁	-3.0m 1バース (専用)	164m
			ドルフィン	-5.0m 1バース (専用)	
計画年月	計画名	地区	施設	計画内容	
令和6年12月 (軽易な変更)	四日市港 港湾審議会	四日市	ドルフィン	-2.5m 1バース	



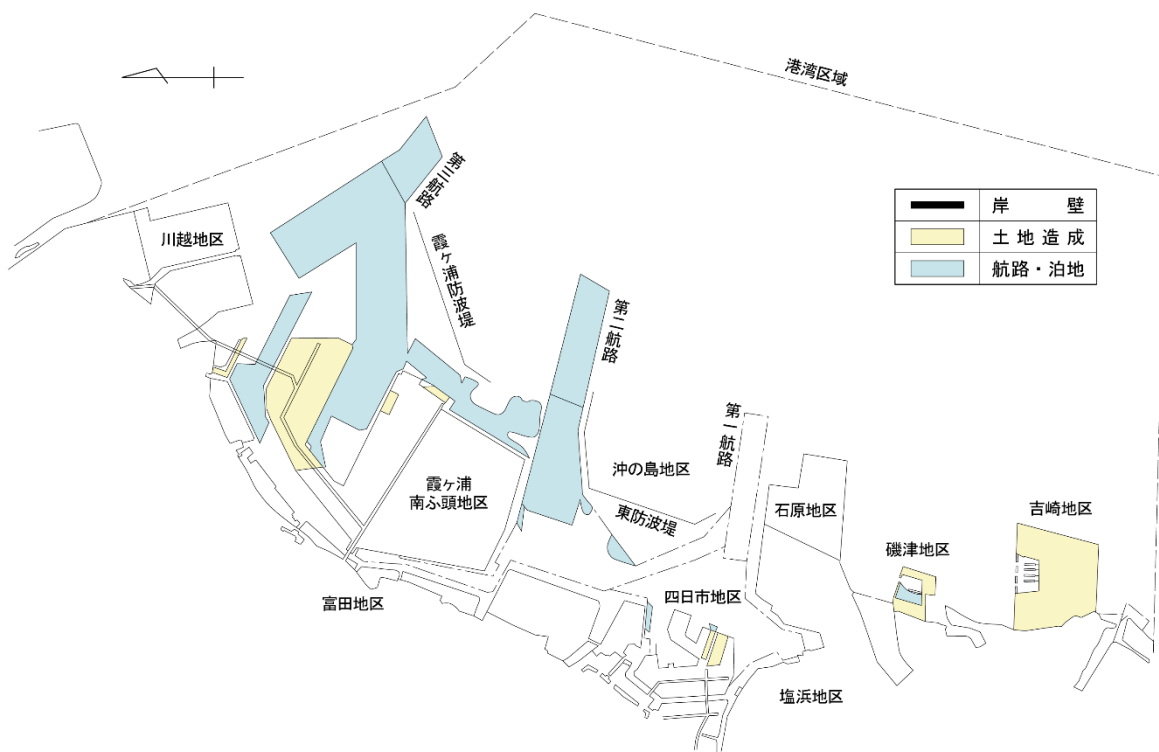
図Ⅷ-5-1 港湾審議会第14回計画部会（昭和36年3月新規）



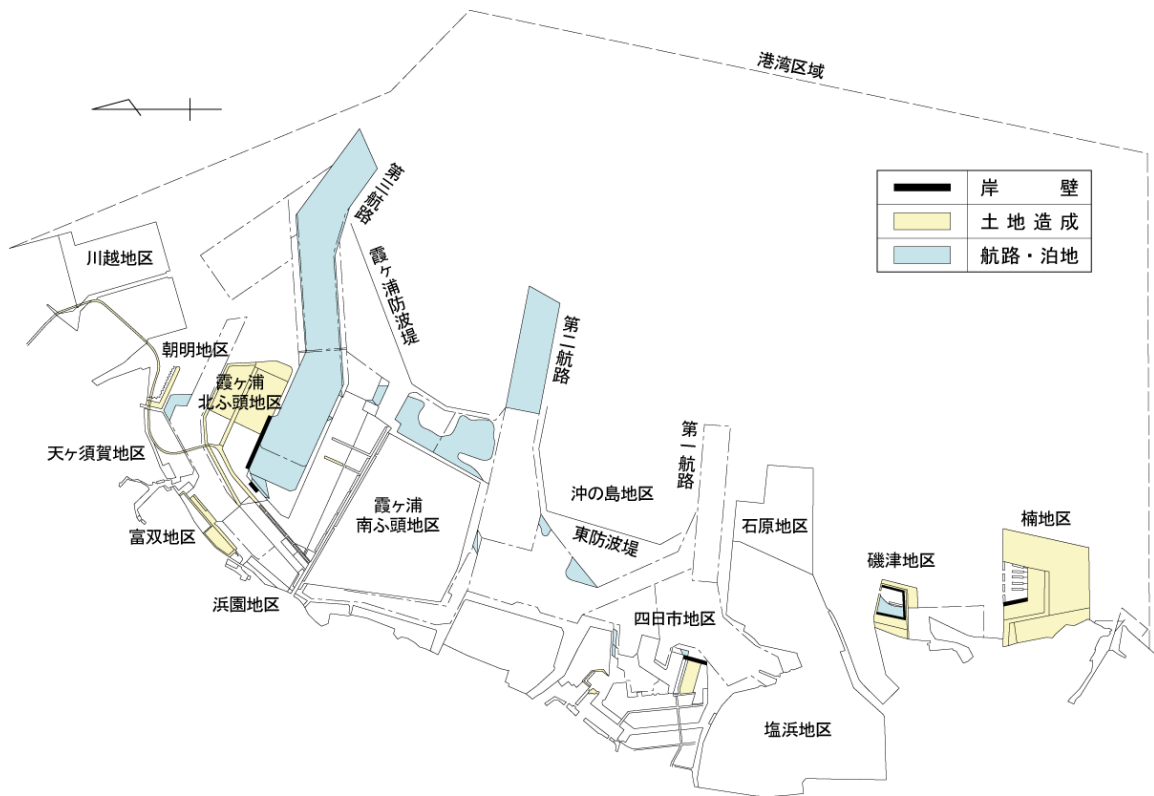
図Ⅷ-5-2 港湾審議会第41回計画部会（昭和45年5月改訂）



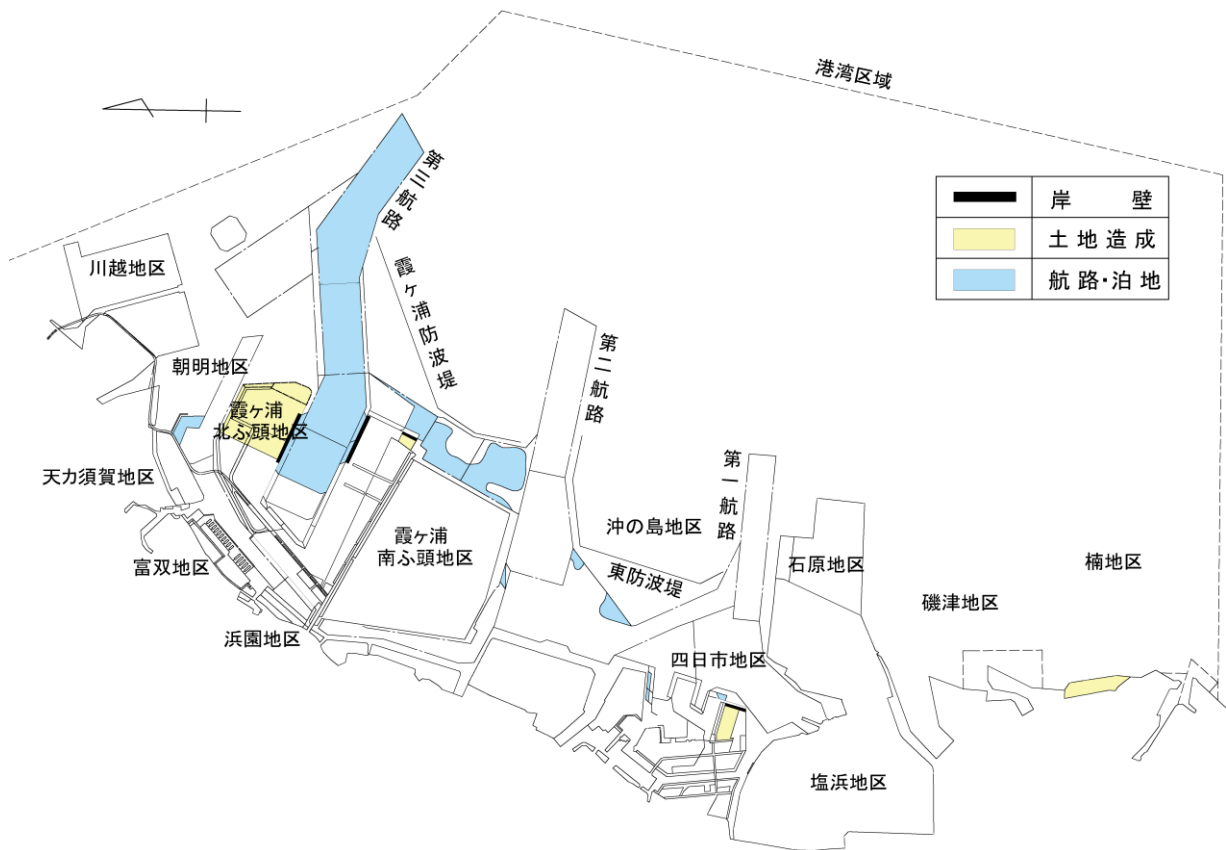
図Ⅷ-5-3 港湾審議会第97回計画部会（昭和57年3月改訂）



図Ⅷ-5-4 港湾審議会第142回計画部会（平成4年8月改訂）

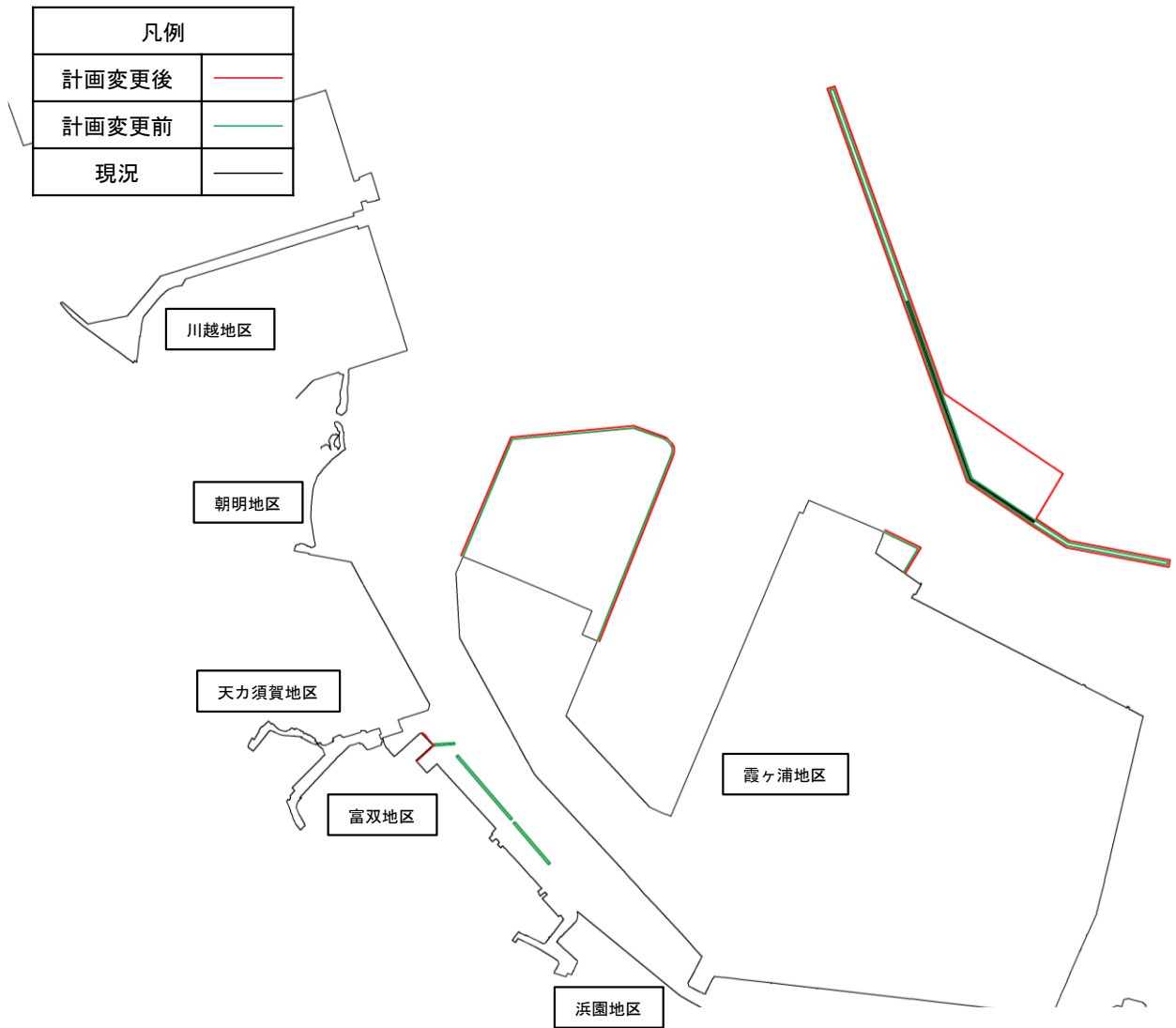


図Ⅷ-5-5 港湾審議会第166回計画部会（平成10年7月改訂）



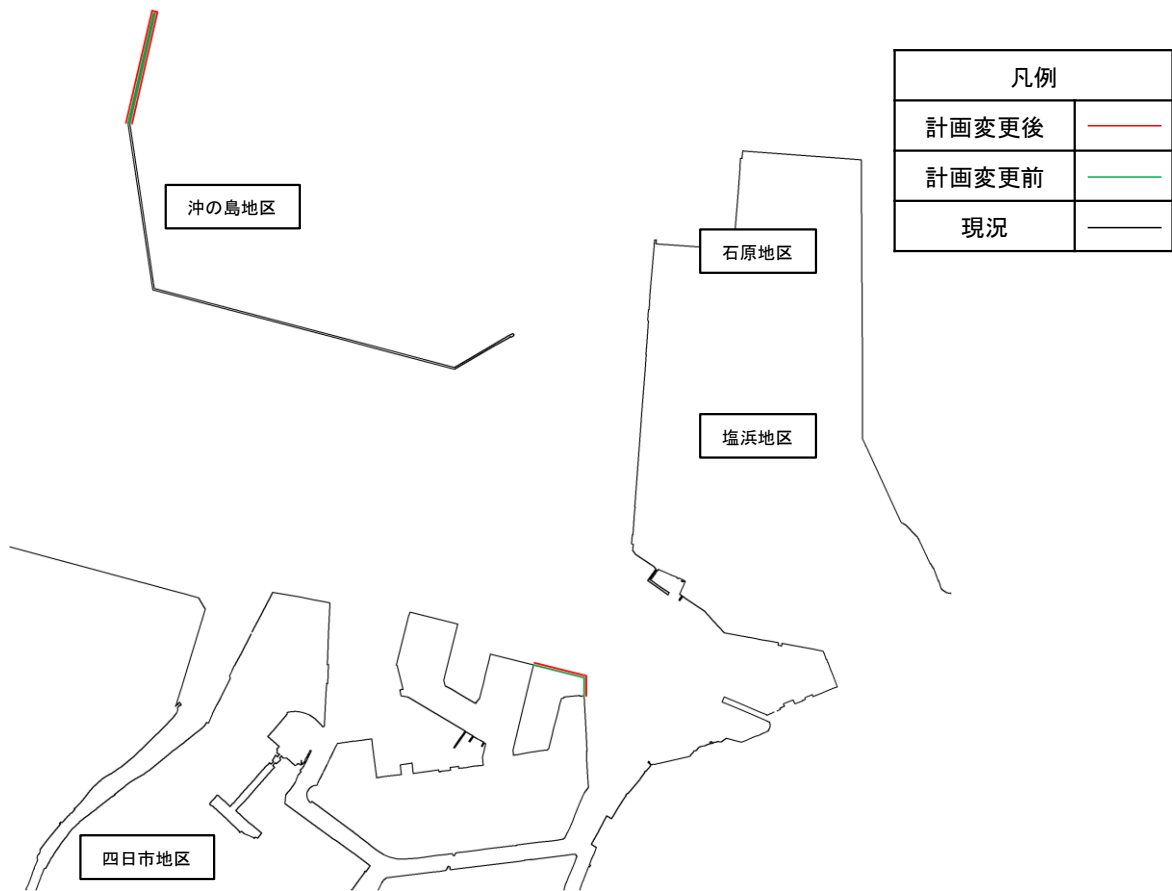
図Ⅷ-5-6 交通政策審議会第41回港湾分科会（平成23年4月改訂）

6. 新旧法線対象図



図Ⅷ-6-1 新旧法線対象図

(川越地区、朝明地区、天力須賀地区、富双地区、浜園地区、霞ヶ浦地区)



図Ⅷ-6-2 新旧法線対象図
(四日市地区、塩浜地区、石原地区)

7. 四日市港港湾審議会役員名簿

表Ⅷ-7-1 四日市港港湾審議会名簿

令和7年11月28日現在（敬称略、順不同）

区分	職業又は役職	氏名
学識経験者	公益社団法人 日本港湾協会 理事長	大脇 崇
	四日市大学 環境情報学部	大八木 麻希
	三重大学 人文学部 教授	朝日 幸代
	名古屋大学 減災連携研究センター 教授	富田 孝史
四日市港管理組合議会議員	四日市港管理組合議会 議長	芳野 正英
港湾関係者	公益社団法人 伊勢湾海難防止協会 会長	小林 司
	伊勢三河湾水先区水先人会 会長	伊東 佳宏
	全日本港湾労働組合東海地方四日市支部 執行委員長	中條 隼人
	東海内航海運組合 理事長	西村 譲治
	名古屋海運協会 会長	池原 修
	四日市港運協会 会長	安藤 仁
	名古屋四日市国際港湾株式会社 代表取締役会長	嶋田 宜浩
地元関係者	四日市商工会議所 会頭	小川 謙
	四日市市漁業協同組合 代表理事組合長	川村 誠
関係行政機関の職員	三重県雇用経済部長	松下 功一
	四日市市政策推進部長	川口 純史
	川越町副町長	木村 光宏
	中部地方整備局長	森本 輝
	中部運輸局長	中村 広樹
	名古屋税関長	奈良井 功
	四日市港長	石栗 英幸